

2. 溝

先述したようにC区からは6条の溝(3～4、12～15号)が検出された。本遺跡では合計14条の溝が検出されている。西側に隣接するD区から7条、北東端のA区から1条検出されており、本遺跡で検出された溝の約半分がC区で検出されたことになる。C区で検出された溝で、特筆されるのは、C3・C4調査区のほぼ大部分を方形に囲む14号溝と、その北側を方形に囲む15号溝で、両溝の新旧関係あるいは同時並存かという問題は解決できなかったが、近世の屋敷地を囲む溝と考えられる。

C区で多数検出された竪穴住居と明らかに同時に並存した溝は確認できなかった。

(1) 3号溝(第118図、PL. 53)

位置：C区の西端、やや北寄りの位置。C2調査区の西端、中央。西壁際。C区・C2調査区の最西端を南北に流れる旧河道及び4号溝の西側に隣接する。X=48,077～48,080、Y=-69,468～-69,469。

主軸方向：N-14°-E。

規模と形状：北北東-南南西方向に流れる。旧河道が西側に湾状に張り出した箇所西南端付近から調査区西壁際まで、長さ2.9m・幅0.4m・確認面からの深さ0.035m。全体に浅い。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(2) 4号溝(第118図、PL. 53)

位置：C区の西端、やや北寄りの位置。C2調査区の西端、中央。西壁際。C区・C2調査区の最西端を南北に流れる旧河道の西側、3号溝の東側に隣接する。X=48,074～48,078、Y=-69,466～-69,469。

主軸方向：N-37°-E。

規模と形状：北東-南西方向に流れる。旧河道が西側に湾状に張り出した箇所の南側中央付近から調査区西壁近くまで、長さ4.8m・幅0.62m・確認面からの深さ0.06m。全体に浅い。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(3) 12号溝(第118図、PL. 53)

位置：C区の東寄りの位置、南端。C4調査区の南西端付近。21号住居の東、30・37号住居及び243号土坑の西に隣接する。X=48,080～48,084、Y=-69,418～-69,419。

主軸方向：N-8°-W。

規模と形状：244号土坑の東側から、南壁に向かって、わずかに東側に屈曲しながら南北方向に流れる。長さ4m・幅0.47m・確認面からの深さ0.06m。全体に浅い。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(4) 13号溝(第118図、PL. 53・54・107)

位置：C区・C4調査区の東端付近。X=48,092～48,096、Y=-69,398～-69,412。

主軸方向：N-80°-W。

規模と形状：C4調査区の東端から中央よりやや西寄りの位置まで、西北西～東南東方向にほぼ一直線状に流れ、東端は調査区境の直前で止まり、西端は攪乱されている。長さ14.6m・幅0.8m・確認面からの深さ0.32m。しっかりとした掘方を有する。

重複：東端付近で南辺を222号土坑に掘り込まれる。

埋土：上層に暗褐色土・黒褐色土、下層に灰黄褐色土が堆積する。

遺物：須恵器椀1点(平安時代中期、10世紀前葉、埋土)。

時期：不明。

(5) 14号溝(第119図、PL. 54～56)

位置：C区の東半分を方形に区画する。C区・C4調査区の北東端付近及び、C区の中央部、C3調査区の西寄りから南東端付近にかけて検出された。X=48,074～48,114、Y=-69,402～-69,442。

主軸方向：南北N-7°-E、東西(北側)N-84°-W(南側)N-89°-W。

規模と形状：その北側を方形に囲む15号溝と、両溝の新旧関係あるいは同時並存かという問題は解決できなかったが、近世の屋敷地を囲む溝と考えられる。C区の東半分を方形に区画するものと考えられるが、東側を南北方向に区画する部分は検出されなかった。C区・C4調査区の北東端付近では、調査区の北東端を東端に、調査区の北壁を西端として東西方向に区画し、C区の中央部・C3調査区の西寄りでは、北壁を北端として南北方向に区画し、C区中央やや南寄りの位置・C4調査区の南西寄りの位置でほぼ直角に屈曲して東西方向に区画し、東端は南壁に掛かる。C4区北端では長さ13.5m・幅1.48m・確認面からの深さ0.34m。しっかりとした掘方を有する。C3調査区で検出された部分は、南北長26.2m・東西長15.6m・深さ0.4m。

重複：C4調査区北東端付近では、57・59号住居を掘り込み、C3調査区中央では、26・27・43・49・50・55号住居、230・240・251号土坑を掘り込み、268・269・299・300号土坑に掘り込まれる。

埋土：暗褐色土。

遺物：須恵器皿1点(平安時代後期)、灰釉陶器椀1点(平安時代中期、10世紀前葉)、石臼1点(近世)、砥石1点(近世)。

時期：近世。

(6) 15号溝(第118図、PL.57・107)

位置：C区の北東寄りの位置、C3・4調査区の境界付近に位置する。C区の中央部、C3調査区の西寄りから南東端付近にかけて検出された。X=48,102~48,110、Y=-69,417~-69,424。

主軸方向：X=48,103、Y=-69,420を境にして、北側はN-10°-E、南側はN-88°-W。

規模と形状：C区の東半分を方形に区画するものと考えられる14号溝のさらに内側を方形に区画する溝と考えられる。両溝の新旧関係あるいは同時並存かという問題は解決できなかったが、近世の屋敷地を囲む溝と考えられる。C3・C4調査区の境界の北壁から南南西方向に一直線に、長さ8.18m・幅1.3m・確認面からの深さ0.4m、ほぼ直角に屈曲して西側に東西方向に、長さ4.5m・幅0.6m・確認面からの深さ0.19m。北北東-南南西方向が東西方向に比べて一段幅広く、深く掘り込まれている。

しっかりとした掘方を有する。

重複：なし。

埋土：暗褐色土、壁際及び底部に黒褐色土が一部堆積する。

遺物：灰釉陶器椀1点(平安時代中期、10世紀前葉)、肥前陶器折縁刷毛目皿1点(近世)、石臼1点(近世、埋土)。

時期：近世。

3. 河道

(1) 3・4号河道(第120・121図、PL.58~59・107)

C区の西端で北から南に向かって流れる旧河道の一部が検出された。本遺跡のほぼ中央部を東西に分断している。

C2調査区からC1区にかけてX=49,042~49,085、Y=-69,457~-69,474の範囲で検出された3号河道は、検出された範囲内では、幅2~3m、深さ約1.5m前後の規模である。

この河道を挟んで東西両側に集落が展開していることから、本遺跡で集落が営まれた平安時代前期(9~10世紀)段階には、この川が存在していたものと考えられる。

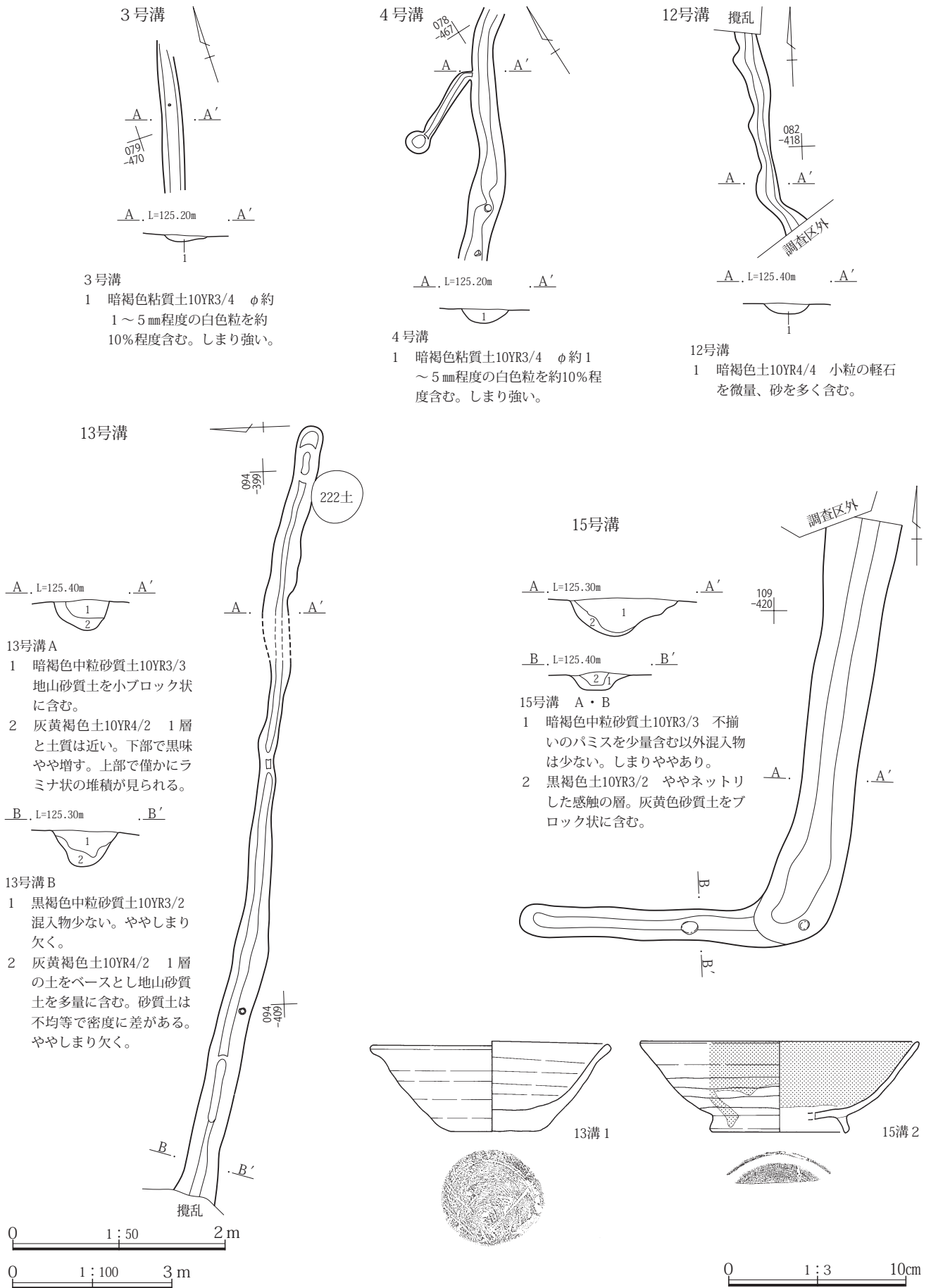
C1調査区では、3号河道の南側からもう一つ、並行するように4号河道が検出されているが、トレンチ内におけるごく狭い範囲の中での検出であったため、3号河道との前後関係を含め、詳細は不明である。

埋土：上層褐灰色土・灰黄褐色土・鈍い黄褐色土、中層黒褐色土・暗褐色土・鈍い黄褐色土・褐色土、下層黒褐色土・黒色土・暗褐色土。

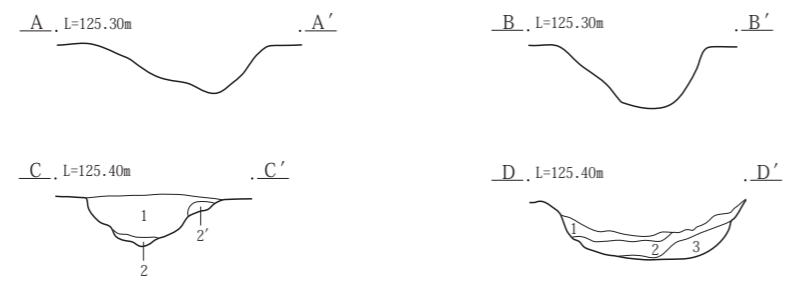
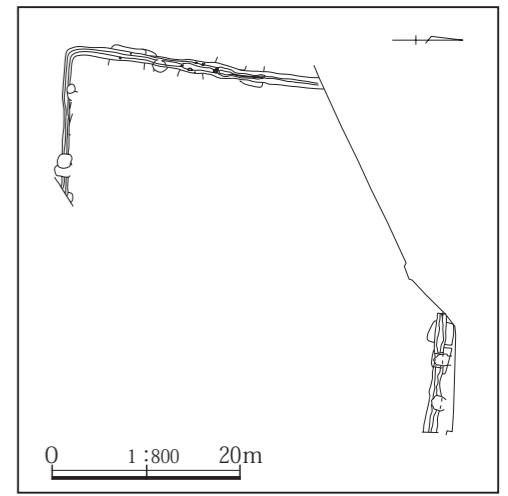
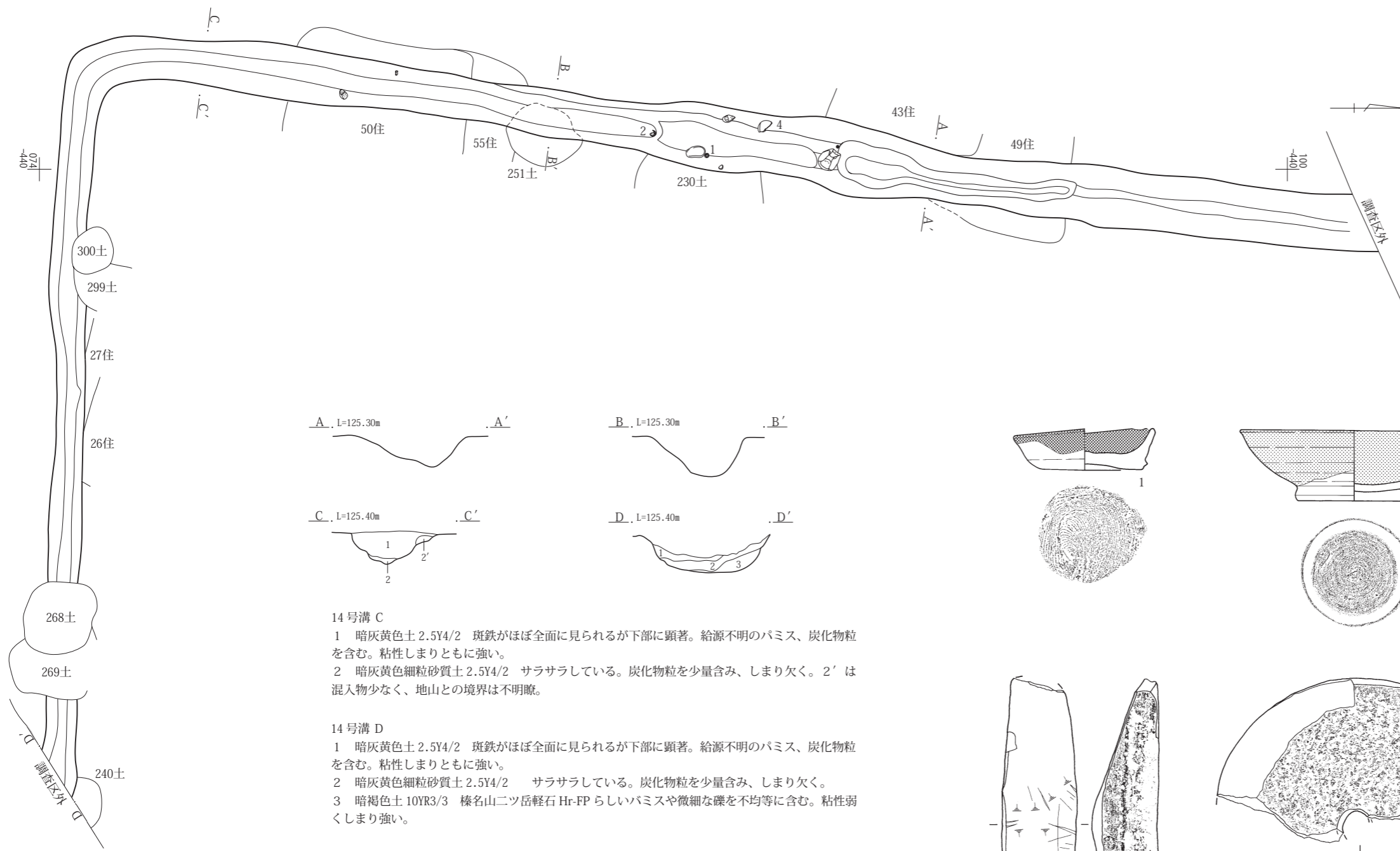
遺物：須恵器椀2点、同椀片1点、同羽釜1点。

時期：平安時代中期(10世紀中葉~後半)。

第3章 調査の成果



第118図 C区3・4・12・13・15号溝 平面図・土層断面図、13・15号溝出土遺物



14号溝 C

- 1 暗灰黄色土 2.5Y4/2 斑鉄がほぼ全面に見られるが下部に顕著。給源不明のパミス、炭化物粒を含む。粘性しまりともに強い。
- 2 暗灰黄色細粒砂質土 2.5Y4/2 サラサラしている。炭化物粒を少量含み、しまり欠く。2' は混入物少なく、地山との境界は不明瞭。

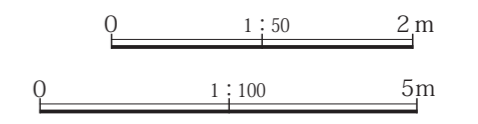
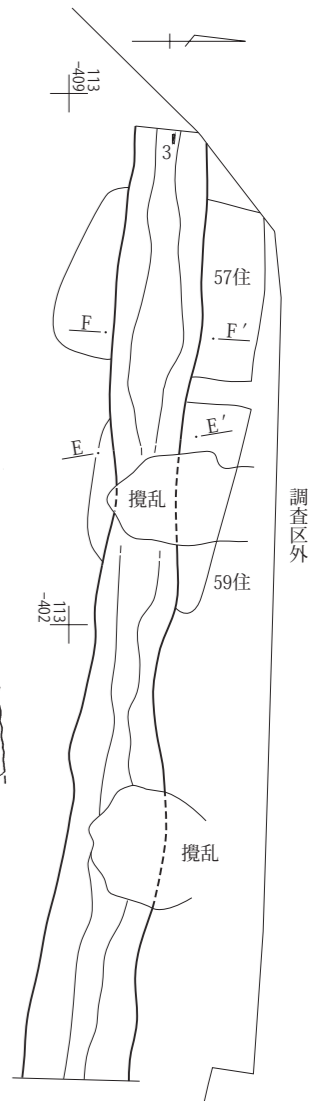
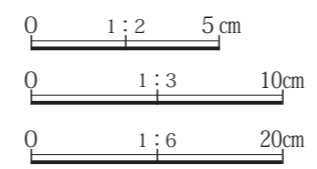
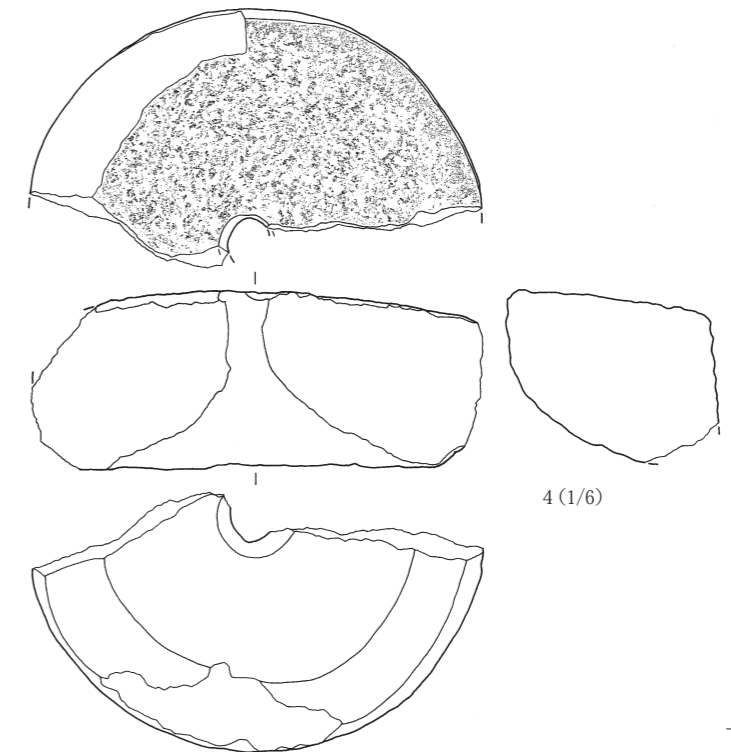
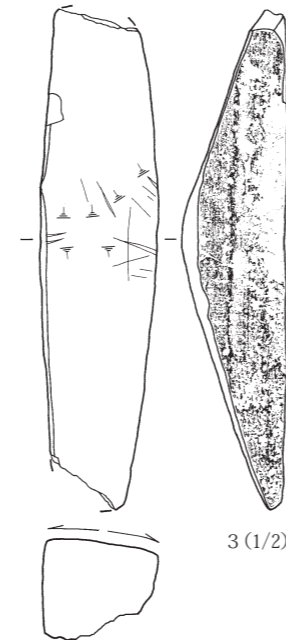
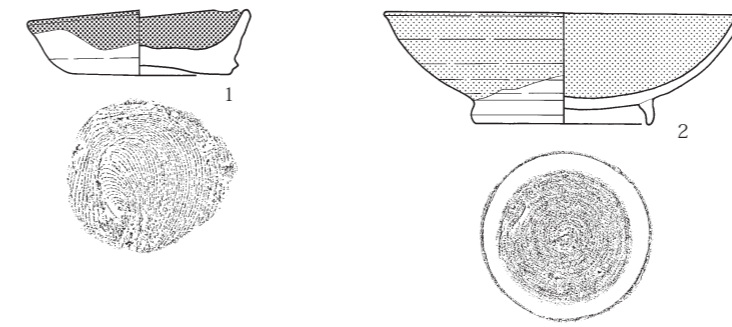
14号溝 D

- 1 暗灰黄色土 2.5Y4/2 斑鉄がほぼ全面に見られるが下部に顕著。給源不明のパミス、炭化物粒を含む。粘性しまりともに強い。
- 2 暗灰黄色細粒砂質土 2.5Y4/2 サラサラしている。炭化物粒を少量含み、しまり欠く。
- 3 暗褐色土 10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石 Hr-FP らしいパミスや微細な礫を不均等に含む。粘性弱くしまり強い。



14号溝 E

- 1 暗灰黄色土 2.5Y4/2 斑鉄がほぼ全面に見られるが下部に顕著。給源不明のパミス、炭化物粒を含む。粘性しまりともに強い。
- 2 暗灰黄色細粒砂質土 2.5Y4/2 サラサラしている。炭化物粒を少量含み、しまり欠く。

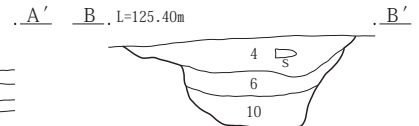
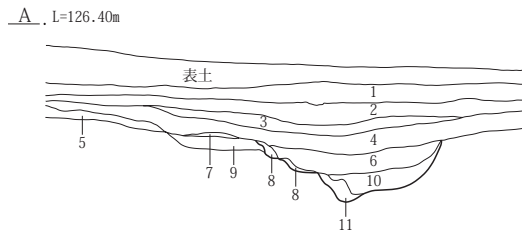
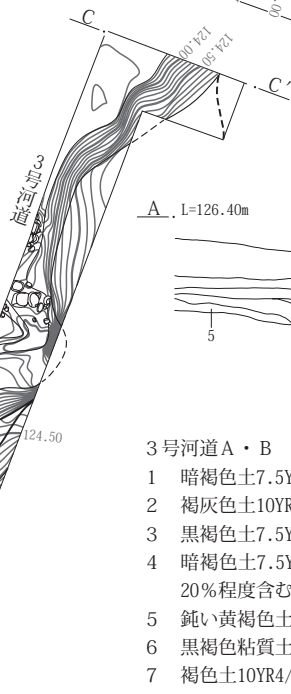
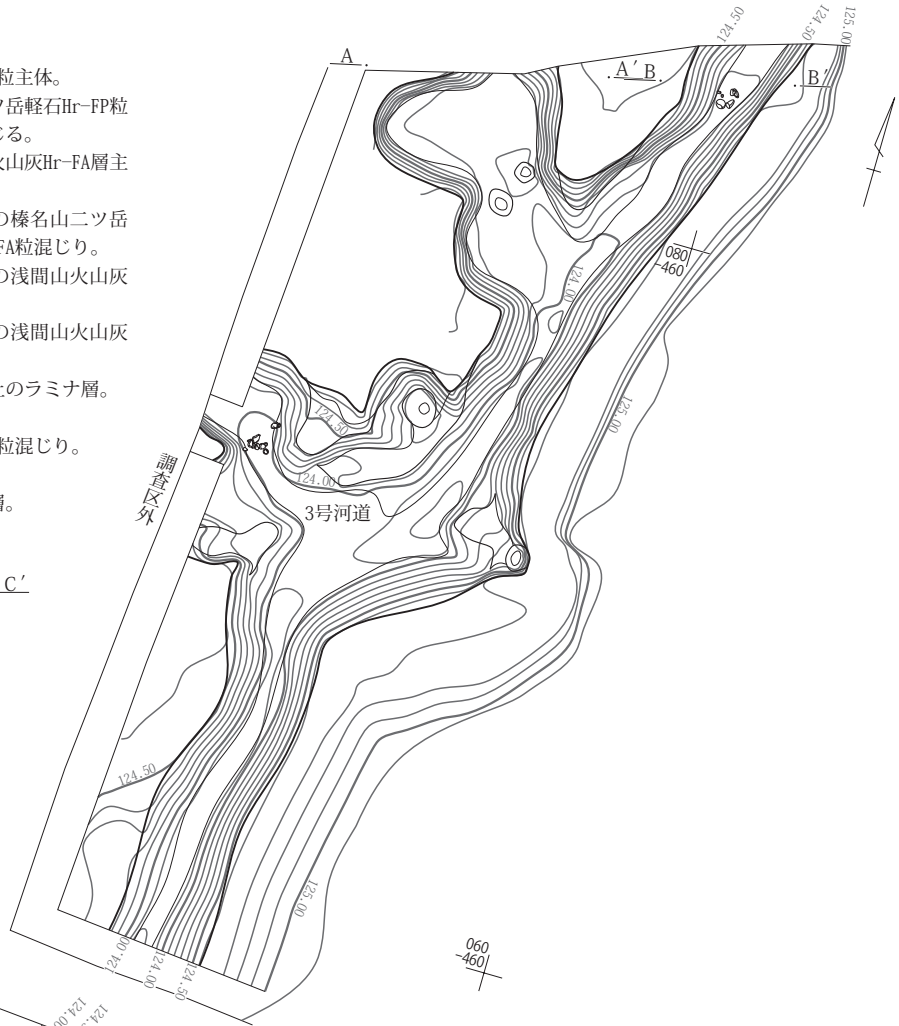
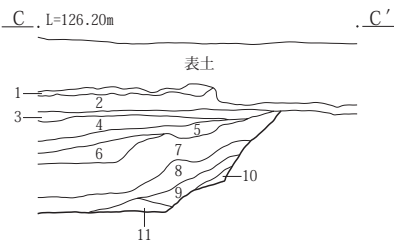


第119図 C区14号溝 平面図・土層断面図・出土遺物

3・4号河道

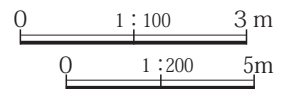
3号河道 C-C'

- 1 褐灰色土10YR4/1 浅間山火山灰As-B粒主体。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 少量の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒と榛名山二ツ岳火山灰Hr-FA粒とが混じる。
- 3 鈍い黄褐色土10YR5/4 榛名山二ツ岳火山灰Hr-FA層主体。
- 4 黒褐色土10YR3/1 φ約1~5mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒、榛名山二ツ岳火山灰Hr-FA粒混じり。
- 5 暗褐色土10YR3/3 φ約1~2mm程度の浅間山火山灰As-C粒と黄褐色土混じり。
- 6 暗褐色土10YR3/4 φ約1~2mm程度の浅間山火山灰As-C粒と黄褐色土混じり。軽石多い。
- 7 鈍い黄褐色土10YR5/4 シルトと褐色土のラミナ層。
- 8 褐色土10YR4/6 シルト層。
- 9 黒褐色土10YR3/1 浅間山火山灰As-C粒混じり。
- 10 黒色粘質土10YR3/1
- 11 暗褐色土10YR3/4 シルトとのラミナ層。

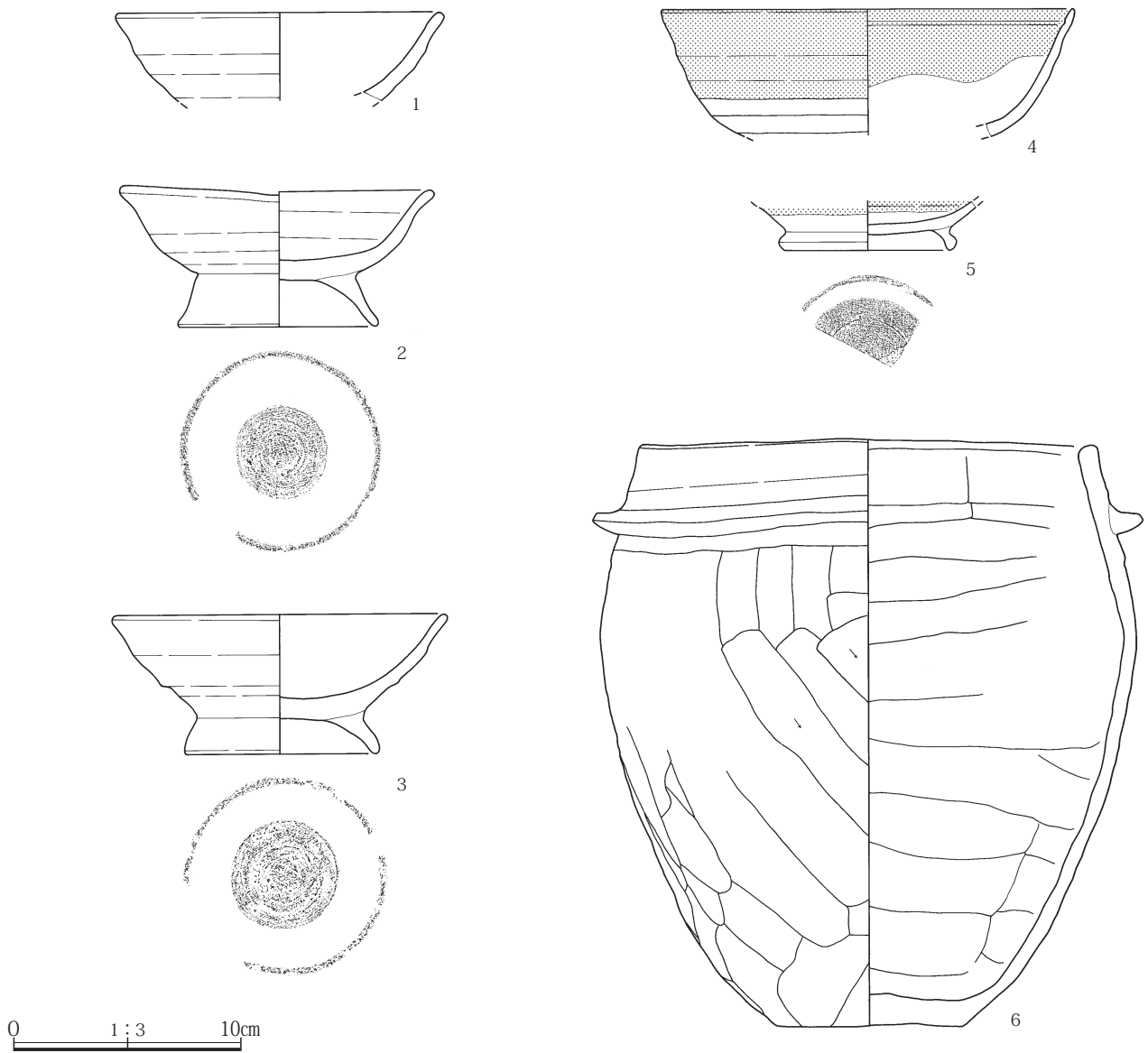


3号河道 A・B

- 1 暗褐色土7.5YR3/3 浅間山火山灰As-B粒混じり。
- 2 褐灰色土10YR4/1 φ約5mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約5%程度含む。
- 3 黒褐色土7.5YR3/1 φ約5~10mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度含む。
- 4 暗褐色土7.5YR3/3 φ約5~10mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び褐色土ブロックをそれぞれ約20%程度含む。
- 5 鈍い黄褐色土10YR6/3 地山砂層。
- 6 黒褐色粘質土5YR2/2 榛名山二ツ岳火山灰Hr-FAブロックをラミナ状に約10%程度含む。
- 7 褐色土10YR4/4 榛名山二ツ岳火山灰Hr-FAのブロックを含む。
- 8 黒褐色粘質土10YR3/3 褐色土ブロック及び浅間山火山灰As-C粒をそれぞれ約5%程度含む。
- 9 黒褐色土10YR3/1 浅間山火山灰As-C粒を約10%程度含む。
- 10 鈍い黄褐色土10YR4/3 榛名山二ツ岳系火山灰及び砂のラミナ層。
- 11 黒褐色粘質土10YR3/3 榛名山二ツ岳系火山灰及び砂のラミナ層。



第120図 C区3・4号河道 平面図・土層断面図



第121図 C区3号河道 出土遺物

4. 土坑

C区からは129基の土坑(92~121、126~130、132、157~159、162、164~169、171~175、194、195、199、200、205、206、217、218、222、228~230、233、235、238~241、243~247、251~260、262、263、266~283、292~306、312~322号)が検出された。

本遺跡では合計209基の土坑が検出されている。北東端のA区から15基、C区の東側に隣接するB区では22基、西側に隣接するD区では40基、B区の北側に隣接するE区では3基が検出されており、本遺跡で検出された土坑の約6割がC区で検出されたことになる。

いずれも用途不明であり、大きさ、深さもまちまちであった。

(1) 92号土坑(第122図、PL. 60)

位置：C区の中央より西寄りの位置、南端付近。C2調査区の中央南端。93号土坑の東側、110号土坑の西側に隣接し、11号住居の竈煙道の先端に接する。X = 48,061、Y = -69,443。

主軸方向：N-13°-E。

規模と形状：北北東-南南西方向にやや長い不整円形状を呈する。長径0.8m・短径0.73m・深さ0.34m。

重複：なし。

埋土：上層に暗褐色土、下層に鈍い黄褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(2) 93号土坑(第122図、PL. 60)

位置：C区の中央より西寄りの位置、南端付近。C2調査区の中央南端。92号土坑の西側、94号土坑の東側に隣接する。X=48,061~48,062、Y=-69,444~69,445。

主軸方向：N-120°-E。

規模と形状：南北方向に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.98m・短径0.97m・深さ0.25m。

重複：11号住居の竈西辺付近を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(3) 94号土坑(第122図、PL. 60)

位置：C区の中央より西寄りの位置、南端付近。C2調査区の中央南端付近。93号土坑の西側、11号住居の南側に隣接する。X=48,061~48,062、Y=-69,446~69,447。

主軸方向：N-64°-W。

規模と形状：東西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径1.02m・短径0.8m・深さ0.18m。

重複：なし。

埋土：灰黄褐色土、鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(4) 95号土坑(第122図、PL. 60)

位置：C区の中央より南西寄りの位置。C2調査区の東端付近、南寄りの位置。105号土坑の南側、132号土坑の東側に隣接する。X=48,066~48,067、Y=-69,447~69,448。

主軸方向：N-143°-E。

規模と形状：南北方向に長い楕円形状を呈する。長径1.1m・短径0.95m・深さ0.2m。

重複：11号住居の北西隅を掘り込む。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(5) 96号土坑(第122図、PL. 60)

位置：C区の中央より南西寄りの位置。C2調査区の東

端付近、南寄りの位置。95号土坑の北側、100号土坑の南側、126~128号土坑の東側に隣接する。X=48,068~48,069、Y=-69,449~69,450。

主軸方向：N-55°-W。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径0.9m・深さ0.15m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(6) 97号土坑(第122図、PL. 60)

位置：C区の中央より南西寄りの位置。C2調査区の中央より南寄りの位置。99号土坑の南側、132号土坑の西側に隣接する。X=48,065~48,066、Y=-69,450~69,451。

主軸方向：N-39°-E。

規模と形状：ほぼ北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。長径0.75m・短径0.64m・深さ0.17m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(7) 98号土坑(第122図、PL. 60)

位置：C区の中央より南西寄りの位置。C2調査区の中央より南寄りの位置。99号土坑の西側、102号土坑の南側に隣接する。X=48,065~48,066、Y=-69,452~69,453。

主軸方向：N-7°-W。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径0.9m・深さ0.15m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

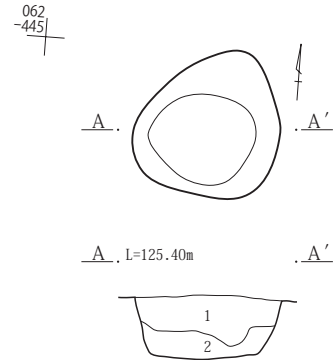
時期：不明。

(8) 99号土坑(第122図、PL. 60・61)

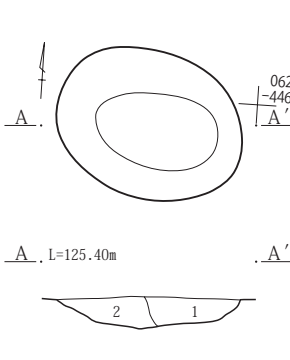
位置：C区の中央より南西寄りの位置。C2調査区の中央より南寄りの位置。97号土坑の北西側、98号土坑の東側、128号土坑の南西側に隣接する。X=48,065~48,066、Y=-69,451~69,452。

第3章 調査の成果

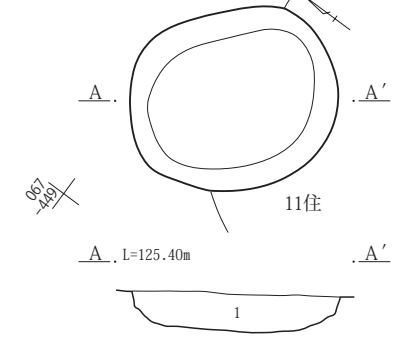
92号土坑



94号土坑



95号土坑



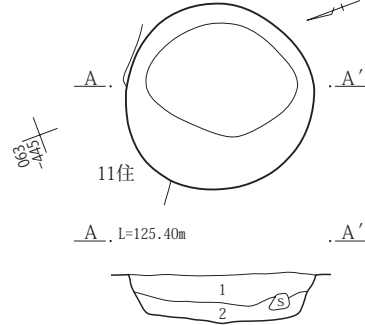
92号土坑

- 1 暗褐色砂質土10YR3/3 褐灰色砂粒を約20%程度含む。しまりやや強い。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 φ約5～10mm程度の白色ブロックを約2%程度含み、褐灰色砂粒が混じる。しまりやや弱い。

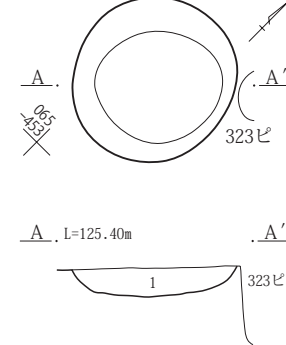
94・95号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 褐灰色砂粒を約10%程度、白色粒を僅かに含む。しまりやや強い。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 褐灰色砂粒を約30%程度、φ約1～5mm程度の白色粒を僅かに含む。

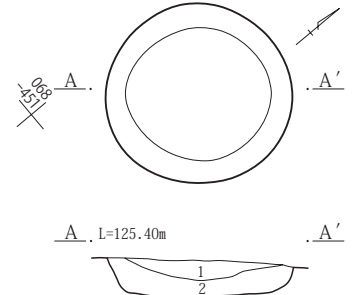
93号土坑



98号土坑



100号土坑



93号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 褐灰色砂粒を約20%程度、φ約5～10mm程度の白色ブロックを約3%程度含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色砂質土10YR3/3 褐灰色砂粒を約20%程度含む。しまりやや強い。

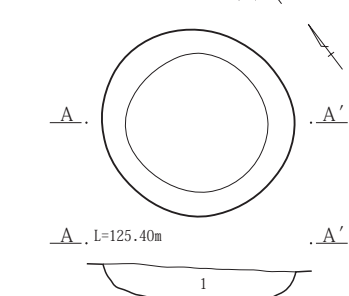
98号土坑

- 1 暗褐色砂質土10YR3/3 褐灰色砂粒を約10%程度、白色粒を約5%程度含む。しまりやや強い。

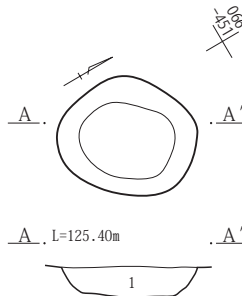
100号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 褐灰色砂粒を約10%程度、白色粒を僅かに含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色砂質土10YR3/3 褐灰色砂粒を約20%程度含む。しまりやや強い。

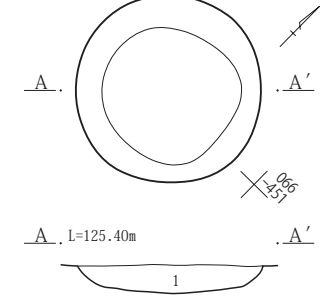
96号土坑



97号土坑

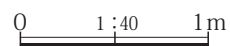


99号土坑



96・97・99号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 褐灰色砂粒を約20%程度、φ約5～10mm程度の白色ブロックを約3%程度含む。しまりやや強い。



第122図 C区土坑 平面図・土層断面図(1)

主軸方向：N-5°-W。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径1m・深さ0.2m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(9) 100号土坑(第122図、PL. 61)

位置：C区の中央より南西寄りの位置。C2調査区の中央より南寄りの東端付近。98号土坑の北東側、111号土坑の南東側、162号土坑の南側に隣接する。X=48,068~48,069、Y=-69,450。

主軸方向：N-4°-W。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径0.98m・深さ0.2m。

重複：なし。

埋土：上層灰黄褐色土、下層暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(10) 101号土坑(第123図、PL. 61)

位置：C区の中央より南西寄りの位置。C2調査区の中央、南寄りの位置。4号住居の北西側、10号住居の北側、9号住居の東北東側に位置する。X=48,062、Y=-69,453。

主軸方向：N-34°-E。

規模と形状：北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。

長径0.96m・短径0.97m・深さ0.13m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(11) 102号土坑(第123・137図、PL. 61・107)

位置：C区の中央より南西寄りの位置。C2調査区の中央、南寄りの位置。98号土坑の北側に隣接する。X=48,066~48,067、Y=-69,453~69,454。

主軸方向：N-2°-W。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径1.12m・深さ0.13m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：鉄釘1点(埋土)。

時期：不明。

(12) 103号土坑(第123図、PL. 61)

位置：C区の中央より南西寄りの位置。C2調査区の南寄り、東端。2号住居の西側、3号住居の東側に隣接する。X=48,067、Y=-69,442。

主軸方向：N-15°-E。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.67m・短径0.65m・深さ0.1m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(13) 104号土坑(第123図、PL. 61)

位置：C区の中央より南西寄りの位置。C2調査区の南東寄り。2号住居の西側、3・11号住居の東側に隣接する。X=48,064~48,065、Y=-69,442~69,443。

主軸方向：N-14°-W。

規模と形状：西北西-東南東方向に長い楕円形状を呈する。長径1.25m・短径0.78m・深さ0.2m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(14) 105号土坑(第123図、PL. 61)

位置：C区の中央より南西寄りの位置。C2調査区の南東寄り。95号土坑の北側、96号土坑の東側に隣接する。X=48,067~48,068、Y=-69,448。

主軸方向：N-116°-E。

規模と形状：北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。長径0.9m・短径0.76m・深さ0.12m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(15) 106号土坑(第123図、PL. 61)

位置：C区・C2調査区の中央より西寄りの位置。107号土坑の西側に隣接する。X=48,064~48,065、Y=-69,448~-69,449。

主軸方向：N-129°-E。

規模と形状：北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。長径1.23m・短径0.93m・深さ0.17m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(16) 107号土坑(第123図、PL. 61)

位置：C区・C2調査区の中央より西寄りの位置。106号土坑の東側に隣接する。X=48,066~48,067、Y=-69,457~-69,458。

主軸方向：N-143°-E。

規模と形状：北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。長径1.22m・短径0.68m・深さ0.12m。

重複：108号土坑の南端を掘り込む。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(17) 108号土坑(第123図、PL. 61)

位置：C区・C2調査区の中央より西寄りの位置。109号土坑の西南側に位置する。X=48,066~48,067、Y=-69,456~-69,457。

主軸方向：N-144°-E。

規模と形状：北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。長径1.1m・短径0.73m・深さ0.13m。

重複：107号土坑に南端部を掘り込まれる。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(18) 109号土坑(第123図、PL. 61)

位置：C区・C2調査区の中央より西寄りの位置。108号土坑の北東側に位置する。X=48,069~48,070、Y=-69,455~-69,456。

主軸方向：N-110°-E。

規模と形状：不整円形状を呈する。長径1.05m・短径1.03m・深さ0.13m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(19) 110号土坑(第123図)

位置：C区の中央より西寄りの位置。南端。南壁に掛かる。C2調査区の中央よりやや東寄りの位置、南端。南壁に掛かる。2号住居の西側に隣接する。X=48,062~48,063、Y=-69,441~-69,443。

主軸方向：N-123°-E。

規模と形状：南側が調査区外に出るため、全容は不明である。東西径1.3m・検出南北最大径1.27m・深さ0.15m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(20) 111号土坑(第123図、PL. 61)

位置：C区の中央より西南寄りの位置。C2調査区の東端寄りの位置。100号土坑の北側に隣接する。X=48,069~48,070、Y=-69,451~-69,452。

主軸方向：N-164°-E。

規模と形状：不整円形状を呈する。南北径1.5m・東西径1.35m・深さ0.18m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

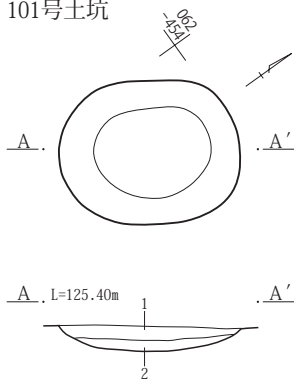
(21) 112号土坑(第123図、PL. 62)

位置：C区の中央より西寄りの位置。C2調査区の中央。113号土坑の西南西に隣接する。X=48,073~48,040、Y=-69,453~-69,454。

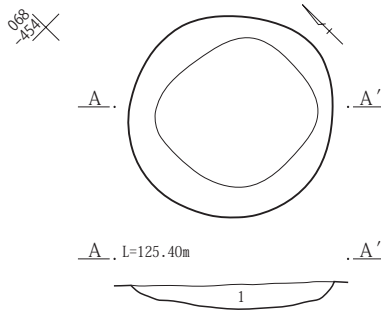
主軸方向：N-90°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.1m・短径0.92m・深さ0.14m。

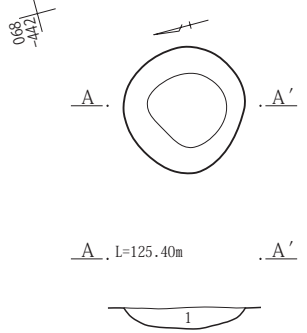
101号土坑



102号土坑



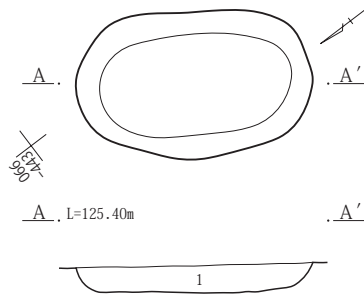
103号土坑



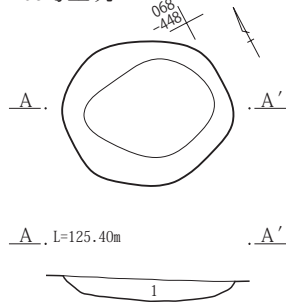
101・102号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 褐灰色砂粒を約20%程度、 ϕ 約5～10mmの白色ブロックを約3%程度含む。しまりやや強い。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 褐灰色砂粒を約30%程度、 ϕ 約1～5mm程度の白色粒を僅かに含む。

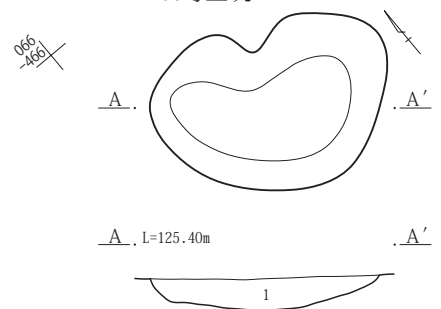
104号土坑



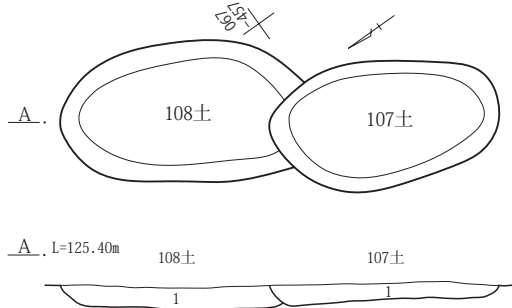
105号土坑



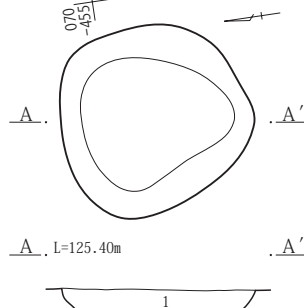
106号土坑



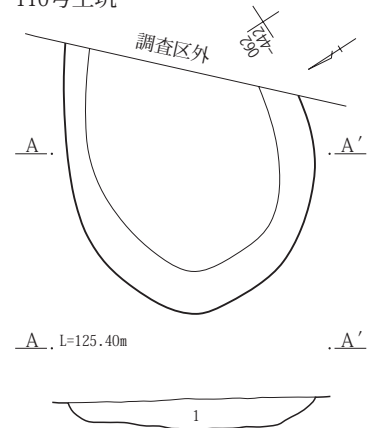
107・108号土坑



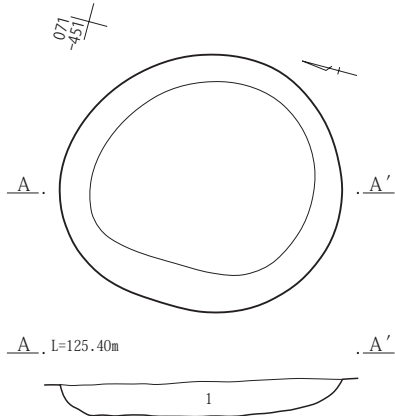
109号土坑



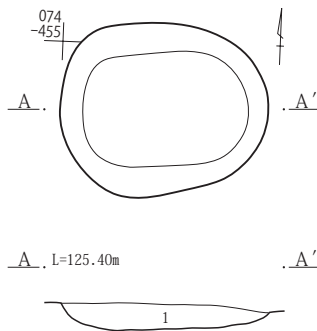
110号土坑



111号土坑

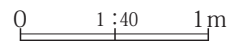


112号土坑



103～112号土坑

- 1 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 ϕ 約1cm程度の黄色シルトを約20%程度含む。



第123図 C区土坑 平面図・土層断面図(2)

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(22) 113号土坑(第124図、PL. 62)

位置：C区の中央より西寄りの位置。C2調査区の東端寄りの位置。112号土坑の東北東に隣接する。X = 48,074、Y = -69,451～-69,452。

主軸方向：N-64°-E。

規模と形状：東西に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.81m・東西径0.75m・深さ0.31m。小型ながらしっかりとした掘方を有する。

重複：114号土坑の西辺を掘り込む。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(23) 114号土坑(第124図)

位置：C区の中央より西寄りの位置。C2調査区の東端寄りの位置。115号土坑の南側に隣接する。X = 48,073～48,074、Y = -69,451～-69,452。

主軸方向：N-86°-E。

規模と形状：北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。長径1.84m・東西径1.61m・深さ0.12m。

重複：113号土坑に西辺を掘り込まれる。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(24) 115号土坑(第124図、PL. 62)

位置：C区の中央より西寄りの位置。C2調査区の東端。東壁に掛かる。114号土坑の北側に隣接する。X = 48,074～48,075、Y = -69,450～-69,451。

主軸方向：N-90°-E。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。東端はC2調査区の外側に出るが、C3調査区では検出されなかった。東西径1.1m・南北径1.15m・深さ0.17m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(25) 116号土坑(第124図)

位置：C区の中央より西寄りの位置。C2調査区の中央、東端付近。159号土坑の西側に隣接する。X = 48,077～48,078、Y = -69,450～-69,451。

主軸方向：N-118°-E。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.95m・南北径0.85m・深さ0.18m。

重複：117号土坑の北端を掘り込む。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(26) 117号土坑(第124図、PL. 62)

位置：C区の中央より西寄りの位置。C2調査区の中央、東端付近。159号土坑の西側に隣接する。X = 48,076～48,077、Y = -69,451。

主軸方向：N-85°-E。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。検出最大南北径0.62m・短径0.96m・深さ0.15m。

重複：116号土坑に北端を掘り込まれる。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(27) 118号土坑(第124図、PL. 62)

位置：C区の中央より西寄りの位置。C2調査区のやや北寄りの位置、東端付近。116号土坑の北側に隣接する。X = 48,078～48,079、Y = -69,451～-69,452。

主軸方向：N-165°-W。

規模と形状：南北に僅かに長い楕円形状を呈する。長径1.15m・東西径0.86m・深さ0.15m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(28) 119号土坑(第124図、PL. 62)

位置：C区の中央より西寄りの位置、C2調査区の中央付近。112号土坑の北側に位置する。X=48,076、Y=-69,455~-69,456。

主軸方向：N-2°-W。

規模と形状：東西に僅かに長い楕円形状を呈する。長径1.05m・短径1.01m・深さ0.18m。

重複：なし。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(29) 120号土坑(第124図、PL. 62)

位置：C区の中央より西寄りの位置、C2調査区の中央より北寄りの位置、東端付近。164号土坑の西側に位置する。X=48,082~48,083、Y=-69,450~-69,451。

主軸方向：N-86°-E。

規模と形状：南北に僅かに長い楕円形状を呈する。長径1.25m・短径1.12m・深さ0.48m。しっかりとした掘方を有している。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土。中層灰黄褐色土、下層暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(30) 121号土坑(第124図)

位置：C区の中央より西寄りの位置、C2調査区の南端、中央。X=48,057、Y=-69,458~-69,459。

主軸方向：N-17°-W。

規模と形状：東西にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長径0.87m・短径0.63m・深さ0.12m。

重複：8号住居のほぼ中央部を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：平安時代前期(9世紀第三四半期)以後。

(31) 126号土坑(第124図、PL. 62)

位置：C区の中央より南西寄りの位置、C2調査区の南東寄りの位置。X=48,066、Y=-69,449~-69,450。

主軸方向：N-59°-E。

規模と形状：北東-北西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.93m・短径0.85m・深さ0.15m。

重複：127号土坑の東辺を掘り込む。

埋土：暗褐色土、底部に灰黄褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(32) 127号土坑(第124図、PL. 62)

位置：C区の中央より南西寄りの位置、C2調査区の南東寄りの位置。X=48,066~48,067、Y=-69,449~-69,450。

主軸方向：不明。

規模と形状：東側を126号土坑に、西側を128号土坑にそれぞれ掘り込まれているため、全容は不明である。残存最大南北径0.68m・残存最大東西径0.75m・深さ0.19m。

重複：東側を126号土坑に、西側を128号土坑にそれぞれ掘り込まれる。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(33) 128号土坑(第124図、PL. 62)

位置：C区の中央より南西寄りの位置、C2調査区の南東寄りの位置。X=48,066~48,067、Y=-69,450~-69,451。

主軸方向：N-5°-E。

規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長径1.03m・短径0.79m・深さ0.2m。

重複：127号土坑の西側を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(34) 129号土坑(第125図、PL. 62)

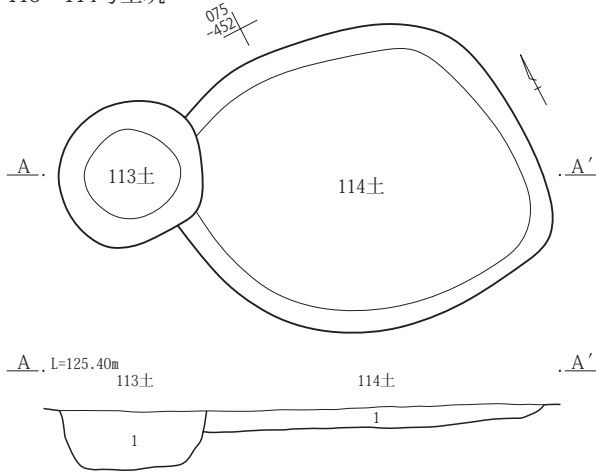
位置：C区の南西寄りの位置、C2調査区の中央、南端。南壁に掛かる。X=48,056、Y=-69,455~-69,457。

主軸方向：不明。

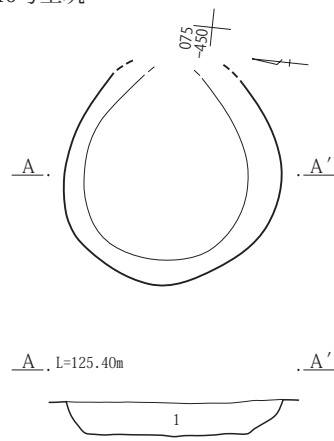
規模と形状：南側が調査区外に出るため、全容不明である。検出東西最大径1.32m・検出南北最大径0.5m・深さ0.2m。

第3章 調査の成果

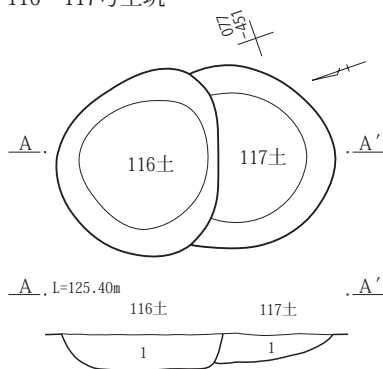
113・114号土坑



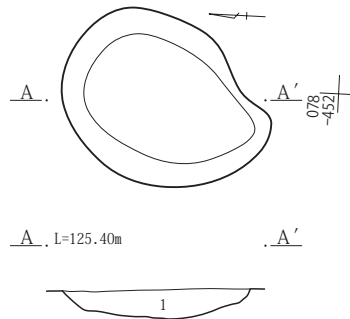
115号土坑



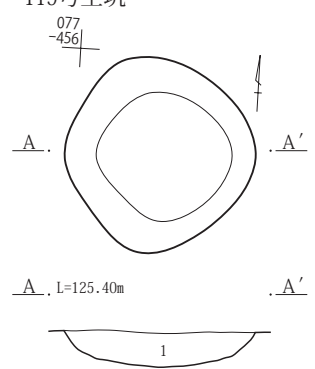
116・117号土坑



118号土坑



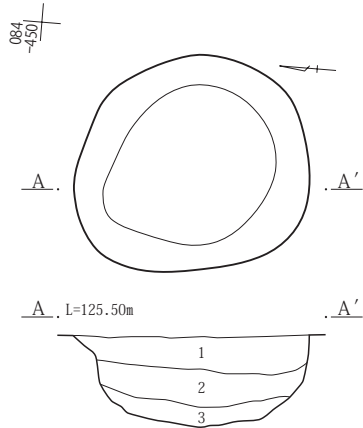
119号土坑



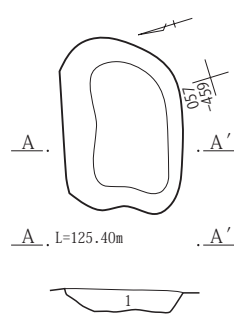
113～119号土坑

1 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 φ約1cm程度の黄色シルトを約20%程度含む。

120号土坑



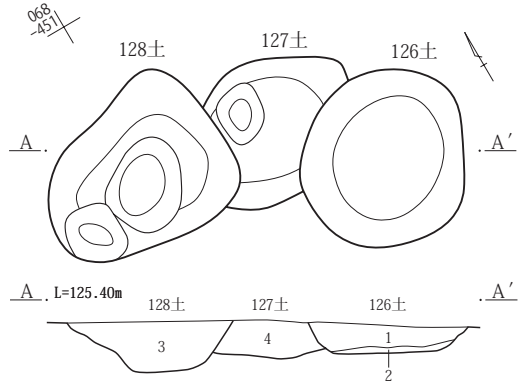
121号土坑



121号土坑

1 暗褐色土10YR3/3 φ約1～5mm程度の黄橙色粒及び褐灰色土を約10%程度含む。固くしまり強い。

126～128号土坑

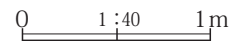


126～128号土坑

1 暗褐色砂質土10YR3/3 褐灰色砂粒を含む。しまりやや強い。
 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 褐灰色砂粒を約30%程度含む。しまり強い。
 3 暗褐色砂質土10YR3/3 褐灰色砂粒を約20%程度含む。しまりやや強い。
 4 暗褐色土10YR3/3 1層よりやや暗い色調を呈する。褐灰色砂粒を約5%程度、白色粒を僅かに含む。

120号土坑

1 暗褐色砂質土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、褐灰色砂粒を約10%程度含む。しまり強い。
 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 褐灰色砂粒を約5%程度、炭化物を僅かに含む。しまり強い。
 3 暗褐色砂質土10YR3/4 褐灰色砂粒を約10%程度含む。しまり強い。



第124図 C区土坑 平面図・土層断面図(3)

重複：10号住居の南辺を掘り込む。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(35) 130号土坑(第125図、PL. 62)

位置：C区の南西寄りの位置、南端。C2調査区の南東寄りの位置、南端。X=48,057~48,058、Y=-69,446~-69,447。

主軸方向：N-27°-E。

規模と形状：北東-南西方向に長い楕円形状を呈する。長径1.02m・短径0.83m・深さ0.25m。

重複：なし。

埋土：上層褐灰色土、下層暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(36) 132号土坑(第125図)

位置：C区の南西寄りの位置。C2調査区の南東寄りの位置。X=48,064~48,066、Y=-69,448~-69,449。

主軸方向：N-27°-E。

規模と形状：不明。

重複：11号住居に東側を掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色砂質土。

遺物：なし。

時期：不明。

(37) 157号土坑(第125図、PL. 62)

位置：C区の北西寄りの位置。C2調査区の中央、やや北寄りの位置。X=48,081、Y=-69,456~-69,457。

主軸方向：N-97°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈し、中に柱痕状の小穴が東西に並存する。長径0.83m・短径0.58m・深さ0.4m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(38) 158号土坑(第125図、PL. 62)

位置：C区の西寄りの位置。C2調査区のやや南東寄りの位置。東端・C3調査区境に掛かる。114・115号土坑の東側に隣接し、159号土坑の南側に位置する。X=48,073~48,074、Y=-69,449。

主軸方向：N-178°-W。

規模と形状：東側がC3区との調査区境に掛かり、C3区側で検出されていないため、全容は不明である。検出南北最大径1.1m・短径0.58m・深さ0.15m。

重複：なし。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(39) 159号土坑(第125図、PL. 63)

位置：C区の西寄りの位置。C2調査区のほぼ中央、東端付近。116・117号土坑の東側、115・158号土坑の北側に隣接する。X=48,076~48,077、Y=-69,449~-69,450。

主軸方向：N-165°-W。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径1.05m・短径0.9m・深さ0.27m。

重複：なし。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(40) 162号土坑(第125図、PL. 63)

位置：C区の西寄りの位置。C2調査区のほぼ中央より南寄り、東端付近。111号土坑の東側、100号土坑の北側、C3調査区321号土坑の西側に隣接する。X=48,070、Y=-69,449~-69,450。

主軸方向：N-147°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.73m・短径0.6m・深さ0.25m。

重複：なし。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(41) 164号土坑(第125図、PL. 63)

位置：C区の西寄りの位置。C2調査区のほぼ中央より北寄り、東端付近。120号土坑の東側、175号土坑の南側、54号住居の北側に隣接する。X=48,083~48,084、Y=-69,448~-69,449。

主軸方向：N-7°-E。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形を呈する。長径1.49m・短径1.27m・深さ0.57m。

重複：なし。

埋土：上層褐色土、中層暗褐色土、下層鈍い黄色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(42) 165号土坑(第125図、PL. 63)

位置：C区の北西寄りの位置。C2調査区のほぼ中央より北寄り、東端付近。167号土坑の南側、175号土坑の北側に隣接する。X=48,086~48,087、Y=-69,448~-69,449。

主軸方向：N-84°-E。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形を呈する。長径1.88m・短径0.64m・深さ0.23m。

重複：174号土坑の北側を掘り込む。

埋土：黒褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(43) 166号土坑(第126図、PL. 63)

位置：C区の西寄りの位置。C2調査区のほぼ中央より北寄り、東端付近。120号土坑の南側に隣接する。X=48,080~48,082、Y=-69,450~-69,451。

主軸方向：N-5°-W。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形を呈する。長径1.65m・短径0.52m・深さ0.4m。

重複：54号住居の西辺を掘り込む。

埋土：上層暗褐色土、中層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：平安時代中期以後。

(44) 167号土坑(第126図、PL. 63)

位置：C区の北西寄りの位置。C2調査区の北寄り、東

端付近。165号土坑の北側、168号土坑の南側に隣接する。

X=48,087~48,088、Y=-69,448~-69,449。

主軸方向：N-114°-E。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形を呈する。長径1.3m・短径0.58m・深さ0.17m。

重複：308号ピットを掘り込む。

埋土：黒褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(45) 168号土坑(第126図、PL. 63)

位置：C区の北西寄りの位置。C2調査区の北寄り、東端付近。167号土坑の北側、169号土坑の南側に隣接する。

X=48,088~48,089、Y=-69,448~-69,449。

主軸方向：N-100°-E。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形を呈する。長径1.74m・短径0.83m・深さ0.25m。

重複：308号ピットの北側を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(46) 169号土坑(第126図、PL. 63)

位置：C区の北西寄りの位置。C2調査区の北寄り、東端付近。168号土坑の北側、171号土坑の南側に隣接する。

X=48,090~48,091、Y=-69,448~-69,449。

主軸方向：N-135°-E。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径0.95m・深さ0.17m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

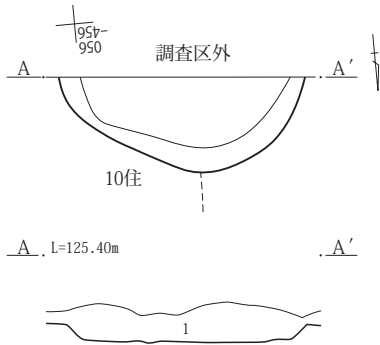
(47) 171号土坑(第126・137図、PL. 63)

位置：C区の北西寄りの位置。C2調査区の東北端付近。169号土坑の北側、172号土坑の東側、44号住居の西側に隣接する。X=48,092~48,093、Y=-69,448~-69,449。

主軸方向：N-177°-E。

第4節 C区で検出された遺構と遺物

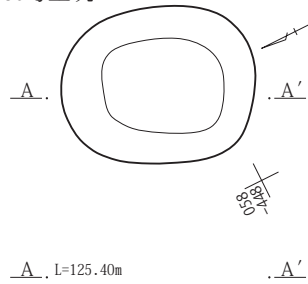
129号土坑



129号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 やや粘質。φ約5mm程度の黄色土ブロックを含む。

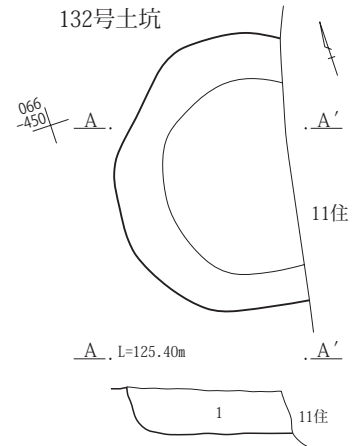
130号土坑



130号土坑

- 1 褐灰色砂質土10YR4/1 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を極少量含む。
2 暗褐色土10YR3/3 やや粘質。榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を極少量含む。

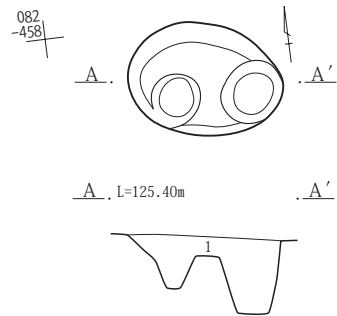
132号土坑



132号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 褐灰色砂粒を約20%程度含む。しまりやや強い。

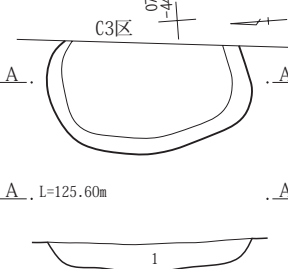
157号土坑



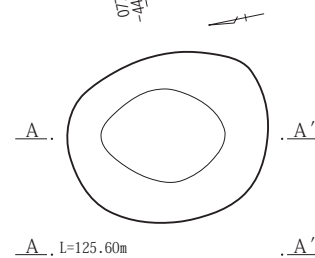
157号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 φ約3cm程度の灰黄褐色土ブロックを含む。

158号土坑



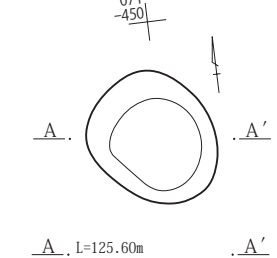
159号土坑



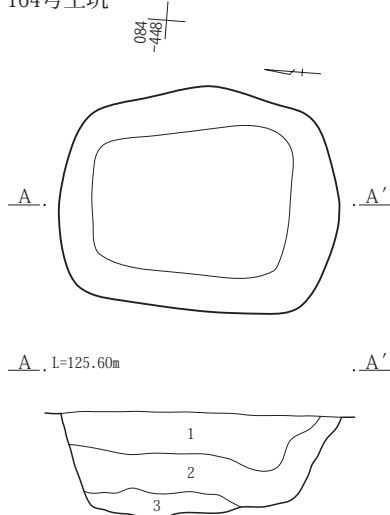
158・159・162号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 やや砂質。

162号土坑



164号土坑



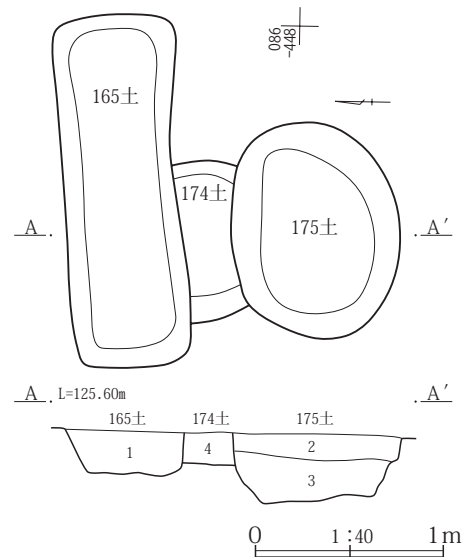
165・174・175号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/2 均質。黄褐色粒を僅かに含む。しまり強い
2 暗褐色土10YR3/2 砂粒状。φ約2～3mm程度の白色軽石を微量含む。しまりややあり。
3 褐色土10YR4/4 砂粒状。しまりややあり。
4 暗褐色土10YR3/2 砂粒状。φ約2～3mm程度の白色軽石を微量含む。しまりややあり。

164号土坑

- 1 褐色土10YR4/4 φ約2～7mm程度の白色軽石を微量含む。しまりややあり。
2 暗褐色土10YR3/3 φ約2～3mm程度の白色軽石を微量含む。しまりややあり。
3 鈍い褐色土10YR4/3 φ約1cm程度の灰褐色ブロックを少量含む。しまりややあり。

165・174・175号土坑



0 1:40 1m

第125図 C区土坑 平面図・土層断面図(4)

規模と形状：南北に僅かに長い楕円形状を呈する。長径1.32m・短径1.2m・深さ0.32m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：灰釉陶器椀1点(埋土)。

時期：不明。

(48) 172号土坑(第126・137図、PL. 63)

位置：C区の北西寄りの位置。C2調査区の北東端付近。171号土坑の西側に隣接する。X=48,091~48,092、Y=-69,450~-69,451。

主軸方向：N-90°-W。

規模と形状：南北に長い不整楕円形状を呈し、底面に更に深く掘り窪めた箇所が3箇所存在する。長径1.18m・短径1.09m・深さ0.19m。

重複：なし。

埋土：上層黒褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：灰釉陶器椀1点(埋土)。

時期：不明。

(49) 173号土坑(第126図、PL. 63・64)

位置：C区の北西寄りの位置。C2調査区の北端付近、東寄りの位置。172号土坑の西側に隣接する。X=48,092、Y=-69,453。

主軸方向：N-13°-W。

規模と形状：南北に長い不整楕円形状を呈する。長径0.9m・短径0.87・深さ0.13m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(50) 174号土坑(第125図、PL. 64)

位置：C区の北西寄りの位置。C2調査区のほぼ中央より北寄り、東端付近。X=48,086、Y=-69,448~-69,449。

主軸方向：不明。

規模と形状：北側を165号土坑に、南側を175号土坑に掘り込まれ、全容は不明である。東西径0.84m・検出最大南北径0.26m・深さ0.17m。

重複：北側を165号土坑に、南側を175号土坑に掘り込まれる。

埋土：黒褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(51) 175号土坑(第125図、PL. 64)

位置：C区の北西寄りの位置。C2調査区のほぼ中央より北寄り、東端付近。164号土坑の北側に隣接する。X=48,085~48,086、Y=-69,448~-69,449。

主軸方向：N-82°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.15m・短径0.9m・深さ0.36m。

重複：174号土坑の南側を掘り込む。

埋土：上層暗褐色土、下層黒色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(52) 194号土坑(第126図)

位置：C区の東端寄りの位置。南端付近。X=48,087~48,088、Y=-69,409~-69,410。

主軸方向：N-90°-E。

規模と形状：西辺を攪乱されているが、東西に長い楕円形状を呈する。検出最大長径0.8m・短径0.86m・深さ0.16m。

重複：195号土坑の西辺を掘り込む。

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(53) 195号土坑(第126図)

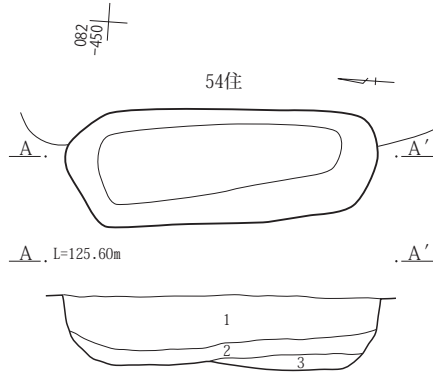
位置：C区の東端寄りの位置。南端付近。C4調査区のほぼ中央。南端付近。X=48,086~48,087、Y=-69,409。

主軸方向：N-90°-E。

規模と形状：西辺を194号土坑に掘り込まれているが、南北に長い楕円形状を呈する。検出最大長径0.9m・短径0.85m・深さ0.42m。しっかりとした掘方を有している。

重複：194号土坑に西辺を掘り込まれる。

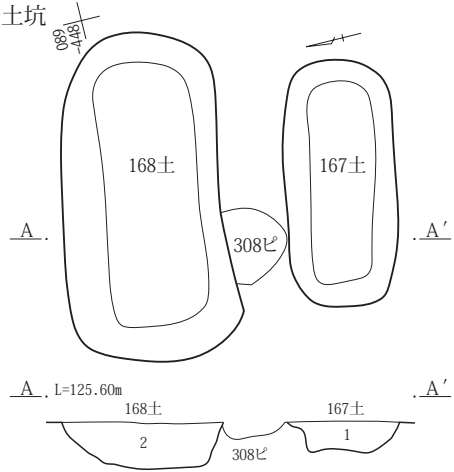
166号土坑



166号土坑

- 1 暗褐色砂質土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、褐灰色砂粒を約10%程度含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 褐灰色砂粒を約5%程度、炭化物を僅かに含む。しまり強い。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 炭化物及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。

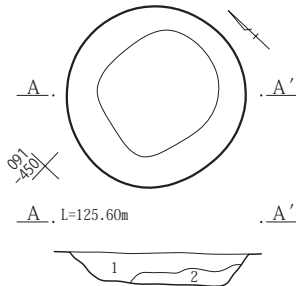
167・168号土坑



167・168号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/2 やや粘質。φ約3～8mm程度の白色軽石を少量含む。しまりややあり。
- 2 暗褐色土10YR3/4 φ約3～5mm程度の白色軽石を微量含む。しまりややあり。

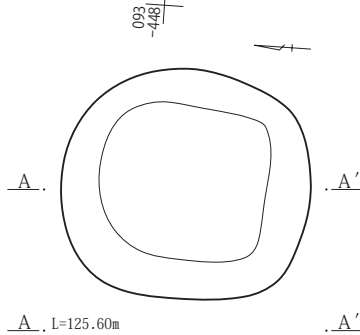
169号土坑



169号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/4 φ約3～5mm程度の白色軽石を微量含む。しまりややあり。
- 2 暗褐色土10YR3/4 φ約3～5mm程度の白色軽石を微量、褐色砂ブロックを少量含む。しまりややあり。

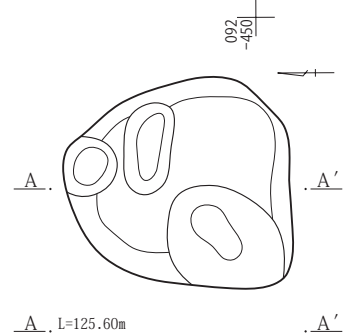
171号土坑



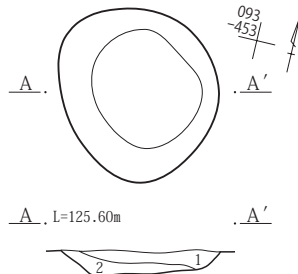
171・172号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/2 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 やや砂質。

172号土坑



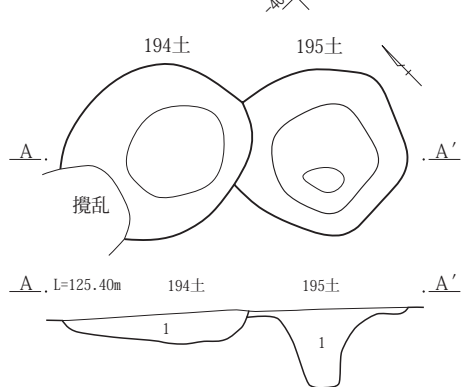
173号土坑



173号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 やや粘質。φ約5～8mm程度の榛名山二ツ岳火山灰Hr-FA粒を少量含む。しまりあり。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 砂粒状。φ約8mm程度の榛名山二ツ岳火山灰Hr-FA粒を微量含む。しまりややあり。

194・195号土坑



194・195号土坑

- 1 鈍い黄褐色土10YR4/3 砂を多く含む。やや脆い。



第126図 C区土坑 平面図・土層断面図(5)

埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(54) 199号土坑(第127図)

位置：C区・C4調査区の東端、南寄りの位置。X = 48,095~48,096、Y = -69,398~-69,399。

主軸方向：N-92°-E。

規模と形状：北辺を200号土坑に掘り込まれているが、東西に長い楕円形状を呈する。長径1.82m・検出最大短径0.96m・深さ0.62m。

重複：200号土坑に北辺を掘り込まれる。

埋土：上層に灰黄褐色土、下層に暗灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(55) 200号土坑(第127図)

位置：C区・C4調査区の東端、南寄りの位置。218号土坑の南西側に隣接する。X = 48,096~48,098、Y = -69,398~-69,399。

主軸方向：N-5°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径1.9m・短径1.72m・深さ0.5m。

重複：199号土坑の北辺を掘り込む。

埋土：上層に灰黄褐色土、下層に暗灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(56) 205号土坑(第127図)

位置：C区の北東寄りの位置。C4調査区の中央より北西寄りの位置。206号土坑の西側に近接する。X = 48,104、Y = -69,411~-69,412。

主軸方向：N-15°-W。

規模と形状：西北西-東南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径1.04m・短径0.94m・深さ0.2m。

重複：西辺を攪乱されている。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(57) 206号土坑(第127図)

位置：C区の北東寄りの位置。C4調査区の中央より北西寄りの位置。205号土坑の東側に隣接する。X = 48,104~48,105、Y = -69,409~-69,410。

主軸方向：N-31°-E。

規模と形状：不整形形状を呈する。径1.32m・深さ0.22m。

重複：20号住居に掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：古代。

(58) 217号土坑(第127図)

位置：C区・C4調査区の中央、東端。200号土坑の北側に隣接する。X = 48,097~48,098、Y = -69,398~-69,399。

主軸方向：N-65°-W。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.1m・短径0.8m・深さ0.3m。

重複：218号土坑の西辺を掘り込む。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(59) 218号土坑(第127・198図)

位置：C区・C4調査区の中央、東端。200号土坑の北東側に隣接する。X = 48,097~48,099、Y = -69,398~-69,399。

主軸方向：N-7°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径1.89m・短径1.62m・深さ0.42m。

重複：217号土坑に西辺を掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：瀬戸・美濃陶器火鉢片1点・在地系土器鉢片1点(埋土、304頁第198図に掲載)。

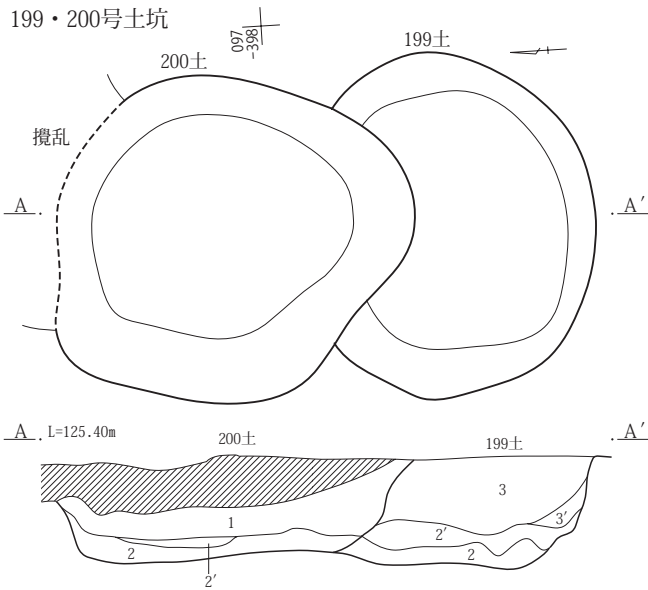
時期：近世。

(60) 222号土坑(第127図、PL. 64)

位置：C区・C4調査区の中央より南寄りの位置。東端付近。X = 48,092、Y = -69,399。

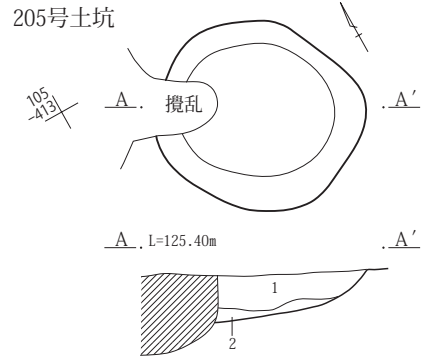
主軸方向：N-63°-E。

第4節 C区で検出された遺構と遺物



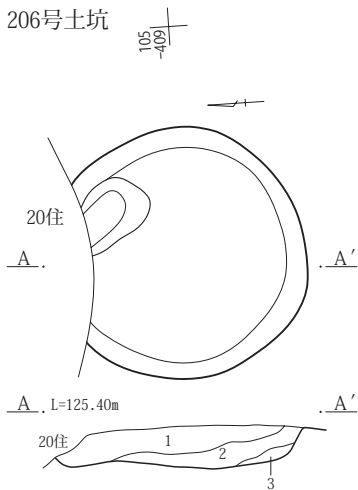
199・200号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 ややしまり欠く粘性土層に不揃いの灰色及び黄褐色粘性土ブロックが混入する。攪乱と思われる層。
- 2 暗灰黄色砂質土2.5Y5/2 混入物のない極細砂層で地山のように見えるが、壁(黄色味おびる細砂)とは区別できる。水の影響などで変質した地山か?。2'は2層の土の中に暗褐色粘性土をブロック状に含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 ややしまり欠く粘性土に不揃いの灰色及び黄褐色粘性土のブロックが混入する。粘性土ブロックは1層に比べてはるかに小粒で、黄褐色粘性土ブロックの混入は少なく、しまりもやや強くなる。3'は黒味がやや強い。



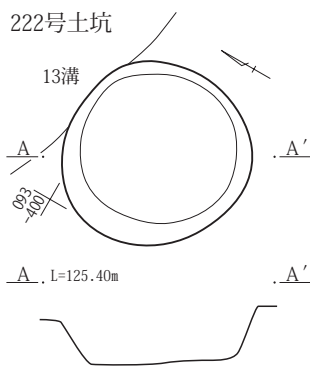
205号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 粒子が極めて細かく緻密。しまり強く粘性弱い。下部中心に炭化物粒を極めて多く含む。焼土散乱。
- 2 黄褐色土2.5Y5/3 地山砂質土をベースとし黄褐色土が不均等に少量混じる不明瞭な層。

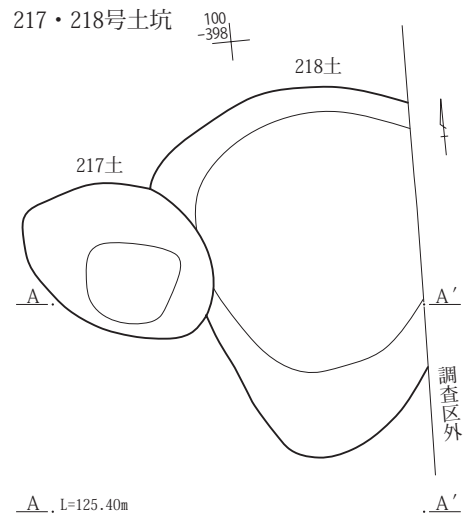


206号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 灰黄色砂質土と黒褐色砂質土とが斜めに互層状に堆積する。部分的に灰黄色を呈する。
- 2 黒褐色砂質土10YR3/2 極めて細かな砂粒からなる土をベースとし中粒砂ブロックが不均等に混じる。
- 3 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山灰色黄砂質土をベースとし褐色粒状土小ブロックが混じる。



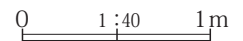
222号土坑



217・218号土坑

217・218号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 褐灰色土・褐灰色土・地山褐色土ブロック等を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 1層に類似するがしまり強い。
- 3 鈍い黄褐色土10YR4/3 大きめの褐灰色土ブロック及び地山褐色土ブロックを多く含む。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 褐灰色砂質土を含む。粘性あり。
- 5 暗灰黄色土2.5Y5/2 6層の土をベースとし暗褐色粘性土をブロック状に含む。
- 6 暗灰黄色砂質土2.5Y5/2 混入物のない極細かな層で地山のように見えるが、壁(黄色味おびる粗砂)とは区別できる。
- 7 鈍い黄褐色砂質土10YR5/3 地山に類似している。



第127図 C区土坑 平面図・土層断面図(6)

規模と形状:ほぼ円形状を呈する。径0.98m・深さ0.3m。

重複:13号溝の南辺を掘り込む。

埋土:暗褐色土。

遺物:なし。

時期:不明。

(61) 228号土坑(第128図、PL. 64)

位置:C区・C3調査区のほぼ中央、南寄り。34号住居の南側、50号住居の東側に隣接する。X=48,079~48,080、Y=-69,436~-69,437。

主軸方向:N-91°-E。

規模と形状:東西に僅かに長い楕円形状を呈する。長径1.04m・短径0.88m・深さ0.12m。

重複:229号土坑に北辺を掘り込まれる。

埋土:暗褐色土。

遺物:なし。

時期:不明。

(62) 229号土坑(第128図、PL. 64)

位置:C区・C3調査区のほぼ中央、南寄り。27号住居の西側、235号土坑の東側に隣接する。X=48,078~48,079、Y=-69,436~-69,437。

主軸方向:N-175°-E。

規模と形状:南北に長い楕円形状を呈する。長径1.55m・短径1.14m・深さ0.2m。

重複:228号土坑の南辺を掘り込む。

埋土:暗褐色土。

遺物:なし。

時期:不明。

(63) 230号土坑(第128・137図、PL. 64・107)

位置:C区のほぼ中央。C3調査区の中央から西寄りの位置。X=48,086~48,088、Y=-69,438~-69,440。

主軸方向:N-85°-W。

規模と形状:西側を14号溝に掘り込まれているため、全容は不明である。南北径2.68m・検出東西最大径1.98m・深さ0.22m。

重複:42・46号住居の西辺を掘り込む。西側を14号溝に掘り込まれる。

埋土:暗褐色土。

遺物:須恵器碗1点(埋土)。

時期:平安時代中期、10世紀前半。

(64) 233号土坑(第128図、PL. 64)

位置:C区・C3調査区のほぼ中央、南寄り。27号住居の北側に隣接する。X=48,078~48,080、Y=-69,435~-69,436。

主軸方向:N-8°-E。

規模と形状:北側を攪乱されているため、全容は不明である。東西径1.54m・検出南北最大径1.06m・深さ0.24m。

重複:なし。

埋土:灰黄褐色土。

遺物:なし。

時期:不明。

(65) 235号土坑(第128・137図、PL. 64)

位置:C区・C3調査区のほぼ中央、南寄り。229号土坑の西側に隣接する。X=48,079、Y=-69,438。

主軸方向:N-30°-E。

規模と形状:ほぼ円形状を呈する。径0.84m・深さ0.14m。

重複:なし。

埋土:灰黄褐色土。

遺物:須恵器羽釜片1点(埋土)。

時期:不明。

(66) 238号土坑(第128図、PL. 64)

位置:C区のほぼ中央より東寄り。C3調査区の中央から東寄りの位置。38号住居の東側に隣接する。X=48,086~48,087、Y=-69,425~-69,427。

主軸方向:N-77°-E。

規模と形状:東側が攪乱されているため、全容は不明であるが、東西に長い隅丸長方形形状を呈する。検出最大長径2.42m・短径0.94m・深さ0.17m。

重複:35号住居の北辺を掘り込む。

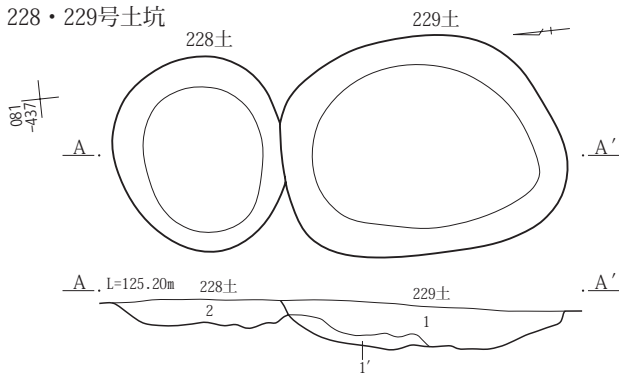
埋土:暗褐色土。

遺物:なし。

時期:不明。

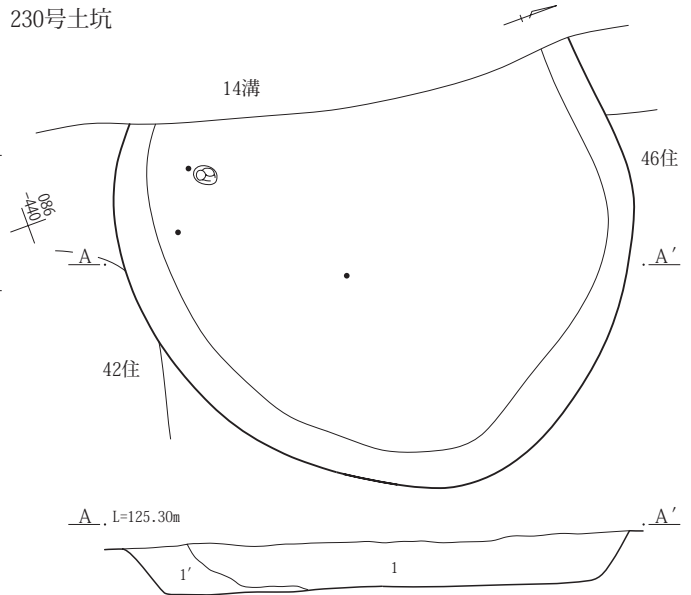
(67) 239号土坑(第129図、PL. 64)

位置:C区の中央よりやや東寄りの位置、南端。南壁



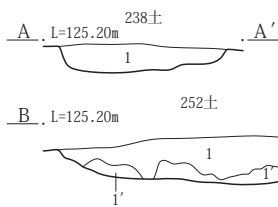
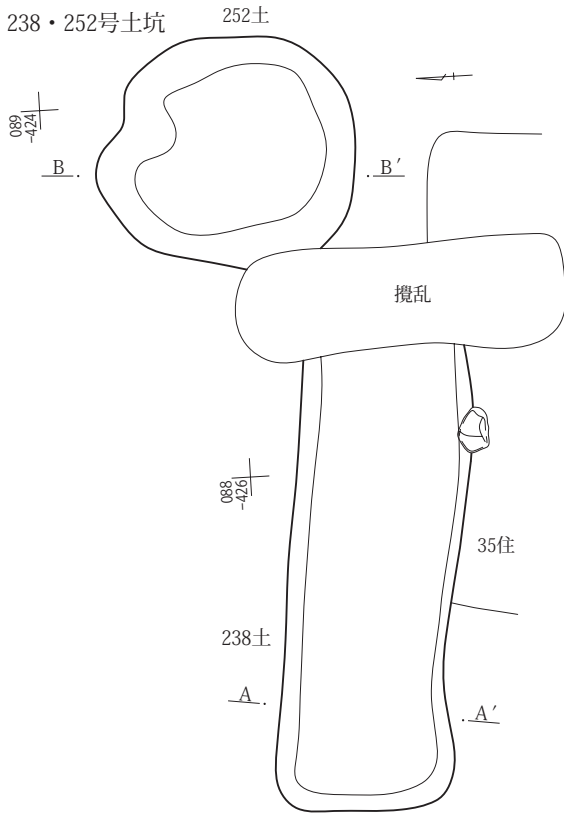
228・229号土坑

- 1 灰黄褐色中粒砂質土10YR4/2 地山灰黄色砂質土を不均等に含む。1'ではやや多く含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 1層とは区別し難い。やや黄色味が強い色調を呈する。土質等は1層と同じ。



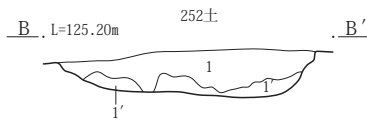
230号土坑

- 1 灰黄褐色中粒砂質土10YR4/2 1'は地山灰黄色砂ブロックを含み、ややしまり欠く。



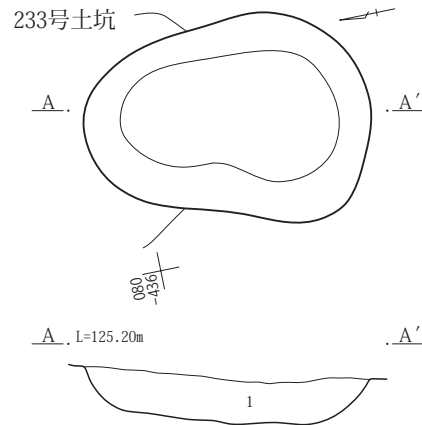
238号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 やや砂質。炭化物粒や榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを不均等にやや多く含む。



252号土坑

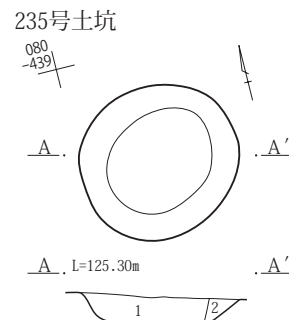
- 1 灰黄褐色中粒砂質土10YR4/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスをやや多く含む。炭化物粒及び焼土等を不均等に少量含む。1'は黒味を帯びる土及び灰黄色砂質土のやや大きなブロックを含む。



233号土坑

233号土坑

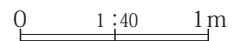
- 1 灰黄褐色細粒砂質土12YR4/2 地山砂質土を不揃いなブロック状に不均等に含む。ややしまり欠く。



235号土坑

235号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 灰色味をおびた砂を一部ラミナ状に含むが、水成堆積を示すような明確なものではない。ややしまり欠く。
- 2 灰黄褐色土10YR5/2 1層と地山砂質土との混土。



第128図 C区土坑 平面図・土層断面図(7)

に掛かる。C3調査区の東南端。X=48,076、Y=-69,432～-69,433。

主軸方向：N-87°-E。

規模と形状：南側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出東西最大径1.8m・検出南北最大径1m・深さ0.87m。

重複：36・37号住居を掘り込む。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(68) 240号土坑(第129図、PL. 65)

位置：C区の中央、南端。南壁に掛かる。C3調査区の中央よりやや東寄りの位置。南端。X=48,074～48,075、Y=-69,426。

主軸方向：不明。

規模と形状：南側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出東西最大径1.1m・検出南北最大径0.52m・検出最大深度0.12m。

重複：14号溝に南辺を掘り込まれる。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(69) 241号土坑(第129図、PL. 65)

位置：C区の中央、南端。南壁に掛かる。C3調査区の中央よりやや東寄りの位置。南端。X=48,076～48,077、Y=-69,425。

主軸方向：N-41°-W。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.94m・短径0.9m・深さ0.26m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(70) 243号土坑(第129図、PL. 65・107)

位置：C区の中央から東寄りの位置、南端付近。C4調査区の東南端付近。12号溝の西側、36号住居の北側、244号土坑の南側に隣接する。X=48,081～48,082、Y

=-69,419～-69,420。

主軸方向：N-130°-E。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.9m・短径0.72m・深さ0.2m。

重複：なし。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：灰釉陶器皿片1点(埋土)。

時期：不明。

(71) 244号土坑(第129・137・138図、PL. 66・107)

位置：C区の中央から東寄りの位置。C4調査区の西南寄りの位置、南端。243号土坑の北側に位置する。X=48,084～48,086、Y=-69,419～-69,420。

主軸方向：N-15°-E。

規模と形状：東側を攪乱されている。南北に長い楕円形状を呈する。底面に川原石が敷き詰められている。長径2.64m・短径1.24m・深さ0.64m。墓壙と考えられる。供献されたと考えられる完形ないしほぼ完形に近い土器が4点出土している。木棺に使用されたと考えられる鉄釘片も出土している。

重複：なし。

埋土：暗褐色土、底面付近に黄褐色土が斜めに堆積する。

遺物：灰釉陶器椀1点・同皿1点・須恵器椀2点(底部)、鉄釘4点(埋土2、底部2)。

時期：平安時代中期、10世紀前半。

(72) 245号土坑(第129図、PL. 65)

位置：C区の中央から北東寄りの位置。C3調査区の中央よりやや北寄りの位置。東端。256号土坑の南側に位置する。X=48,096、Y=-69,420～-69,422。

主軸方向：N-95°-E。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形形状を呈する。長径1.8m・検出最大短径1m・深さ0.12m。

重複：南側を39号住居に掘り込まれる。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

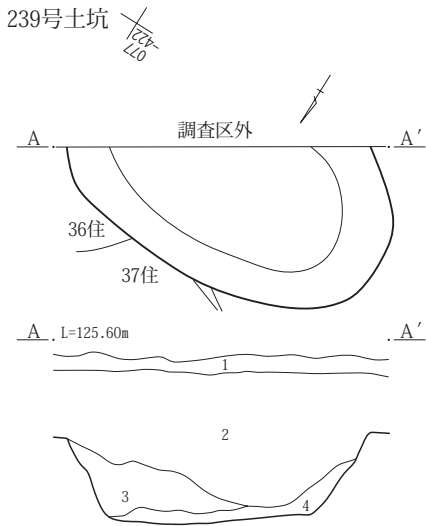
遺物：なし。

時期：不明。

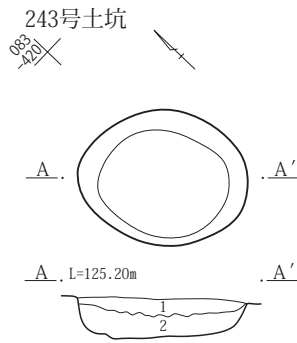
(73) 246号土坑(第130図、PL. 65)

位置：C区・C3調査区の中央よりやや北東寄りの位置。

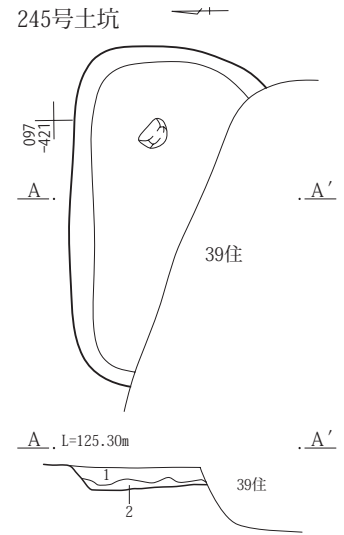
第4節 C区で検出された遺構と遺物



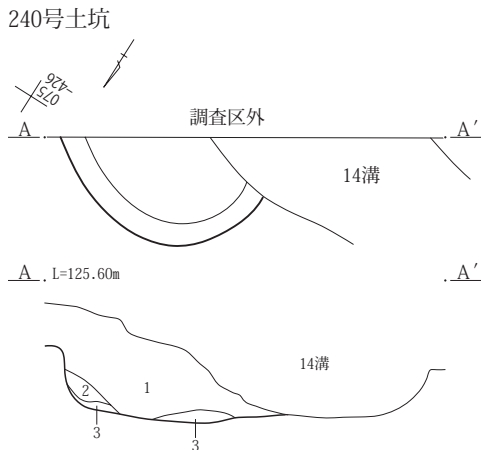
- 239号土坑
- 1 鉄分が凝集した層。
 - 2 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスや砂粒を少量含むが、全体に混入物は少ない。しまり強い。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 灰黄色土と暗褐色土の混土。しまり強い。
 - 4 灰黄褐色土10YR4/2 2層の土の中に地山砂質土を多量に含む。



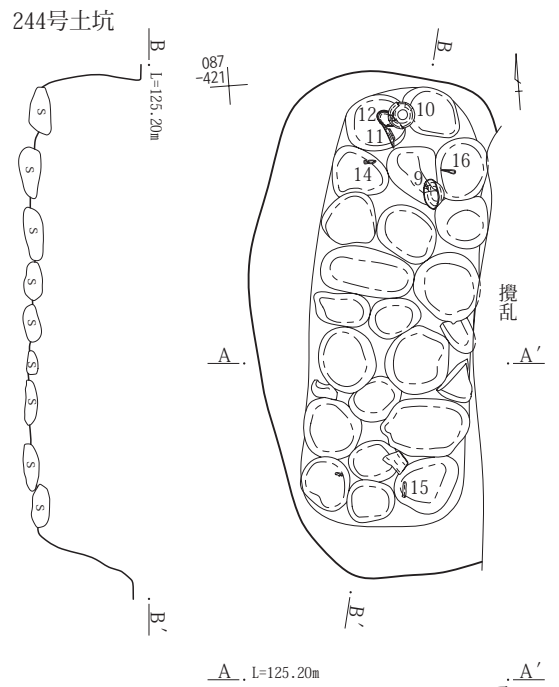
- 243号土坑
- 1 灰黄褐色土10YR4/0 地山鈍い黄褐色土のブロック及び榛名山ニツ岳火山灰Hr-FA粒を少量含む。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 地山鈍い黄褐色土のブロックを多量に含む。



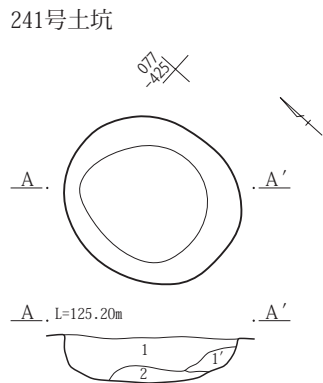
- 245号土坑
- 1 暗褐色細粒砂質土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FPパミスをやや多く含む。しまりやや強い。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 下層にある住居の埋土と1層の土との混土。1層よりも砂質。ややしまりは欠ける。混入物少ない。



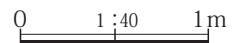
- 240号土坑
- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山火山灰Hr-FPらしいパミスや微細礫を不均等に含む。粘性弱くしまりやや強い。
 - 2 暗褐色土10YR3/3 1層の土をベースとし地山灰黄色砂質土を少量含む。
 - 3 灰黄褐色土10YR4/2 地山灰黄色土をベースとし炭化物粒を多量に含む。



- 244号土坑
- 1 暗褐色土10YR3/3 やや砂質。上部に榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを多く含む。しまりやや弱い。下部へ向かって2層へ漸移する。
 - 2 黄褐色土2.5YR5/3 地山灰黄色土の崩落土。



- 241号土坑
- 1 暗褐色細粒砂質土10YR3/3 地山灰黄色砂質土を不揃いのブロック状に不均等に含む。1'は壁崩落土との混土。
 - 2 灰黄褐色土10YR5/2 地山中に1層の土を不均等に含む。ややしまり欠く。地山とは異なるようだが明瞭ではない。



第129図 C区土坑 平面図・土層断面図(8)

247号土坑の西側に位置する。X = 48,093~48,094、Y = -69,427~-69,428。

主軸方向：N-105°-E。

規模と形状：北西-南東方向に僅かに長い楕円形状を呈する。長径1.14m・短径1.08m・深さ0.2m。

重複：33号住居の東辺及び竈に掘り込まれる。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：古代。

(74) 247号土坑(第130図、PL. 65)

位置：C区・C3調査区の中央よりやや北東寄りの位置。

246号土坑の東側に位置する。X = 48,093~48,094、Y = -69,425~-69,426。

主軸方向：N-103°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.38m・短径1.12m・深さ0.36m。

重複：32号住居の西辺を掘り込む。

埋土：暗褐色土、底面近くに灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(75) 251号土坑(第130図、PL. 65)

位置：C区の中央。C3調査区の中央よりやや西寄りの位置。X = 48,083~48,085、Y = -69,440~-69,441。

主軸方向：N-15°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径1.6m・短径1.22m・深さ0.52m。

重複：14号溝に掘り込まれる。

埋土：暗褐色土、壁から斜めに底面近くにかけて灰黄褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(76) 252号土坑(第128図、PL. 65)

位置：C区の中央よりやや東寄りの位置。C3調査区の東端付近。35・56号住居の北側、32号住居の南側に位置する。X = 48,086~48,087、Y = -69,423~-69,424。

主軸方向：N-5°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径1.38m・

短径1.2m・深さ0.26m。

重複：なし。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(77) 253号土坑(第130図、PL. 67)

位置：C区の中央。C3調査区の中央、西寄りの位置。

X = 48,084、Y = -69,443~-69,444。

主軸方向：N-22°-W。

規模と形状：北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。

長径0.74m・短径0.65m・深さ0.18m。

重複：53号住居の上面を掘り込むが、53号住居の遺構を破壊するまでには達していない。298号土坑の西側を掘り込む。

埋土：上層暗褐色土、中層及び下層、壁際に灰黄褐色土が堆積している。上層から多量の礫が出土した。構造から土公神祭祀の場であった可能性が考えられる。

遺物：なし。

時期：不明。

(78) 254号土坑(第130図)

位置：C区の中央。C3調査区の中央、西寄りの位置。

X = 48,084~48,085、Y = -69,443~-69,444。

主軸方向：N-20°-W。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径1.5m・短径0.6m・深さ0.18m。

重複：53号住居の上面を掘り込むが、53号住居の遺構を破壊するまでには達していない。

埋土：上層暗褐色土、中層鈍い黄褐色土、底面付近に灰黄褐色土が堆積している。

遺物：なし。

時期：不明。

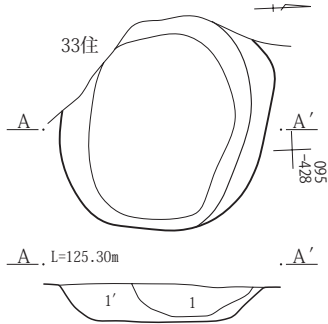
(79) 255号土坑(第130図、PL. 67)

位置：C区・C3調査区の中央よりやや北東寄りの位置。256号土坑の西側、273号土坑の東側に位置する。X = 48,098~48,099、Y = -69,409~-69,410。

主軸方向：N-13°-W。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径

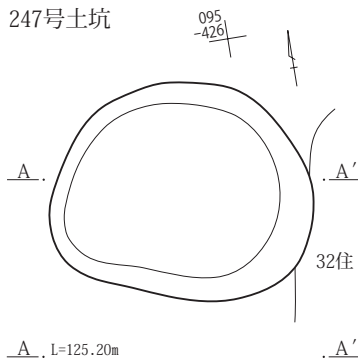
246号土坑



246号土坑

- 1 黒褐色砂質土10YR3/2 やや砂質。パミスや灰黄色砂質土小ブロック等の混入物やや多い。しまり強い。1'では混入物少なくなる。

247号土坑

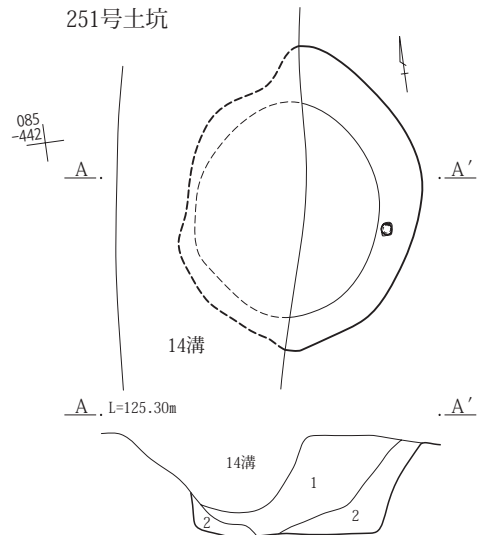


247号土坑

247号土坑

- 1 灰黄褐色細粒砂質土10YR4/2 上部に小礫混じる。しまりやや強い。1'は地山砂質土を多く含む。
- 2 暗褐色砂質土10YR3/3 炭化物粒をやや多く含む。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 2層の土と地山砂質土との混土。ややしまり欠く。

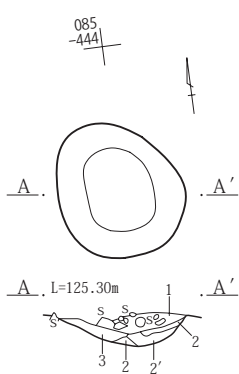
251号土坑



251号土坑

- 1 暗褐色細粒砂質土10YR3/3 浅間山火山灰As-Cらしいパミスを不均等にやや多く含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 1層の土と地山灰黄色砂質土との混土。

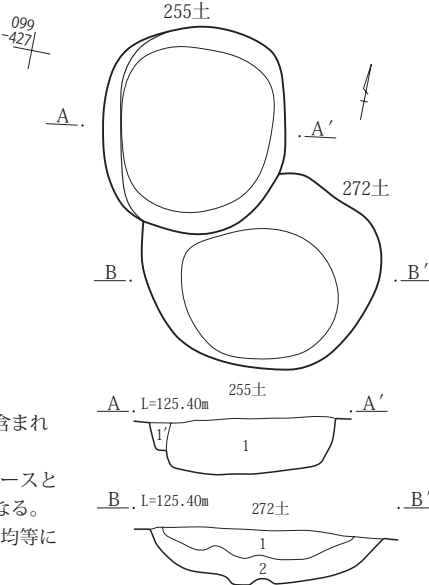
253号土坑



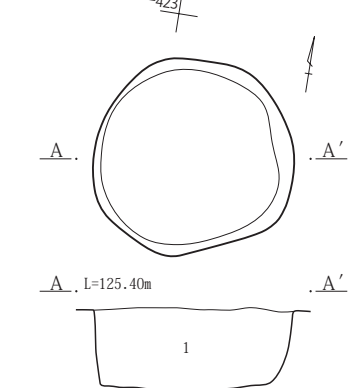
253号土坑

- 1 黒褐色砂質土10YR3/2 礫はほとんどこの層に含まれる。ややしまり欠く。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 黄色味の強い粘性土をベースとし砂質土を不均等に含む。2'は砂質土主体となる。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 地山砂層に暗褐色土が不均等に混じる。

255・272号土坑



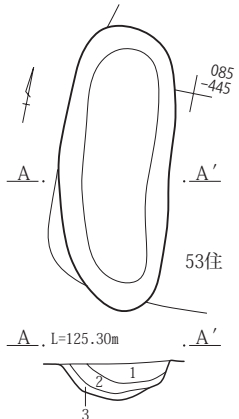
256号土坑



256号土坑

- 1 黒褐色砂質土10YR3/2 黒味の強い砂質土中に灰黄色砂質土を多量に含む。ややしまり欠く。255号土坑埋土に近似。

254号土坑



255号土坑

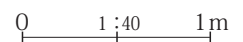
- 1 黒褐色粗粒砂質土10YR3/2 壁際に灰黄色砂質土を小ブロック状に含む。1'は地山砂質土を多く含む。

272号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色砂質土を多く、黄褐色土の小ブロック及び榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。しまりやや欠く。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。

254号土坑

- 1 黒褐色粗粒砂質土10YR3/2 254号土坑埋土1層に近似。黄褐色土粒及び炭化物粒を不均等に少量含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 黄色味を帯びた粘質土をベースとし砂質土が混入する。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 地山砂層と砂質土との混土。



第130図 C区土坑 平面図・土層断面図(9)

1.1m・短径0.52m・深さ0.28m。

重複：272号土坑の北西辺を掘り込む。

埋土：黒褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(80) 256号土坑(第130図、PL. 67)

位置：C区の中央よりやや北東寄りの位置。C3調査区の北寄りの位置。東端付近。255号土坑の東側、36号住居・245号土坑の北側に位置する。X=48,098~48,099、Y=-69,422~-69,423。

主軸方向：N-98°-W。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径1.06m・深さ0.42m。

重複：なし。

埋土：黒褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(81) 257号土坑(第131図、PL. 67)

位置：C区の中央より北寄りの位置。C3調査区の北東寄りの位置。273号土坑の南東に位置する。X=48,095~48,097、Y=-69,428~-69,431。

主軸方向：N-93°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.41m・短径1.2m・深さ0.81m。

重複：33号住居に掘り込まれる。

埋土：上層鈍い黄褐色土 下層灰黄褐色土

遺物：なし。

時期：平安時代中期(10世紀後半)以降。

(82) 258号土坑(第131図、PL. 67)

位置：C区の中央、南端付近。C3調査区の中央よりやや東寄りの位置。南端付近。26号住居の東側、14号溝の北側に位置する。X=48,076~48,077、Y=-69,428~-69,430。

主軸方向：N-0°-W。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径1.28m・深さ0.34m。

重複：259号土坑に南辺を掘り込まれる。

埋土：暗褐色土、底面付近に灰黄褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(83) 259号土坑(第131図、PL. 67)

位置：C区の中央、南端付近。C3調査区の中央よりやや東寄りの位置。南端付近。26号住居の東側、14号溝の北側に位置する。X=48,075~48,076、Y=-69,428~-69,430。

主軸方向：N-7°-E。

規模と形状：南北に長い不整楕円形状を呈する。長径1.72m・短径1.32m・深さ0.34m。

重複：258号土坑の南辺を掘り込む。269号土坑に南辺を掘り込まれる。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(84) 260号土坑(第131・138図、PL. 108)

位置：C区・C4調査区の中央、北端付近。14号溝の南側に隣接する。X=48,112~48,113、Y=-69,409~-69,410。

主軸方向：N-20°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.42m・短径0.86m・深さ0.14m。

重複：59号住居の南西隅を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：須恵器碗1点(埋土)。

時期：不明。

(85) 262号土坑(第131・138図、PL. 67・108)

位置：C区の中央より東寄りの位置。C4調査区の中央よりやや南寄りの位置。西端付近。X=48,090~48,091、Y=-69,418~-69,419。

主軸方向：N-5°-E。

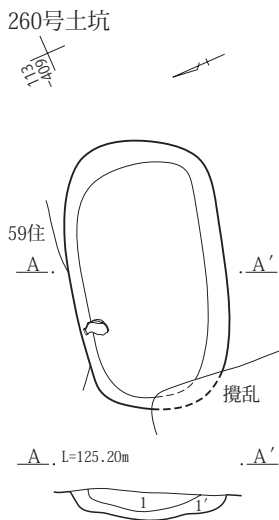
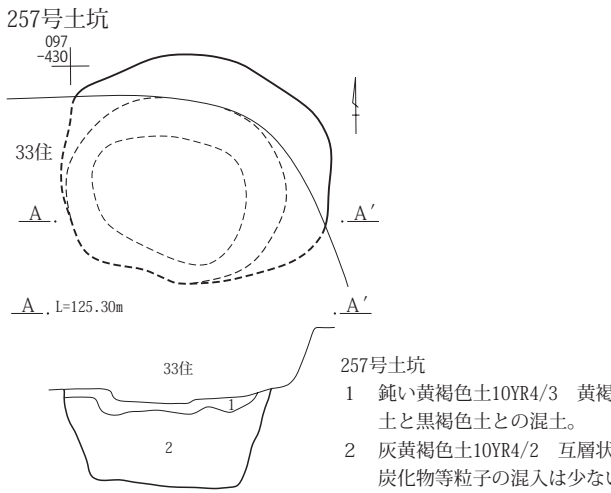
規模と形状：北東-南西方向に長い不整楕円形状を呈する。径1.48m・深さ0.3m。

重複：263号土坑の南辺を掘り込む。

埋土：暗灰黄褐色土。

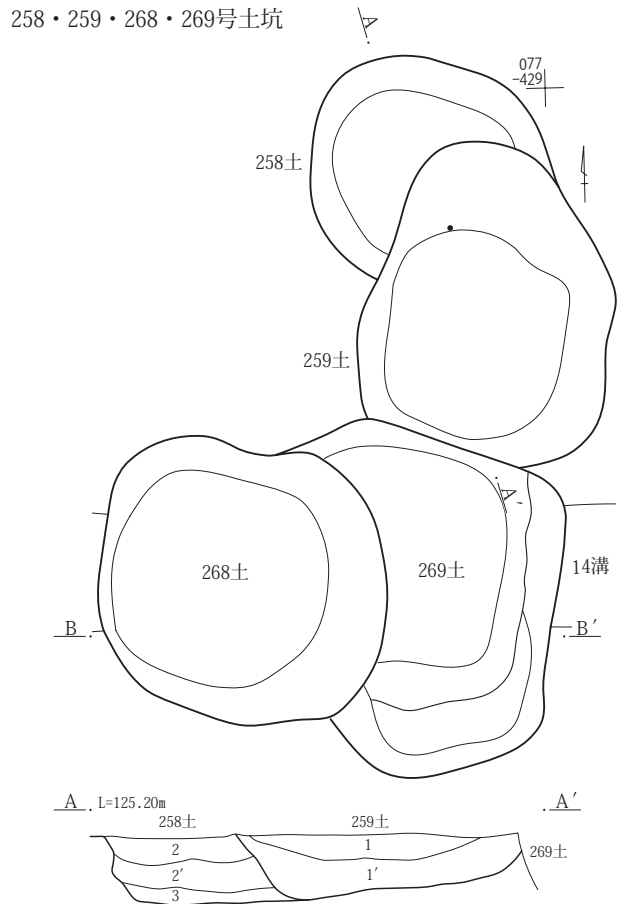
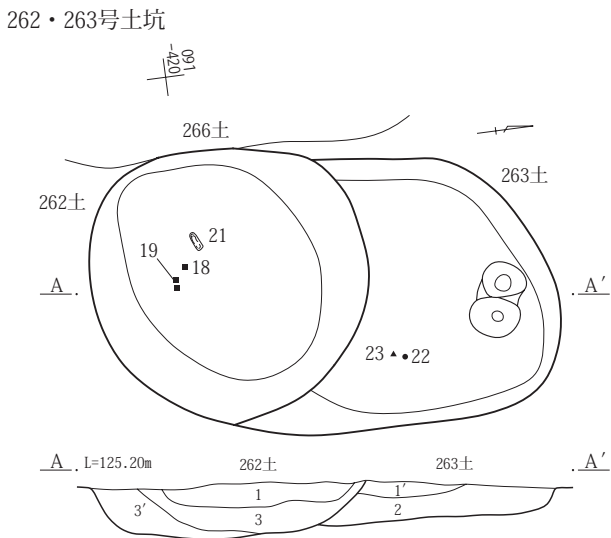
遺物：用途不明鉄製品2点・鉄鈴2点(埋土)。

時期：近世。



260号土坑

- 1 暗褐色細粒砂質土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしい不揃いのパミスを少量含む。焼土及び炭化物粒が散見する。1'は地山砂質土を多く含む。



258・259号土坑

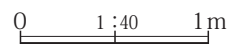
- 1 暗褐色細粒砂質土10YR3/3 炭化物粒を不均等に含む。しまりやや強い。1'は大粒の榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスをやや多く含む。
- 2 暗褐色土10YR3/3 1層と区別難しいが、やや黒味強い。2'は1'との区別は難しいが、2'では1'の下部に多い炭化物粒が見えない。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 地山砂質土をベースとし、2'層の土を含む。しまりあり。

268・269号土坑

- 1 暗褐色細粒砂質土10YR3/3 黄褐色土を不均等にやや多く含む。1'は黄褐色土の混入が増えるものの黒味が強くなる。
- 2 暗褐色土10YR3/3 土質は1層に同じ。やや黒味が強い。1層より黄褐色土ブロックが大粒で炭化物粒が散見する。2'は焼土粒が混じる。
- 3 黒褐色土10YR3/2 土質は1層に同じ。炭化物粒の混入が部分的に顕著。

262・263号土坑

- 1 暗灰黄色土2.5Y4/2 261号土坑埋土1層に近似。浅間山火山灰As-C混入黒色土及び黄褐色土の小ブロック等雑多な混入物を少量含む。しまりやや強い。1'は混入物少ない。
- 2 浅間山火山灰As-C混入黒色土のブロック。
- 3 暗灰黄色土2.5Y4/2 1層に類似。混入物は小粒で少ない。3'は地山砂質土を多量に含む。



第131図 C区土坑 平面図・土層断面図(10)

(86) 263号土坑(第131・198図、PL. 67・108)

位置：C区の中央より東寄りの位置。C4調査区の中央よりやや南寄りの位置。西端付近。X=48,091~48,092、Y=-69,418~-69,419。

主軸方向：N-5°-E。

規模と形状：南北方向に長い不整楕円形状を呈する。長径1.5m・短径1.4m・深さ0.18m。

重複：262号土坑に南辺を掘り込まれる。

埋土：暗灰黄褐色土。

遺物：在地系土器焙烙片1点・板碑片1点(埋土、304頁第198図に掲載)。

時期：近世。

(87) 266号土坑(第132・138図、PL. 67)

位置：C区の中央より東寄りの位置。C4調査区の中央よりやや南寄りの位置。C3調査区との境に掛かる。32号住居の東側に隣接する。X=48,090~48,092、Y=-69,419~-69,421。

主軸方向：N-10°-E。

規模と形状：南北方向に長い不整楕円形状を呈する。長径2.32m・短径2.01m・深さ0.3m。

重複：267号土坑の北辺を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：砥石1点(埋土)。

時期：不明。

(88) 267号土坑(第132図、PL. 67)

位置：C区の中央より東寄りの位置。C4調査区の中央よりやや南寄りの位置。C3調査区との境に掛かる。32号住居の東側に隣接する。X=48,089~48,090、Y=-69,419~-69,420。

主軸方向：N-5°-E。

規模と形状：南北方向に長い不整楕円形状を呈する。検出南北最大径0.98m・東西径1.25m・深さ0.16m。

重複：266号土坑に北辺を掘り込まれる。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(89) 268号土坑(第131図、PL. 67)

位置：C区の中央、南端付近。C3調査区の中央よりやや東寄りの位置、南端付近。47号住居の北東側に隣接する。X=48,073~48,075、Y=-69,428~-69,430。

主軸方向：N-89°-E。

規模と形状：南北にやや長い隅丸方形形状を呈している。径0.75m・深さ0.19m。

重複：14号溝を掘り込む。269号土坑の西側を掘り込む。

埋土：暗褐色土、底面に黒褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(90) 269号土坑(第131図、PL. 67)

位置：C区の中央、南端付近。C4調査区の中央よりやや東寄りの位置、南端付近。47号住居の北東側に隣接する。X=48,073~48,075、Y=-69,430~-69,431。

主軸方向：N-9°-W。

規模と形状：268号土坑に西側を掘り込まれており、全容は不明である。南北径1.51m・検出最大東西径1.48m・深さ0.4m。

重複：268号土坑に西側を掘り込まれ、14号溝及び259号土坑を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(91) 271号土坑(第132図、PL. 67)

位置：C区の中央からやや東寄りの位置、北端付近。C3調査区の中央から東寄りの位置、北端付近。278号土坑の北側に隣接する。X=48,102、Y=-69,436。

主軸方向：N-62°-E。

規模と形状：ほぼ円形状を呈する。径0.96m・深さ0.28m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(92) 272号土坑(第130図、PL. 68)

位置：C区の中央からやや北東寄りの位置。C3調査区の北東寄りの位置。256号土坑の西側に隣接する。X =

48,097~48,098、Y=-69,425~-69,426。

主軸方向：N-100°-E。

規模と形状：北西辺を255号土坑に掘り込まれているが、東西にやや長い楕円形状を呈する。長径1.25m・短径1.03m・深さ0.3m。

重複：北西辺を255号土坑に掘り込まれる。

埋土：暗褐色土、底面付近に灰黄褐色土が僅かに堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(93) 273号土坑(第132図、PL. 68)

位置：C区・C3調査区の北東寄りの位置。33号住居の北側に隣接する。X=48,097~48,098、Y=-69,430~-69,431。

主軸方向：N-19°-E。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径1.02m・短径0.96m・深さ0.13m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土、底面付近に灰黄褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(94) 274号土坑(第132図、PL. 68)

位置：C区・C3調査区の北東寄りの位置。X=48,100~48,101、Y=-69,431。

主軸方向：N-85°-E。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.74m・短径0.68m・深さ0.13m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土、底面付近に灰黄褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(95) 275号土坑(第132図、PL. 68)

位置：C区・C3調査区の北東寄りの位置。X=48,101~48,102、Y=-69,428。

主軸方向：N-22°-W。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.64m・短径0.54m・深さ0.3m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土と灰黄褐色土の互層。

遺物：なし。

時期：不明。

(96) 276号土坑(第132図、PL. 68)

位置：C区・C3調査区の中央、北寄りの位置。X=48,098、Y=-69,433~-69,434。

主軸方向：N-30°-W。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.7m・短径0.6m・深さ0.3m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(97) 277号土坑(第132図、PL. 68)

位置：C区・C3調査区の中央、北端付近。X=48,101~48,103、Y=-69,432~-69,433。

主軸方向：N-100°-E。

規模と形状：北西-南東にやや長い隅丸台形状を呈する。長径1.28m・短径1.22m・深さ0.62m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層黒褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(98) 278号土坑(第133図、PL. 68)

位置：C区・C3調査区の中央、北端。北壁に掛かる。X=48,102、Y=-69,434。

主軸方向：不明。

規模と形状：北側調査区外に大きく出るため、全容は不明である。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

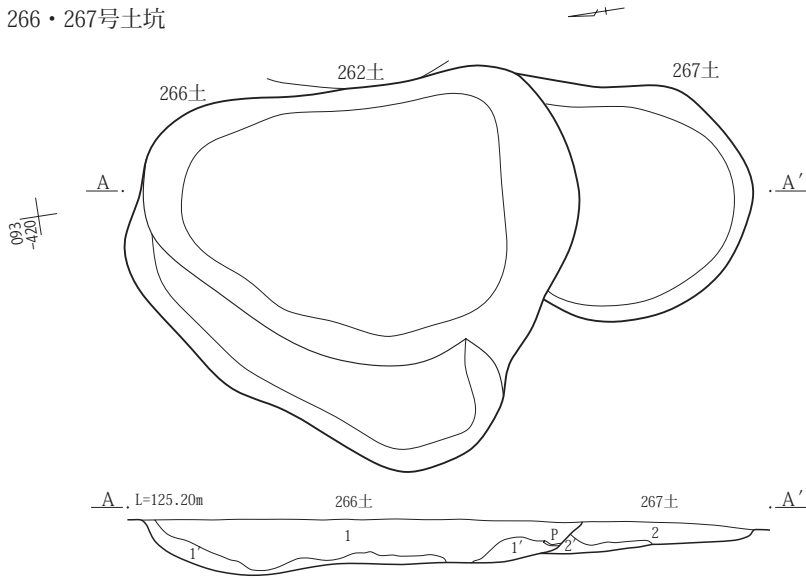
遺物：なし。

時期：不明。

(99) 279号土坑(第133図、PL. 68)

位置：C区・C3調査区の中央、北端。北壁に掛かる。

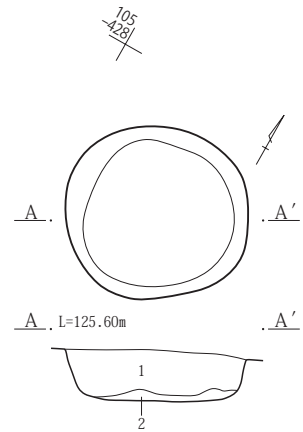
266・267号土坑



266・267号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミス・炭化物粒・焼土等をやや多く含む。しまり強い。1'は地山砂質土との混土。
- 2 暗褐色土10YR3/3 1層と区別が難しいが黄色味が強い。2'は地山砂質土との混土。

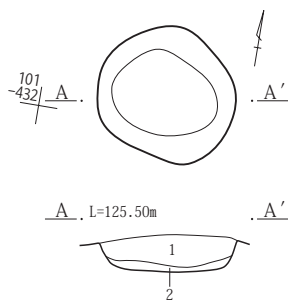
271号土坑



271号土坑

- 1 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロックを少量、炭化物粒をやや多く含む。ややしまり欠く。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。地山砂質土を多く含む。

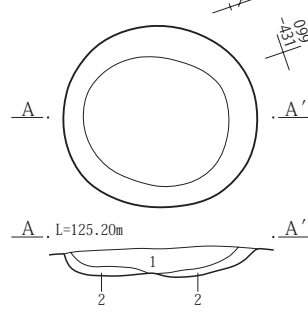
274号土坑



274号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。しまりやや欠く。炭化物粒を少量含む。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。

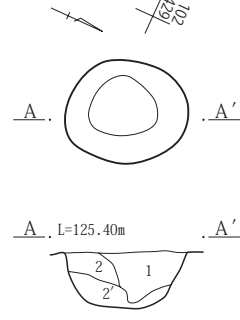
273号土坑



273号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。しまりやや欠く。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。炭化物を不均等にやや多く含む。

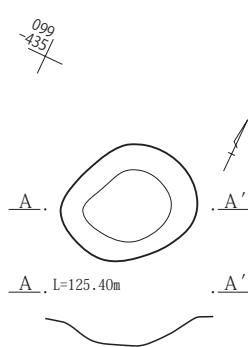
275号土坑



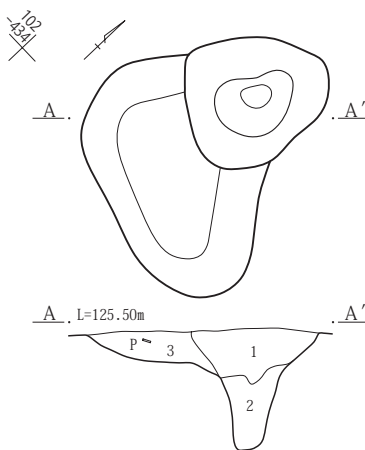
275号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 砂質土ブロック及び黄色土粒をやや多く、黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。しまりやや欠く。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。2'は黒味を帯びる。

276号土坑

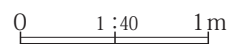


277号土坑



277号土坑

- 1 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロックを少量含む。ややしまり欠く。
- 2 黒褐色土10YR3/2 黒味強く粒子が細かい。混入物少ない。ややしまり欠く。
- 3 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。



第132図 C区土坑 平面図・土層断面図(11)

X=48,102~48,103、Y=-69,432~-69,433。

主軸方向：不明。

規模と形状：北側調査区外に大きく出るため、全容は不明である。東西径0.58m・南北径0.4m・深さ0.62m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(100) 280号土坑(第133図、PL. 68)

位置：C区の中央、北端付近。C3調査区の西寄り、北端付近。X=48,099、Y=-69,441~-69,442。

主軸方向：N-65°-W。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1m・短径0.61m・深さ0.16m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土、底面近くには灰黄褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(101) 281号土坑(第133図、PL. 68)

位置：C区の中央、北端付近。C3調査区の西寄り、北端付近。X=48,096~48,097、Y=-69,442~-69,443。

主軸方向：N-59°-W。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.46m・短径1.14m・深さ0.32m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土、底面近くには灰黄褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(102) 282号土坑(第133図、PL. 69)

位置：C区の中央、北端付近。C3調査区の西寄り、北端付近。X=48,096~48,097、Y=-69,445~-69,446。

主軸方向：N-5°-E。

規模と形状：不整形形状を呈する。径1.36m・深さ0.12m。

重複：283号土坑の西北側を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(103) 283号土坑(第133図、PL. 69)

位置：C区の中央、北端付近。C3調査区の西寄り、北端。X=48,096、Y=-69,442~-69,443。

主軸方向：N-98°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。検出最大長径0.95m・短径0.74m・深さ0.18m。

重複：282号土坑に西北側を掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(104) 292号土坑(第133図、PL. 69)

位置：C区の中央、やや北寄りの位置。C3調査区の中央、西端寄り。14号溝の西側、43号住居の南側、53号住居の北側、293号土坑の東側に隣接する。X=48,081~48,088、Y=-69,441~-69,443。

主軸方向：N-125°-E。

規模と形状：北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。長径1.5m・短径1.34m・深さ0.18m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(105) 293号土坑(第134図、PL. 69)

位置：C区の中央、やや北寄りの位置。C3調査区の中央、やや北寄りの位置、西端寄り。53号住居の北側、292号土坑の西側に隣接する。X=48,088、Y=-69,443~-69,444。

主軸方向：N-71°-E。

規模と形状：西端を294号土坑に掘り込まれているが、東西に長い楕円形状を呈する。検出最大東西径0.68m・南北径0.78m・深さ0.18m。

重複：西端を294号土坑に掘り込まれる。

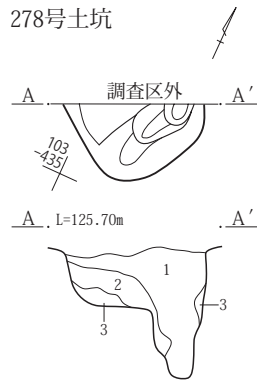
埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

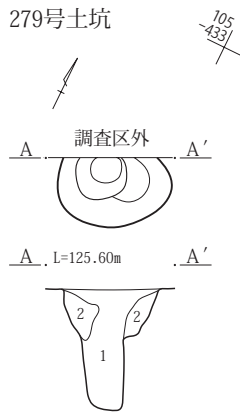
(106) 294号土坑(第134図、PL. 69)

位置：C区の中央、やや北寄りの位置。C3調査区の



278号土坑

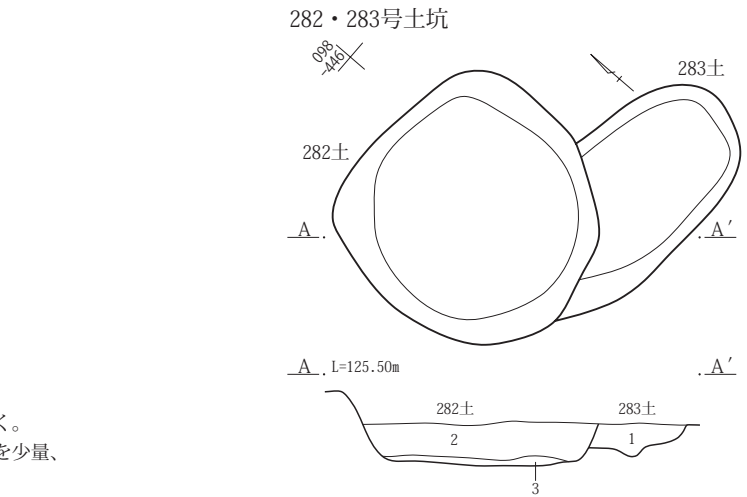
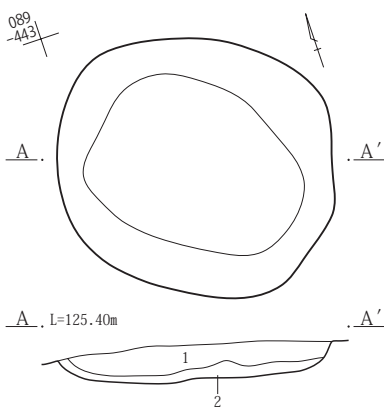
- 1 暗褐色土10YR3/3 上部にパミス多い。ややしまり欠く。
- 2 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロックを少量、黄色土を含む。ややしまり欠く。
- 3 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。しまりやや欠く。



279号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 上部にパミス多い。
- 2 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロックを少量、黄色土を含む。ややしまり欠く。

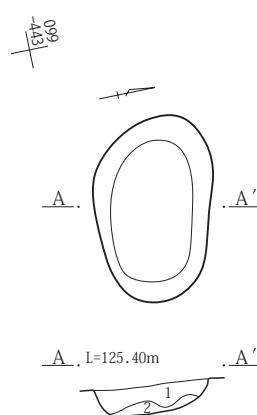
292号土坑



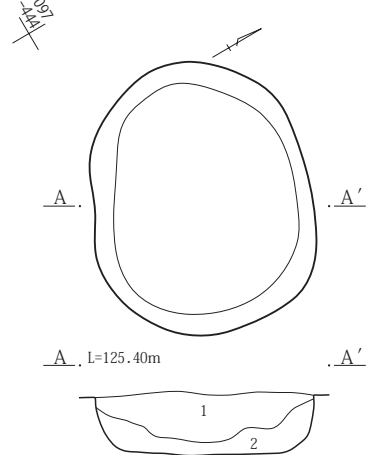
282・283号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。しまり弱い。
- 2 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロックを少量、黄色味を帯びた砂質土を多く含む。しまりやや欠く。
- 3 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。上部には斑鉄はみられない。

280号土坑



281号土坑



280号土坑

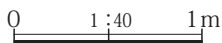
- 1 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロックを少量含む。砂質土は下部側に偏って混入している。ややしまり欠く。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 暗褐色細～中粒砂質土と地山砂質土との混土。パミスを多く、砂質土をブロック状に含む。

281号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量、黄色味を帯びた砂質土を多く含む。しまりやや欠く。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。

292号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロック、榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。混入物は少ない。ややしまり欠く。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。粘性が弱い黒色土が小ブロック状に混入する。下半部では砂質土が主体となる。



第133図 C区土坑 平面図・土層断面図(12)

中央、やや北寄りの位置、西端寄り。53号住居の北側、297号土坑の東側に隣接する。X=48,088、Y=-69,443～-69,444。

主軸方向：N-71°-E。

規模と形状：293号土坑の西端を掘り込む。北西-南東方向に僅かに長い楕円形状を呈する。長径1.01m・短径0.96m・深さ0.22m。

重複：293号土坑の西端を掘り込む。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(107) 295号土坑(第134図、PL. 69)

位置：C区の中央から西北寄りの位置。C3調査区の西端、やや北寄りの位置、西端。175号土坑の東側に隣接する。X=48,085～48,086、Y=-69,446～-69,447。

主軸方向：N-70°-E。

規模と形状：296号土坑の西端を掘り込む。東西にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長径1.01m・短径0.84m・深さ0.3m。

重複：296号土坑の西端を掘り込む。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(108) 296号土坑(第134図、PL. 69)

位置：C区の中央から西北寄りの位置。C3調査区の西端、やや北寄りの位置、西端付近。297号土坑の南側、53号住居の西側に隣接する。X=48,085～48,086、Y=-69,446～-69,447。

主軸方向：N-70°-E。

規模と形状：295号土坑に西端を掘り込まれる。東西にやや長い隅丸長方形形状を呈する。検出最大長径1.1m・短径1m・深さ0.1m。

重複：295号土坑に西端を掘り込まれる。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(109) 297号土坑(第134図、PL. 69)

位置：C区の中央から西北寄りの位置。C3調査区の西端、やや北寄りの位置、西端付近。296号土坑の北側に隣接する。X=48,087～48,088、Y=-69,445～-69,446。

主軸方向：N-5°-W。

規模と形状：南北にやや長い隅丸長方形形状を呈する。長径1.84m・短径1.26m・深さ0.14m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土、底部付近に僅かに灰黄褐色土、壁際に鈍い黄褐色土がそれぞれ堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(110) 298号土坑(第134図、PL. 69)

位置：C区の中央、やや北寄りの位置。C3調査区の中央、やや北西寄りの位置。55号住居の西側、303号土坑の北側に隣接する。X=48,083～48,084、Y=-69,442～-69,444。

主軸方向：N-42°-E。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径1.18m・短径1.08m・深さ0.44m。

重複：253号土坑に西側を掘り込まれる。53号住居の上面を掘り込むが、住居の遺構を破壊するまでには土坑の掘り込みは及んでいない。

埋土：暗褐色土、底部付近及び壁際に灰黄褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(111) 299号土坑(第134図、PL. 69)

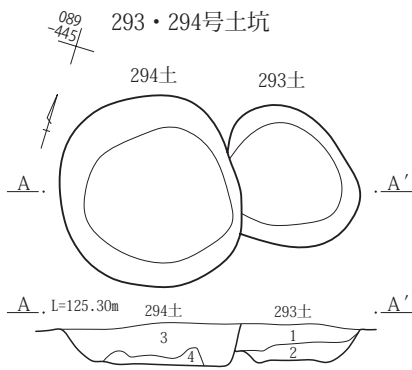
位置：C区の中央、南端寄り。C3調査区の南西寄りの位置。301号土坑の東側に隣接する。X=48,074～48,076、Y=-69,437～-69,438。

主軸方向：不明。

規模と形状：南西側を300号土坑に北東側を27号住居に掘り込まれているため、形状は不明である。検出最大南北径1.86m・検出最大東西径0.84m・深さ0.16m。

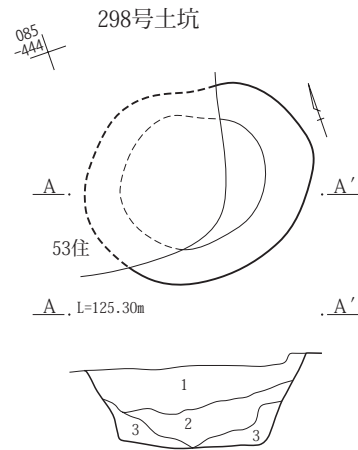
重複：南端で14号溝を掘り込み、南西側を300号土坑に、北東側を27号住居に掘り込まれている。

第3章 調査の成果



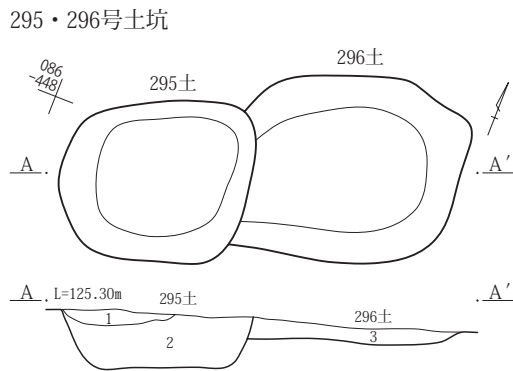
293・294号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。混入物少ない。黒味がやや強い。ややしまり欠く。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。
- 3 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。ややしまり欠く。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 3層の土と地山砂質土との混土。砂質土の混入は少ない。



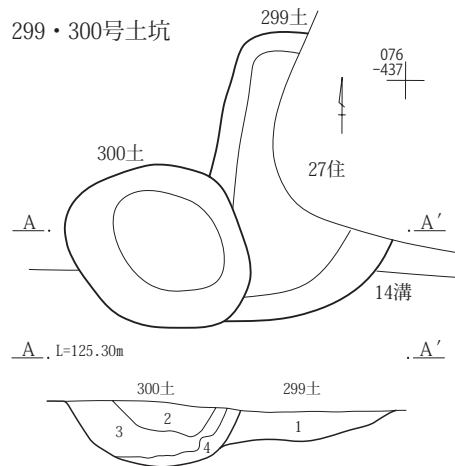
298号土坑

- 1 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロックを少量、極細かなパミスをやや多く含む。しまりやや欠く。各層の境は漸移的で不明瞭。
- 2 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。混入物少なく粒子細かい。各層の境は漸移的で不明瞭。粘性僅かややしまり欠く。
- 3 灰黄褐色土10YR4/2 2層と地山砂質土との混土。



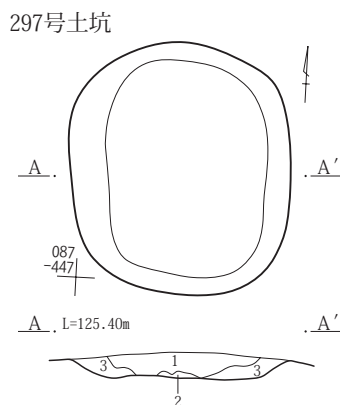
295・296号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。1・2層は互層状に堆積している。ややしまり欠く。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。1・2層は互層状に堆積している。
- 3 灰黄褐色砂質土10YR4/2 暗褐色中～粗粒砂質土と地山砂質土との混土。



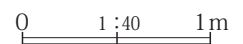
299・300号土坑

- 1 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 やや黒味を帯びる。黄褐色土の小ブロックを少量含む。しまりやや欠く。
- 2 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 1層に近似するが粒子がより細かい。
- 3 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量、大粒の炭化物粒をやや多く含む。ややしまり欠く。
- 4 灰黄褐色砂質土10YR4/2 3層の土と地山砂質土との混土。



297号土坑

- 1 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含しまりやや欠く土と黒味が強い粘質土との混土。土質は地山砂質土主体の鈍い黄褐色砂質土に近似しており、290号土坑埋土1層に近似している。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 地山と区別が難しい。若干混入物があったり、シミのような色調変化が確認できる。



第134図 C区土坑 平面図・土層断面図(13)

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：古代。

(112) 300号土坑(第134図、PL. 69)

位置：C区の中央、南寄り。C3調査区の南西寄りの位置。301号土坑の東側に隣接する。X=48,074~48,075、Y=-69,437~-69,438。

主軸方向：N-125°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.04m・検出最大東西径0.84m・深さ0.34m。

重複：14号溝を掘り込む。299号土坑の南西端を掘り込む。

埋土：上層・中層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(113) 301号土坑(第135図、PL. 69)

位置：C区の中央、南寄り。C3調査区の南西寄りの位置。299・300号土坑の西側に隣接する。X=48,075~48,077、Y=-69,438~-69,440。

主軸方向：N-61°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径2.55m・短径1.24m・深さ0.22m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(114) 302号土坑(第135図、PL. 69)

位置：C区の中央から西寄りの位置。C3調査区の西端、中央。305・306号土坑の西側、54号住居の東側に隣接する。X=48,082~48,083、Y=-69,445~-69,446。

主軸方向：N-96°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.68m・短径1.56m・深さ0.28m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、中層暗褐色土及び灰黄褐色土。下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(115) 303号土坑(第135図、PL. 70)

位置：C区の中央から西寄りの位置。C3調査区の中央、西端寄りの位置。305号土坑の西側、50・55号住居の西側に隣接する。X=48,082~48,083、Y=-69,442~-69,443。

主軸方向：N-10°-E。

規模と形状：不整形形状を呈する。径1m・深さ0.2m。

重複：304号土坑に南辺を掘り込まれる。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(116) 304号土坑(第135図、PL. 70)

位置：C区の中央から西寄りの位置。C3調査区の中央、西端寄りの位置。319号土坑の北側、306号土坑の東側、50号住居の西側に隣接する。X=48,081~48,082、Y=-69,442~-69,443。

主軸方向：N-105°-E。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径1.28m・短径1.22m・深さ0.28m。

重複：303号土坑の南辺を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(117) 305号土坑(第135図、PL. 70)

位置：C区の中央から西寄りの位置。C3調査区の中央、西端寄りの位置。53号住居・253・254号土坑の南側、306号土坑の北側、302号土坑の東側、303号土坑の西側に隣接する。X=48,082~48,083、Y=-69,444~-69,445。

主軸方向：N-27°-E。

規模と形状：不整形形状を呈する。径1.25m・深さ0.25m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(118) 306号土坑(第135図、PL. 70)

位置：C区の中央から西寄りの位置。C3調査区の中央、西端寄りの位置。305号土坑の南側、320号土坑の北側、302号土坑の東側、304号土坑の西側に隣接する。X=48,081~48,082、Y=-69,444~-69,445。

主軸方向：N-115°-E。

規模と形状：不整楕円形状を呈する。長径1.54m・短径1.16m・深さ0.22m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(119) 312号土坑(第135図、PL. 70)

位置：C区の中央から西寄りの位置。C3調査区の中央から南寄り、西端寄りの位置。314号土坑の南側、315号土坑の北側、14号溝の西側に隣接する。X=48,076~48,077、Y=-69,443~-69,444。

主軸方向：N-55°-E。

規模と形状：不整円形状を呈する。径1.04m・深さ0.2m。

重複：313号土坑の東端を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(120) 313号土坑(第135図、PL. 70)

位置：C区の中央から西寄りの位置。C3調査区の中央から南寄り、西端寄りの位置。314号土坑の南側、315号土坑の北側に位置する。X=48,076、Y=-69,444。

主軸方向：N-56°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.7m・短径0.6m・深さ0.18m。

重複：312号土坑に東端を掘り込まれる。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(121) 314号土坑(第136図、PL. 70)

位置：C区の中央から西寄りの位置。C3調査区の中央から南寄り、西端寄りの位置。312・313号土坑の北

側、319・320号土坑の南側に隣接する。X=48,078~48,079、Y=-69,443~-69,444。

主軸方向：N-84°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.7m・短径1.04m・深さ0.1m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(122) 315号土坑(第136図、PL. 70)

位置：C区の中央から西寄りの位置。C3調査区の中央から南寄り、西端寄りの位置。312・313号土坑の南側、51号住居の北側に隣接する。X=48,074~48,075、Y=-69,444~-69,445。

主軸方向：N-93°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径1.3m・短径1.04m・深さ0.24m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土・鈍い黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(123) 316号土坑(第136図、PL. 70)

位置：C区の中央から西寄りの位置。C3調査区の中央から南寄り、西端。317号土坑の北側に隣接する。X=48,077~48,078、Y=-69,447~-69,448。

主軸方向：N-35°-E。

規模と形状：不整円形状を呈する。径0.88m・深さ0.2m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

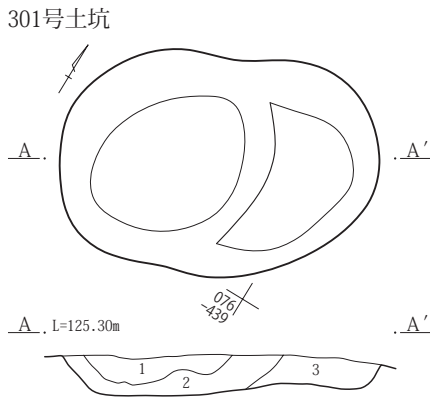
時期：不明。

(124) 317号土坑(第136図、PL. 70)

位置：C区の西寄りの位置。C3調査区の中央から南寄り、西端。316号土坑の南側、318号土坑の北側に隣接する。X=48,076~48,077、Y=-69,447~-69,448。

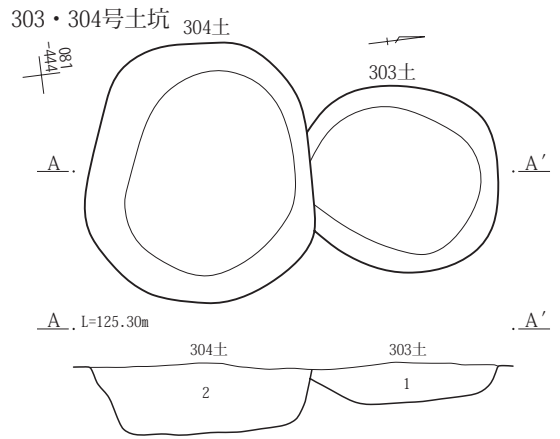
主軸方向：N-20°-W。

規模と形状：南北に長い不整楕円形状を呈する。長径



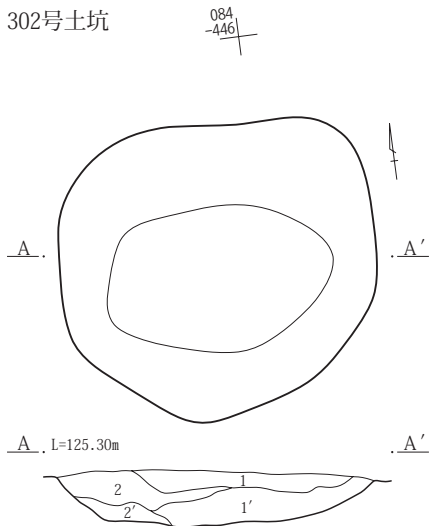
301号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。ややしまり欠く。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。やや粗粒。下部に砂質土をブロック状に多く含む。
- 3 暗褐色砂質土10YR3/3 1層と近似するが壁際は砂質土主体。



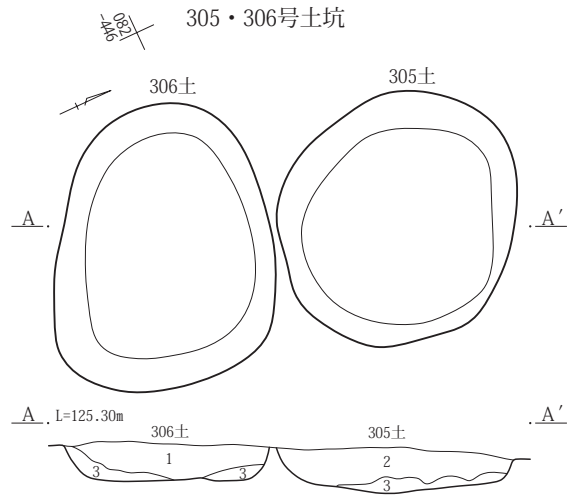
303・304号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量、下部に砂質土を多く含む。ややしまり欠く。
- 2 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量、大粒の砂質土ブロックを多く含む。ややしまり欠く。



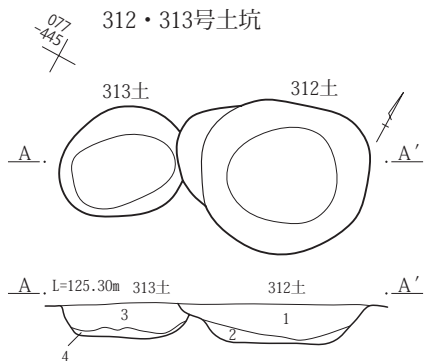
302号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。ややしまり欠く。1'は砂質土の混入が多い。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層と地山砂質土との混土。2'は黄色味の強い土粒を霜降り状に含む。



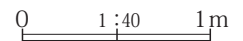
305・306号土坑

- 1・2 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。ややしまり欠く。1層は榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスがやや多い。2層はやや粗粒。
- 3 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。やや大粒の炭化物粒を含む。



312・313号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む、ややしまり欠く。砂粒の混入が多く、暗褐色細～中粒砂質土と地山砂質土との混土の中間的な土質。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土主体。
- 3 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量、粒子細かく粘性弱い暗褐色土を含む。ややしまり欠く。
- 4 灰黄褐色砂質土10YR4/2 3層の土と地山砂質土との混土。



第135図 C区土坑 平面図・土層断面図(14)

1.04m・短径0.9m・深さ0.22m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、中層灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(125) 318号土坑(第136図、PL. 70)

位置：C区の西寄りの位置。C3調査区の中央から南寄り、西端。317号土坑の南側に隣接する。X=48,075、Y=-69,448。

主軸方向：N-8°-W。

規模と形状：南北に長い不整楕円形状を呈する。長径1.86m・短径0.44m・深さ0.18m。

重複：なし。

埋土：上層灰黄褐色土・灰オリーブ色土、下層暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(126) 319号土坑(第136図、PL. 71)

位置：C区の西寄りの位置。C3調査区の中央から南寄り、西端付近。304・306号土坑の南側、314号土坑の北側に隣接する。X=48,080、Y=-69,448。

主軸方向：N-95°-E。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形形状を呈する。長径0.86m・短径0.7m・深さ0.12m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(127) 320号土坑(第136図、PL. 71)

位置：C区の西寄りの位置。C3調査区の中央から南寄り、西端付近。306号土坑の南側、319号土坑の西側に隣接する。X=48,079~48,080、Y=-69,444~69,446。

主軸方向：N-116°-E。

規模と形状：北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。長径1.94m・短径1.1m・深さ0.48m。

重複：なし。

埋土：上層灰黄褐色土・鈍い黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(128) 321号土坑(第137図、PL. 71)

位置：C区の西寄りの位置。C3調査区の中央から南寄り、西端付近。51号住居の西側に隣接する。X=48,069~48,070、Y=-69,447~69,448。

主軸方向：N-20°-E。

規模と形状：東西に若干長い楕円形状を呈する。長径1.04m・短径1.02m・深さ0.32m。

重複：なし。

埋土：上・中層暗褐色土、下層灰黄褐色土、最下層暗灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(129) 322号土坑(第137・138図、PL. 71)

位置：C区の西寄りの位置。C3調査区の中央から南寄り、西端付近。51号住居の西側に隣接する。X=48,072~48,073、Y=-69,446~69,447。

主軸方向：N-110°-E。

規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長径1.36m・短径1.2m・深さ0.46m。

重複：なし。

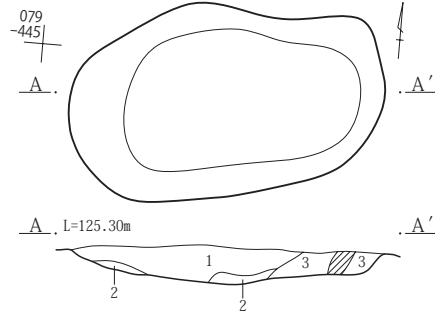
埋土：上層・灰黄褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：須恵器碗1点(埋土)。

時期：不明。

第4節 C区で検出された遺構と遺物

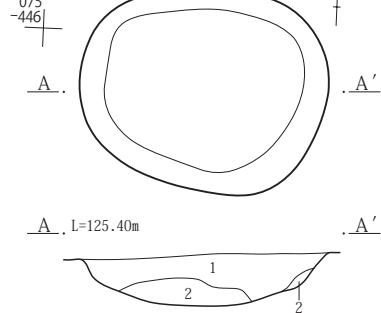
314号土坑



314号土坑

- 1 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロックを少量含む。混入物少ない。ややしまり欠く。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土主体。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 地山との区別難しい。混入物若干あり。シミのような色調変化が確認できる。

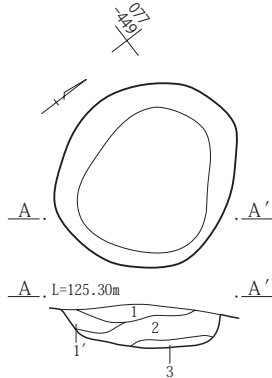
315号土坑



315号土坑

- 1 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロックを少量含む。ややしまり欠く。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。

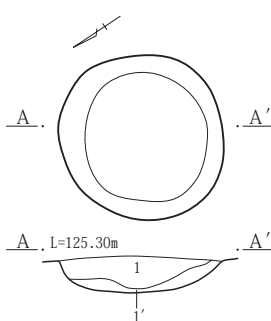
317号土坑



317号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒らしいパミスを少量含む。ややしまり欠く。1'は黒味を帯びた粘性の弱い土が多くなる。しまり欠く。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 地山砂質土主体。黒味強い。

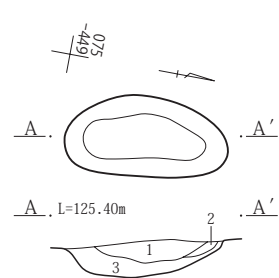
316号土坑



316号土坑

- 1 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロックを少量含む。上部は砂質土主体で下部は黒味を帯びた土が多くなる。しまりややあり。1'は砂質土と黒味を帯びた土がブロック状に混じる。

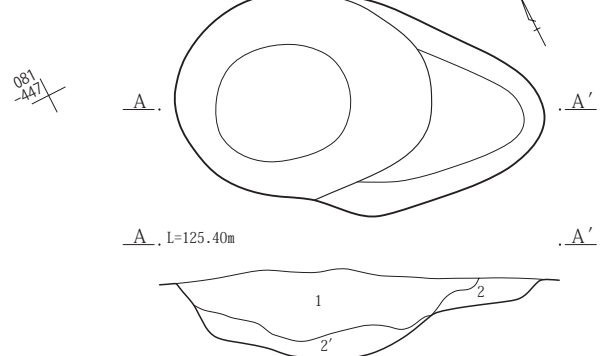
318号土坑



318号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 暗褐色細～中粒砂質土と地山砂質土との混土。しまり欠く。
- 2 灰オリーブ色砂質土5Y5/2 細粒砂のほぼ純層でしまり強い。地山砂質土に近似。
- 3 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒らしいパミスを少量含む。ややしまり欠く。

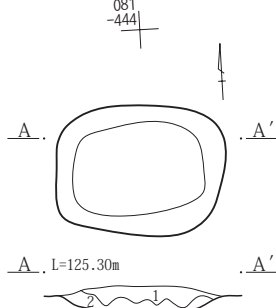
320号土坑



320号土坑

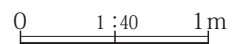
- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 暗褐色中～粗粒砂質土と地山砂質土との混土。地山灰黄色砂質土と黒味を帯びた砂質土とが不均等に混じる。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土主体。2'は地山砂質土より暗い色調を呈するが、土質は地山と同じ。

319号土坑



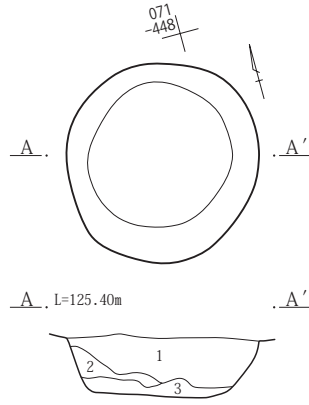
319号土坑

- 1 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロックを少量、やや大粒の炭化物粒を含む。ややしまり欠く。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 暗褐色細～中粒砂質土と地山砂質土との混土。

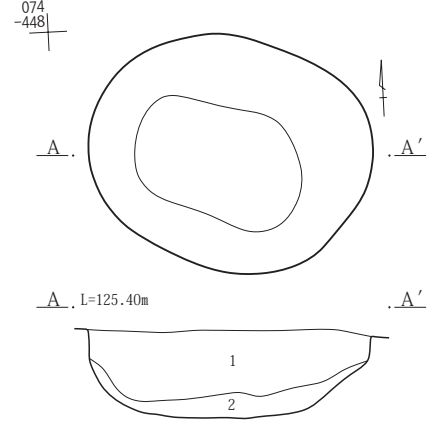


第136図 C区土坑 平面図・土層断面図(15)

321号土坑



322号土坑



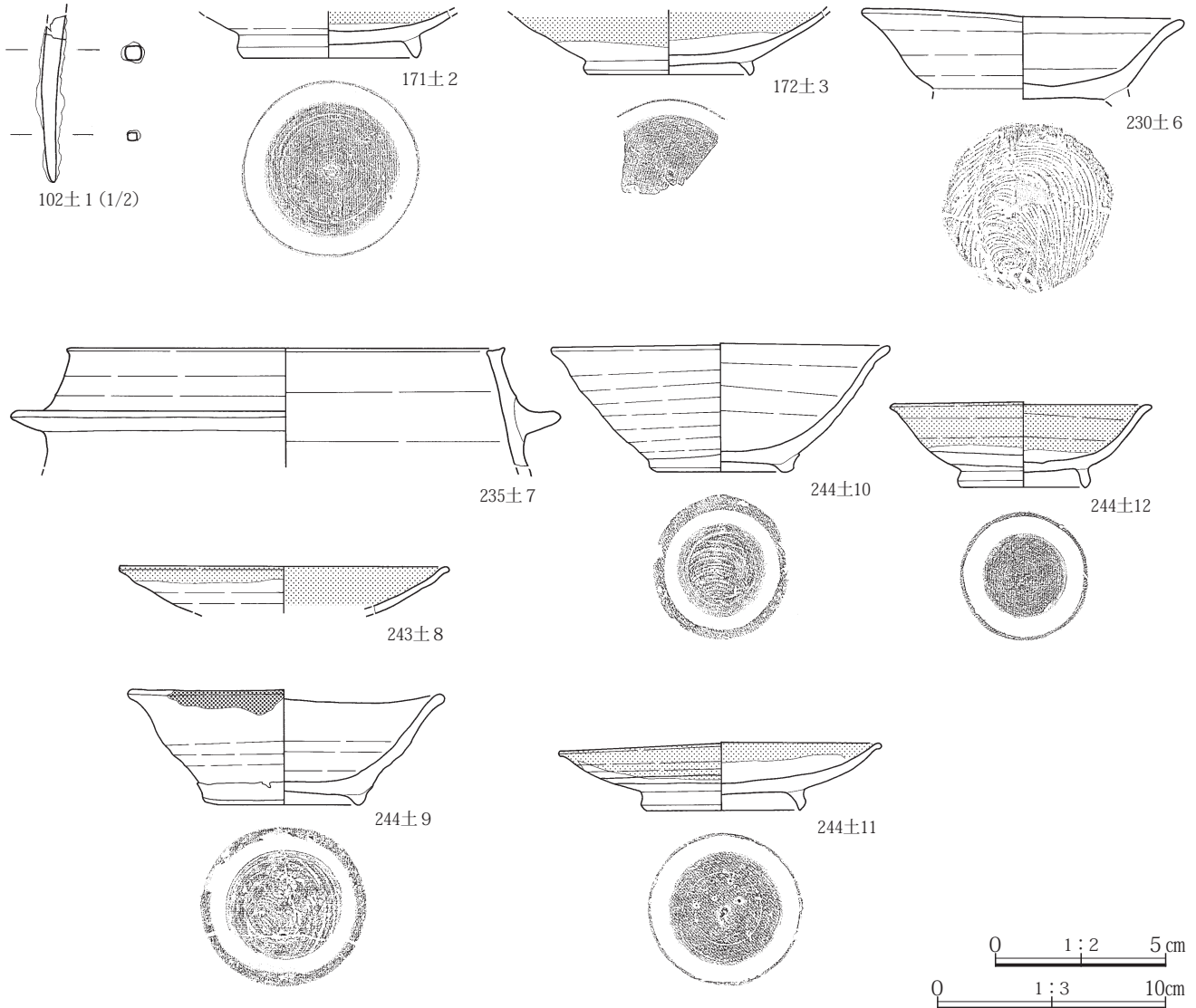
321号土坑

- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒らしいパミスを少量含む。ややしまり欠く。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。
- 3 暗黄褐色砂質土10YR4/3 地山の黄色味強い砂質土主体。

322号土坑

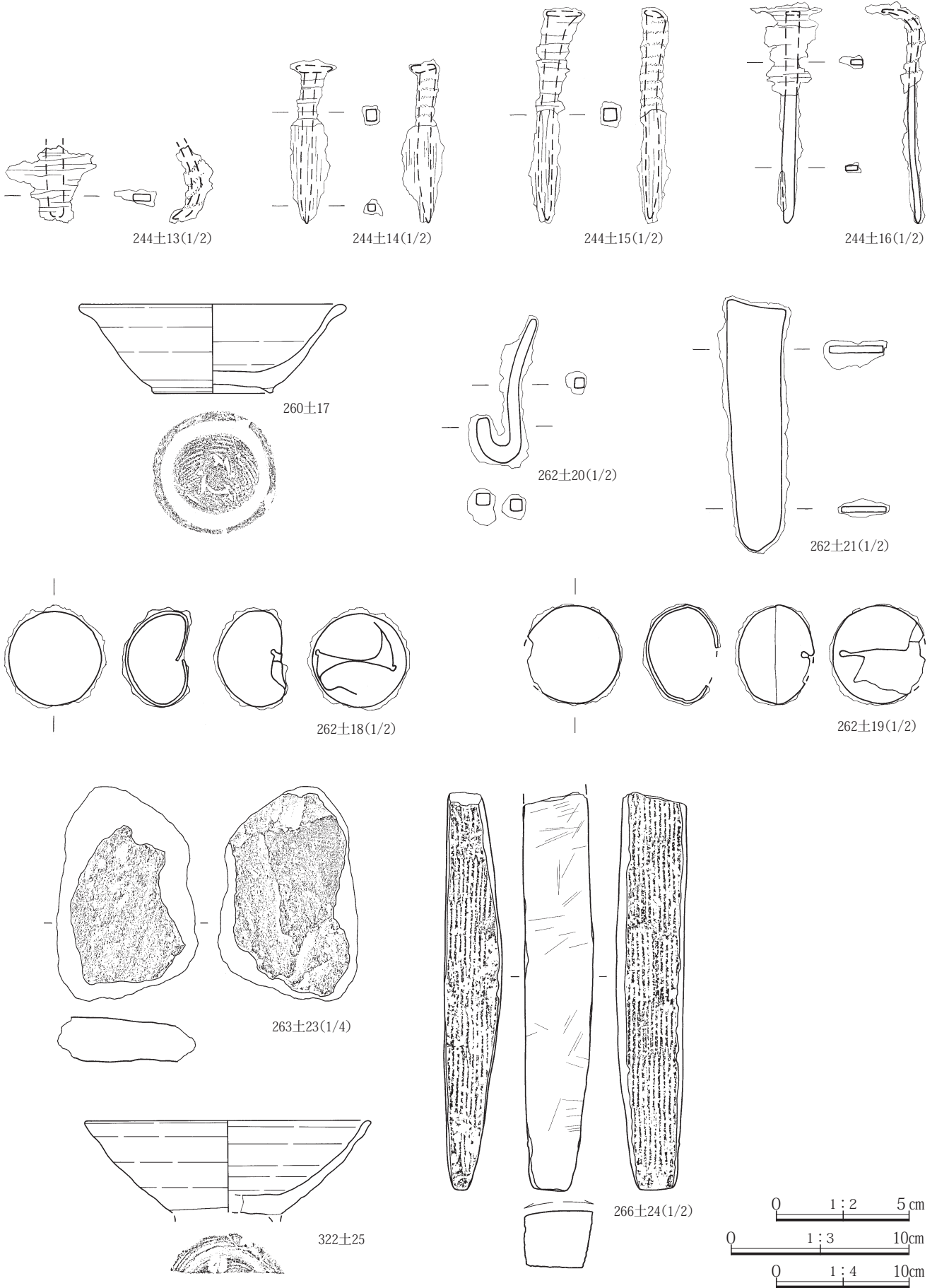
- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 暗褐色中～粗粒砂質土と地山砂質土との混土。地山の灰黄色砂質土と黒味を帯びた砂質土とが不均等に混入。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土主体。地山砂質土より暗い色調を呈するものの、土質は地山に同じ。

0 1:40 1m



第137図 C区土坑 平面図・土層断面図(16)、C区土坑出土遺物(1)

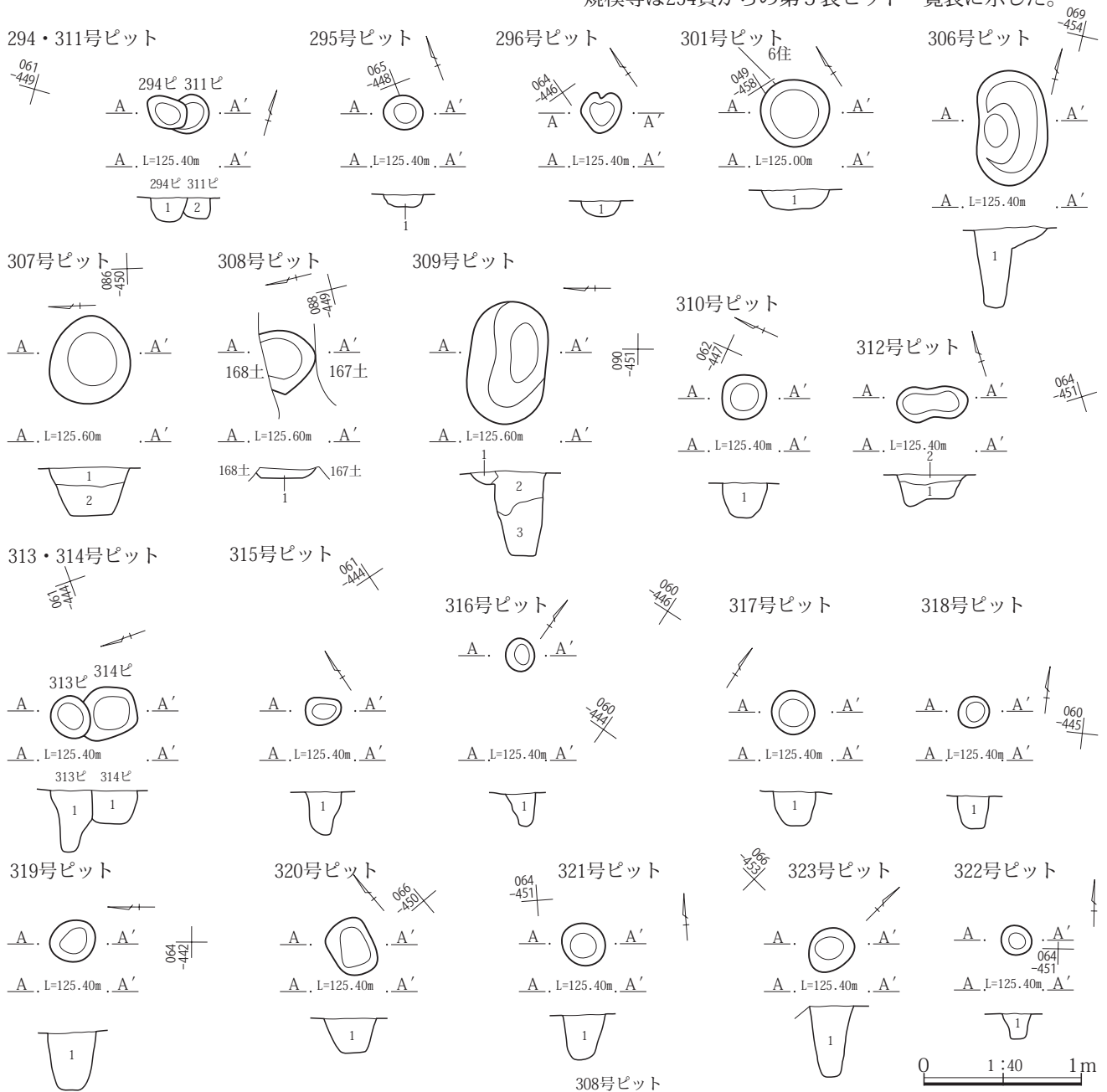
第4節 C区で検出された遺構と遺物



第138図 C区土坑出土遺物(2)

5. ピット

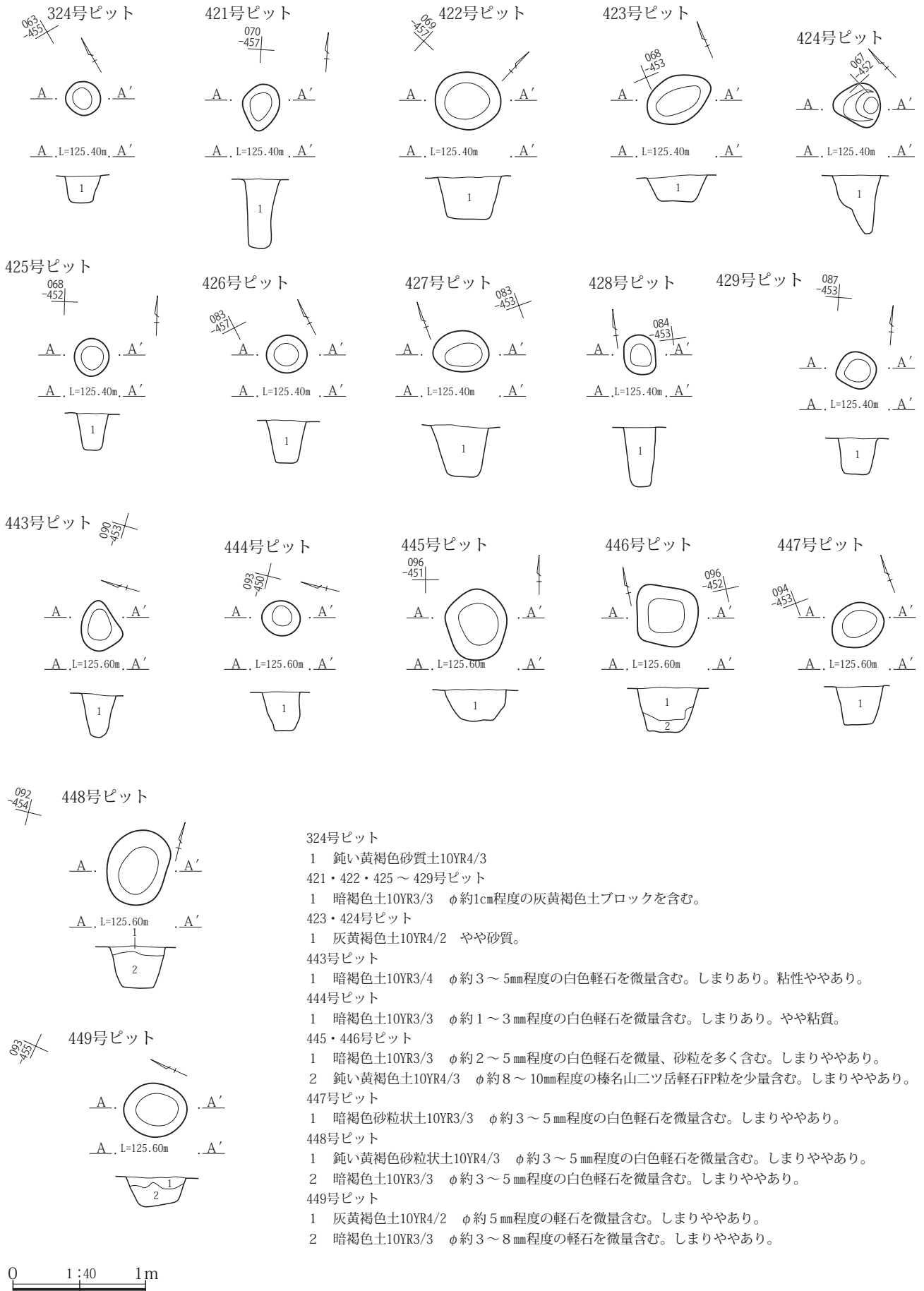
C区では、ピットは全域から78基が検出されているが、主に中央部であるC2・C3区から集中して検出された。規模等は254頁からの第5表ピット一覧表に示した。



- 294・311号ピット
 - 1 灰黄褐色土10YR4/2 鈍い黄褐色砂質土を含む。しまりやや強い。
 - 2 暗褐色土10YR3/3 褐灰色砂粒を約20%程度、φ約5mm～1cm程度の白色ブロックを約3%程度含む。しまりやや強い。
- 295号ピット
 - 1 灰黄褐色土10YR4/2 鈍い黄褐色砂質土を含む。しまりやや強い。
- 296号ピット
 - 1 暗褐色土10YR3/3 黄褐色粒及び炭化物を約2%程度含む。しまり強い。
- 301号ピット
 - 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 φ約1～5mm程度の白色粒を僅かに、褐灰色砂粒を含む。しまり強い。
- 306号ピット
 - 1 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3
- 307号ピット
 - 1 暗褐色砂粒状土10YR3/4 白色粒を微量含む。
 - 2 暗褐色砂粒状土10YR3/4 浅黄橙土ブロックを少量含む。しまりあり。
- 308号ピット
 - 1 鈍い黄褐色砂粒状土10YR4/3 ややしまりあり。
- 309号ピット
 - 1 鈍い黄褐色砂粒状土10YR5/4
 - 2 鈍い黄褐色土10YR5/4 白色軽石を微量含む。しまりあり。
 - 3 暗褐色土10YR3/3 φ約5mm程度の白色軽石を微量含む。1層より脆い。
- 310・312号ピット
 - 1 暗褐色土10YR3/3 灰黄褐色砂粒を20%、φ約1～2mm程度の明黄褐色粒を僅かに含む。しまり強い。
 - 2 暗褐色土10YR3/3 φ約1～2mm程度の白色粒及び炭化物を僅かに含む。しまり強い。
- 313～318号ピット
 - 1 暗褐色土10YR3/3 やや粘質。
- 319号ピット
 - 1 灰黄褐色土10YR4/2 暗褐色土を約20%程度、φ約5～10mm程度の鈍い黄褐色ブロックを約10%程度含む。しまりやや強い。
- 320～323号ピット
 - 1 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3

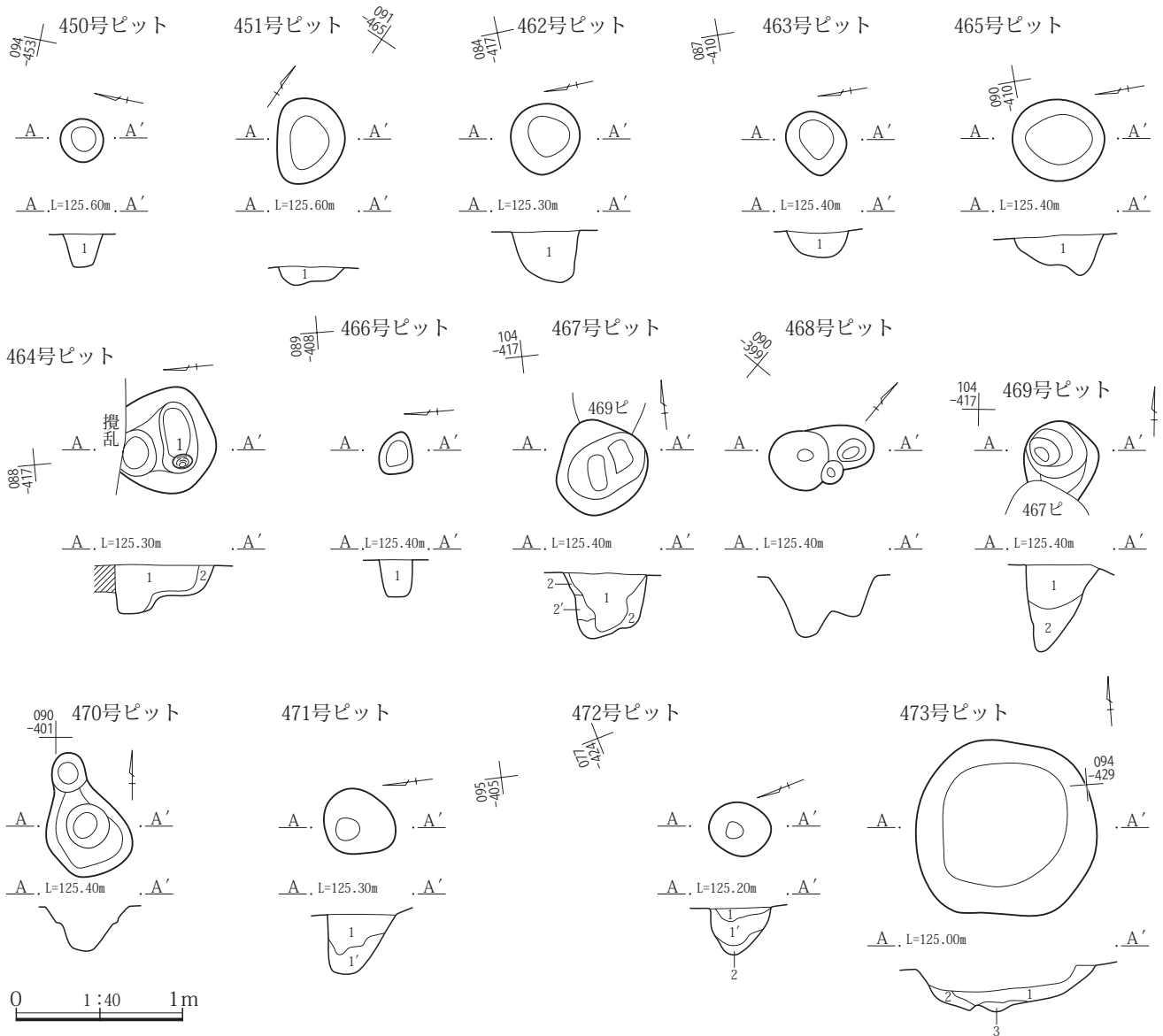
第139図 C区ピット 平面図・土層断面図(1)

第4節 C区で検出された遺構と遺物



第140図 C区ピット 平面図・土層断面図(2)

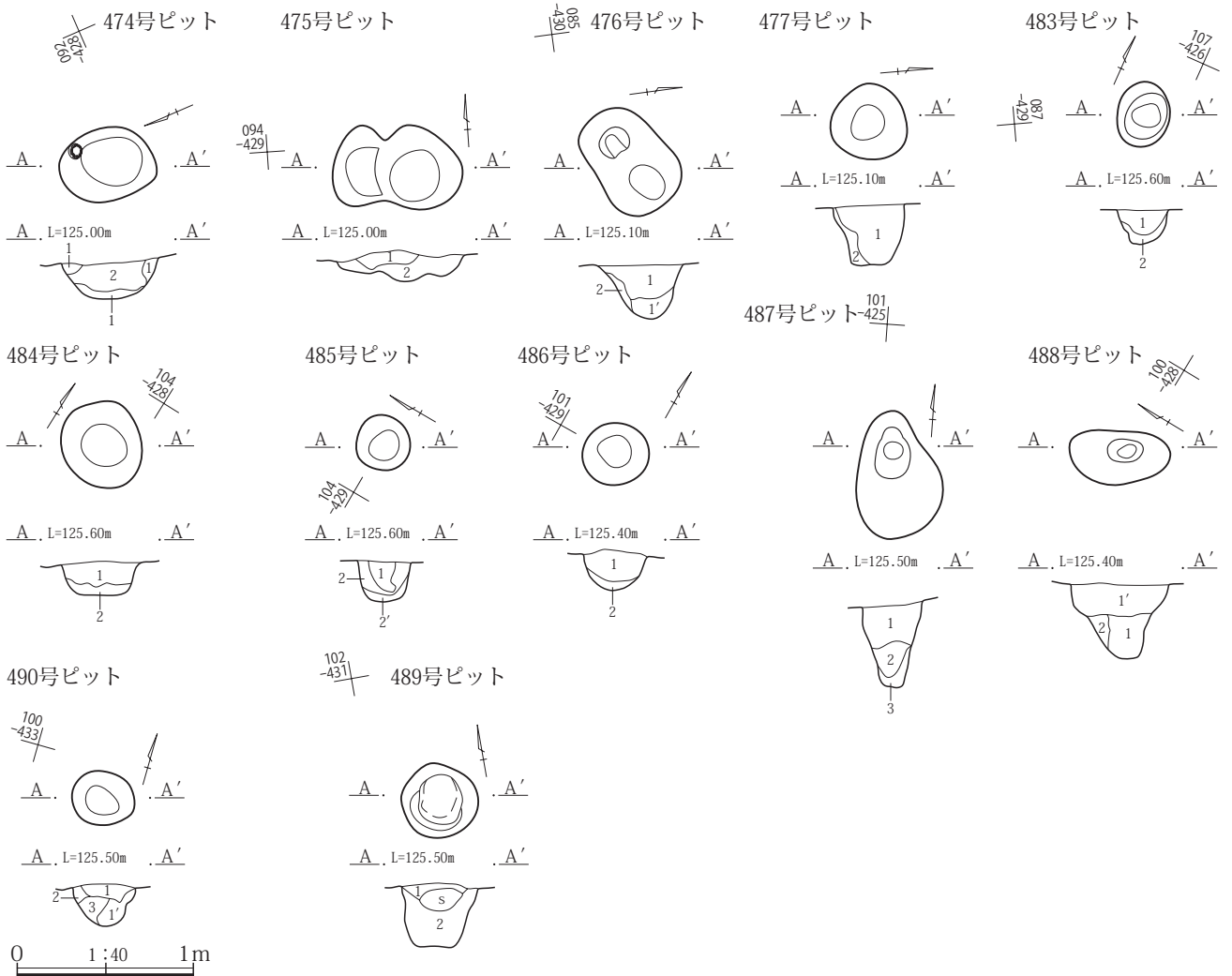
第3章 調査の成果



- 450号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 φ約2～5mm程度の軽石を微量含む。しまりあり。やや粘質。
- 451号ピット
 1 暗褐色土10YR3/3 φ約3～8mmの白色軽石を少量含む。しまりあり。やや粘質。
- 462号ピット
 1 暗褐色砂質土10YR3/3 鈍い黄褐色砂粒を約5%程度含む。しまり強い。
- 463号ピット
 1 暗褐色砂粒状土10YR3/4 脆い。
- 464号ピット
 1 暗褐色砂質土10YR3/4
 2 褐色砂質土10YR4/4
- 465号ピット
 1 暗褐色砂粒状土10YR3/4 やや脆い。
- 466号ピット
 1 暗褐色土10YR3/3 小粒の白色軽石を微量含む。しまりあり。やや粘質。
- 467号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 パミスが大粒で上部ほど量が多くなる。しまりは周辺と変わらない。

- 2 灰黄褐色土10YR4/2 粘性弱い。2'は黄褐色粘性土ブロック多い。しまりは周辺と変わらない。
- 469号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 灰黄色粘性土及び榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを不均等に含む。粘性弱くしまりややあり。
 2 黒褐色土10YR3/2 パミスは大粒で量も多い。
- 471号ピット
 1 暗褐色極細粒砂質土10YR3/3 混入物少ない。黒味強い。ややしまり欠く。1'は地山灰黄色砂質土を多量に含む。
- 472号ピット
 1 暗褐色土10YR3/3 やや砂質。この部分のみネットリした黒い層。1'は地山砂質土との混土。
 2 灰黄褐色土10YR4/2 砂質土中に黒色土が不均等に混じる。ややしまり欠く。
- 473号ピット
 1 オリーブ褐色土2.5Y4/3 黄褐色粘性土ブロック主体。2層の土や浅間山火山灰As-C混入黒色土ブロックを含む。しまり強い。
 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山黄褐色土を主体とする。1層の土が混じる。ややサラサラしている。
 3 1層の土と浅間山火山灰As-C混入黒色土との混土。

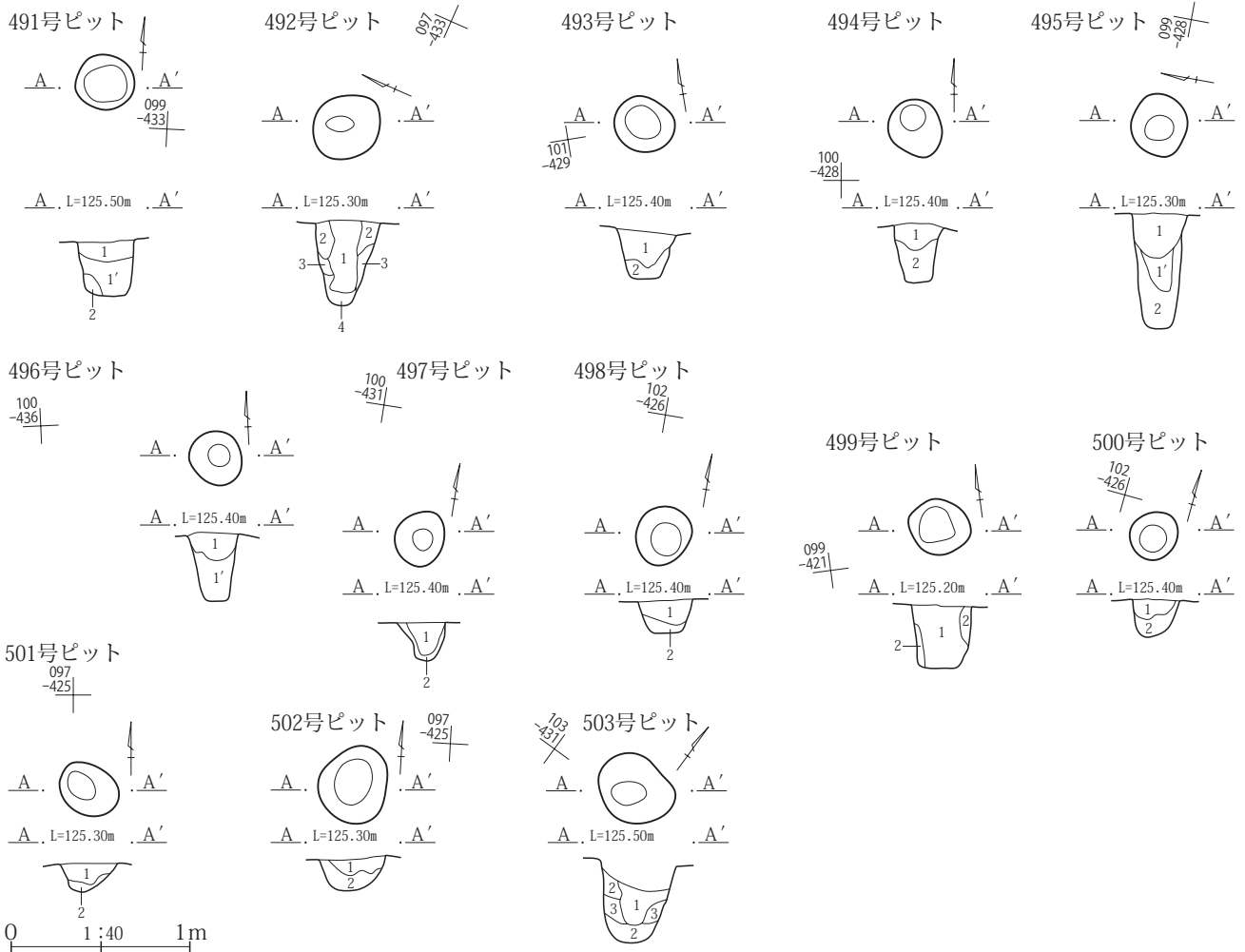
第141図 C区ピット 平面図・土層断面図(3)



- 474号ピット
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 地山砂質土及び炭化物粒を含む。不均質。
 - 2 暗褐色砂質土10YR3/3 炭化物をやや多く含む。ややしまり欠く。
- 475号ピット
- 1 鈍い黄褐色土10YR4/3 砂質土中に多量の黄褐色粘性土ブロックを含む。焼土粒散見。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 不鮮明な焼土ブロックを多量に、砂質土及び炭化物粒を含む。
- 476号ピット
- 1 暗褐色砂質土10YR3/3 大粒の灰黄褐色砂質土のブロックを不均等に含む。粘性ややあり。しまり強い。1'は大粒の灰黄褐色砂質土の量が多い。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 混入物少ない。粘性弱い。
- 477号ピット
- 1 黒褐色土10YR3/2 上部に灰黄色砂質土ブロックを含むが、全体的に混入物は少ない。粘性強い。
 - 2 暗褐色土10YR3/3 1層の土と灰黄色土ブロックとの混土。
- 483号ピット
- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロック及び榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含み、ややしまり欠く。大ブロック状の砂質土が多い。
 - 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。
- 484号ピット
- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロック、榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含み、ややしまり欠く。炭化物粒少量含む。
 - 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土の混土。
- 485号ピット
- 1 黒褐色土10YR3/2 黒味が強い。混入物少ない。ややしまり欠く。
- 486号ピット
- 1 暗褐色中～粗粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロックを少量含む。ややしまり欠く。上部に斑鉄と硬化面が見られる。
 - 2 灰黄褐色土10YR4/2 1層の土と地山砂質土の混土。地山砂質土を多く含む。
- 487号ピット
- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロック及び榛名山ニツ岳軽石FPらしいパミスを少量含む。ややしまり欠く。
 - 2 黒褐色土10YR3/2 黒味強く粒子が細かい。混入物少ない。ややしまり欠く。
 - 3 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土主体。
- 488号ピット
- 1 黒褐色土10YR3/2 黒味強く粒子細かい。混入物少ない。しまり欠く。1'は黄褐色土の混入が多く、炭化物をやや多く含む。
 - 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土主体。
- 489号ピット
- 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロック及び榛名山ニツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含み、ややしまり欠く。
 - 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土の混土。しまり強い。
- 490号ピット
- 1 黒褐色土10YR3/2 黒味強く粒子が細かい。混入物少ない。ややしまり欠く。1'は柱痕らしいしまりを欠く部分。
 - 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土主体。混入物はほとんどない。
 - 3 灰黄褐色砂質土10YR4/2 暗褐色細～中粒砂質土と地山砂質土との混土。

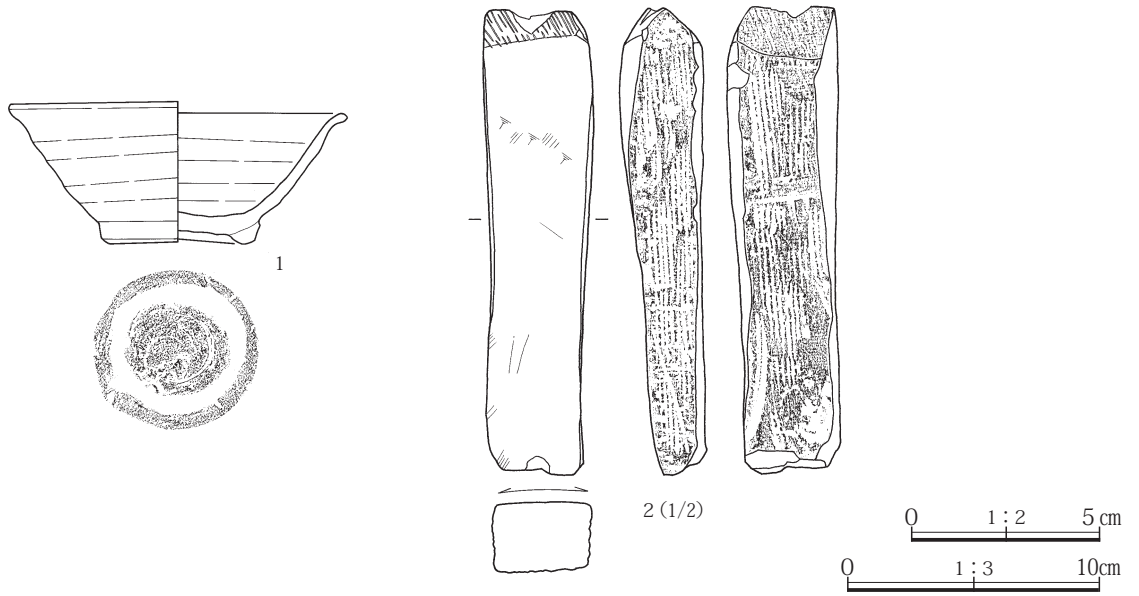
第142図 C区ピット 平面図・土層断面図(4)

第3章 調査の成果



- 491号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 黒味強く粒子が細かい。炭化物粒をやや多く含むが混入物は少ない。しまり弱い。1'は地山砂質土を含む。
 2 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 地山と区別難しい。混入物若干あり。シミのような色調変化が確認できる。
- 492号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 黒味強く粒子が細かい。混入物は少ない。ややしまり欠く。
 2 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土の小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。ややしまり欠く。
 3 灰黄褐色砂質土10YR4/2 2層の土と地山砂質土の混土。
 4 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 地山と区別難しい。混入物若干あり。シミのような色調変化が確認できる。
- 493号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 黒味強く粒子が細かい。炭化物粒を少量含むが混入物は少ない。ややしまり欠く。
 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 暗褐色細～中粒砂質土と地山砂質土との混土。しまりやや強い。
- 494号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 黒味強く粒子が細かい。炭化物粒の混入は多いが、全体に混入物は少ない。ややしまり欠く。
 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 砂質土主体。暗褐色細～中粒砂質土と地山砂質土との混土。
- 495号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 黒味強く粒子が細かい。黄褐色土の混入は多く、炭化物粒が少量混じるが、全体的に混入物は少ない。1'はややしまり欠く。
 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 地山砂質土主体。
- 496号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 黒味強く、粒子が細かい。炭化物粒を少量含むが、全体的に混入物少ない。ややしまり欠く。1'は砂質土の混入が多く、
- 497号ピット
 しまり欠く。
- 498号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 黒味強く粒子が細かい。上部に砂質土をやや多く含むものの、全体的に混入物は少ない。ややしまり欠く。
 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 暗褐色細～中粒砂質土と地山砂質土との混土。
- 499号ピット
 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Fr-FPらしいパミスを少量含むものの全体的には混入物は少ない。しまりやや強い。
 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。
- 500・501号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 黒味強く、粒子が細かい。混入物少ない。ややしまり欠く。
 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 暗褐色細～中粒砂質土と地山砂質土との混土。
- 502号ピット
 1 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。しまりややあり。粘性弱い。
 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 1層の土と地山砂質土との混土。
- 503号ピット
 1 黒褐色土10YR3/2 黒味強く粒子が細かい。混入物少ない。しまり欠く。
 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 暗褐色細～中粒砂質土と地山砂質土との混土。
 3 暗褐色細～中粒砂質土10YR3/3 黄褐色土小ブロック及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FPらしいパミスを少量含む。ややしまり欠く。

第143図 C区ピット 平面図・土層断面図(5)

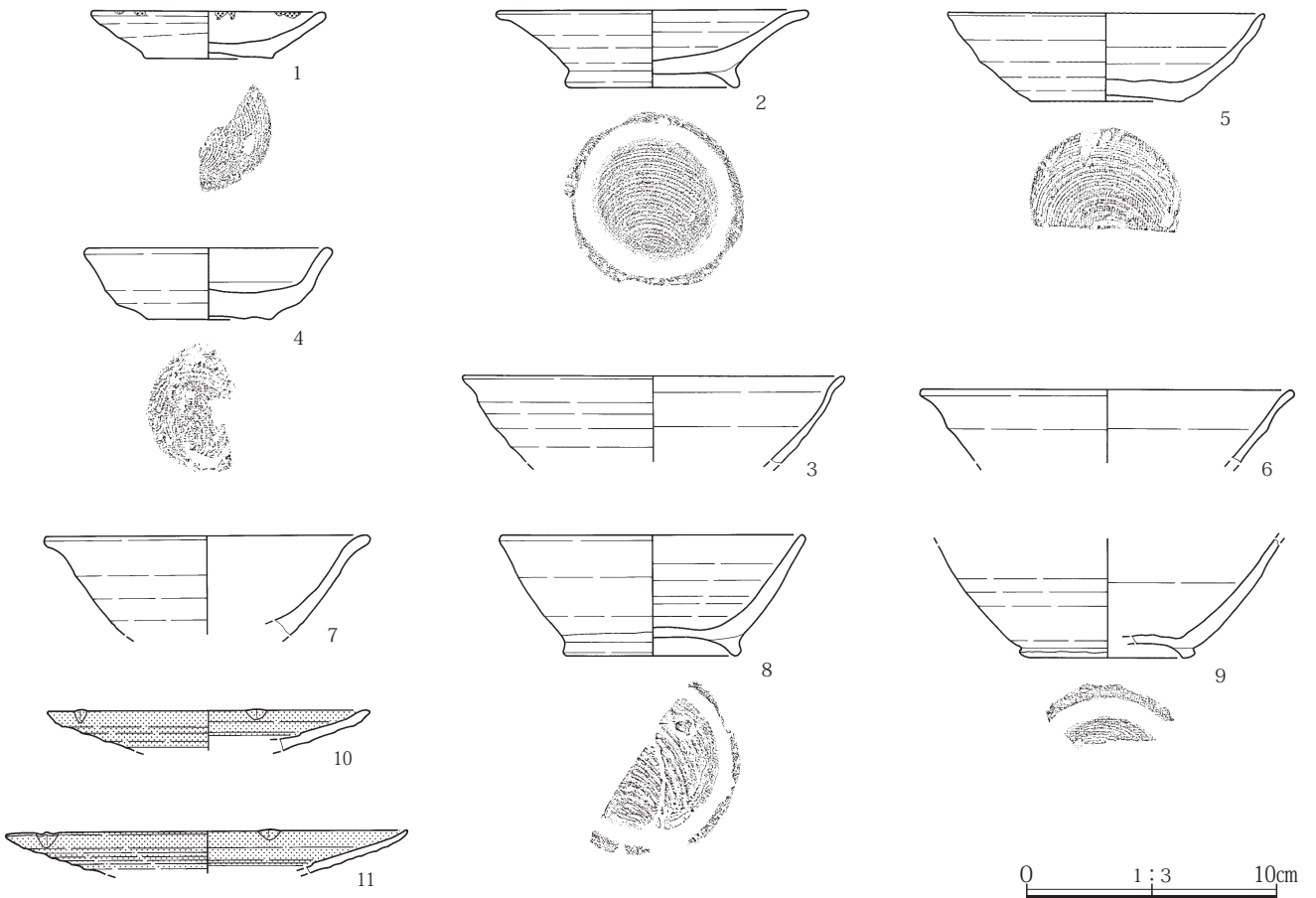


第144図 C区ピット 出土遺物

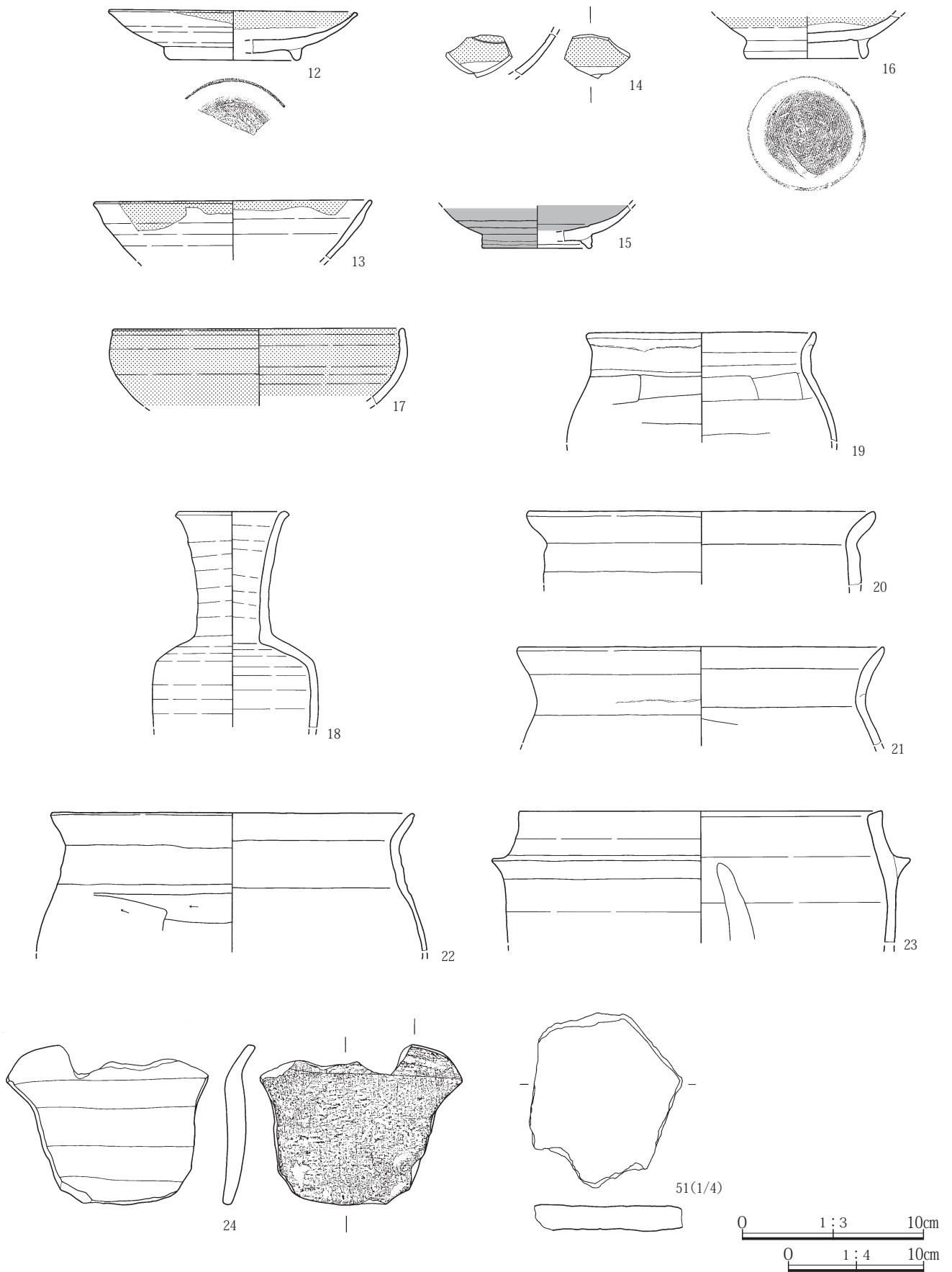
6. 遺構外出土遺物

表土中から出土した遺物54点を図化掲載した。古代の土器が24点、中近世陶磁器類が24点、石製品が4点、鉄

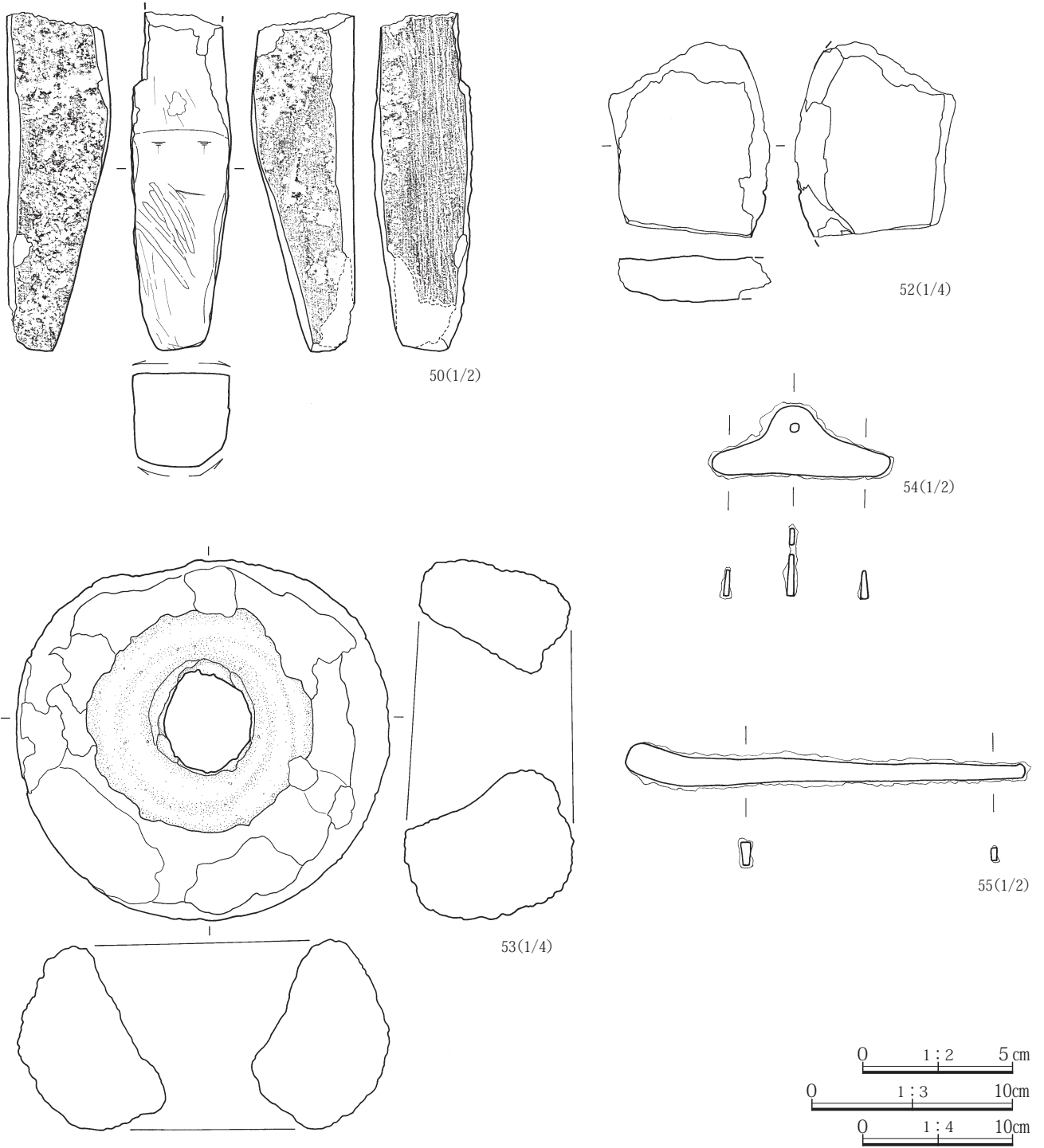
製品が2点である。中近世陶磁器類は、第198～200図に別掲した。石製品では板碑片2点、鉄製品では火打金



第145図 C区遺構外出土遺物(1)



第146図 C区遺構外出土遺物(2)



第147図 C区遺構外出土遺物(3)

第5節 D区で検出された遺構と遺物

D区は、全調査区内の西南端の一角を占め、最大面積の調査区であるC区とは南北方向に走行する生活道路を挟んだ西側に当たる。道路本体に係る部分と北西側に突出した北西側からの進入路に係る部分から校正される。

C区西端で検出された南北方向の旧河道はD区側には及んでいなかった。C区で検出された平安時代前～中期の集落はこの河川を挟んだ西側対岸に当たるD区側にも展開しているが、東側C区中央部における住居の密集が圧倒的に顕著であり、D区側ではまばらな印象を受ける。このことから集落の中心はC区側であり、D区側は集落の西の縁辺部あったと考えられる。なお、D区では、C区に比べて住居はかなり散在しているが、住居はD区の西端近くにも造られており、集落の範囲は西側にさらに広がる可能性も存在している。集落の東側の範囲は、先述したとおり、B区の西北隅付近で1棟だけ竪穴住居が検出されているので、その付近が東限であると見て良いだろう。

D区は面積的にはC区に次いで広い調査区ではあるが、A～C区のように、調査区は細分されていない。

D区からは6棟の竪穴住居、2棟の掘立柱建物、7条の溝、1箇所の鍛冶遺構、2箇所の畠、1箇所の窪地、40基の土坑、105基のピットなどの遺構が検出された。

竪穴住居と掘立柱建物及び溝・鍛冶遺構・土坑・畠・窪地の大部分は平安時代前～中期・9～10世紀のものであり、ピットはほとんどのものが年代不詳であった。

1. 住居

先述したようにD区からは6棟の竪穴住居が検出された。本遺跡では合計59棟の竪穴住居が検出されている。約9割の52棟の竪穴住居はC区で検出されたことになる。C区で検出された住居は、C区の中央部であるC3区に特に集中し、激しく重複しており、その辺りが集落の中心と考えられる。先述したようにD区で検出された住居は、集落の西端部の一面を構成するものと見られる。

D区における竪穴住居の分布は東西両端付近に及んでいるが、住居相互の重複はなく、散在している。また、北西側からの進入路部分における検出はない。本調査区

で検出された竪穴住居でも、竈が検出された事例ではいずれも東壁側に竈が造られており、本遺跡で検出された竪穴住居における全般的な傾向と言える。

(1) 13号住居(第148図、PL. 74・109)

位置：D区の東端、中央よりやや北寄りの位置。東壁にかかる。X=48,101～48,105、Y=-69,396～-69,400。

主軸方向：N-23°-E。

検出面積：5.96㎡。

規模と形状：東側約半分以上が調査区外に出るため、全容は明確ではないが、検出状況から方形ないし長方形を呈するものと思われる。東西径3.61m・南北径2.43m・確認面からの深さ0.52m。しっかりとした掘方を有する。

重複：なし。

埋土：上層に暗褐色土、下層に褐色土が堆積し、壁際に黒褐色土が斜めに流入している。

竈・柱穴：検出されなかった。

周溝：南・西・北の各壁際で、周回せず断続的に検出された。溝幅約0.09～0.18m、深さは約0.01～0.05m。

貯蔵穴：検出されなかった。

床面：地山を平坦に削りだして床面を形成している。顕著な硬化面は検出されなかった。

掘方：床面と掘方が一致している。

遺物：須恵器杯1点・同椀1点(埋土)。

時期：平安時代前期、9世紀第3四半期。

(2) 14号住居(第149～151図、PL. 74～77・109)

位置：D区のほぼ中央、南端際。147・148・187号土坑、359・372～375・460・461号ピットの南側に隣接する。

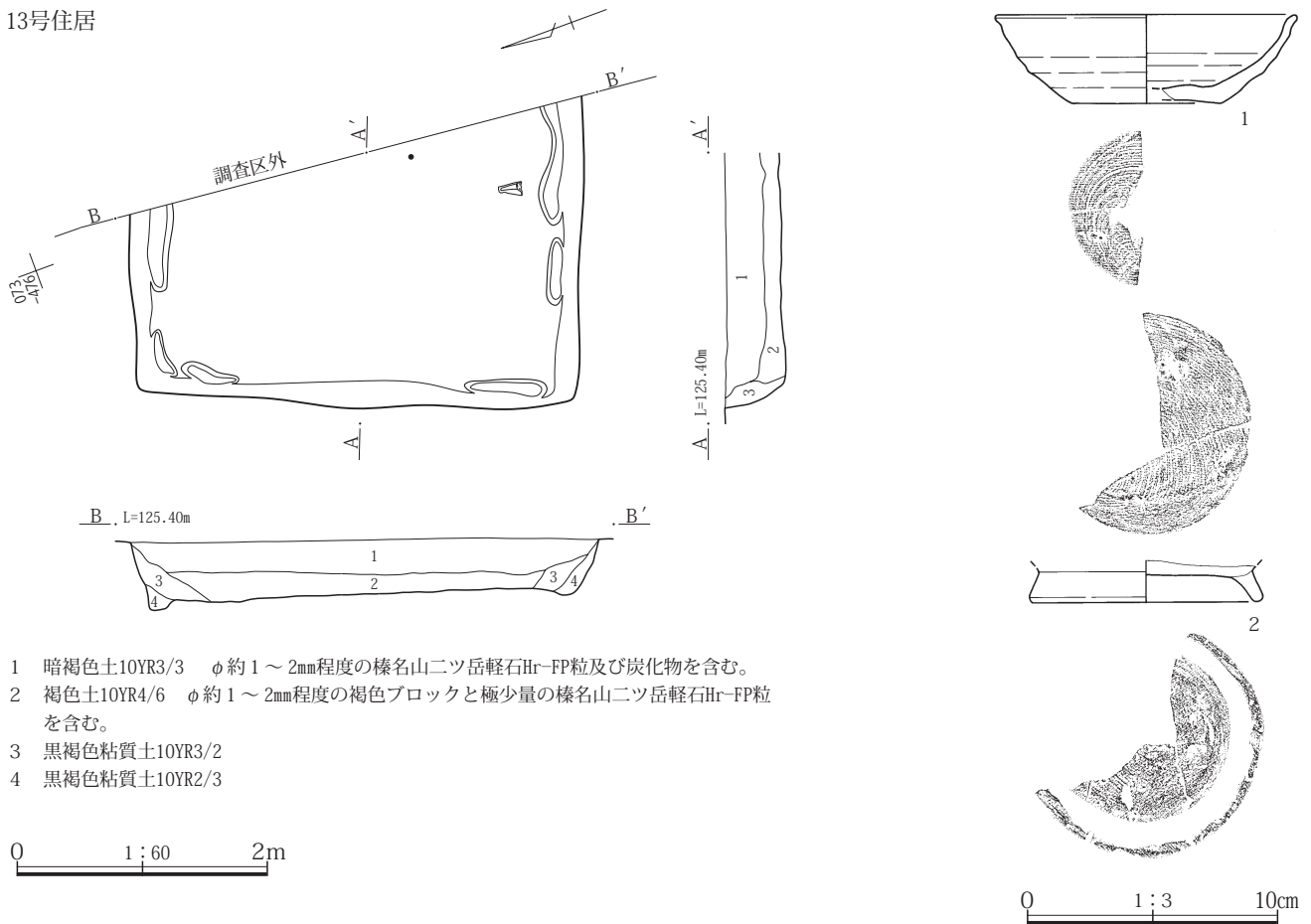
X=48,048～48,053、Y=-69,492～-69,498。

主軸方向：N-67°-W。**竈主軸方位：**N-59°-W。

検出面積：12.24㎡。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い隅丸長方形を呈し、南西側に東西に長い長方形の張り出し部が付く。西壁際周溝南先端が張り出し部に向かって南西側に屈曲していること、また張り出し部からも、本体と同様、床面直上から焼失した部材と見られる炭化材塊や炭化物の集中的堆積箇所が検出されたところから、張り出し部は住居と一体のものと考えられる。ただし、この張り出し

13号住居



- 1 暗褐色土10YR3/3 φ約1～2mm程度の榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物を含む。
- 2 褐色土10YR4/6 φ約1～2mm程度の褐色ブロックと極少量の榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を含む。
- 3 黒褐色粘質土10YR3/2
- 4 黒褐色粘質土10YR2/3

第148図 D区13号住居 平面図・土層断面図・出土遺物

部の用途・機能は不明である。長辺5.33m・短辺3.96m・確認面からの深さ0.61m。しっかりとした掘方を有する。南西側張り出し部は、東西径約1.8m・東西径1.58m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土をベースとし、床面付近及び壁際にごくわずかに黒褐色土が堆積している。

竈：東壁の南寄りの位置に取り付く。残存状態は不良であった。両袖は川原石を芯材とし、粘質土を貼り付けて形成されるが、住居内にはさほど張り出していない。竈左袖の芯材はすでに失われており、痕跡のみが窪地として検出された。燃烧部は住居の壁の外側に形成されており、竈奥壁の芯材に使用された川原石は原位置を保ったまま検出された。煙道は地山を削り出して住居の外側に延びている。燃烧部から煙道まで約0.02～0.03mの厚さで、薄く粘灰黄褐色土を貼り付けて火床面を形成している。竈前面の床面には、住居の中央部まで及ぶ広範囲に焼土及び炭化材の顕著な堆積が認められた。

貯蔵穴：竈の右脇、住居の南東隅壁際から検出された。不整形形状を呈し、径0.38m・床面からの深さは0.35m、暗褐色土が堆積している。

柱穴：検出されなかった。

土坑・ピット：住居本体の西端でピット1基(P1)、張り出し部で土坑1基(1号土坑)とピット1基(P2)が検出された。住居本体の西端、南寄りの位置で検出されたP1は、北西-南東方向に長い楕円形状を呈し、長径0.35m・短径0.26m・床面からの深さ0.16m、灰黄褐色土が堆積している。張り出し部の南壁際から検出された1号土坑は、東西に僅かに長い不整形楕円形状を呈しており、長径0.6m・短径0.51m・床面からの深さ0.13m、暗褐色土が堆積していた。同じく張り出し部内、1号土坑の東側に近接する2ピットは東西に長い不整形楕円形状を呈しており、長径0.39m・短径0.31m・床面からの深さ0.15m、灰黄褐色土が堆積していた。

周溝：張り出し部を含め、南・西・北の各壁際で検出さ

れた。竈が取り付く東壁際では、北東コーナー部分まで周溝が巡るものの、それ以外の箇所では検出されなかった。13号住居の周溝に比べると連続性は顕著であるが、完全に周回はせず、断続的な検出であった。とくに南西張り出し部分では、部分的にしか検出されなかった。溝幅約0.12～0.2m、深さは約0.05～0.15m。

床面：地山を平坦に削り出して床面を形成している。顕著な硬化面は検出されなかった。張り出し部を含む床面直上からは焼けた住居の梁材と見られる多量の炭化物が散乱し、炭化物の集中的堆積箇所が満遍なく検出された。

掘方：床面と掘方が一致している。

遺物：須恵器杯2点(ともにほぼ完存、床直1、壁際1)、同高台付杯1点(床直・貯蔵穴)、同椀点1点(埋土)、同皿2点(うち1点は完存、竈1、床直・貯蔵穴1)、灰釉陶器椀1点(床直)、土師器杯2点(ともにほぼ完存、壁際)、同甕片3点(床直1、竈2)、砥石1点(埋土)、不明鉄製品3点(埋土2、床直1)、鉄製刀子1点(床直)。

時期：平安時代前期、9世紀第3四半期後半。

(3) 15号住居(第152・153図、PL.77・78・109)

位置：D区の中央、南寄りの位置。146号土坑・440号ピットの西側、382・383号ピットの南側、384～386号ピットの東側に隣接する。X=48,056～48,059、Y=-69,497～-69,501。

主軸方位：N-63°-W。**竈主軸方位：**N-67°-W。

面積：7.04㎡。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い隅丸長方形を呈する。長辺3.49m・短辺3.38m・確認面からの床面までの深さ0.31～0.34m、掘方までの深さ0.36m。しっかりとした掘方を有する。竈を挟んだ両側約1.9～2.2mの範囲が西側に約0.38～0.54mほど柵状に張り出しているが、この部分は浅く、住居の造り替えがなされた痕跡ではなく、住居に付属するテラス・柵状の施設であると考えられる。

重複：北東隅が156号土坑を、北辺が381号ピットをそれぞれ掘り込む。

埋土：上層に暗褐色土及び灰黄褐色土、中・下層に暗褐色土が堆積する。

竈：東壁の南寄りの位置に取り付く。ほぼ掘方の状態で検出された。両袖ともに地山を削り出して形成されてい

る。芯材・支脚等は全く検出されなかった。煙道は地山を削り出し、住居外側に延びている。燃焼部は住居の壁の位置に形成されている。

貯蔵穴：大きな川原石で蓋をされたような形で住居の南東隅で検出された。東西に長い楕円形状を呈しており、長径0.54m・短径0.4m・深さ0.08m。

柱穴：検出されなかった。

周溝：北壁の西寄り、西壁の北及び南寄りの位置でのみ部分的に検出された。溝幅は約0.09～0.24m・深さは約0.01～0.03m。

床面：地山を平坦に削り出し、暗褐色土を約0.02～0.05mほど貼り付けて床面を形成している。顕著な硬化面は検出されなかった。竈の西南側、住居の東壁際から中央部の北寄りの位置にかけて、焼土の堆積が顕著な部分が検出されている。

掘方：地山をほぼ平坦に掘り出しはいるが、中央部南寄りの一部の径1.5mの不整形の範囲が、最大で深さ約0.05mほど一段深く掘り窪められている。

遺物：須恵器椀4点(埋土3、床直1)、灰釉陶器椀1点・土師器杯片2点(埋土)、同甕片4点(埋土2、竈2)。

時期：平安時代中期、9世紀第4四半期～10世紀第1四半期。

(4) 16号住居(第154～156図、PL.78～80・110)

位置：D区の西端付近、北壁際。10号溝の西側に近接する。X=48,070～48,075、Y=-69,514～-69,518。

主軸方位：N-82°-E。**竈主軸方位：**N-92°-E。

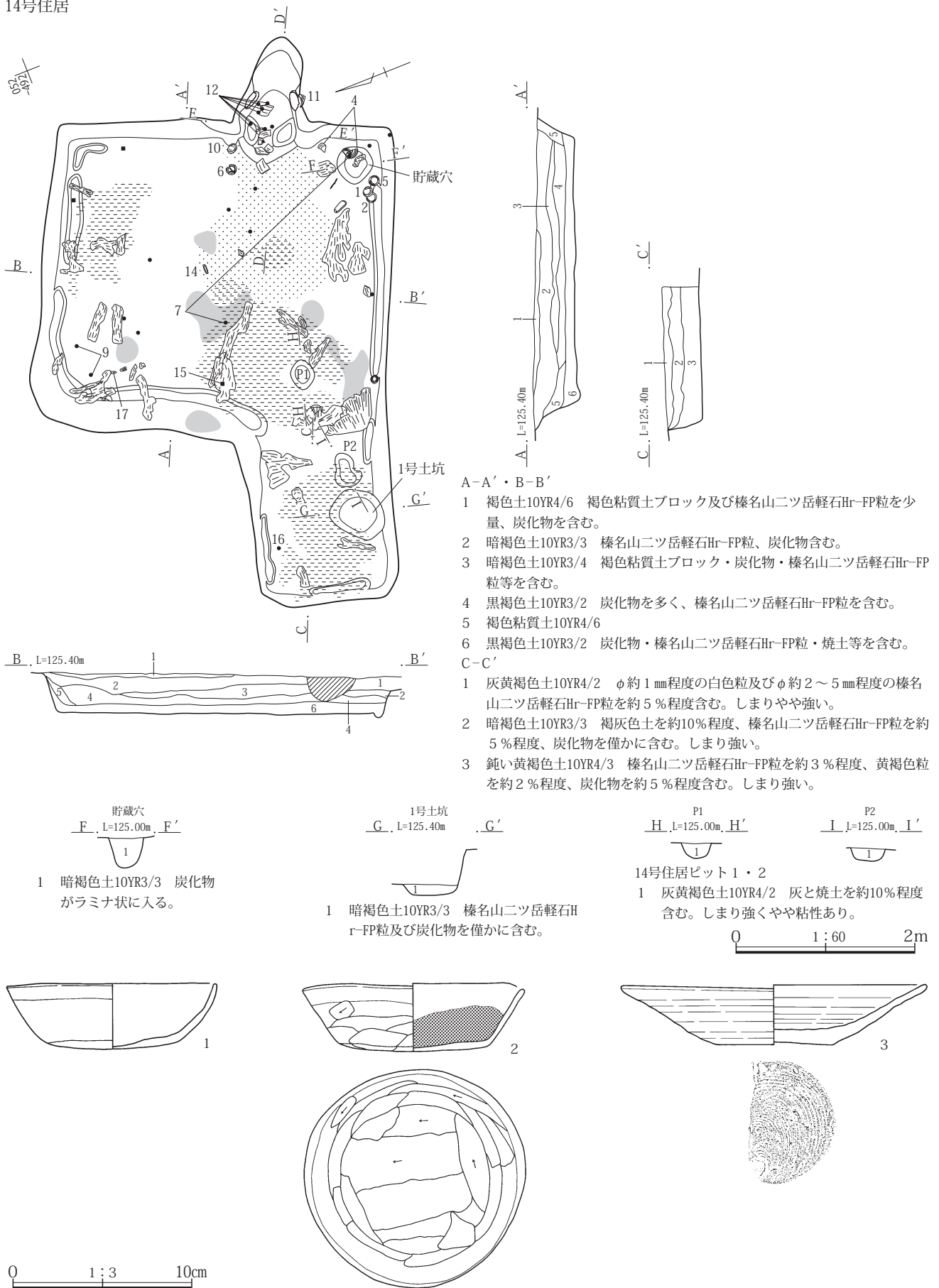
面積：8.19㎡。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形を呈する。長径4.17m・短径3.27m・確認面から床面までの深さ0.5m、掘方までの深さ0.61m。しっかりとした掘方を有する。東辺竈の両側、東西約2.5mに亘って東側に張り出しているように見られるが、15号住居に見られるようなテラス・柵状の施設ではなく、元来あった住居を、竈の位置を南北方向に移動させずに、竈及び住居本体を西側に拡張して確認された形状になったものと考えられる。竈の南側、住居の南東隅付近で、径約0.38～0.46mほどの扁平な川原石が出土しているが、用途は不明である。

重複：なし。

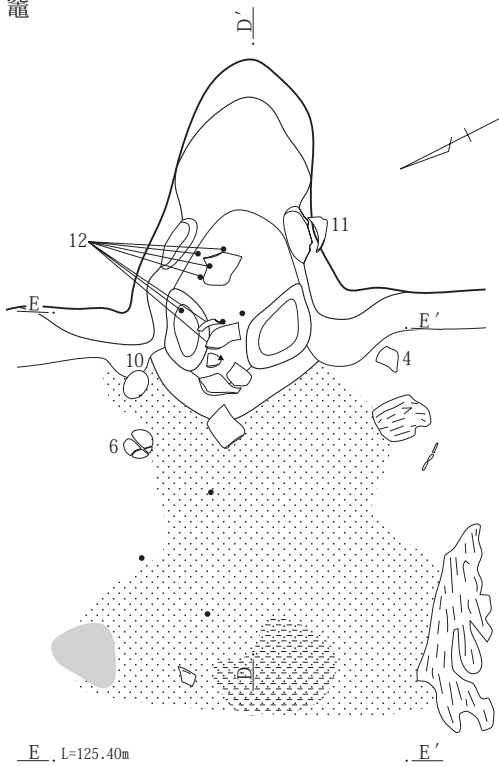
埋土：暗褐色土、床面付近に黒褐色土が堆積する。

14号住居

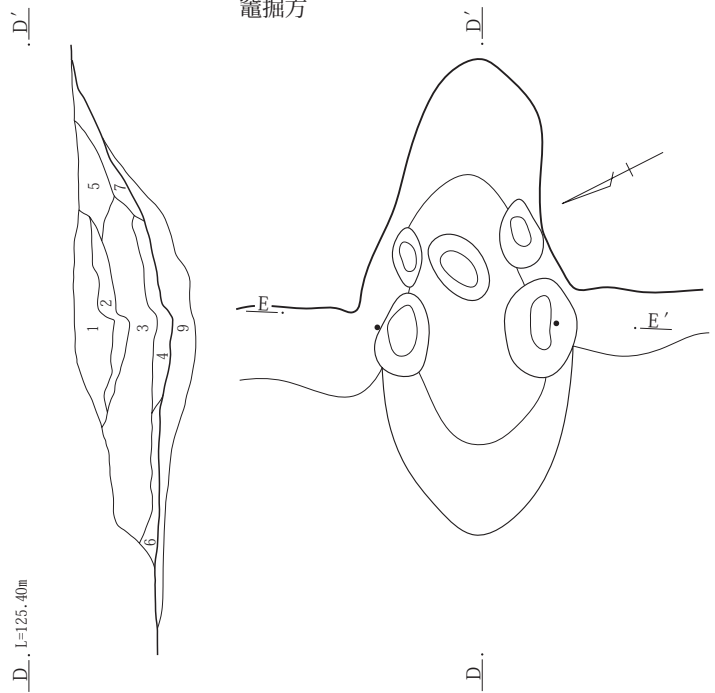


第149図 D区14号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)

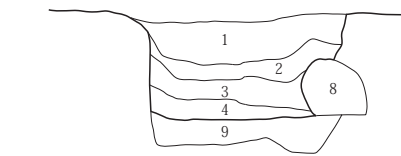
竈



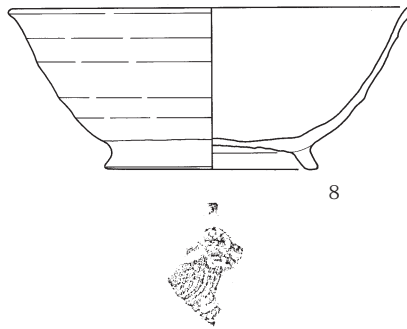
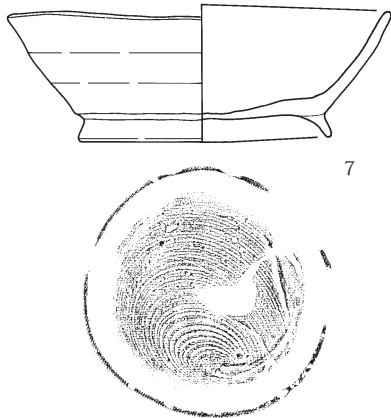
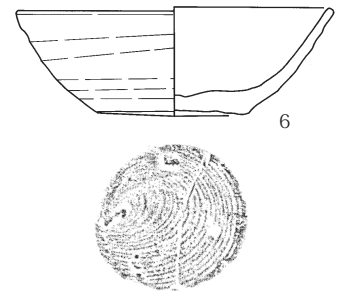
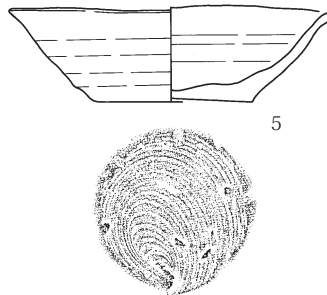
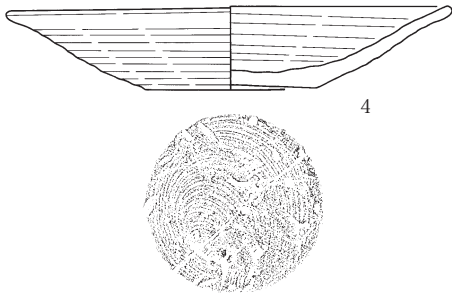
竈掘方



- 1 鈍い黄褐色土10YR4/3 炭化物及びφ約5mm程度の焼土ブロックを多く含む。
- 2 暗赤褐色土5YR3/3 炭化物及び焼土粒多く、榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。
- 3 明赤褐色土5YR4/6 φ約1～10mm程度の焼土ブロック主体。
- 4 暗赤褐色土5YR3/3 炭化物及び焼土が多い。
- 5 赤褐色土5YR4/8 炭化物含む。焼土ブロック入る。
- 6 暗褐色土10YR3/3 炭化物及び焼土を多く含む。
- 7 鈍い赤褐色土5YR4/4 φ約1cm程度の焼土ブロックを含む。
- 8 褐色粘質土10YR3/4 粘土質。
- 9 灰黄褐色土10YR4/2 焼土を約10程度%、灰を約5%程度含む。しまりやや強い。

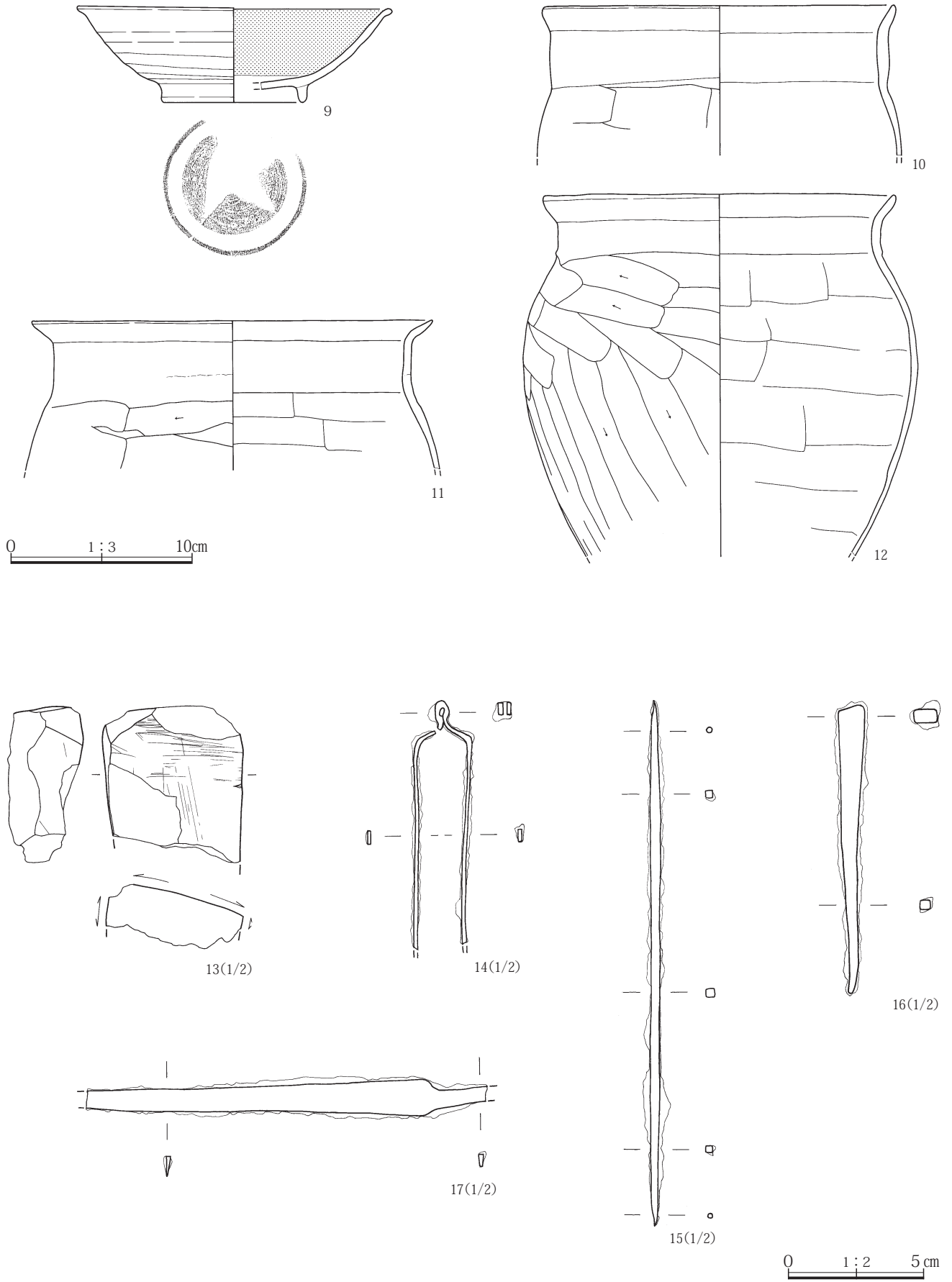


0 1:30 1m



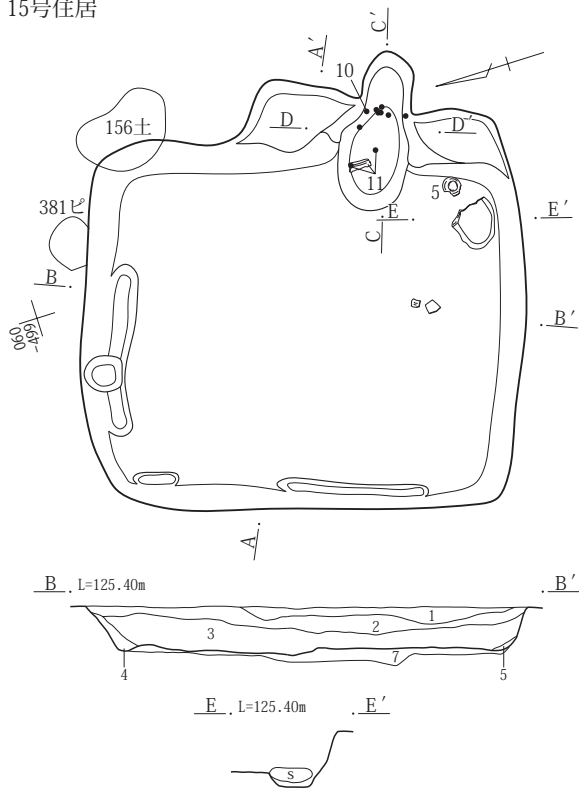
0 1:3 10cm

第150図 D区14号住居 竈平面図・土層断面図、住居出土遺物(2)

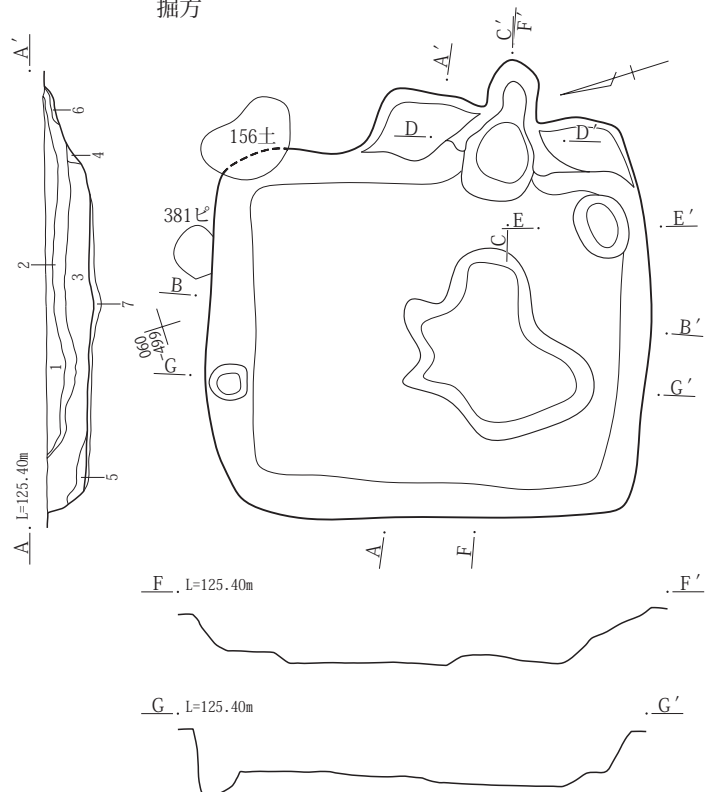


第151図 D区14号住居 出土遺物(3)

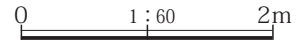
15号住居



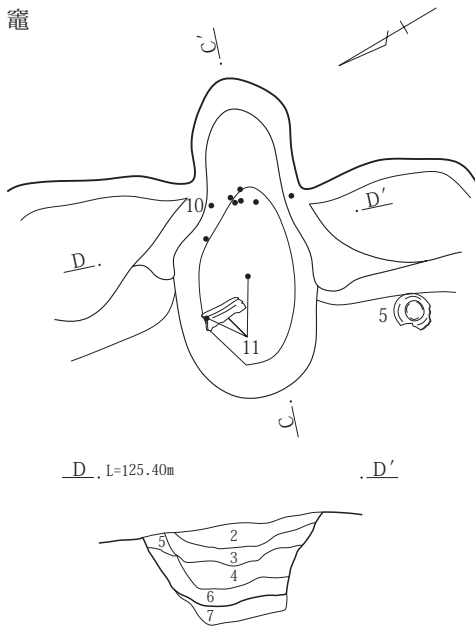
掘方



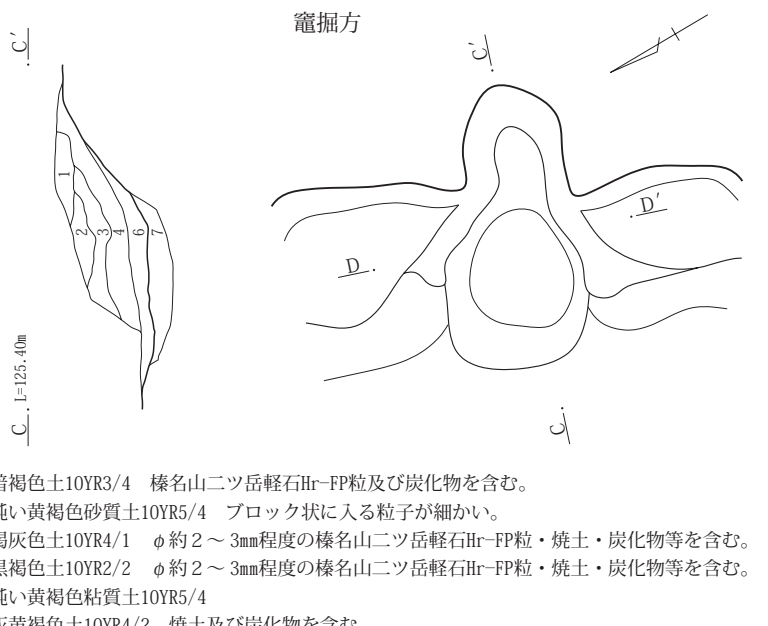
- 1 暗褐色土10YR3/4 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物を含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR5/4 ブロック状に入る粒子が細かい砂質土。
- 3 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物を含む。
- 4 鈍い黄褐色砂質土10YR5/4 炭化物を少量含む。
- 5 黒褐色土10YR3/2 φ約1～2mm程度の榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色ブロックを含む。
- 6 褐色土7.5YR4/4 焼土・炭化物層。
- 7 暗褐色土10YR3/4 焼土及び炭化物含む。よくしまっている。



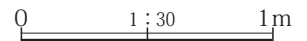
竈



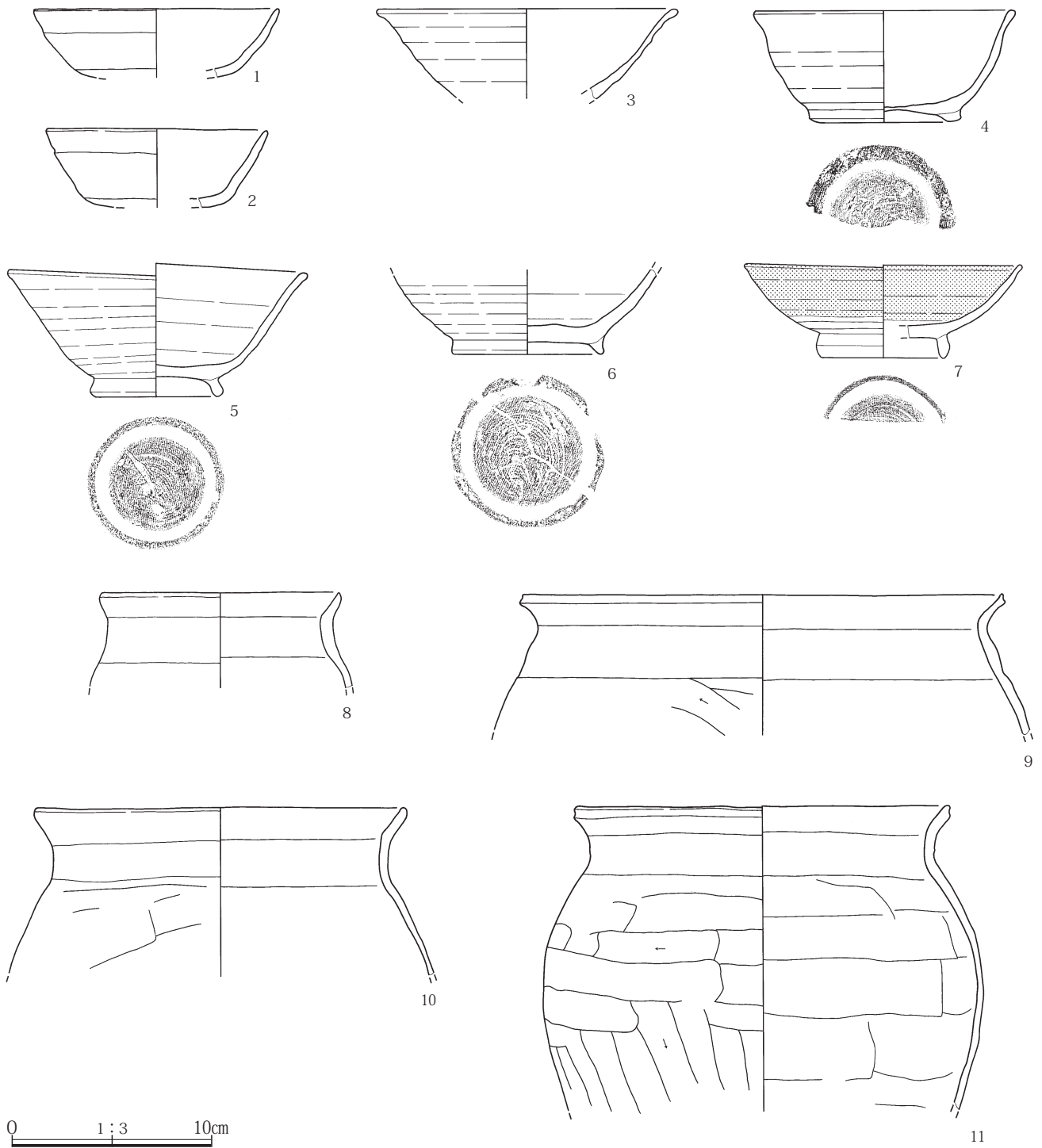
竈掘方



- 1 暗褐色土10YR3/4 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物を含む。
- 2 鈍い黄褐色砂質土10YR5/4 ブロック状に入る粒子が細かい。
- 3 褐色土10YR4/1 φ約2～3mm程度の榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒・焼土・炭化物等を含む。
- 4 黒褐色土10YR2/2 φ約2～3mm程度の榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒・焼土・炭化物等を含む。
- 5 鈍い黄褐色粘質土10YR5/4
- 6 灰黄褐色土10YR4/2 焼土及び炭化物を含む。
- 7 黒褐色土10YR2/3 炭化物が多い。



第152図 D区15号住居 平面図・土層断面図



第153図 D区15号住居 出土遺物

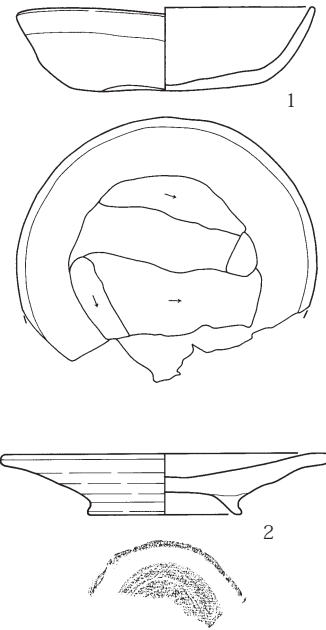
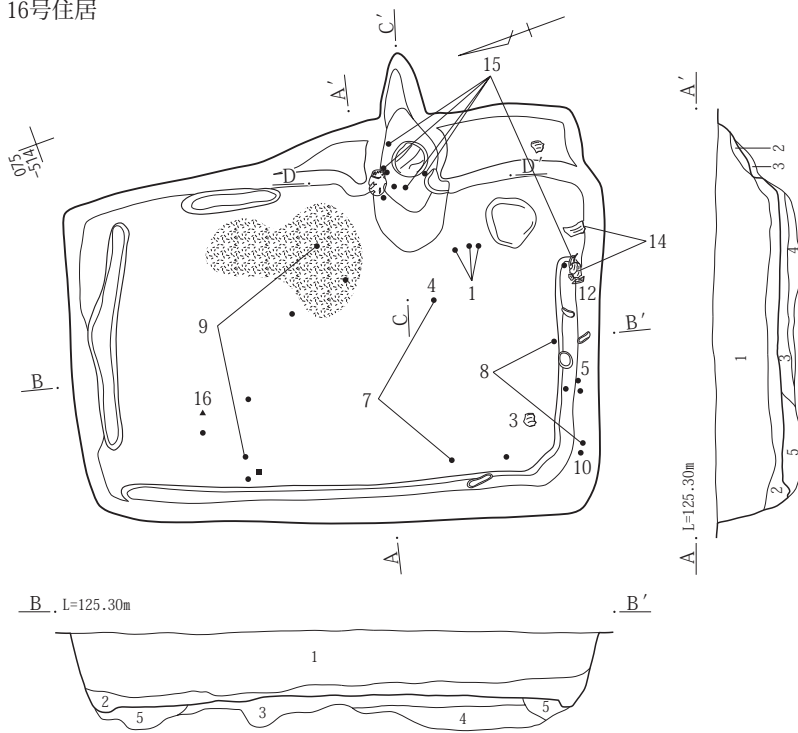
竈：東壁の中央よりやや南寄りの位置に取り付く。ほぼ掘方に近い状態で検出された。両袖は地山を削り出し、芯材に自然石を据えて土を貼って形成されたものと考えられるが、破壊されており、芯材の自然石が剥き出しの状態で見出された。燃焼部は住居の壁よりも外側に形成され、火床面上には径約0.29mほどの扁平な円盤状の自然石が据えられていた。その下、掘方から厚さ約0.1～

0.2mほど灰黄褐色土及び黒褐色土を貼り付けて火床面を形成している。煙道は地山を削りだして形成され、住居の外側に伸びている。

貯蔵穴・柱穴：検出されなかった。

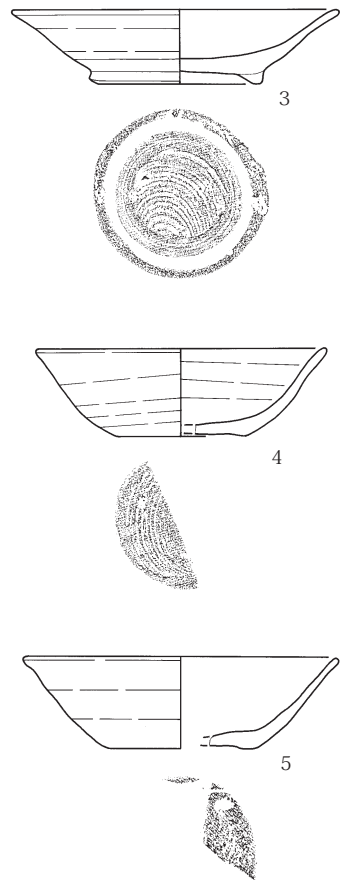
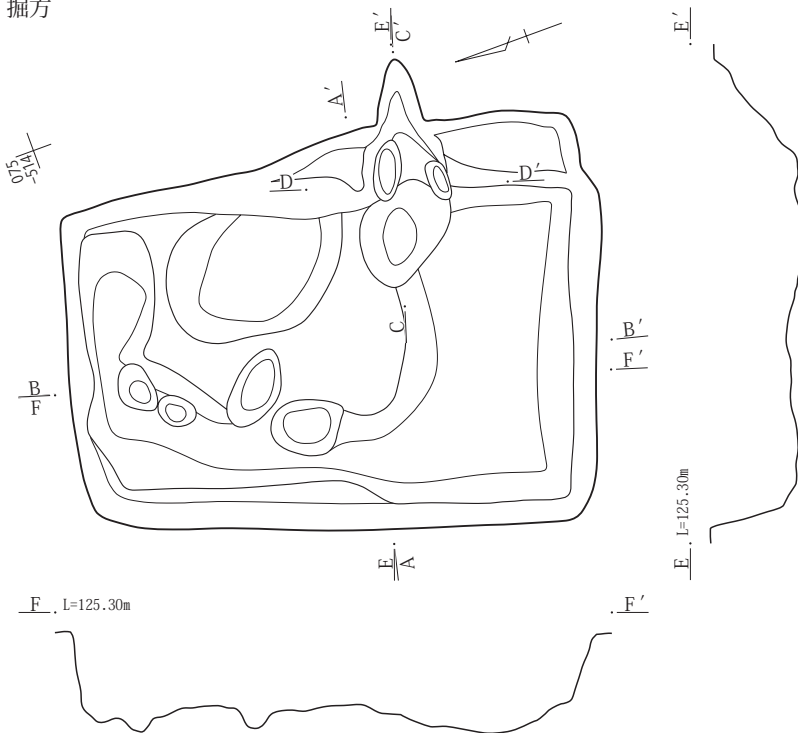
周溝：南壁際から西壁際北西隅に至る部分にかけては周回しているが、北西隅及び北東隅部では検出されず、北壁側は南壁～西壁側とは繋がっていない。東壁側では北

16号住居



- 1 暗褐色粘質土10YR3/3 φ約1～5mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物を含む。
- 2 黒褐色粘質土10YR2/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量、褐色土ブロックを含む。
- 3 黒褐色粘質土10YR3/1 炭化物及び灰混じりの層。
- 4 灰黄褐色粘質土10YR4/2 炭・灰・榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒等を含む。
- 5 褐色粘質土10YR4/4 炭・灰・榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒等を少量含む。

掘方

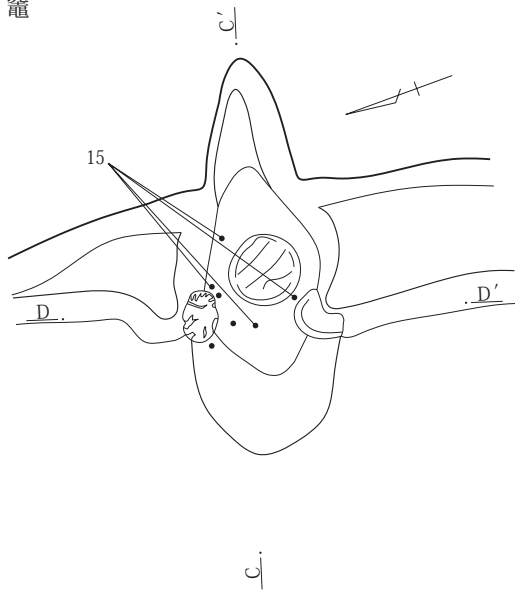


0 1:60 2m

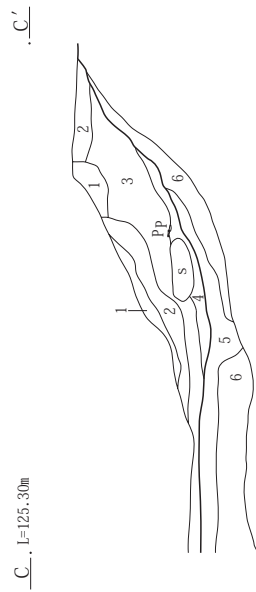
0 1:3 10cm

第154図 D区16号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)

竈

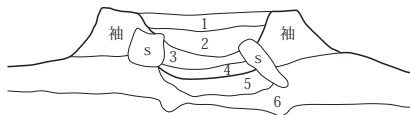
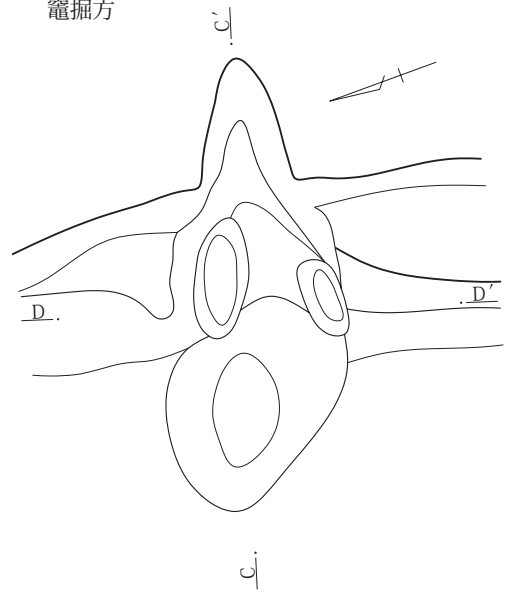


D, L=125.30m



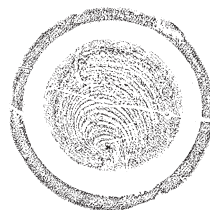
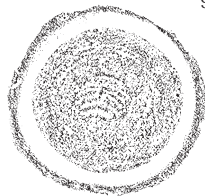
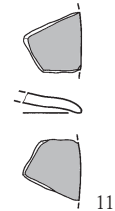
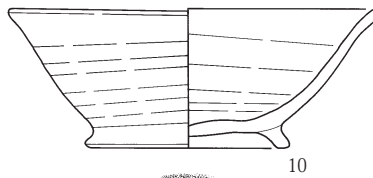
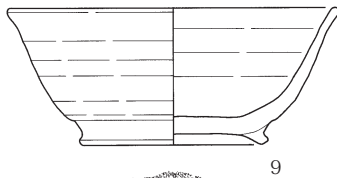
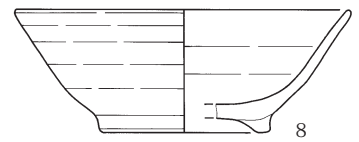
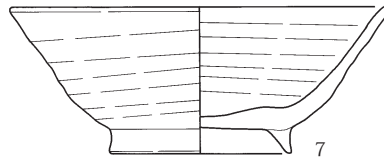
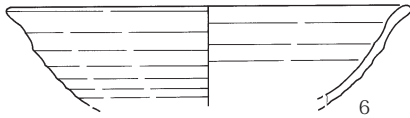
C, L=125.30m

竈掘方



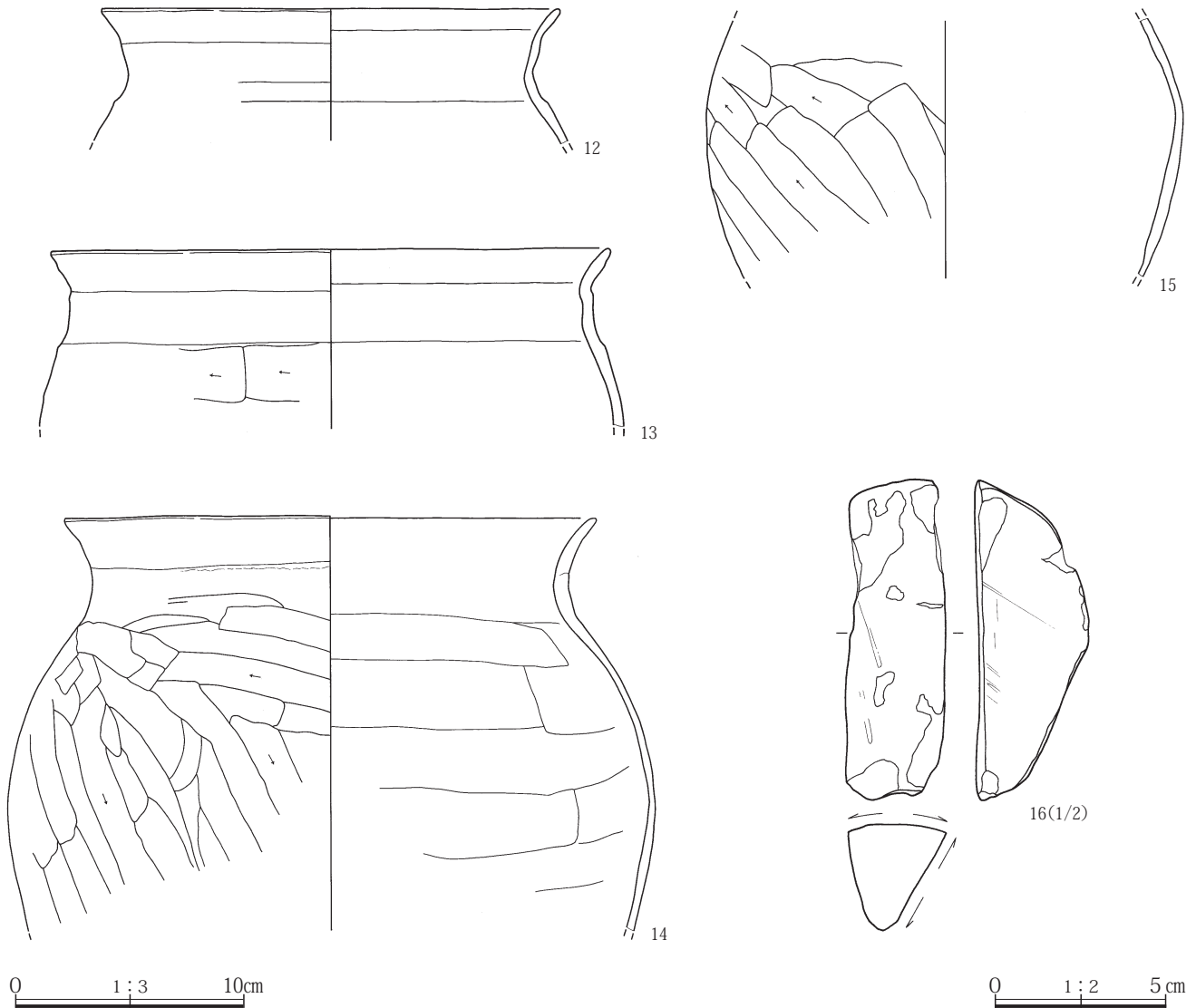
- 1 暗褐色粘質土10YR3/3 φ約1～5mm程度の榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物を含む。
- 2 明黄褐色土5YR5/6 焼土及び炭化物が多い。榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。
- 3 鈍い赤褐色土5YR4/4 焼土及び炭化物が多い。榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。
- 4 暗赤褐色土5YR3/6 炭化物・灰・焼土等を多く含む。
- 5 灰黄褐色土10YR4/2 焼土及び炭化物を多く含む。
- 6 黒褐色土10YR2/3 焼土及び炭化物混じり。

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第155図 D区16号住居 竈平面図・土層断面図、住居出土遺物(2)



第156図 D区16号住居 出土遺物(3)

寄りの位置で部分的に検出されたに止まる。溝幅は約0.1～0.22m・深さは約0.06～0.12m。

床面：地山を凹凸激しく掘り込んだ上に、黒褐色土、灰黄褐色土、褐色土を0.1～0.25m貼って硬化面を形成し、床面を形成している。

掘方：床面地山を凹凸激しく大きく掘り込んでいる。住居の北側半分で、掘り込みが著しい。

遺物：須恵器碗5点(埋土1、床直2、壁際2)、同杯2点(床直1、壁際1)、同皿2点(埋土1、床直1)、土師器杯1点(床直)、同甕片4点(埋土2、壁際2)、緑釉陶器碗蓋1点(壁際)、砥沢石製砥石1点(床直)。

時期：平安時代前期、9世紀第3四半期。

(5) 17号住居(第157・158図、PL. 80・81・110)

位置：北西部からの進入路から道路本体部分への接続箇所西端。X = 48,075～48,078、Y = -69,507～-69,509。

主軸方位：N-65°-W。**竈主軸方位：**N-67°-W。

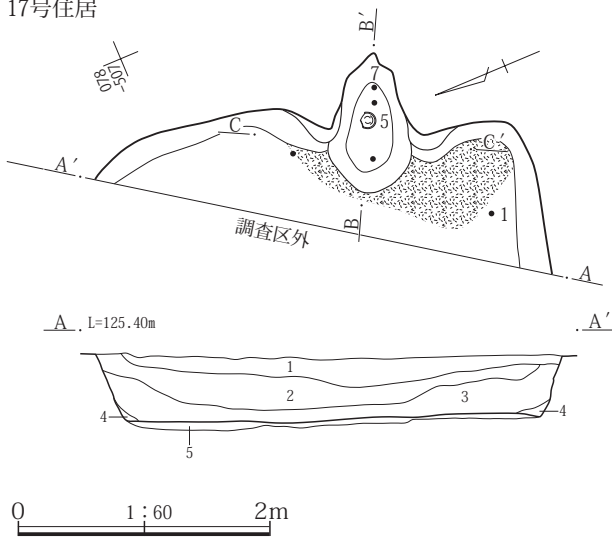
検出面積：1.78㎡。

規模と形状：南側大半が調査区外に出るため、東側に取り付く竈と東辺及び南辺の一部が検出されたのみであり、全容は不明である。検出南北径3.69m・検出東西径1.11m・確認面から床面までの深さ0.46m、掘方までの深さ0.54m。しっかりとした掘方を有する。

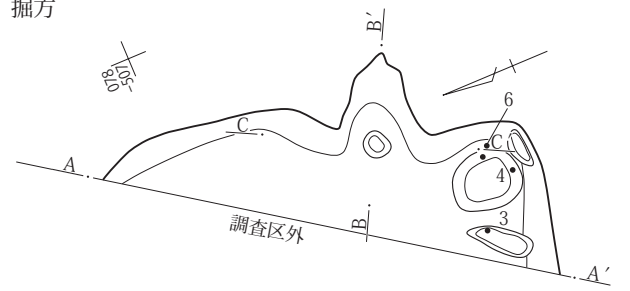
埋土：暗褐色土、床面付近に黒褐色土が堆積する。

重複：なし。

17号住居

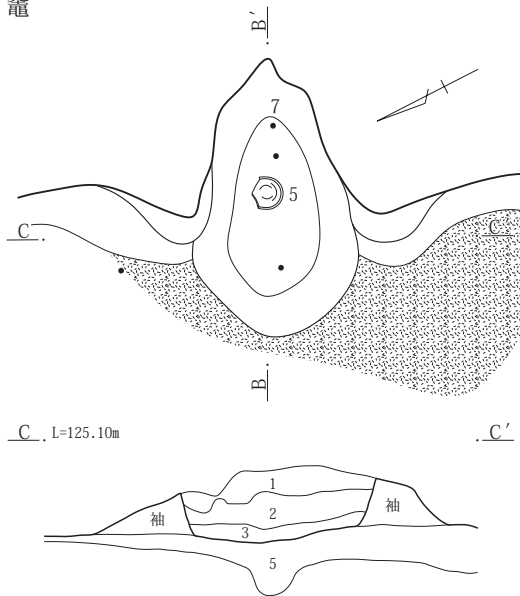


掘方

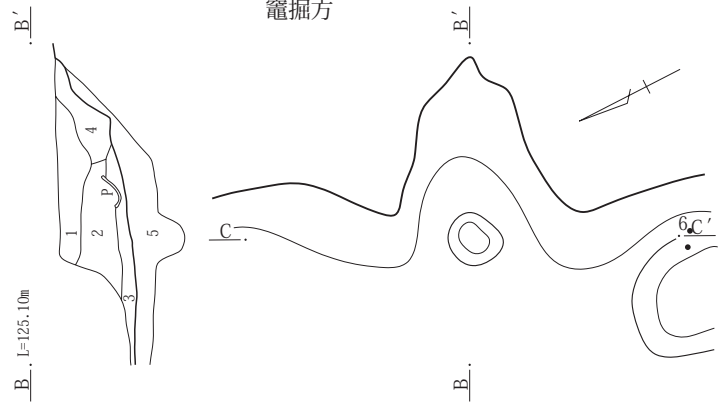


- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約10%程度、黄褐色粘質ブロックを約5%程度含む。固くしまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/4 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約5%程度、黄褐色粘質ブロックを約10%程度含む。固くしまり強い。
- 3 黒褐色土10YR3/2 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、黄褐色粘質ブロックを約3%程度含む。しまり強く粘性あり。
- 4 鈍い黄褐色粘質土10YR4/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。
- 5 明黄褐色シルト質土10YR7/6 灰層との互層。粘性ややあり。

竈

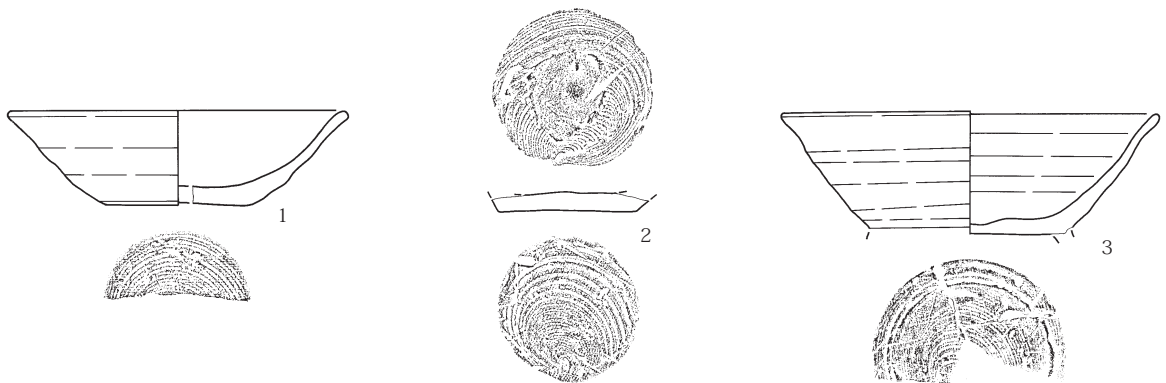


竈掘方



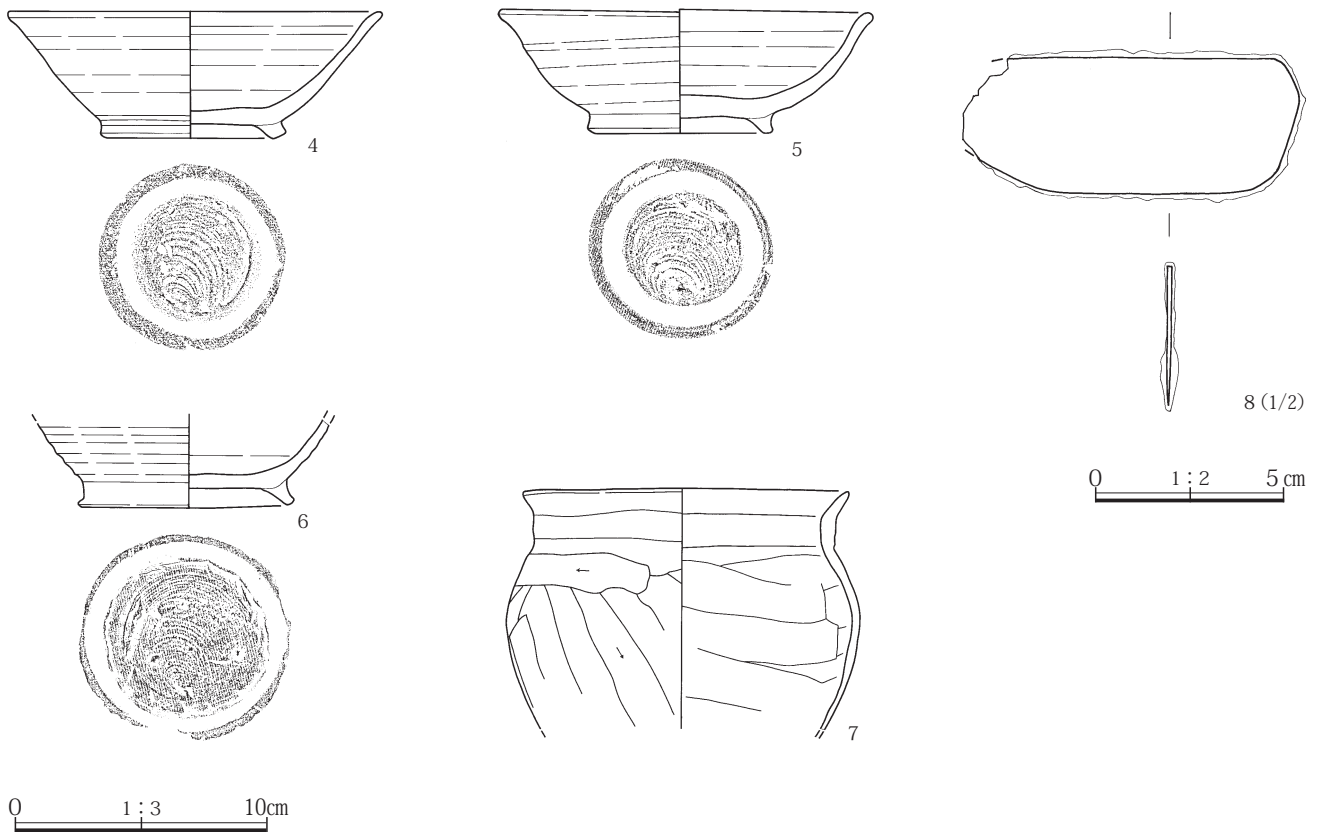
- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒・炭化物・焼土等を含む。
- 2 明黄褐色土5YR5/6 焼土及び炭化物多い。榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。
- 3 鈍い赤褐色土5YR4/4 焼土及び炭化物多い。榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。
- 4 暗褐色土6YR4/6 焼土及び炭化物を多く含む。
- 5 暗褐色土10YR3/3 炭化物及び焼土が多い。

0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第157図 D区17号住居 平面図・土層断面図・出土遺物(1)



第158図 D区17号住居 出土遺物(2)

竈：東壁の南寄りの位置に取り付く。両袖は地山を削り出して形成され、住居の内側にはほとんど張り出さない。両袖の芯材、支脚等は検出されなかった。燃烧部は住居の壁とほぼ同位置に形成されている。煙道は住居の外側に伸びる。竈前から住居南東隅にかけて、灰・炭化材・焼土の堆積が顕著に見られた。

貯蔵穴：掘方において検出された。住居の南東隅に位置する。南北に長い楕円形状を呈しており、長径0.55m・短径0.47m・深さ0.16m。明黄褐色土が堆積。

柱穴・周溝：検出されなかった。

床面：地山を比較的平坦に削り出した上に、明黄褐色シルト質土を厚さ0.02～0.08m程薄く貼り付けて平坦な床面を形成している。顕著な硬化面は検出されなかった。

掘方：比較的平坦ではあるが、住居の南東隅部で若干凹凸がある。

遺物：須恵器碗4点(掘方3、竈1)、同杯2点(埋土1、床直1)、土師器小型甕1点(竈)、用途不明鉄製品1点(埋土)。

時期：平安時代前期、9世紀第3四半期。

(6) 18号住居(第159～161図、PL. 81～83・110・111)
位置：D区の南端、東寄りの位置。14号住居のすぐ東側に隣接する。X=48,046～48,051、Y=-69,488～-69,492。

主軸方位：N-80°-W。**竈主軸方位：**N-82°-W。

検出面積：10.46㎡。

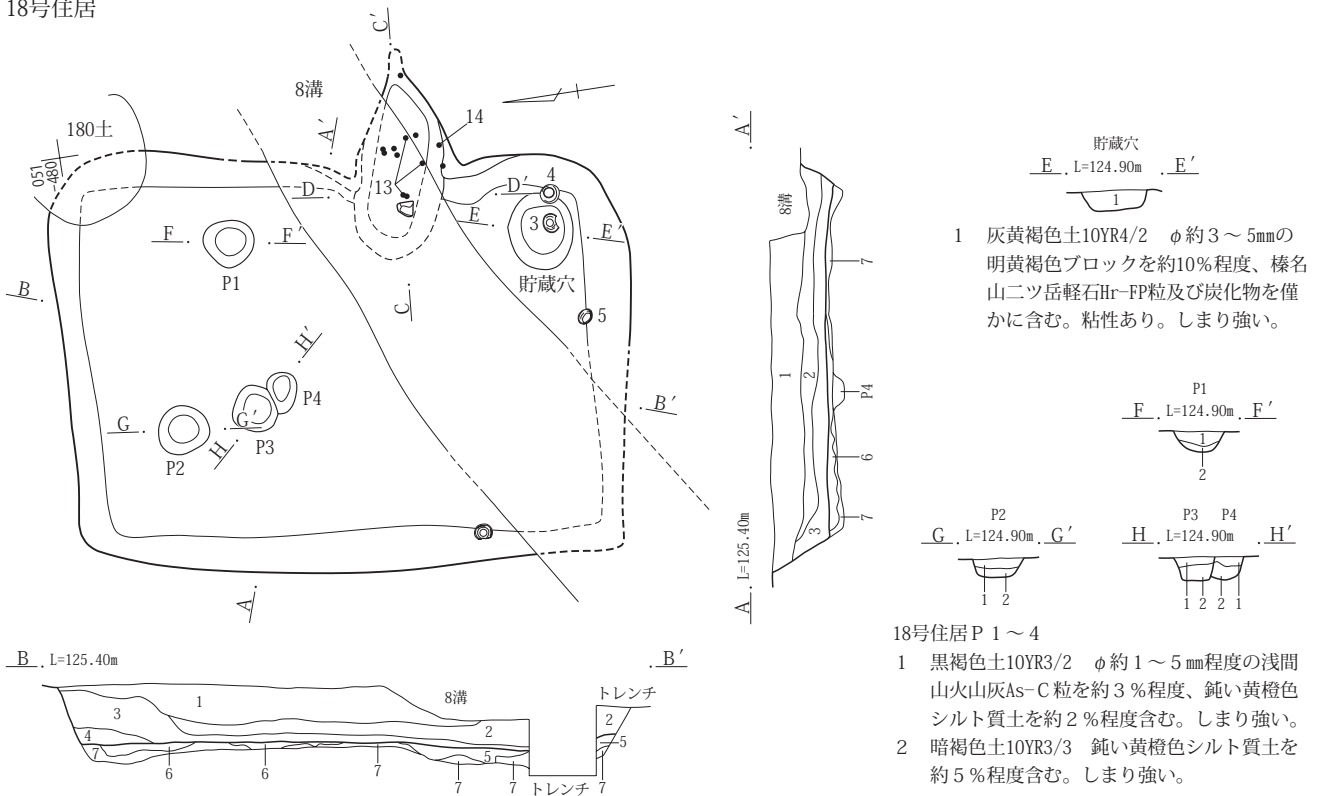
規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。長径4.46m・短径3.31m・床面までの深さ0.43～0.45m・掘方までの深さ0.57m。しっかりとした掘方を有する。

重複：住居の中央部、やや南寄りの位置の上面を北東から南西にかけて8号溝に掘り込まれるが、破壊は床面までは達していない。北東隅部上面を180号土坑に掘り込まれるが、こちらも床面までは破壊されていない。

埋土：暗褐色土。床近くに褐色土が堆積する。

竈：東壁の中央部からやや南寄りの位置に取り付く。先述したように、上面を8号溝に掘り込まれているため、残存状態は良くない。両袖の芯材は発見されなかったが、掘方において左袖芯材及び支脚の痕跡が検出された。ただし、右袖芯材を据えた痕跡は発見されていない。検出

18号住居

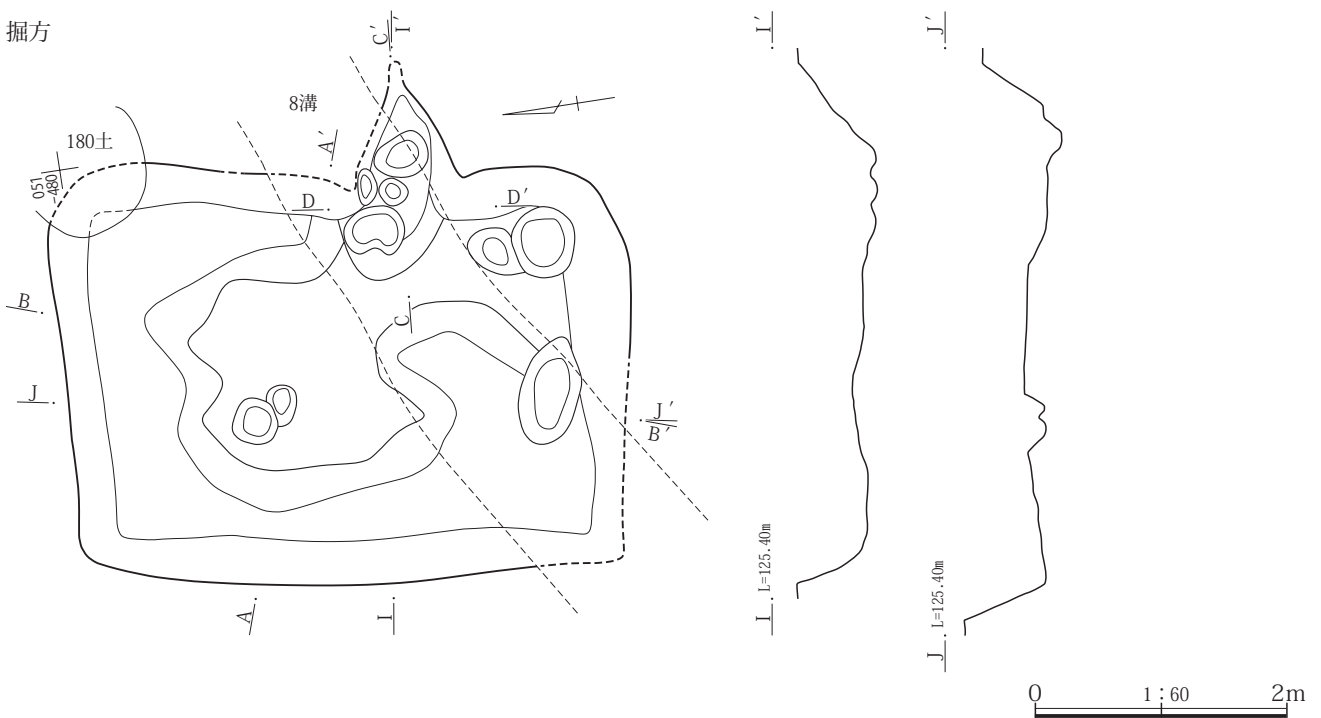


- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物を含む。
- 2 暗褐色土10YR3/4 炭化物を少量、φ約10mm程度の褐色土ブロック及び榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を含む。
- 3 褐色土10YR4/4 やや砂質。榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を極少量含む。
- 4 黒褐色土10YR3/2 やや粘質。浅間山火山灰As-C 軽石含む黒色土崩落土。
- 5 暗褐色粘質土10YR3/4 φ約3～5mm程度の白色軽石を少量含む。しまりあり。
- 6 鈍い黄褐色粘質土10YR4/3 黒色粘土と黄褐色粘土を多く、φ約3～8mm程度の白色軽石を少量含む。しまりあり。
- 7 暗褐色粘質土10YR3/3 φ約3～5mm程度の白色軽石を少量含む。しまりあり。

18号住居 P 1～4

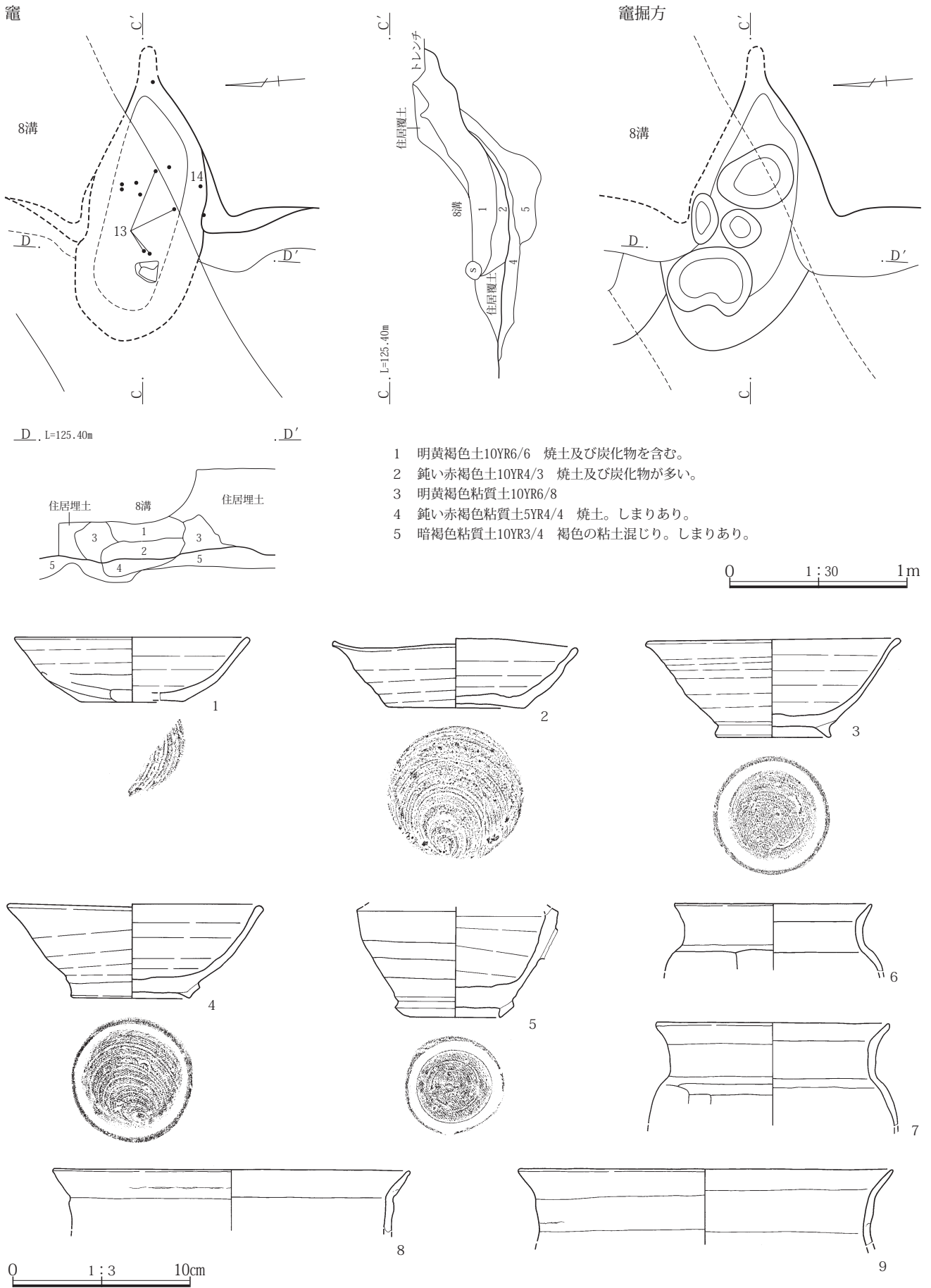
- 1 黒褐色土10YR3/2 φ約1～5mm程度の浅間山火山灰As-C粒を約3%程度、鈍い黄橙色シルト質土を約2%程度含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 鈍い黄橙色シルト質土を約5%程度含む。しまり強い。

掘方

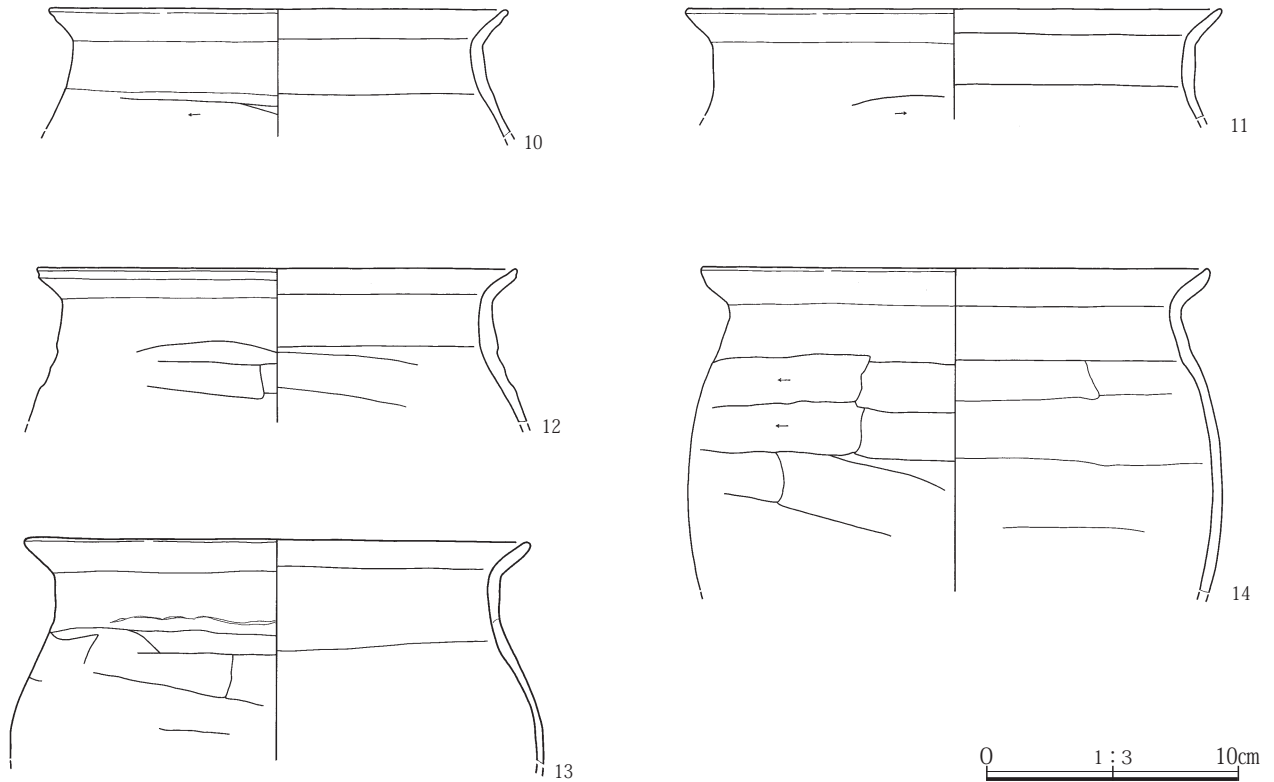


第159図 D区18号住居 平面図・土層断面図

第3章 調査の成果



第160図 D区18号住居 竈平面図・土層断面図、住居出土遺物(1)



第161図 D区18号住居 出土遺物(2)

状況の現状から見る限り、両袖は住居内部にはほとんど張り出さない。焼部は住居の壁とほぼ同位置に形成され、煙道は住居の外側に長く伸びている。

貯蔵穴：住居南東隅において検出された。東西に長い楕円形状を呈しており、長径0.61m・短径0.52m・深さ0.18m。灰黄褐色土が堆積している。

柱穴：明らかに柱穴と考えられるものはないが、床面において計4基のピットが検出された。これらを、掘り直しを含めて柱穴と仮定した場合、相対する柱穴に相当するピットが検出されていない。8号溝による掘り込みは浅く、深い箇所でも埋土中層程度までなので、仮に南側の柱穴が存在していたとすれば8号溝によって完全に破壊されて痕跡が全く残らないような事態にはなり得ない。住居の東側北寄りの位置で1基検出されたピットをP1とし、住居の北西側で検出された3基のピットは、北から順にP2～4とした。これらのうち、P3・P4は一部重複しており、P3がP4を掘り込んでいる。P1は南北にやや長い不整円形状を呈し、長径0.4m・短径0.38m・深さ0.16m。P2は不整円形状を呈し、径0.

4m前後・深さ0.17m。P3も不整円形状を呈しており、径0.37m前後・深さ0.18m。P4は本住居内検出のピット4基の中では最小の規模で、北西側をP3に掘り込まれているが、東西に長い楕円形状を呈し、長径0.34m・検出短径0.24m・深さ0.18m。P1～4ともに埋土はほぼ共通しており、上層に黒褐色土、下層に暗褐色土が堆積している。

周溝：検出されなかった。

床面：地山を凹凸激しく掘り込んだ上に暗褐色土及び鈍い黄褐色土を約0.11～0.14m程貼って床面を形成している。顕著な硬化面は検出されなかった。

掘方：全体的に凹凸激しく掘り込まれている。とくに東辺北半分から北辺・西辺・南辺西半分側が一段深く掘り込まれている。

遺物：須恵器碗2点(貯蔵穴)、同杯2点(埋土)、同瓶片1点(壁際)、土師器甕片9点(埋土7、竈2)。

時期：平安時代前期、9世紀第4四半期。

2. 掘立柱建物

先述したようにD区からは2棟の掘立柱建物が検出された。本遺跡では合計4棟の掘立柱建物が検出されており、他2棟はA区からの検出である。

D区で検出された掘立柱建物は、D区のほぼ中央部と南東寄りに位置している。いずれも側柱建物である。主軸方向は約90°異なるが基準方位はほぼ一致しており、相互の関連が考えられる。

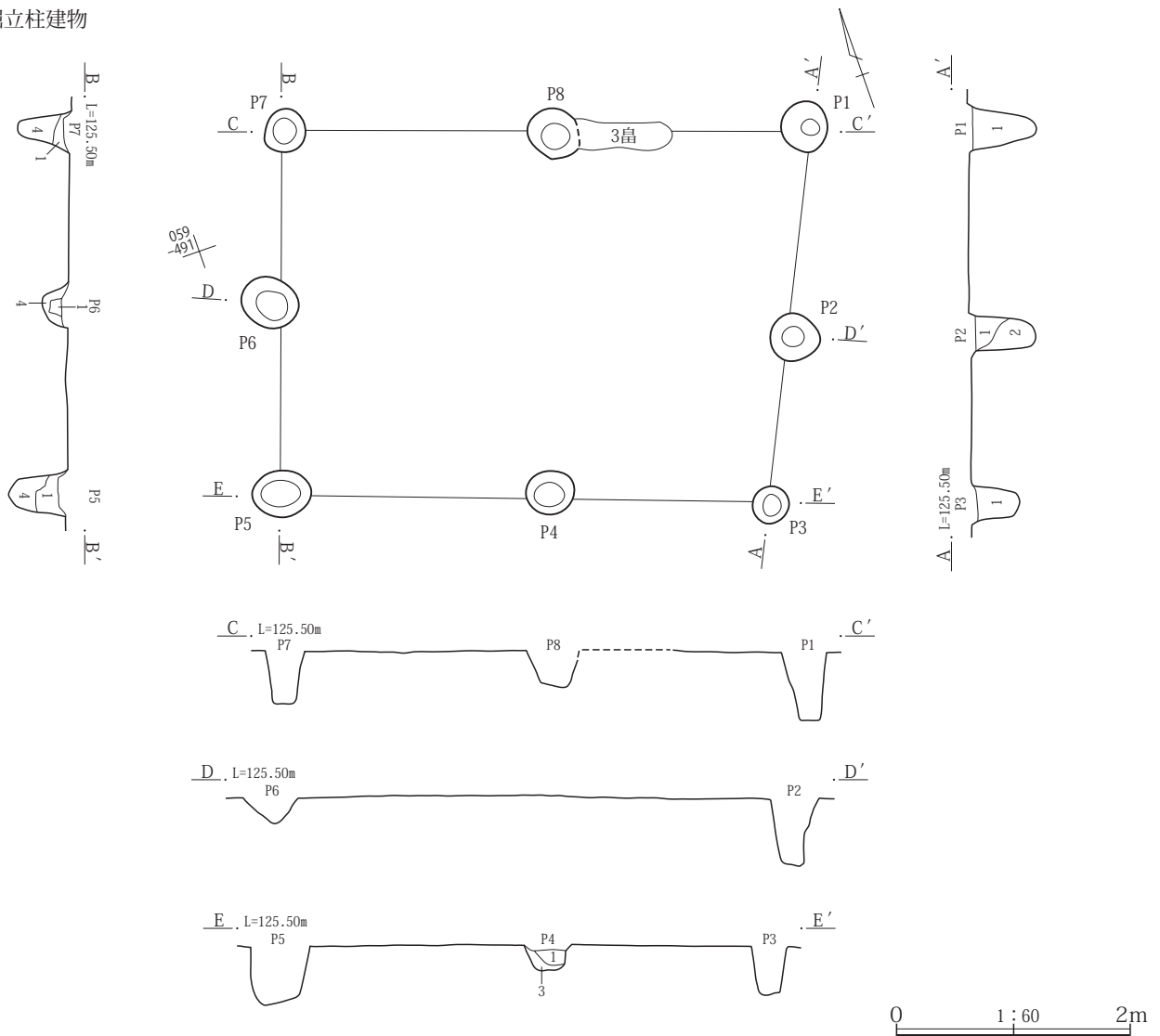
(1) 3号掘立柱建物(第162図、PL. 83)

位置：D区の中央から南東寄りの位置。143・176号土坑の東、177号土坑の北側に近接する。X=48,055～48,059、Y=-69,485～-69,490。

主軸方位：N-68°-W。 **検出面積：**18.659㎡。

規模と形状：西北西-東南東方向に長い長方形を呈する。やや南側にひしゃげた平面形態となっている。桁行・梁間ともに2間四方の側柱建物。梁間1.4～1.65m、一方、桁行1.7～2.2mで、南東辺のみ短く、他はおよそ2.2mである。北東隅の1ピット(以下P1と称する、他

3号掘立柱建物



3号掘立P1～7

- 1 黒褐色粘質土10YR3/2 φ約1～2mm程度の榛山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物を含む。
- 2 灰黄褐色粘質土10YR4/2 φ約5mm程度の褐色土ブロックを含む。
- 3 鈍い黄褐色粘質土10YR4/3
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 φ約5mm程度の褐色土ブロック含む。

第162図 D区3号掘立柱建物 平面図・土層断面図

の穴も同様)から時計回りに、東辺中央P 2、南東隅P 3、南辺中央P 4、南西隅P 5、西辺中央P 6、北西隅P 7、北辺中央P 8の8基の柱穴が検出されている。柱穴芯々間における東西長4.18～4.48m・南北幅3.12m。南北辺の西隅柱と中央柱との柱間がとくに長い。

柱穴：P 1(北東隅)：形状：南北に長い不整楕円形状を呈する。長径0.44m・短径0.4m・確認面からの深さ0.61m、埋土：黒褐色土。

P 2(東辺中央)：形状：不整円形状を呈する。径0.42m・確認面からの深さ0.61m、埋土：上層黒褐色土、下層灰黄褐色土。

P 3(南東隅)：形状：不整円形状を呈する。径0.32m・確認面からの深さ0.42m、埋土：黒褐色土。

P 4(南辺中央)：形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.38m・確認面からの深さ0.3m、埋土：上層黒褐色土、下層鈍い黄褐色土。

P 5(南西隅)：形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.5m・短径0.4m・確認面からの深さ0.52m、埋土：上層黒褐色土、下層灰黄褐色土。

P 6(東辺中央)：形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.5m・短径0.4m・確認面からの深さ0.24m、埋土：上層黒褐色土、下層灰黄褐色土。

P 7(北西隅)：北西-南東方向にやや長い不整楕円形状を呈する。長径0.38m・短径0.34m・確認面からの深さ0.46m、埋土：上層黒褐色土、下層灰黄褐色土。

P 8(北列中央)：東側3号畠南端付近のさくを掘り込む。東西に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.45m・短径0.43m・確認面からの深さ0.3m、埋土：上層黒褐色土、下層灰黄褐色土。

重複：3号畠を掘り込む。

遺物：なし。

時期：古代。

(2) 4号掘立柱建物(第163図、PL. 83・84・111)

位置：D区のほぼ中央部。15号住居の北側に隣接する。X=48,059～48,069、Y=-69,493～-69,500。

主軸方位：N-20°-E。 **検出面積：**32.66㎡。

規模と形状：東北東-西南西方向に長い長方形を呈する桁行4間・梁間2間の側柱建物。北東隅の1ピット(以下P 1と称する、他の穴も同様)から時計回りに、東辺

北から2番目P 2、東辺中央P 3、東辺南から2番目P 4、南東隅P 5、南辺中央P 6、南西隅P 7、西辺南から2番目P 8、西辺中央P 9、西辺北から2番目P 10、北西隅P 11、北辺中央P 12の12基の柱穴が検出されている。柱穴芯々間における東西長4.62～4.74m・南北長7.1～7.34m。梁間の柱間は約1.6～2.4m、桁行の柱間は約1.6～1.85m。東西辺の西隅柱と中央柱との柱間がとくに長い。

柱穴：P 1(北東隅)：形状：南北に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.44m・短径0.42m・確認面からの深さ0.49m。埋土：暗褐色土。

P 2(東列北から2番目)：形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.38m・短径0.35m・確認面からの深さ0.6m。埋土：暗褐色土。

P 3(東列中央)：形状：現状では東西に長い不整楕円形状を呈しているが、他の柱穴からみて特異なほど大きく、後世に掘り広げられているものと考えられる。柱穴本来としてはもっと小規模であったものと考えられる。長径1m・短径0.77m・確認面からの深さ0.75m。埋土：暗褐色土。

P 4(東列南から2番目)：形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.39m・短径0.34m・確認面からの深さ0.41m。埋土：上層黒褐色土、下層灰黄褐色土。

P 5(東南隅)：形状：東西に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.26m・短径0.24m・確認面からの深さ0.2m。埋土：暗褐色土。

P 6(南列中央)：形状：不整円形状を呈する。径0.4m・確認面からの深さ0.34m。埋土：灰黄褐色土。

P 7(南西隅)：形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.32m・短径0.27m・確認面からの深さ0.25m。埋土：褐色土。

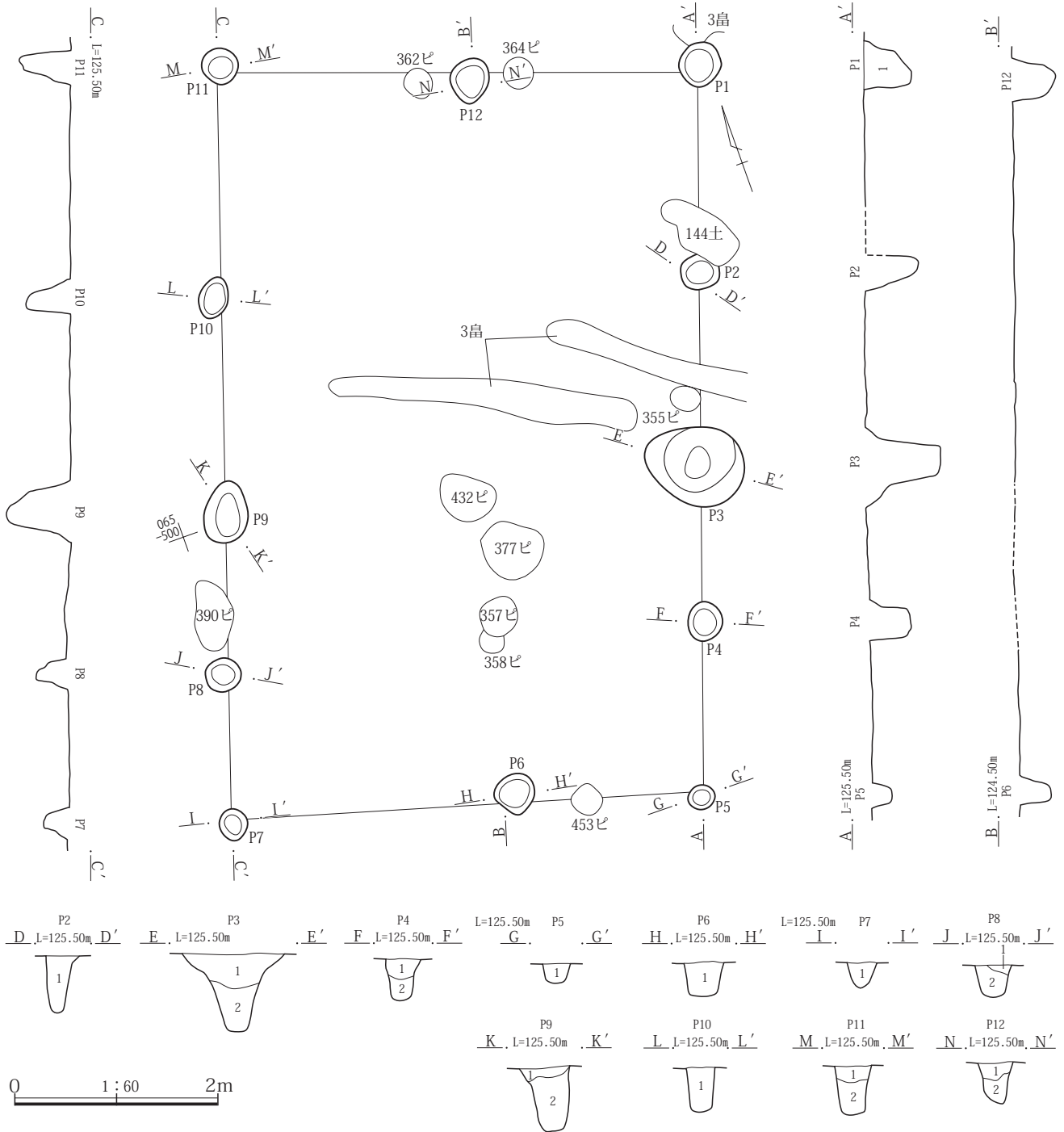
P 8(西辺南から2番目)：形状：不整円形状を呈する。径0.35m・確認面からの深さ0.32m。埋土：暗褐色土。

P 9(西辺中央)：形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.6m・短径0.45m・確認面からの深さ0.62m。埋土：褐灰色土。

P 10(西辺北から2番目)：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.42m・短径0.38m・確認面からの深さ0.5m。埋土：黒褐色土。

P 11(北西隅)：ほぼ円形状を呈する。径0.36m・確認

4号掘立柱建物



4号掘立 P 1

1 暗褐色土10YR3/3 鈍い黄褐色粘質土を約20%程度、榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。

4号掘立 P 2

1 暗褐色土10YR3/4 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、明黄褐色色粒を約3%程度、炭化物を僅かに含む。しまり強い。

4号掘立 P 3

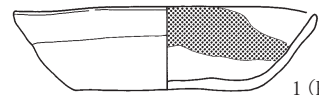
1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色色粒を約2%程度、炭化物を僅かに含む。しまり強い。

2 暗褐色土10YR3/3 黄褐色色粒を僅かに含む。しまりやや弱い。

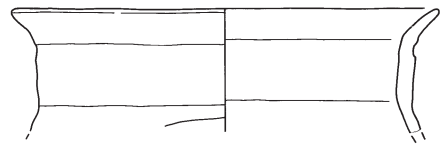
4号掘立 P 4

1 黒褐色土10YR3/2 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度、鈍い黄褐色色粒を約5%程度含む。しまり強い。

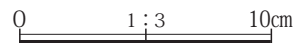
2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。



1 (P12)



2 (P2)



第163図 D区4号掘立柱建物 平面図・土層断面図・出土遺物

4 掘立 P 5

1 暗褐色砂質土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色粒を僅かに含む。しまりやや強く粘性あり。

4 掘立 P 6

1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度含む。しまり強い。

4 掘立 P 7

1 褐色土10YR4/6 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。

4 掘立 P 8

1 暗褐色土10YR3/3 焼土粒を約7%程度、炭化物粒を約3%程度含む。しまり強い。

2 暗褐色土10YR3/3 灰黄褐色砂粒を約5%程度含む。しまりやや強い。

4 掘立 P 9

1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度、灰黄褐色砂粒を約10%程度含む。しまり強い。

2 暗褐色土10YR3/3 灰黄褐色砂粒を約5%程度含む。しまりやや強い。

4 掘立 P 10

1 黒褐色土10YR3/2 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒、炭化物粒を僅かに含む。しまり強い。

4 掘立 P 11

1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、黄褐色粒を約2%程度含む。しまり強く粘性あり。

2 暗褐色土10YR3/3 黄褐色粒を僅かに含む。しまりやや弱い。

4 掘立 P 12

1 暗褐色土10YR3/3 灰黄褐色砂粒を約2%程度、榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。

2 鈍い黄褐色土10YR4/3 灰黄褐色砂粒と暗褐色土との混土。しまりやや強い。

面からの深さ0.48m。埋土：暗褐色土。

P 12（北辺中央）：不整楕円形状を呈する。径0.4m・確認面からの深さ0.4m、埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。

重複：144号土坑に、P 2の北東辺が掘り込まれる。P 1が3号畠のさくを掘り込む。153号土坑、355・357・358・362・364～366・371・377～379・390・396～399・432・453号ピット。

遺物：土師器杯1点・同甕片1点(埋土)。

時期：古代。

3. 畠

北西側から県道本線への進入・接続路(2号)と中央部(3号)の2区画の畠が検出された。

本遺跡で畠が検出されたのは本調査区とB 4調査区からのみで、B 4調査区で検出された1・4号畠が近世のものと考えられるのに対し、本調査区で検出されたものは古代のものである。集落と並存する畠として、古代の当該地域における土地利用を考える上で重要な遺構と位置付けられる。

古代の畠はD区でのみ検出された。古代集落の中心部であるC区を外れ、比較的住居がまばらな地域の、住居の狭間に比較的小規模に作られている。このことから、当該地域に畠作地帯が広がっていたわけでは決して無く、住居に隣接して作られた屋敷畠のような耕作地であると考えられよう。

(1) 2号畠(第164図、PL. 84)

位置：D区の北西部。X = 48,090 ~ 48,102、Y = -69,501 ~ -69,511。

主軸方向：N-11°-E。

検出面積：55.77m²。

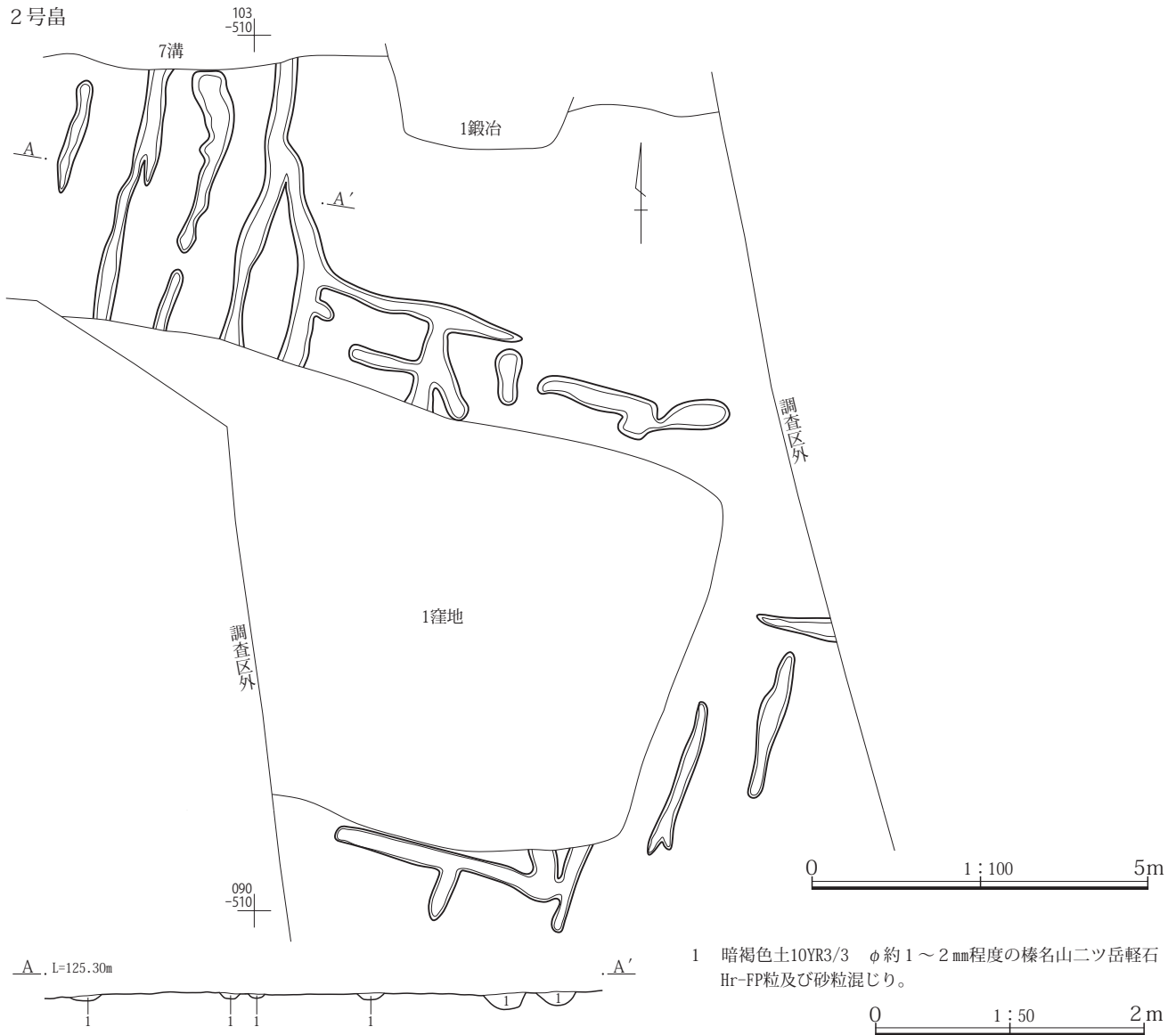
規模と形状：中央部を大きく1号窪地に掘り込まれ、また北端も7号溝に掘り込まれ、東西両側は調査区外に出るため全容は全く不明である。東西方向に長い畝間が南北4条、南北方向に長い畝間が東西8条検出された。1号窪地北辺・東辺・南辺際では一部東西方向に畝立てされているが、全体的には南北方向に畝立てされていたものと考えられる。東西及び南北方向の畝立てに新旧関係があるのかあるいは同時並存であるのかは不明である。東西10.08m・南北13.2mに亘って検出されており、畝間個々の長さ0.85m～、畝間個々の幅0.5～0.9m、畝跡部分の個々の幅0.2～0.4m、確認面からの畝間の深さ0.05～0.16m。上面を何方所も大きく攪乱されており、また、上面を削平されているため、残存状態は悪く、ごく部分的にしか検出されなかった箇所も存在している。

重複：中央部を大きく1号窪地に掘り込まれ、また北端も7号溝に掘り込まれる。

埋土：畝間には砂粒混じりの暗褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：平安時代前～中期。



第164図 D区2号畠 平面図・土層断面図

(2) 3号畠(第165図、PL. 85)

位置：D区の中央部。X = 48,051 ~ 48,070、Y = -69,481 ~ -69,510。

主軸方向：N-56°-W。

検出面積：290.82㎡。

規模と形状：南北約10mの、竪穴住居・掘立柱建物・土坑・ピットが所在する区間を挟んで、北側と南側とに分かれている。北側の部分では、東西方向に長い畝間が南北12条にわたって検出された。検出された北側部分全体の長さは最大で16m・全体幅10.7m、・畝間個々の長さ0.96 ~ 6.86m・幅0.2 ~ 0.52m、畝跡部分の個々の幅0.22 ~ 1.41m、確認面からの畝間の深さ0.04 ~ 0.12m。上面を削平されているため、残存状態は悪い。一方、南

側の部分では、東西方向に長い畝間が南北4条にわたって検出された。検出された南側部分全体の長さは最大で14m・全体幅2.3m、・畝間個々の長さ1.04m ~ 幅0.18 ~ 0.72m、畝部分の個々の幅0.14 ~ 0.32m、確認面からの畝間の深さ0.04 ~ 0.12m。上面を削平されているため、残存状態は悪い。

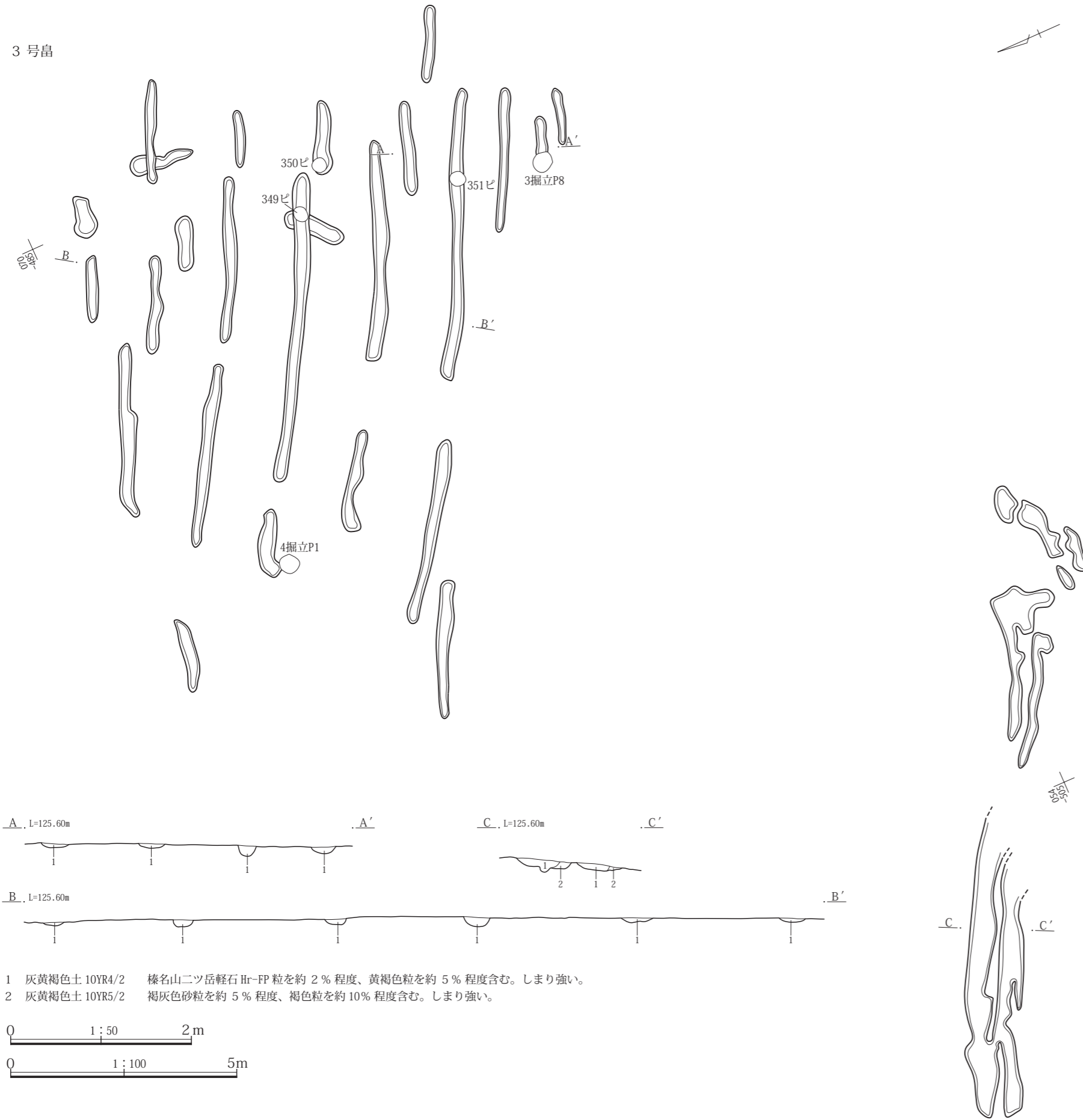
重複：3号掘立柱建物P 8、4号掘立柱建物P 1、349・350・351号ピットに掘り込まれる。

埋土：畝間には灰黄褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：平安時代前~中期。

3号畠



第165図 D区3号畠 平面図・土層断面図

4. 鍛冶遺構

D区北端に近い位置、北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分の北寄りの位置から鍛冶遺構が1基検出された。本遺跡では唯一の鍛冶遺構である。

近年、本遺跡の比較的近辺で実施されている上武道路建設に伴う発掘調査においても、いくつかの鍛冶遺構や製鉄遺構が検出されており(前橋市関根町関根細ヶ沢遺跡、同関根赤城遺跡、同田口町田口上田尻遺跡、同田口下田尻遺跡、前橋市上細井町王久保遺跡など)、本遺跡における鍛冶遺構も、僅か1基とは言え、古代の利根川左岸地域、赤城山南東における集落のあり方を考える上で貴重な資料の一つと位置付けられる。

幅・深さともに各々約1m程度の堀が二重にめぐり、古代の豪族居館の区画溝と考えられる6・7号溝の埋没後、外堀に当たる7号溝が完全に埋まって機能しなくなった後に、この鍛冶遺構がつくられている。なお、本遺跡で検出された鍛冶遺構は、この1基のみである。本遺跡において大規模な製鉄が行われていたわけでは決してない。鍛冶遺構は大きく破壊されており、残存状態は悪く、また、焼土や炭の検出もさほどには顕著ではなく、遺物も少ない。あくまでも村落内の小集団内における小規模な鍛冶とみられよう。

・1号鍛冶遺構(第166・167図、PL.85・86・111)

位置：D区北端に近い位置、北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分の北寄りの位置。2号畠の北側に隣接する。X=48,101～48,103、Y=-69,505～-69,506。

主軸方向：N-22°-E。

規模と形状：東西2.6～2.87m・南北2.42～2.68m・確認面から作業床までの深さは0.15m・掘方までの深さは0.32m。隅丸方形に掘り込みの、中央から北西寄りの位置に幅約1.4mの不整隅丸方形の一段深い炉の掘り込みが設けられており、この内側の炉の掘り込みの周囲に台石、金床石、炉の構築材と考えられる石材片などが散乱した状態で検出された。台石、火床石、構築材は、大小はあるもののいずれも川原石状の自然石で、金床石や石材は、一部、炉の外側の、鍛冶遺構外周の掘り込みにまで散乱していた。

鉄を赤熱させる炉の東側に位置する大きめの自然石は、表面が平らで、鉄を叩いた際の痕跡が表面に看取された。また、炉内の北西では径0.3mの歪な円形状の硬化面が検出された。作業箇所とも推測できるが、それにしては範囲が狭小すぎるように思われる。

炉内およびその周囲からは、炭化材や焼土塊が検出されたが、量的にはそれほど多くはない。また、鞆の羽口や製品を研ぐための砥石、鉄を鍛えるときに出来る鍛造剥片や粒状滓などがごく少量出土した。

炉で1箇所(P1)、炉の外側、鍛冶遺構外周内で3箇所(P2～P4)、ピットが検出されたが、鍛冶遺構の上屋を支える柱穴等は検出されなかった。また、これらのピットの位置から、台石や金床石を据えた痕跡とも考え難く、用途・機能は不明である。

重複：7号溝を掘り込む。

埋土：褐色土。掘方埋土は黒褐色土。炉内には焼土塊が若干混入している。

P1：炉の南西隅。北西-南東に長い不整楕円形状を呈する。長径0.55m・短径0.38m・確認面からの深さ0.1m、黒褐色土が堆積する。

P2：外周部の南東寄り。P3の北東隅を掘り込む。北東-南西に長い不整楕円形状を呈する。長径0.29m・短径0.27m・確認面からの深さ0.1m、黒褐色土が堆積する。

P3：外周部の南東隅。径0.52～0.62mの不整円形状を呈する。確認面からの深さ0.2m、黒褐色土が堆積する。

P4：外周南壁際。東辺がP3の西辺に接する。隅丸三角形形状を呈する。長径0.54m・短径0.37m・確認面からの深さ0.25m、黒褐色土が堆積する。

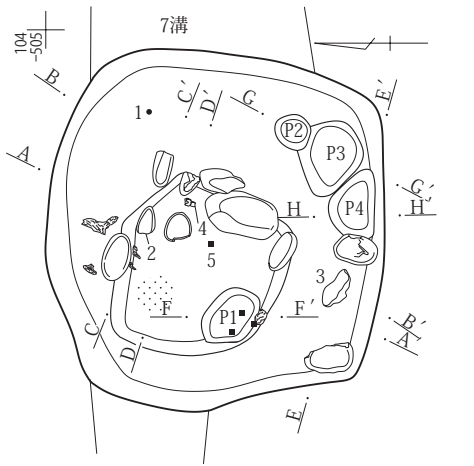
掘方：床面地山を凹凸激しく掘り込んだ上に、外周部で約0.18m、炉の部分で0.04m、黒褐色土を貼り付けて、平坦な作業面、炉床を形成している。台石や金床石を据えた痕跡とP5(径0.35m)が検出された。

遺物：須恵器碗片1点・粗粒輝石安山岩製金床石1点・細粒輝石安山岩製金床石1点・鞆羽口片1点・鉄製刀子1点(埋土)。

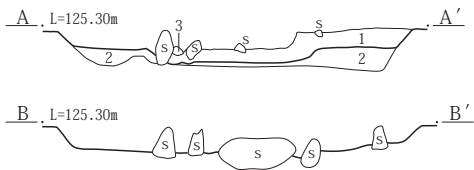
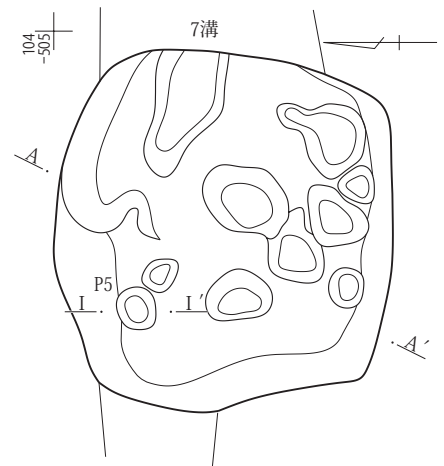
時期：平安時代中期、10世紀前半。

第3章 調査の成果

1号鍛冶遺構

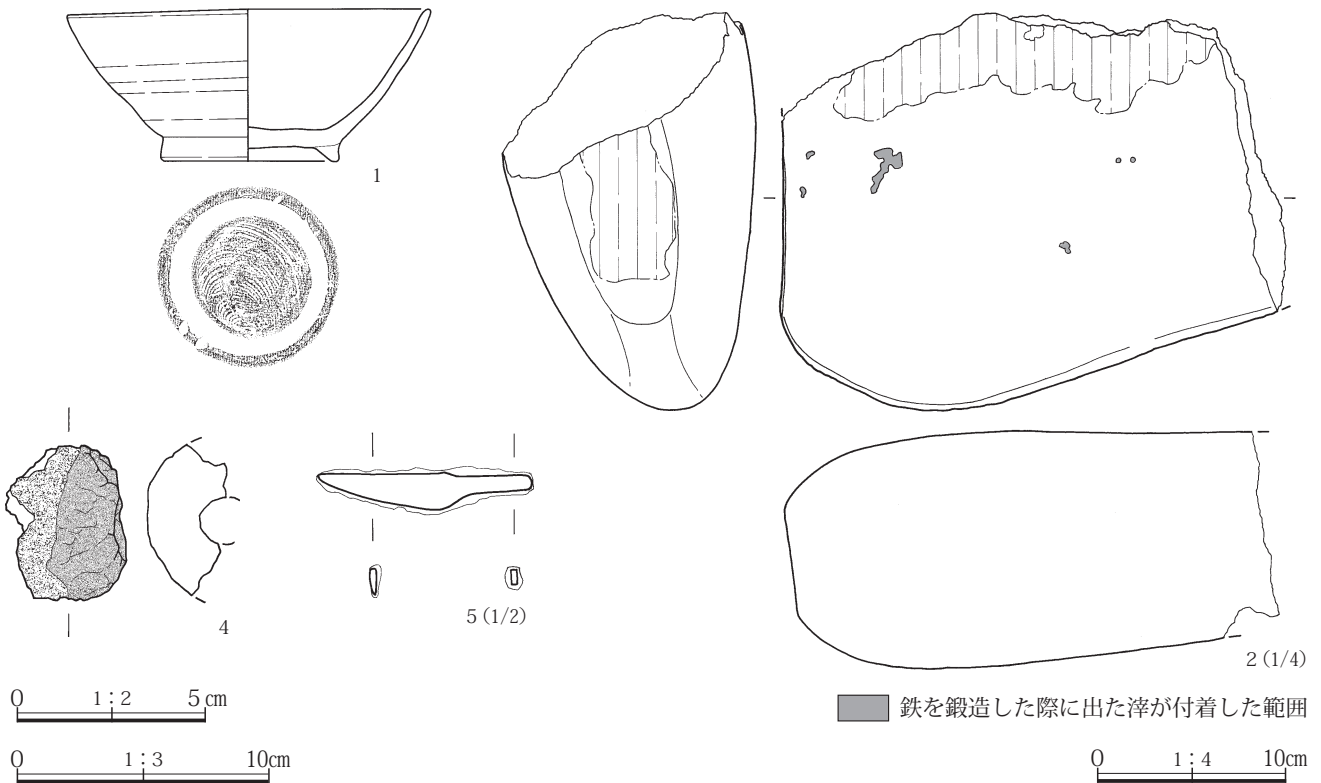
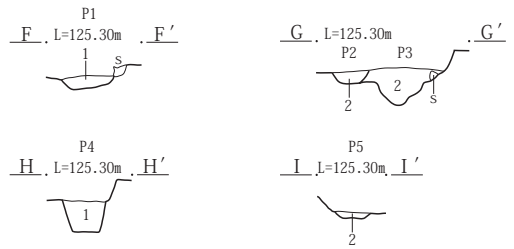
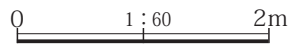


掘方



- 1 褐色粘質土10YR4/6 φ約1～2mm程度の榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物粒を含む。
- 2 黒褐色砂質土10YR2/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を極少量含む。
- 3 赤褐色焼土塊5YR4/6

- 1 黒褐色粘質土10YR2/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を極少量、炭化物を多く含む。
- 2 黒褐色砂質土10YR2/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を極少量、炭化物を含む。



第166図 D区1号鍛冶遺構 平面図・土層断面図・出土遺物(1)



第167図 D区1号鍛冶遺構 出土遺物(2)

5. 窪地

・ 1号窪地(第168図、PL. 86・111)

位置：北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分の中央北寄りの位置。古代の豪族居館の区画溝と考えられる6・7号溝、鍛冶遺構の南側に位置する。X = 48,090 ~ 48,098、Y = -69,502 ~ -69,511。

主軸方向：N-68°-W。

規模と形状：西側が調査区外に出るため、全容は明確ではないが、検出状況から東西に長い隅丸形状を呈するものと思われる。検出東西径10.3m・南北径6.42m・確認面からの深さ0.31m。非常に綺麗に掘り込まれ、内側には平坦面が丁寧に形成されているが、機能は不明である。底部の掘り込み、貼床状の造作はなかった。

重複：2号島を掘り込む。

埋土：褐色土をベースとし、上層に一部鈍い黄褐色土が堆積する。

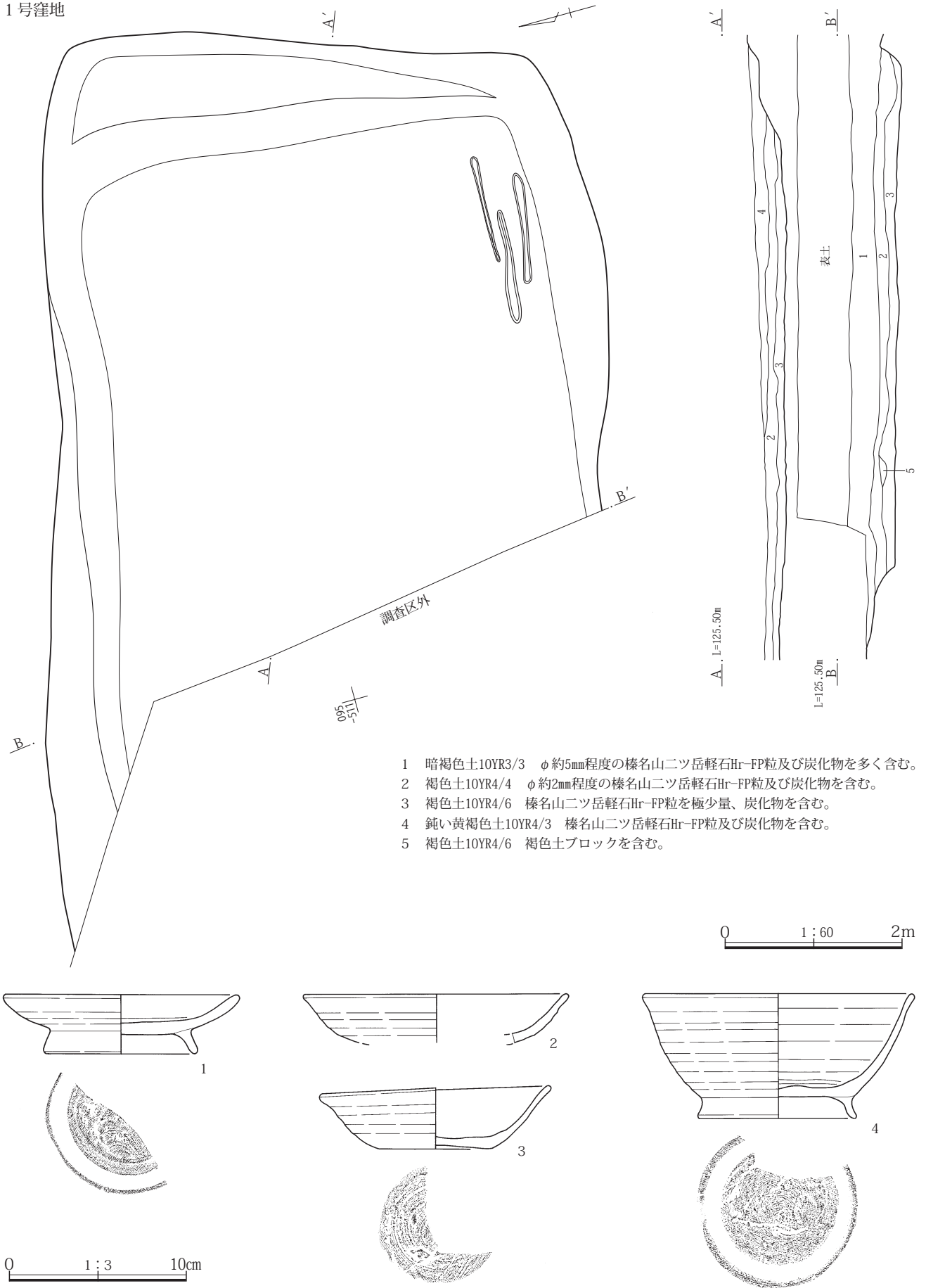
遺物：須恵器椀1点・同皿1点・同杯片2点(埋土)。

時期：平安時代前期、9世紀後半。

6. 溝

先述したようにD区からは7条の溝(5~11号)が検出された。本遺跡では合計14条の溝が検出されているので、そのうちの半数がD区から検出されていることになる。東側に隣接するC区から6条、北東端のA区から1条検出されており、本遺跡で検出された溝のほとんどがC・D区で検出されたことになる。D区で検出された溝で、特筆されるのは、幅・深さともに各々約1m程度の堀が二重にめぐり、古代の豪族居館の区画溝と考えられる6・7号溝である。C3・C4調査区のほぼ大部分を方形に囲む14号溝と、その北側を方形に囲む15号溝がC区では検出されているものの、C区で検出された2つの方形区画溝は近世の屋敷地を囲む溝と考えられるのに対し、本D区で検出された方形区画溝は古代のものと考え

1号窪地



第168図 D区1号窪地 平面図・土層断面図・出土遺物

られ、古代の豪族居館自体の検出例が極めてまれなだけに重要な事例である。ただし、内部構造に関わる部分が調査区外になっており、解明することはできなかった。

(1) 5号溝(第169図、PL. 86)

位置：D区の北端。北・東・西壁に掛かる。東西方向に走行する。X=48,118、Y=-69,508～-69,510。

主軸方向：N-85°-W。

規模と形状：ほぼ東西方向に流れる。北・東・西壁に掛かっており、全長で3.7m分のみしか検出出来なかった。検出幅0.7m・確認面からの深さ0.47m。断面は台形状を呈し、しっかりとした掘方を有している。5号溝は、6・7号溝とは規模形状が異なるので、6・7号溝が区画する平安時代前期の豪族居館との関係は考えにくい。

重複：なし。

遺物：なし。

時期：不明。

(2) 6・7号溝(第169～171図、PL. 86～88・111)

位置：D区北端に近い位置、北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分の北寄りの位置。二重に巡る溝のうち、南西隅で北側に向かって屈曲する内側の溝が6号、東西方向に延びる外側が7号である。両溝とも東西両壁に掛かる。X=48,101～48,112、Y=-69,502～-69,522。

主軸方向：6号溝：東壁から12.8mまでは東西方向でN-86°-W、東壁から約ほぼ13.2mの位置で直角に南北方向に屈曲しN-4°-W。7号溝：東西方向にN-86°-W。

規模と形状：平安時代前期の豪族居館を方形に区画するものと考えられる二重の溝の一部と考えられる。区画内の建物遺構は調査区内では検出されておらず、北側の調査区外に展開していたものと考えられる。

6号溝：東端は調査区外に延びる。東西方向に走行し、東壁から東12.8mの地点で止まる。東壁から13.2mの位置からは直角に南北方向に走行し、北端は調査区外に延びる。全体的にL字状を呈する。東西方向検出長12.8m、上幅0.96～1.88m、底幅0.43～0.82m、確認面からの深さ0.36～0.91m。南北方向検出長5.06m、上幅0.74～1.3m、底幅0.32～0.73m、確認面からの深さ0.13～0.29m。ともに断面は逆台形状を呈し、しっかりと

した掘方を有するが、南北方向の部分は掘方が浅い。全体的に炭化材塊の出土が顕著であったが、この炭化材塊の由来、すなわち、溝に囲まれた内部の建物の建築部材であるのか、あるいは外部からの流入であるのかは明らかにできなかった。

7号溝：東西方向から南北方向にL字状に屈曲する6号溝の南側を東西方向に走行する。東西両側調査区外に延びている。東壁から13.8mのところまで止まり、幅1.4mの土橋状の掘り残し部分を挟む。

東側検出長13.8m、上幅0.82～1.61m、底幅0.43～0.72m、確認面からの深さ0.26～0.77m。西側検出長4.7m、上幅1.17～1.62m、底幅0.4～0.73m、確認面からの深さ0.61～0.8m。ともにしっかりとした掘方を有するが、断面は不整形である。

重複：2号畠を掘り込む。埋没後の7号溝の上面に鍛冶遺構が形成される。

埋土：上層に鈍い黄褐色土・灰黄褐色土。下層に黒褐色土・褐色土が堆積する。

遺物：須恵器杯1点・同皿2点・粗粒輝石安山岩製砥石片1点(埋土)。

時期：平安時代前期、9世紀後半。

(3) 8・9号溝(第171・200図、PL. 89)

位置：D区の南東隅寄り。8号溝の南側2.3～2.4mの位置を並行して同方向に走行する8号溝よりも小規模な溝が9号溝である。X=48,045～48,052、Y=-69,477～-69,493。

主軸方向：N-66°-E。

規模と形状：8号溝：東西両端とも調査区外に延びる。東北東-西南西方向に走行する。検出長17.3m、上幅0.68～1.12m、底幅0.26～0.68m、確認面からの深さ0.25～0.38m。断面は浅い逆台形状を呈する。

9号溝：西端は調査区外に延びる。東端は、西壁から8.4mのところまで止まる。上幅0.24～0.56m、底幅0.06～0.27m、確認面からの深さ0.07～0.16m。断面は不整形である。

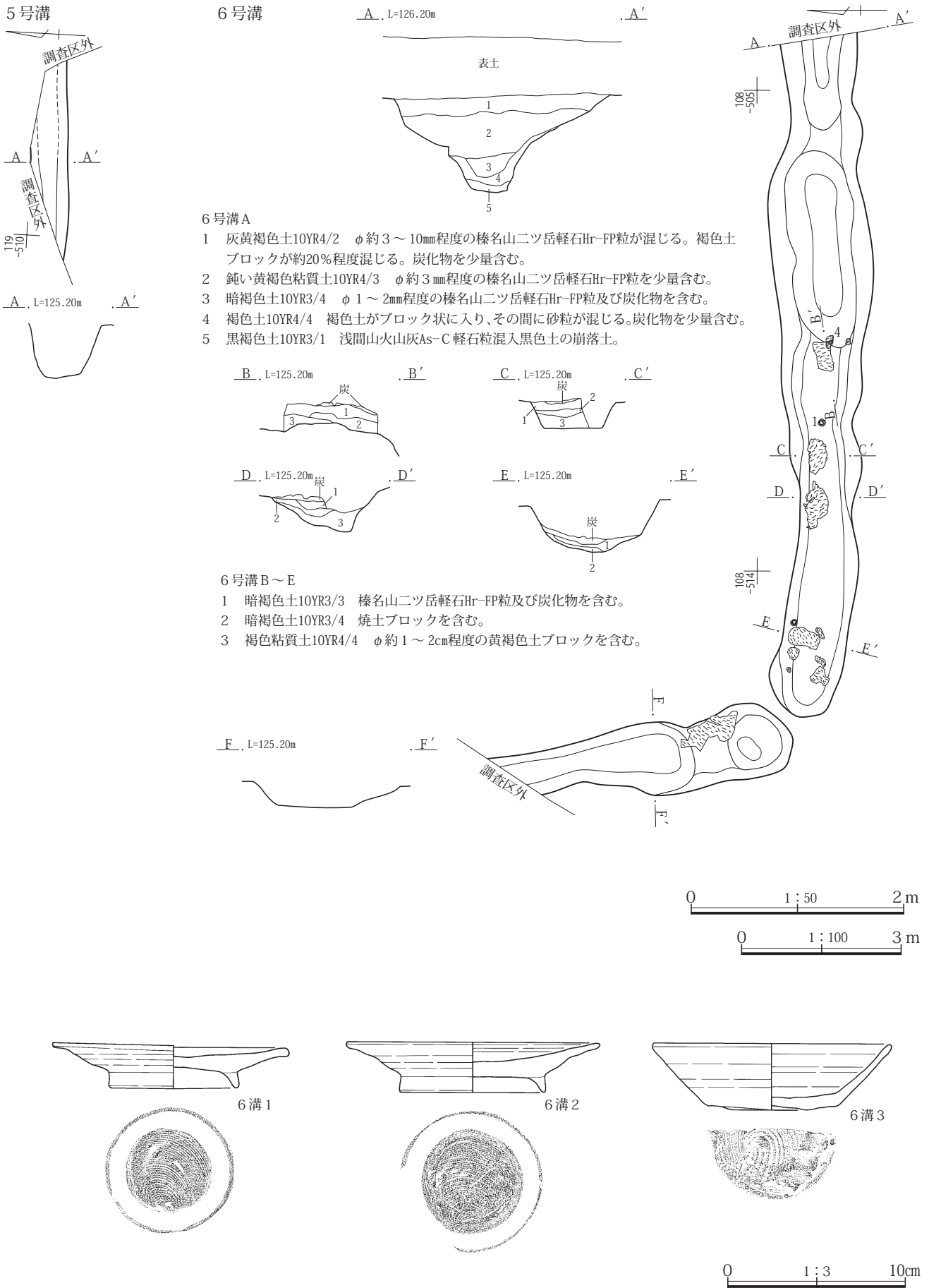
重複：8号溝が18号住居を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

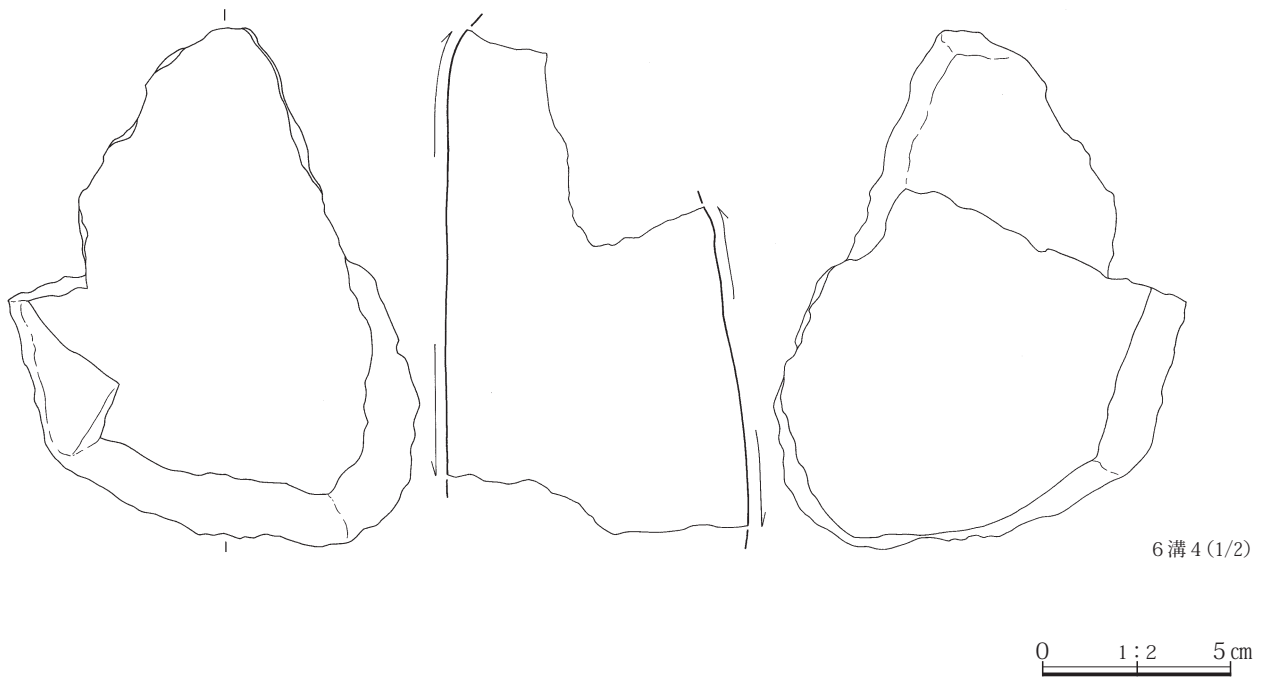
遺物：須恵器碗片1点(埋土)。

時期：平安時代中期、10世紀前半。

第3章 調査の成果



第169図 D区5・6号溝 平面図・土層断面図、6号溝出土遺物(1)



第170図 D区6号溝 出土遺物(2)

(4) 10・11号溝(第172図、PL. 89・90)

位置: D区の東寄りの位置。16号住居の東側に近接する。

X = 48,057 ~ 48,075、Y = -69,511 ~ -69,516。

主軸方向: N-4°-W。

規模と形状: D区の西寄りの位置をわずかに西から東に蛇行しながら南から北北西方向に走行する。11号溝は10号溝の底部下から検出された。両溝の走行方向はほぼ一致しており、11号溝が掘り直されたのが10号溝と考えられる。

10号溝: D区南壁から約14.5m北の位置から検出され、北端は調査区外に延び、北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分においてさらに北側に続く部分が検出されたが、この部分で検出されたのは痕跡に留まる。検出全長18m、上幅0.55 ~ 1.71m、底幅0.22 ~ 0.88m、確認面からの深さ0.11 ~ 0.19m。断面は浅く扁平な逆台形状を呈する。

11号溝: D区南壁から約14m北の位置から検出され、北壁調査区外に延びる。北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分においては検出されなかった。上幅0.

49 ~ 0.79m、底幅0.14 ~ 0.44m、10号溝の底部から確認できた深さは0.04 ~ 0.05m。断面は扁平な形状である。

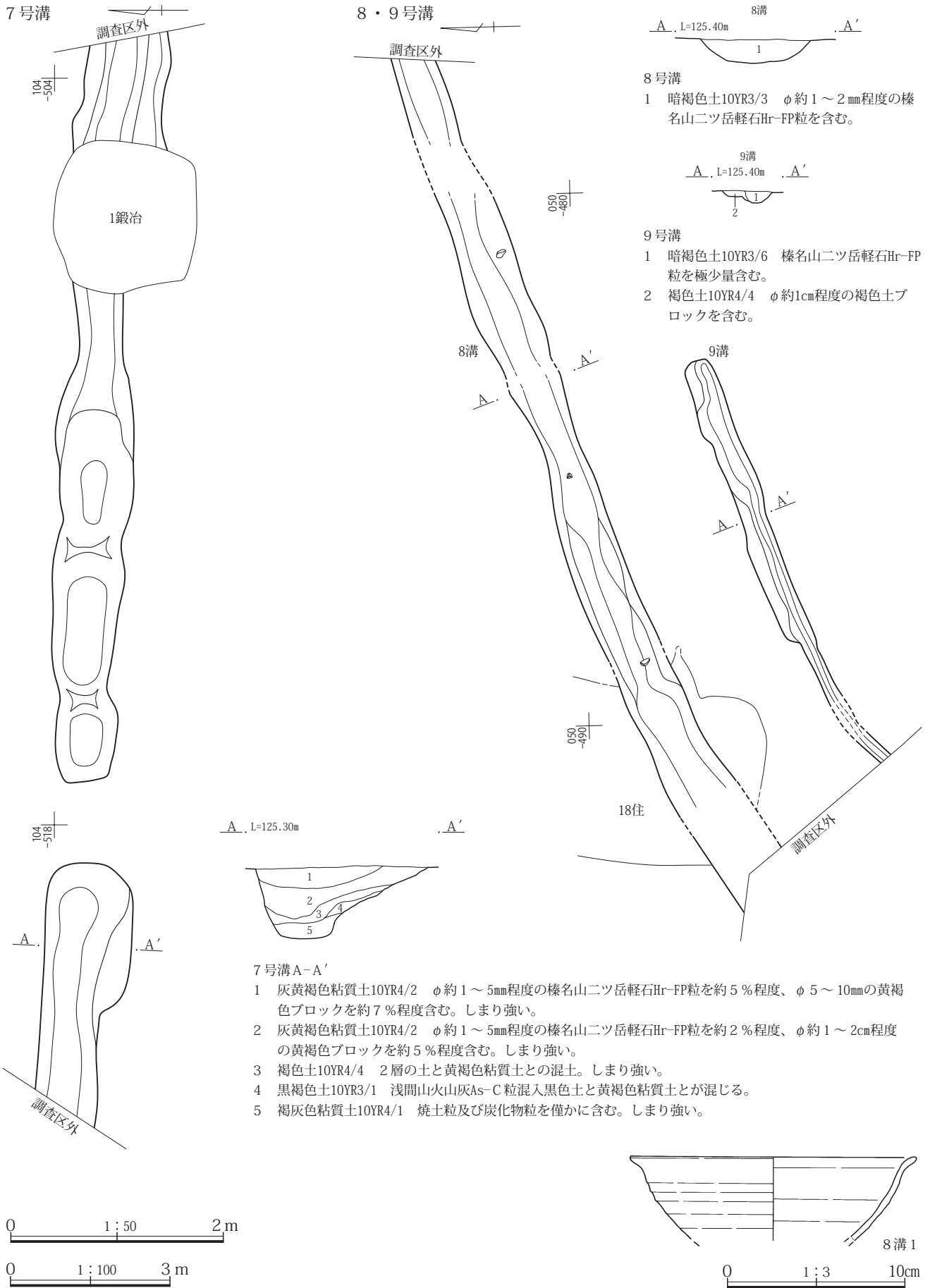
重複: 10号溝は11号溝を掘り込む。401・402号ピットに掘り込まれる。11号溝は10号溝に掘り込まれる。

埋土: 10号溝は黒褐色土をベースとし、下層に褐色土、暗褐色土が堆積する。11号溝の検出部分では黄褐色土の堆積が認められた。

遺物: なし。

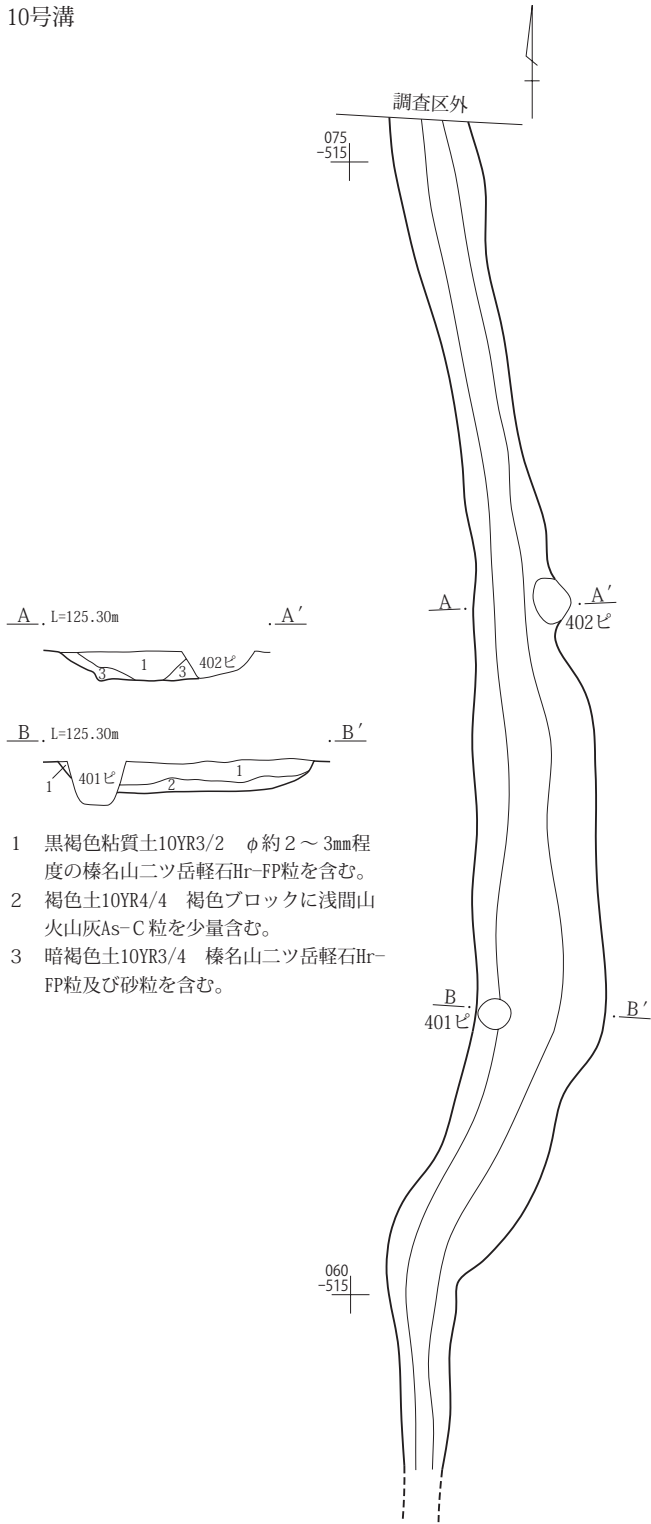
時期: 不明。

第3章 調査の成果

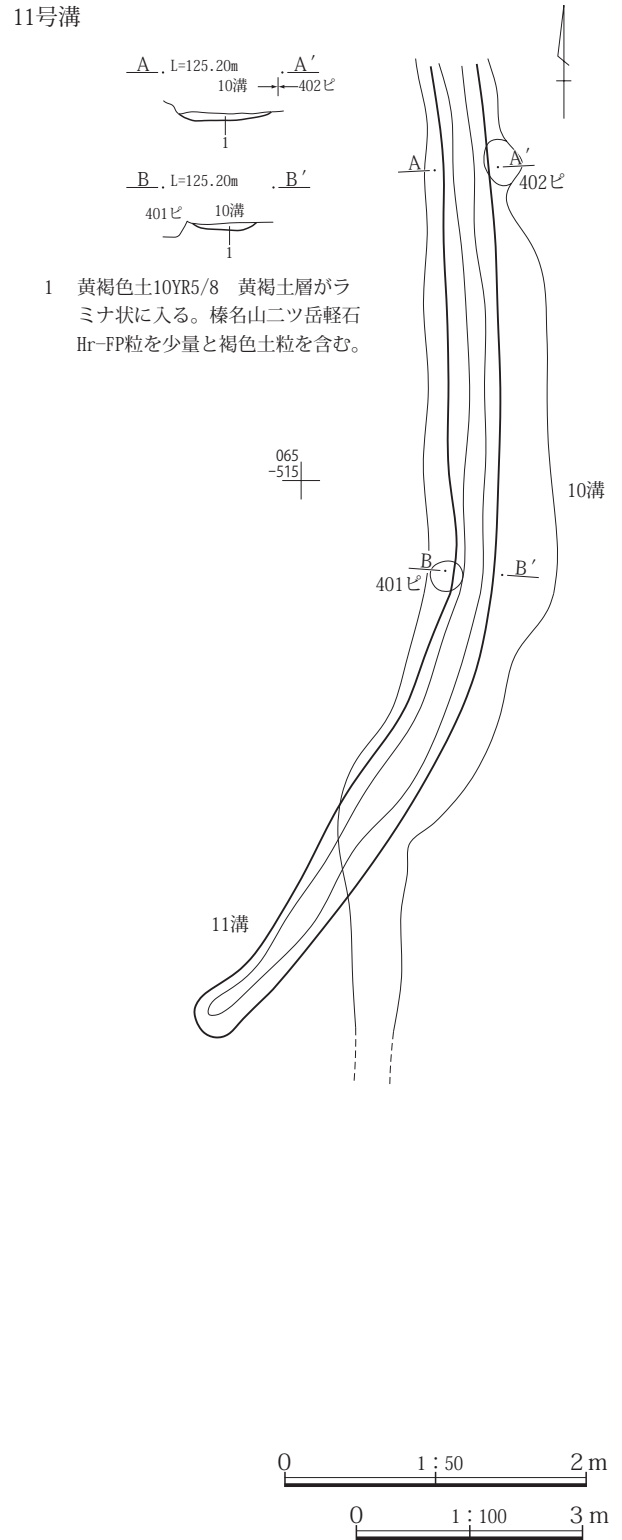


第171図 D区7～9号溝 平面図・土層断面図、8号溝出土遺物

10号溝



11号溝



第172図 D区10・11号溝 平面図・土層断面図

7. 土坑

D区からは40基の土坑(131、133～156、160、161、163、176～187号)が検出された。

本遺跡では合計209基の土坑が検出されている。本遺跡で検出された土坑の約6割がC区で、約2割がD区で検出されたことになる。

いずれも用途不明であり、大きさ、深さもまちまちであった。

(1) 131号土坑(第173図)

位置：D区北端に近い位置、北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分の北寄りの位置。二重に巡る溝のうち、南西隅で北側に向かって屈曲する内側の6号溝と、東西方向に延びる外側の7号溝の間に位置し、西壁に掛かる。X=48,106～48,107、Y=-69,520～-69,521。

規模と形状：西側大半が調査区外に出るため全容は全く不明。検出北東-南西径1.16m、検出北西-南東径0.34m、検出深度0.68m。

重複：なし。

埋土：上層に灰黄褐色土、中層に鈍い黄褐色土、下層に暗褐色土が堆積する。

遺物：なし。

時期：不明。

(2) 133号土坑(第173図、PL. 90)

位置：D区北端に近い北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分の南寄りの位置。1号窪地の東側に位置する。東壁に掛かる。X=48,090～48,091、Y=-69,500。

主軸方向：N-36°-W。

規模と形状：東側大半が調査区外に出るため全容は全く不明。検出南北径0.8m、検出東西径0.32m、検出深度0.67m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(3) 134号土坑(第173図、PL. 90)

位置：D区北端に近い北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分の南寄りの位置。1号窪地の南側に隣接する。X=48,088～48,089、Y=-69,505～-69,506。

主軸方向：N-37°-W。

規模と形状：北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。長径1m・短径0.75m・深さ0.17m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(4) 135号土坑(第173図、PL. 90)

位置：D区北端に近い北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分の西寄りの位置。南壁にかかる。X=48,099、Y=-69,522～-69,523。

規模と形状：南側が調査区外に大きく出るために全容不明。検出南北径0.62m・検出東西径0.53m・深さ0.32m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、中層明黄褐色土、下層灰黄褐色土・黒褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(5) 136号土坑(第173図、PL. 91)

位置：D区の北寄りの位置。東壁際。13号住居の北側に位置する。X=48,075～48,076、Y=-69,475～-69,476。

主軸方向：N-21°-W。

規模と形状：南北に長い不整楕円形状を呈する。長径0.74m・短径0.61m・深さ0.15m。

重複：なし。

埋土：上層灰黄褐色土、下層褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(6) 137号土坑(第173図、PL. 91)

位置：D区の中央、やや北寄りの位置。13号住居の南側に位置する。東壁に掛かる。X=48,063～48,064、Y

=-69,476 ~ -69,477。

規模と形状：東側が調査区外に出るため全容は不明であるが、東西方向に長い楕円形状を呈するものと考えられる。南北径0.65m・検出東西径0.57m・深さ0.21m。

重複：なし。

埋土：黒褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(7) 138号土坑(第173図、PL. 91)

位置：D区の中央、東寄りの位置。139号土坑の北側に位置する。X=48,064 ~ 48,065、Y=-69,480。

主軸方向：N-28°-W。

規模と形状：南北に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.68m・短径0.64m・深さ0.11m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(8) 139号土坑(第173図、PL. 91)

位置：D区の中央、東寄りの位置。138号土坑の南側に位置し、140号土坑の北側に隣接する。X=48,062、Y=-69,480 ~ -69,481。

主軸方向：N-7°-E。

規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.54m・短径0.5m・深さ0.11m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(9) 140号土坑(第173図、PL. 91)

位置：D区の中央、東寄りの位置。139号土坑の南側に隣接し、141号土坑の北側に位置する。X=48,060 ~ 48,061、Y=-69,480 ~ -69,481。

主軸方向：N-7°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.62m・短径0.41m・深さ0.13m。

重複：なし。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(10) 141号土坑(第174図、PL. 91)

位置：D区の中央、東寄りの位置。140号土坑の南側、142号土坑の北側に位置する。X=48,058 ~ 48,059、Y=-69,481。

主軸方向：N-80°-W。

規模と形状：東西にやや長い楕円形状を呈する。長径0.94m・短径0.88m・深さ0.26m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(11) 142号土坑(第174図、PL. 91)

位置：D区の中央、東寄りの位置。141号土坑の南側に位置する。X=48,056 ~ 48,057、Y=-69,480 ~ -69,481。

主軸方向：N-5°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.93m・短径0.86・深さ0.2m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(12) 143号土坑(第174図、PL. 91)

位置：D区の中央、やや東寄りの位置。3号掘立柱建物の西側、176号土坑の北側に近接する。X=48,058 ~ 48,061、Y=-69,490 ~ -69,491。

主軸方向：N-11°-E。

規模と形状：南北に長い隅丸長方形形状を呈する。長径2.23m・短径1.29m・深さ0.24m。

重複：なし。

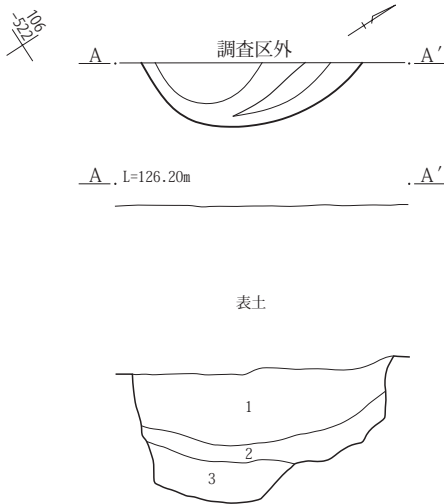
埋土：鈍い黄褐色土。

遺物：須恵器杯片1点(埋土)。

時期：不明。

第3章 調査の成果

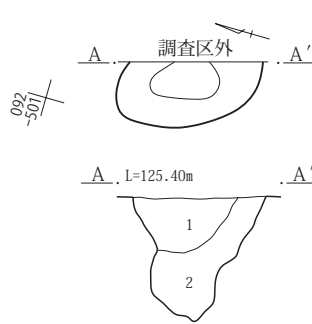
131号土坑



131号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 褐色土ブロックが約20%程度及びφ約3～10mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒が混じる。炭化物を少量含む。
- 2 鈍い黄褐色粘質土10YR4/3 φ約3mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。
- 3 暗褐色粘質土10YR3/3 φ約1～2mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び褐色粒を少量含む。

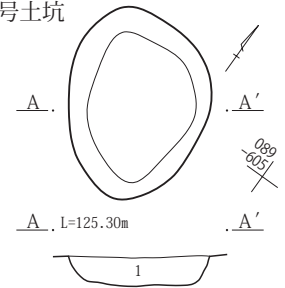
133号土坑



133号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強く粘性あり。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 暗褐色土との混土でしまり強く粘性あり。

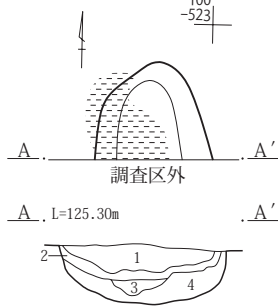
134号土坑



134号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 φ約1～5mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約5%程度、鈍い黄褐色砂質土を約50%程度含む。しまり強い。

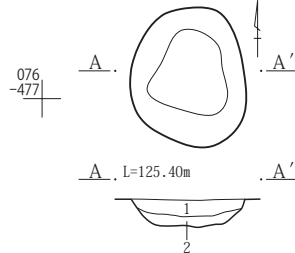
135号土坑



135号土坑

- 1 暗褐色粘質土10YR3/4 φ約1～5mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度含む。しまり強い。
- 2 明黄褐色粘質土10YR6/6 炭化物を僅かに含む。しまり強い。
- 3 灰黄褐色土10YR5/2 炭化物粒を含む砂層。しまりやや弱い。
- 4 黒褐色土10YR3/2 炭化物粒を約10%程度含む。しまり強く粘性あり。

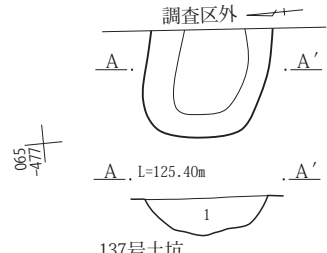
136号土坑



136号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 φ約1～5mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度含む。しまり強く粘性あり。
- 2 褐色砂質土10YR4/4 φ約1～5mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度含む。しまり強い。

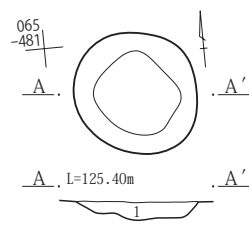
137号土坑



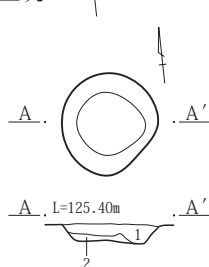
137号土坑

- 1 黒褐色土10YR2/2 φ約1～5mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約5%程度含む。しまりやや強く粘性あり。

138号土坑



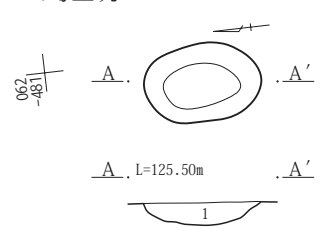
139号土坑



138・139号土坑

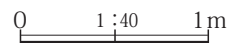
- 1 暗褐色土10YR3/3 土質粗く黒褐色ブロック、褐色土混じりで鉄分沈着あり。榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR5/3 砂層と1層の土との混土。

140号土坑



140号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 浅間山火山灰As-C粒を約10%程度含む層と粘性のある褐色土との混土。しまり強い。



第173図 D区土坑 平面図・土層断面図(1)

(13) 144号土坑(第174図、PL. 91)

位置：D区の中央、やや東寄りの位置。X=48,065～48,066、Y=-69,493～-69,494。

主軸方向：N-37°-W。

規模と形状：北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。長径0.86m・短径0.43m・深さ0.27m。

重複：4号掘立柱建物P2を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(14) 145号土坑(第174図、PL. 91・92)

位置：D区の中央よりやや南東寄りの位置。353号ピットの南西側、441号ピットの北側に位置する。X=48,057、Y=-69,495。

主軸方向：N-47°-W。

規模と形状：北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。長径0.7m・短径0.62m・深さ0.53m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(15) 146号土坑(第174図、PL. 92)

位置：D区の中央よりやや南寄りの位置。15号住居の東側に隣接する。X=48,057～48,058、Y=-69,496～-69,497。

主軸方向：N-22°-E。

規模と形状：南北に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.6m・短径0.57m・深さ0.46m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(16) 147号土坑(第174図、PL. 92)

位置：D区の南東寄りの位置。14号住居の北側、372号ピットの西側、373号ピットの東側に隣接する。X=48,053～48,054、Y=-69,492。

主軸方向：N-18°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.51m・短径0.42m・深さ0.15m。

重複：148号土坑の北端を掘り込む。

埋土：灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(17) 148号土坑(第174図、PL. 92)

位置：D区の南東寄りの位置。14号住居の北側、372号ピットの西側、373号ピットの東側に隣接する。X=48,053、Y=-69,492。

主軸方向：N-5°-W。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.51m・短径0.42m・深さ0.15m。

重複：147号土坑に北端を掘り込まれる。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(18) 149号土坑(第174図、PL. 92)

位置：D区の中央部。151号土坑・403号ピットの北側、394・395号ピットの東側に位置する。X=48,062、Y=-69,501。

主軸方向：N-6°-W。

規模と形状：南北に僅かに長い不整楕円形状を呈する。長径0.73m・短径0.7m・深さ0.66m。

重複：なし。

埋土：褐色土・暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(19) 150号土坑(第174図、PL. 92)

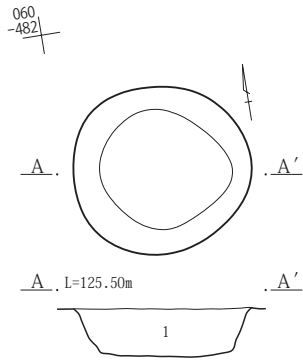
位置：D区の中央部、やや南寄りの位置。403号ピットの南側、151号土坑のすぐ西側、400号ピットのすぐ北側、407号ピットの北東側に近接する。X=48,060～48,061、Y=-69,501～-69,502。

主軸方向：N-4°-E。

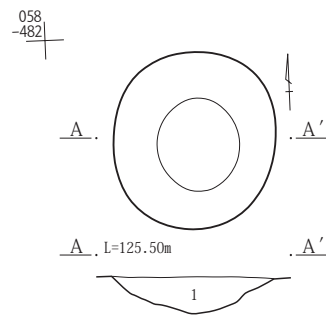
規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径0.74m・短径0.53m・深さ0.13m。

第3章 調査の成果

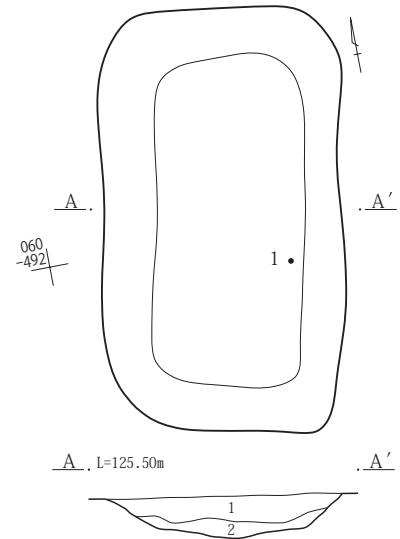
141号土坑



142号土坑



143号土坑



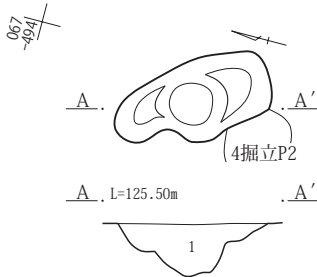
141・142号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約5%程度、褐灰色砂粒を約10%程度含む。固くしまり強い。

143号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 φ約1～5mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、焼土粒、炭化物粒を僅かに含む。しまり強い。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 褐色砂粒層と1層の土との混土。しまり強い。

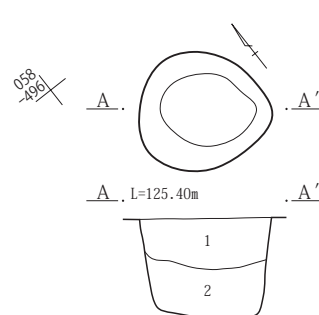
144号土坑



144号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 焼土粒及び榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒をそれぞれ約2%程度含む。しまり強い。

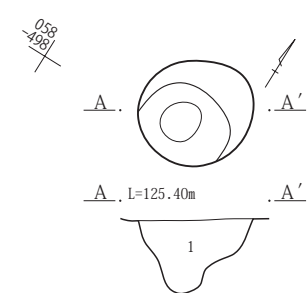
145号土坑



145号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色砂粒をそれぞれ約5%程度、炭化物を僅かに含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 ほぼ均一でわずかに榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色色を含む。しまりやや強く粘性あり。

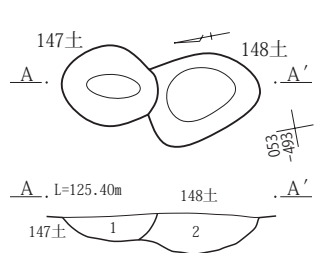
146号土坑



146号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び灰黄褐色砂粒をそれぞれ約5%程度含む。しまり強い。

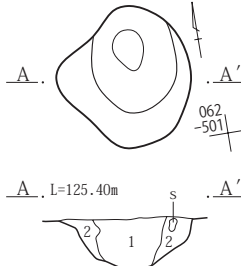
147・148号土坑



147・148号土坑

- 1 灰黄褐色砂質土10YR4/2 暗褐色土との混土で、榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度含む。しまりやや強く粘性あり。

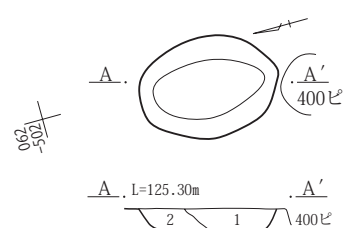
149号土坑



149号土坑

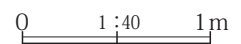
- 1 暗褐色粘質土10YR3/3 φ約1～3mm程度の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を含む。
- 2 褐色土10YR4/6 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。

150号土坑



150号土坑

- 1 褐色土10YR4/6 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。
- 2 褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。



第174図 D区土坑 平面図・土層断面図(2)

重複：なし。
埋土：褐色土。
遺物：なし。
時期：不明。

(20) 151号土坑(第175図、PL. 92)

位置：D区の中央部、やや南寄りの位置。149号土坑のすぐ南側、150号土坑のすぐ東側に近接する。X = 48,061、Y = -69,501。
主軸方向：N-39°-E。
規模と形状：北東-南西方向に長い不整楕円形状を呈する。長径0.77m・短径0.72m・深さ0.41m。
重複：403号ピットの南東隅を掘り込む。
埋土：上層鈍い黄褐色土、下層褐色土。
遺物：なし。
時期：不明。

(21) 152号土坑(第175図、PL. 92)

位置：D区の中央部、やや南寄りの位置。400号ピットのすぐ南側、407号ピットの東側、384～386号ピットの東側に近接する。X = 48,059～48,060、Y = -69,501～-69,502。
主軸方向：N-36°-E。
規模と形状：南北にやや長い楕円形状を呈する。長径0.71m・短径0.62m・深さ0.22m。
重複：なし。
埋土：暗褐色土。
遺物：なし。
時期：不明。

(22) 153号土坑(第175図、PL. 92・93)

位置：D区の中央部。やや南寄りの位置。396～398号ピットの南側、378・379号ピットの東側、357・358号ピットの西側に位置する。X = 48,062～48,063、Y = -69,498。
主軸方向：N-4°-E。
規模と形状：南北に長い長方形形状を呈する。南側が浅く、中央部から北側にかけて段をつけて深く掘り込まれている。長径1.18m・短径0.62m・深さ0.63m。しっかりとした掘方を有する。

重複：4号掘立柱建物と重複するが新旧関係は不明。
埋土：灰黄褐色土。
遺物：なし。
時期：不明。

(23) 154号土坑(第175図、PL. 93)

位置：D区の中央部、西寄りの位置。155号土坑のすぐ北側に接し、10号溝の東側に位置する。X = 48,061～48,062、Y = -69,509～-69,510。
主軸方向：N-81°-W。
規模と形状：東西に長い不整形を呈する。北側に一段と深く掘り込んだ部分が2箇所検出された。長径1.41m・短径0.95m・深さ0.68m。
重複：413号ピットの南辺を掘り込む。
埋土：上層褐色土、下層鈍い黄褐色土。
遺物：なし。
時期：不明。

(24) 155号土坑(第175図、PL. 93)

位置：D区の中央部、西寄りの位置。154号土坑のすぐ南側に接し、414・415号ピットの北側に位置する。X = 48,060～48,061、Y = -69,510。
主軸方向：N-36°-E。
規模と形状：北東-南西方向に長い不整形を呈する。長径0.97m・短径0.75m・深さ0.61m。
重複：なし。
埋土：上層褐色土・鈍い黄褐色土、下層褐色土。
遺物：なし。
時期：不明。

(25) 156号土坑(第175図、PL. 93・111)

位置：D区の中央、南寄りの位置。146号土坑の北西側に隣接する。X = 48,058～48,059、Y = -69,497～-69,498。
主軸方向：N-28°-W。
規模と形状：北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。長径0.76m・南北径0.51m・深さ0.65m。
重複：15号住居に西側を掘り込まれる。
埋土：上層黒褐色土、中層灰黄褐色土、下層褐色土。
遺物：須恵器杯1点(埋土)。

時期：古代。

(26) 160号土坑(第175図、PL. 93)

位置：D区の中央部、東寄りの位置。X=48,079、Y=-69,482。

主軸方向：N-54°-W。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.62m・短径0.48m・深さ0.16m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(27) 161号土坑(第175図、PL. 93)

位置：D区北端に近い北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分とD区本線部分とが接続する位置の中央。339号ピットのすぐ南側に近接し、163号土坑・430号ピットの北側に隣接する。X=48,080、Y=-69,503。

主軸方向：N-79°-E。

規模と形状：東西に長い楕円形状を呈する。長径0.78m・短径0.62m・深さ0.17m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(28) 163号土坑(第175図、PL. 93)

位置：D区北端に近い北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分とD区本線部分とが接続する位置の中央。161号土坑の南側、438号ピットの北東側に位置する。X=48,079、Y=-69,502~-69,503。

主軸方向：N-56°-W。

規模と形状：北西-南東方向に長い楕円形状を呈する。長径0.8m・短径0.47m・深さ0.11m。

重複：430号ピットの南東側を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(29) 176号土坑(第175図、PL. 93)

位置：D区の中央よりやや南東寄りの位置。3号掘立柱建物のすぐ西側に近接し、143号土坑の南側に隣接する。X=48,057~48,058、Y=-69,490~-69,491。

主軸方向：N-27°-W。

規模と形状：北東-南西方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.89m・短径0.86m・深さ0.19m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(30) 177号土坑(第176図、PL. 93)

位置：D区の中央よりやや南東寄りの位置。3号掘立柱建物のすぐ南側に近接する。X=48,055~48,056、Y=-69,490~-69,491。

主軸方向：N-73°-E。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.56m・短径0.45m・深さ0.13m。

重複：なし。

埋土：黒褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(31) 178号土坑(第176図、PL. 94)

位置：D区の中央より北東寄りの位置。X=48,072~48,073、Y=-69,486~-69,488。

主軸方向：N-85°-W。

規模と形状：東西に長い隅丸長方形形状を呈する。長径1.42m・短径0.75m・深さ0.18m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

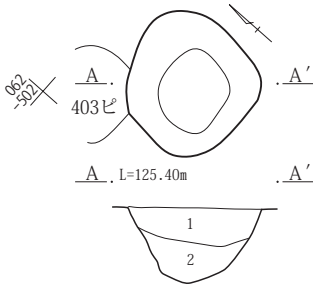
遺物：なし。

時期：不明。

(32) 179号土坑(第176図、PL. 94)

位置：D区北端に近い北西側から県道本線への進入・接続路に当たる部分とD区本線部分とが接続する位置の東寄り。北壁に掛かる。455号ピットの北東側に位置する。X=48,081~48,082、Y=-69,492~-69,493。

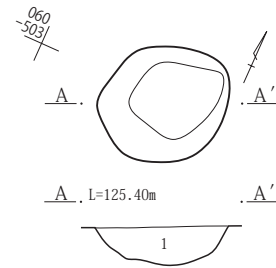
151号土坑



151号土坑

- 1 鈍い黄褐色土10YR4/3 細かい軽石粒含む。
- 2 褐色土10YR4/6 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。

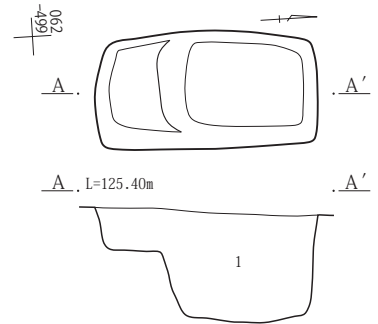
152号土坑



152号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 灰黄褐色砂粒を約10%程度、榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。

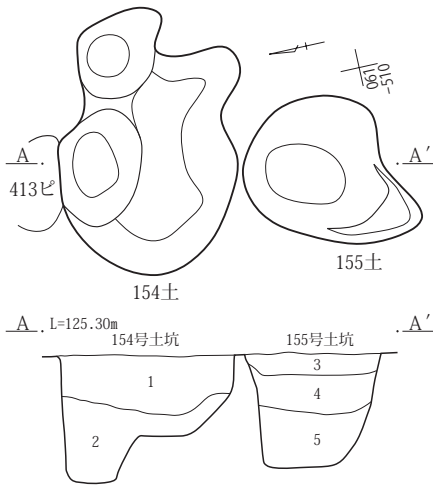
153号土坑



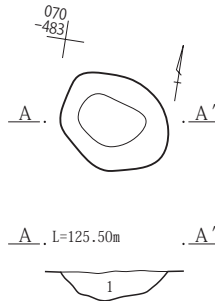
153号土坑

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 褐灰色土との混土で一括埋土。しまりやや弱い。

154・155号土坑



160号土坑



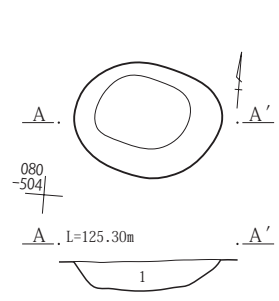
160・161号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 黄褐色粒を約5%程度、灰黄褐色砂粒を約10%程度、榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度含む。しまり強い。

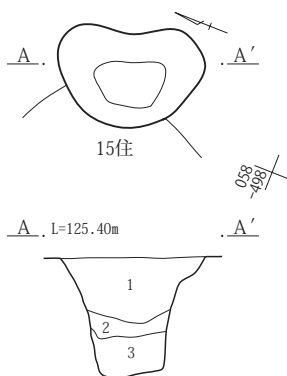
154・155号土坑

- 1 褐色粘質土10YR4/6 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色土ブロックを含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 黄褐色土ブロック含む。榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。
- 3 褐色粘質土10YR4/6 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色土ブロックを含む。
- 4 鈍い黄褐色土10YR4/3 黄褐色土ブロックを含む。榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。
- 5 褐色粘質土10YR4/4 黄褐色土ブロックを含む。

161号土坑



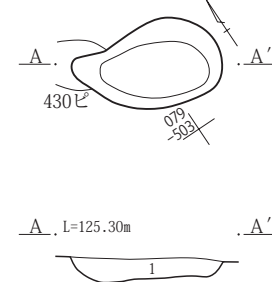
156号土坑



156号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/2 やや砂質。榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 やや砂質。φ約5mm程度の褐色土ブロックを含む。
- 3 褐灰色砂質土10YR4/1 φ約2～3mm程度の礫を少量含む。

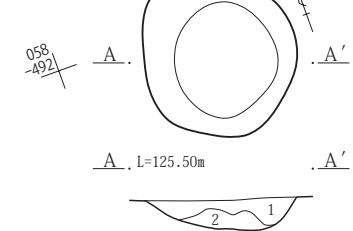
163号土坑



163号土坑

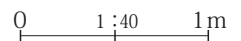
- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度、灰黄褐色砂粒を約10%程度含む。しまり強い。

176号土坑



176号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/2 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物粒を僅かに含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 鈍い黄褐色砂質土との混土。しまりやや強い。



第175図 D区土坑 平面図・土層断面図(3)

主軸方向：N-74°-W。

規模と形状：北側が調査区外に出るため全容は不明。検出東西径0.73m・短径0.37m・深さ0.18m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(33) 180号土坑(第176図、PL. 94)

位置：D区の南東寄りの位置。8号溝のすぐ北側に近接する。X=48,050～48,051、Y=-69,488～-69,489。

主軸方向：N-57°-W。

規模と形状：東北東-西南西方向に長い楕円形状を呈する。長径1.08m・検出南北径0.82m・深さ0.2m。

重複：18号住居を掘り込む。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(34) 181号土坑(第176図、PL. 94)

位置：D区のやや北東寄りの位置。456号ピットの北東側に隣接する。X=48,074～48,075、Y=-69,493～-69,494。

主軸方向：N-10°-E。

規模と形状：南北に長い楕円形状を呈する。長径1.11m・短径0.82m・深さ0.13m。

重複：なし。

埋土：上層黒褐色土、下層鈍い黄褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(35) 182号土坑(第176図、PL. 94)

位置：D区の中央よりやや北東寄りの位置。457号ピットの南側に隣接する。X=48,072～48,073、Y=-69,495～-69,496。

主軸方向：N-60°-E。

規模と形状：東北東-西南西方向に長い楕円形状を呈する。断面は東側が浅く、西側が一段深くなっている。長径1.01m・短径0.68m・深さ0.47m。

重複：なし。

埋土：黒褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(36) 183号土坑(第176図、PL. 94)

位置：D区の中央よりやや北寄りの位置。X=48,069～48,070、Y=-69,499。

主軸方向：N-8°-W。

規模と形状：東北東-西南西方向に僅かに長い楕円形状を呈する。長径0.55m・短径0.52m・深さ0.15m。

重複：なし。

埋土：上層黒褐色土、下層暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(37) 184号土坑(第176図、PL. 94・111)

位置：D区の北西寄りの位置、北壁付近。185号土坑の南側、10・11号溝の東側に隣接する。X=48,073～48,074、Y=-69,511。

主軸方向：N-86°-W。

規模と形状：東西に僅かに長い楕円形状を呈する。南側約半分は、試掘トレンチにより破壊されているものの、大きさは判明する。長径0.73m・短径0.7m・深さ0.17m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：土師器小型甕口縁部片1点・須恵器椀1点(埋土)。

時期：不明。

(38) 185号土坑(第176図、PL. 94)

位置：D区の北西寄りの位置、北壁に掛かる。184号土坑の北側に隣接する。X=48,074～48,075、Y=-69,510～-69,512。

主軸方向：N-87°-W。

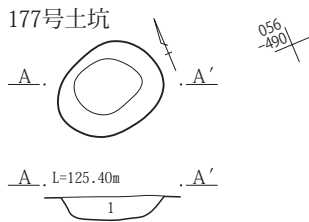
規模と形状：北側が調査区外に出るため、全容は不明である。検出東西径1.26m・検出南北径0.48m・深さ0.35m。

重複：なし。

埋土：上層暗褐色土、下層灰黄褐色土。

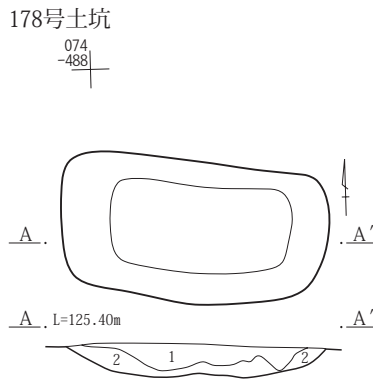
遺物：なし。

時期：不明。



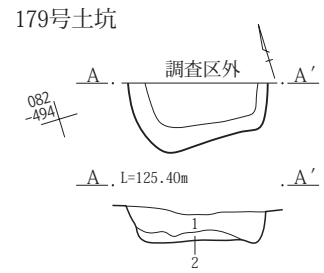
177号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/2 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び鈍い黄褐色粒をそれぞれ約3%程度含む。しまり強い。



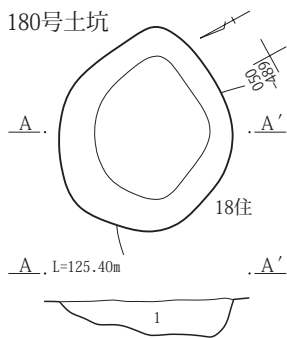
178号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/4 小・中粒の白色軽石を少量含む。ややしまりあり。
2 暗褐色土10YR3/4 砂粒状のブロックを多く含む。やや脆い。



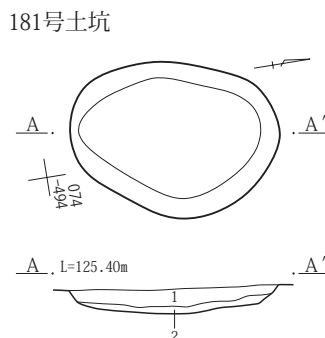
179号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 やや粘質。φ約3~5mm程度の白色軽石を微量、砂粒ブロックを少量含む。しまりあり。
2 鈍い黄褐色土10YR5/3 暗褐色土との混土。やや脆い。



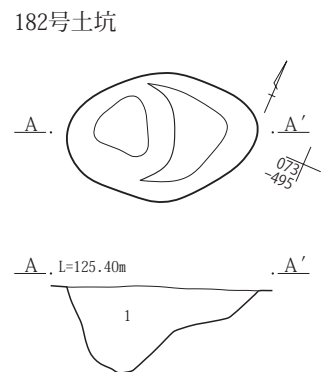
180号土坑

- 1 暗褐色土10YR3/3 灰黄褐色粒を約10%程度、榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度含む。しまり強い。



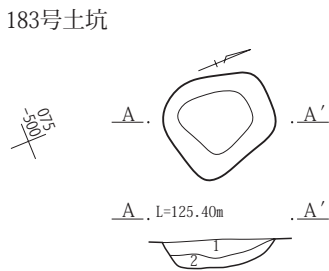
181号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/2 灰黄褐色砂粒を約10%程度、榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度含む。しまりやや強い。
2 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 1層の土が少量混じる。粘性あり。しまりやや強い。



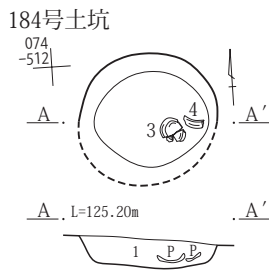
182号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/2 φ約1~2cm程度の鈍い黄褐色ブロックを約10%程度、榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約5%程度含む。しまり強い。



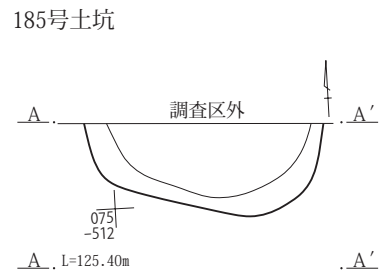
183号土坑

- 1 黒褐色土10YR3/2 鈍い褐色粒及び榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。
2 暗褐色土10YR3/4 鈍い黄褐色砂粒を約20%程度含む。しまりやや強い。



184号土坑

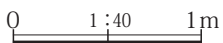
- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度、φ約5~10mm程度の鈍い黄褐色ブロックを僅かに含む。しまり強く粘性あり。



185号土坑

185号土坑

- 1 暗褐色粘質土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約10%程度含む。しまり強い。
2 灰黄褐色粘質土10YR5/2 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。



第176図 D区土坑 平面図・土層断面図(4)

(39) 186号土坑(第177図、PL. 94・95)

位置：D区の北西端付近。X = 48,073 ~ 48,074、Y = -69,520 ~ -69,521。

主軸方向：N-14°-W。

規模と形状：北西-南東方向にやや長い楕円形状を呈する。長径0.89m・短径0.85m・深さ0.15m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

遺物：なし。

時期：不明。

(40) 187号土坑(第177図、PL. 95)

位置：D区の中央、南端寄りの位置。14号住居のすぐ西側、460号ピットのすぐ東側に近接する。X = 48,052 ~ 48,053、Y = -69,496 ~ -69,497。

主軸方向：N-62°-W。

規模と形状：北西-南東方向に長い不整楕円形状を呈する。南東側が突起状に飛び出するような平面形態を呈している。長径1.25m・短径0.97m・深さ0.61m。

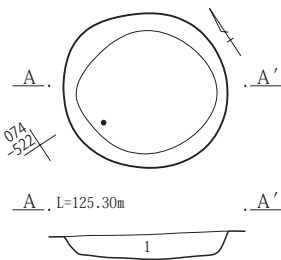
重複：なし。

埋土：上層・下層鈍い黄褐色土、中層灰黄褐色土。

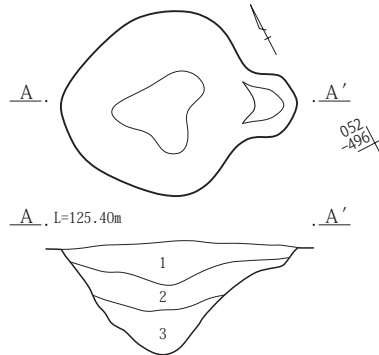
遺物：土師器甕口縁部~胴部片1点(埋土)。

時期：不明。

186号土坑



187号土坑

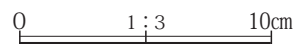
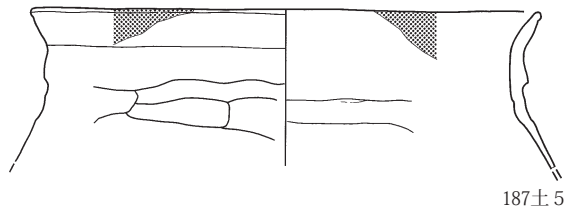
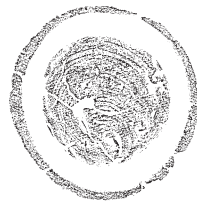
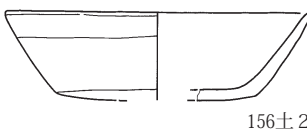
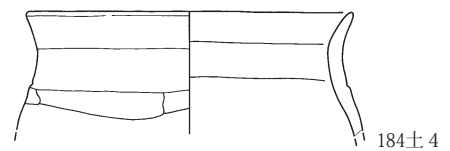
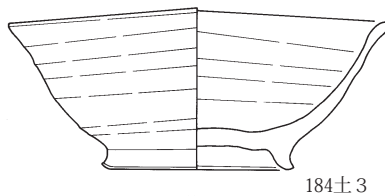
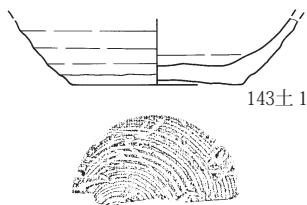
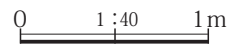


187号土坑

- 1 鈍い黄褐色土10YR4/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒、炭化物、焼土等を含む。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を少量、褐色砂粒、炭化物、焼土粒等を含む。
- 3 鈍い黄褐色土10YR5/4 極少量の榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び砂粒を含む。

186号土坑

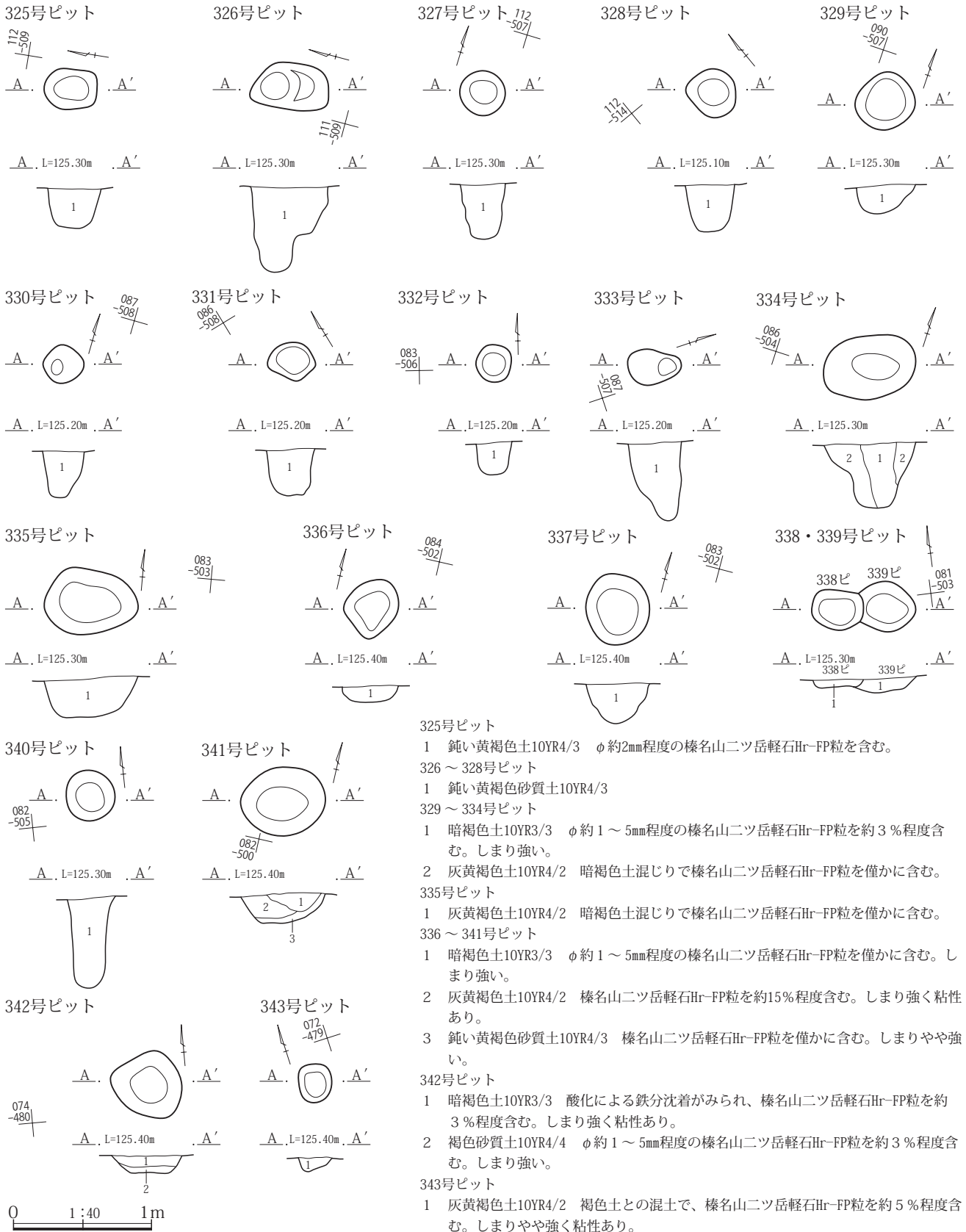
- 1 暗褐色粘質土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまりやや強い。



第177図 D区土坑 平面図・土層断面図(5)、D区土坑出土遺物

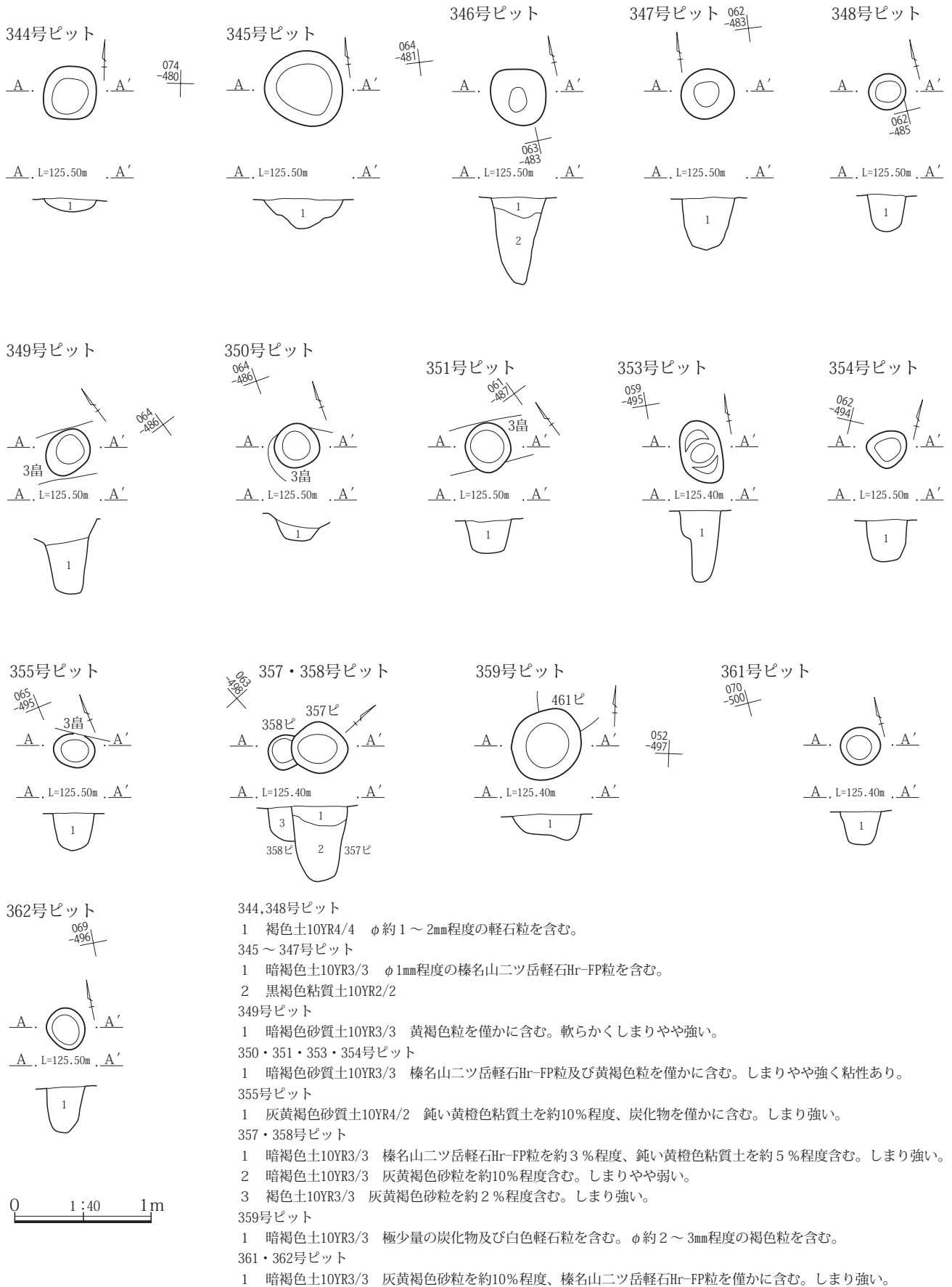
8. ピット

D区では115基のピットが検出された。とくに中央部からの検出が多い。年代も機能もいずれも不明である。規模等については、254頁からのピット一覧表に示した。

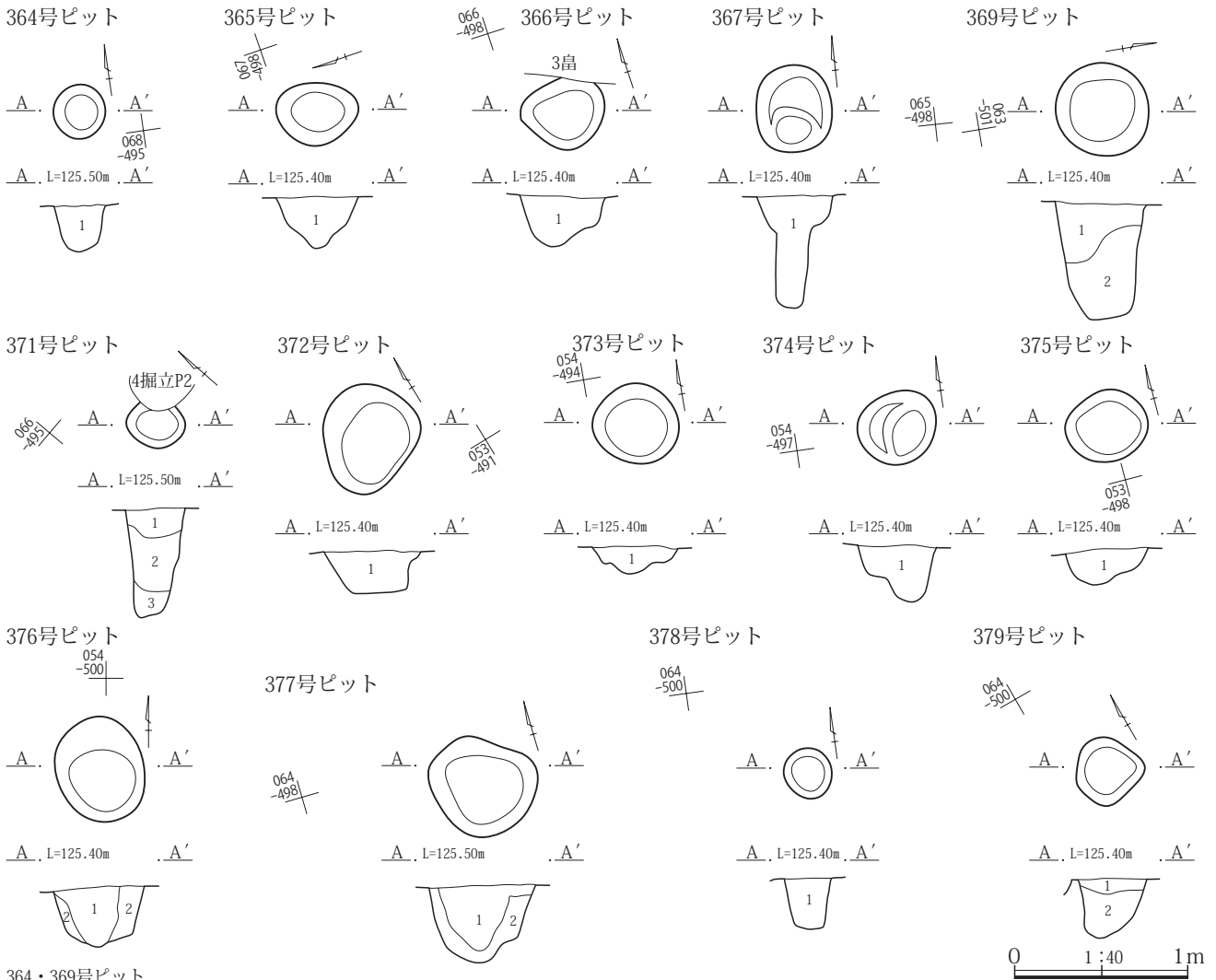


第178図 D区ピット 平面図・土層断面図(1)

第3章 調査の成果



第179図 D区ピット 平面図・土層断面図(2)



364・369号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色粒をそれぞれ約2%程度含む。しまりやや強く粘性あり。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 灰黄褐色砂粒と暗褐色土との混土。しまりやや強い。

365,366号ピット

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色粒を僅かに含む。しまり強い。

367・371号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/4 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%、明黄褐色粒を3%、炭化物をわずかに含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 灰黄褐色砂粒を約2%程度、炭化物を僅かに含む。
- 3 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 粘性ややあり。しまり強い。

372号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約10%程度含む。しまり強い。

373号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度、灰黄褐色砂粒を約10%程度含む。しまり強い。

374号ピット

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、焼土粒及び炭化物粒を僅かに含む。しまり強くやや粘性あり。

375号ピット

- 1 黒褐色土10YR3/2 炭化物粒、焼土粒を約3%程度、φ約5～10mm程度の明黄褐色土ブロックを約5%程度含む。しまり強い。

376号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒及び鈍い黄褐色砂粒をそれぞれ約5%程度含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 鈍い黄褐色砂粒を約30%程度含む。しまり強い。

377号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、鈍い黄褐色砂粒を約3%程度、炭化物を僅かに含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色砂層10YR5/2

378号ピット

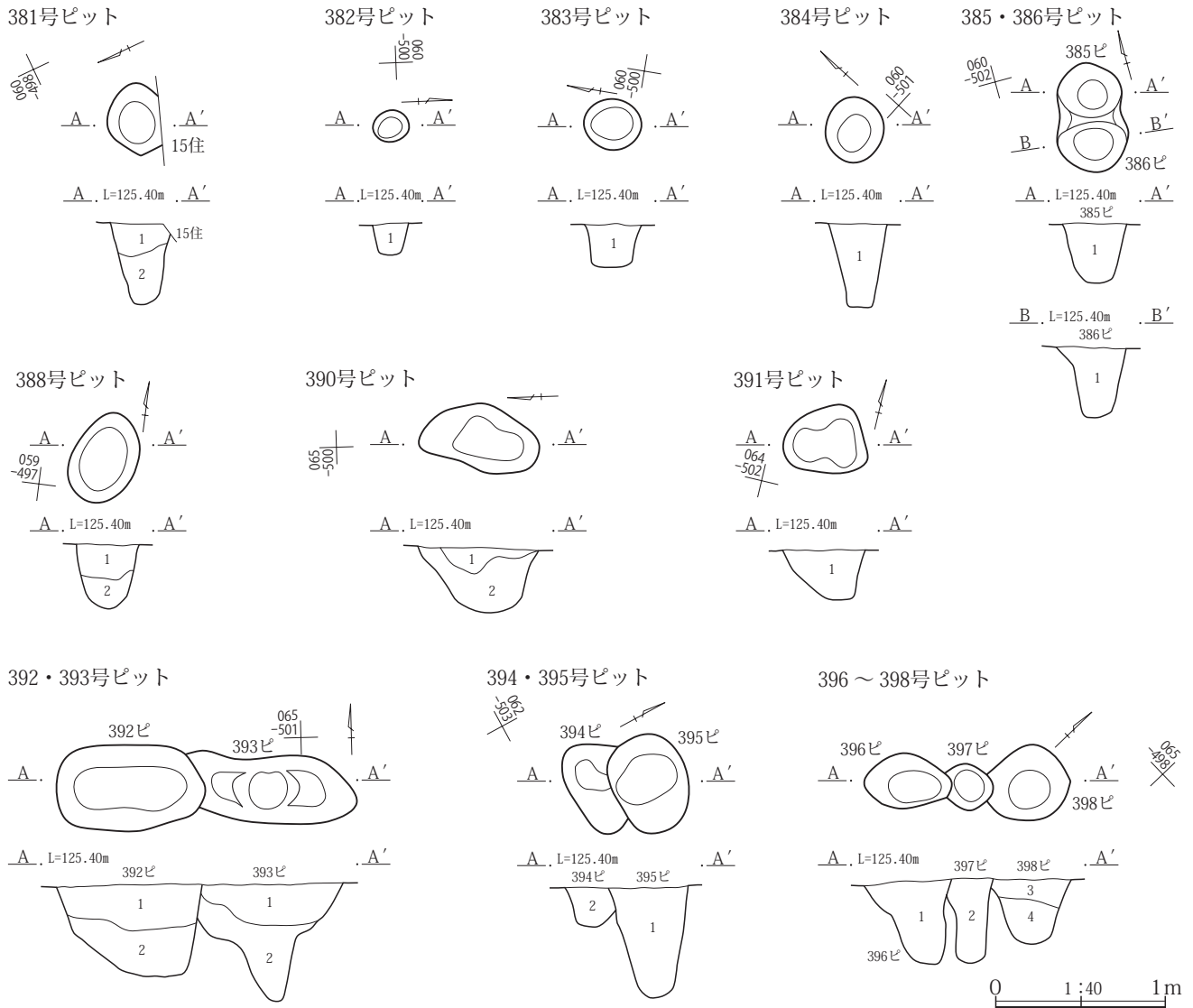
- 1 暗褐色土10YR3/3 鈍い黄褐色砂粒を約20%程度、榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。

379号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 焼土粒を約7%程度、炭化物粒を約3%程度含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 鈍い黄褐色土混じりで炭化物を僅かに含む。しまり強い。

第180図 D区ピット 平面図・土層断面図(3)

第3章 調査の成果



381号ピット

- 1 暗褐色砂質土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び褐色粒を僅かに含む。しまりやや強く粘性あり。
- 2 暗褐色土10YR3/3 均質。しまりやや強い。

382～386号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、鈍い黄褐色砂粒を約3%程度、炭化物を僅かに含む。しまり強い。

388号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度、灰黄褐色砂粒を約10%程度含む。しまり強い。
- 2 鈍い黄褐色砂質土10YR4/3 暗褐色土との混土。しまりやや強い。

390号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度、灰黄褐色砂粒を約10%程度含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 灰黄褐色砂粒を約5%程度含む。しまりやや強い。

391号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色粒をそれぞれ約2%程度含む。しまりやや強く粘性あり。

392, 393号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び鈍い黄褐色砂粒をそれぞれ約5%程度含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 鈍い黄褐色土を約10%程度、榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまりやや強い。

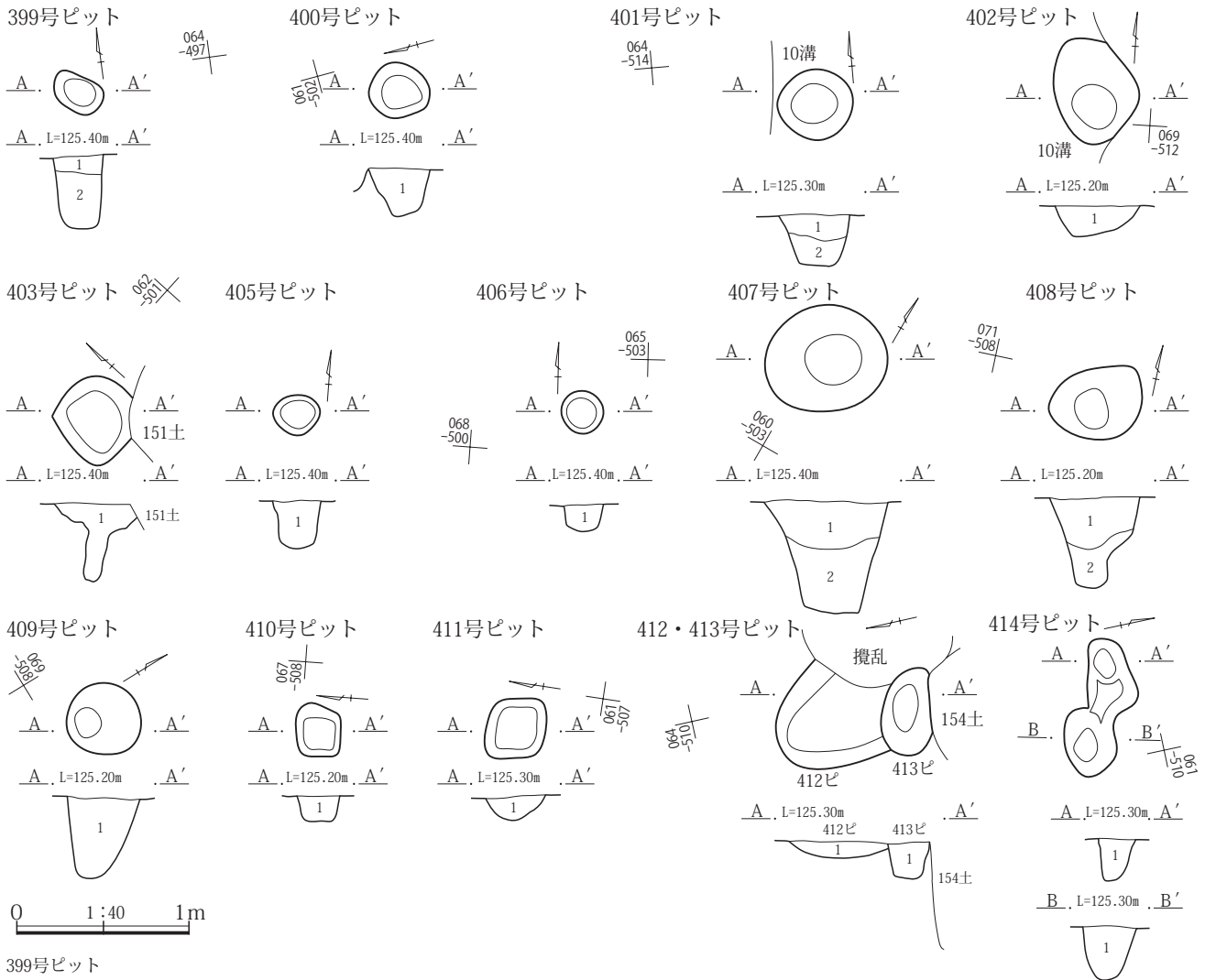
394・395号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度、黄褐色砂粒を約5%程度含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 暗褐色土との混土。明黄褐色粒を僅かに含む。しまり強い。

396～398号ピット

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物粒を僅かに含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度、黄褐色砂粒を約5%程度含む。しまり強い。
- 3 暗褐色土10YR3/3 焼土粒を約3%程度、榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物粒を僅かに含む。しまり強い。
- 4 灰黄褐色土10YR4/2 鈍い黄褐色砂粒を約20%程度含む。しまりやや強い。

第181図 D区ピット 平面図・土層断面図(4)



399号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、鈍い黄褐色砂粒を約3%程度、炭化物を僅かに含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色砂層10YR5/2

400号ピット

- 1 鈍い黄褐色土10YR4/3 細かい軽石粒含む。

401号ピット

- 1 黒褐色粘質土10YR3/2 φ約2～3mm程度の榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を含む。
- 2 褐色土10YR4/4 褐色ブロックに浅間山火山灰As-C粒を少量含む。

402号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/4 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び炭化物含む。

403号ピット

- 1 褐色土10YR4/6 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。

405,406号ピット

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 φ約1mm程度の黄褐色粒を約5%程度、榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。

407号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約5%程度含む。固くしまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 黄褐色粒を約5%程度含む。しまりやや弱い。

408号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び鈍い黄褐色砂粒を約2%程度含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 黄褐色粒を約5%程度含む。しまりやや弱い。

409号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、鈍い黄褐色砂粒を約3%程度含む。固くしまり強い。

410号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/4 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまりやや強く粘性あり。

411号ピット

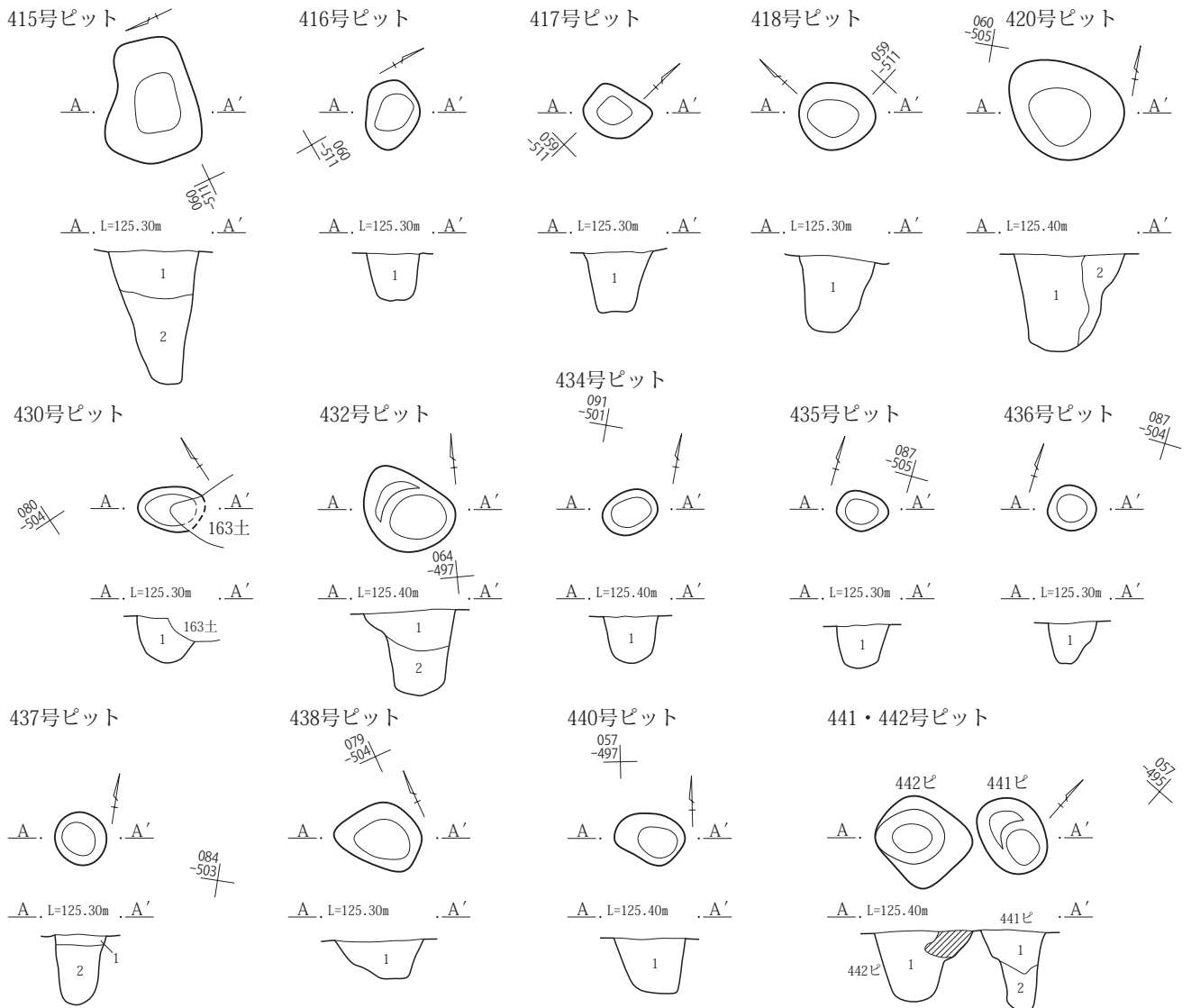
- 1 暗褐色土10YR3/3 鈍い黄褐色粘質土を約20%程度、榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。

412～414号ピット

- 1 褐色粘質土10YR4/6 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色土ブロックを含む。

第182図 D区ピット 平面図・土層断面図(5)

第3章 調査の成果



415～418号ピット

- 1 褐色粘質土10YR4/6 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色土ブロックを含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 黄褐色土ブロックを含む。榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を少量含む。

420号ピット

- 1 褐色粘質土10YR4/6 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒及び黄褐色土ブロックを含む。
- 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 褐色土ブロック及び榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を含む。やや砂質。

430号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 灰黄褐色砂粒を約7%程度、榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。

432号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約5%程度、鈍い黄褐色砂粒を約10%程度含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色砂質土10YR4/2 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。

434号ピット

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度含む。しまりやや強い。

435・436号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度、鈍い黄褐色粒を僅かに含む。しまりやや強い。

437号ピット

- 1 灰黄褐色土10YR4/2 φ約1～5mm程度の焼土粒を約7%程度、榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 均質で軟らかくしまりやや弱い。

438号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度、鈍い黄褐色砂粒を約10%程度含む。しまり強い。

440号ピット

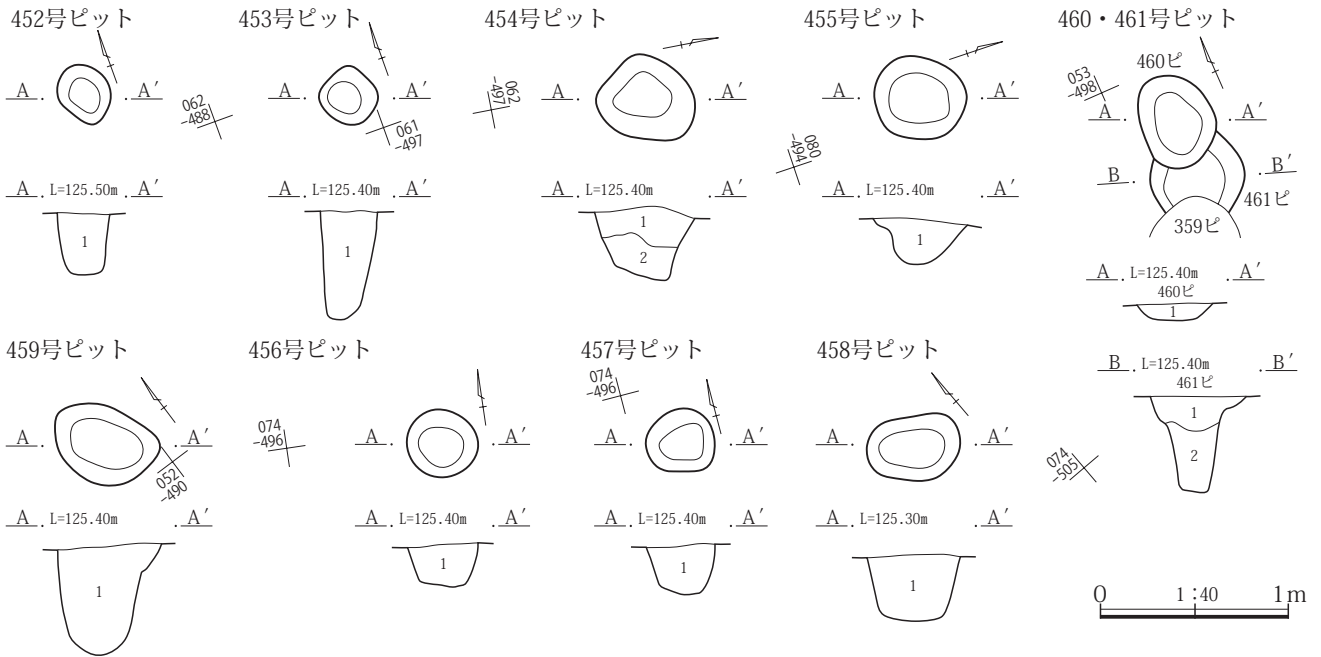
- 1 暗褐色土10YR3/3 鈍い黄褐色砂粒を約10%程度、榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。

441・442号ピット

- 1 暗褐色土10YR3/3 榛名山ニツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土10YR3/3 鈍い黄褐色土との混土。しまりやや弱い。

第183図 D区ピット 平面図・土層断面図(6)

第5節 D区で検出された遺構と遺物



452号ピット

1 暗褐色土10YR3/3 鈍い黄褐色土を約10%程度、榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約3%程度含む。しまり強い。

453号ピット

1 暗褐色土10YR3/3 φ約5～10mm程度の鈍い黄褐色ブロックを約5%程度、榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまり強い。

454号ピット

1 暗褐色砂質土10YR3/3 鈍い黄褐色土との混土で、榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を僅かに含む。しまりやや強い。

2 暗褐色土10YR3/4 φ約5～10mm程度の鈍い黄褐色ブロックを約5%程度含む。しまりやや弱い。

455号ピット

1 黒褐色土10YR3/2 φ約3～5mm程度の白色軽石を微量含む。しまりあり。

456号ピット

1 黒褐色土10YR3/2 炭化物粒及び焼土粒を約3%程度、φ約5～10mm程度の明黄褐色ブロックを約5%程度含む。しまり強い。

457号ピット

1 黒褐色土10YR3/2 鈍い黄褐色砂粒を約10%程度含む。しまりやや強い。

458号ピット

1 暗褐色土10YR3/3 褐灰色粘質土を約10%程度、榛名山二ツ岳軽石Hr-FP粒を約2%程度含む。しまりやや強い。

459号ピット

1 灰黄褐色土10YR4/2 やや砂質。

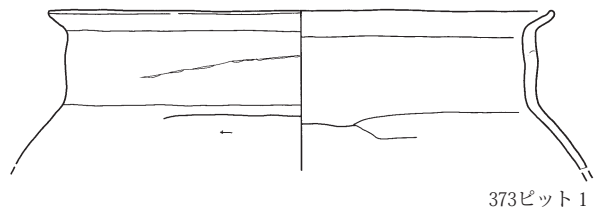
460号ピット

1 黒褐色土10YR3/2 炭化物粒及び焼土粒を約3%程度、φ約5～10mm程度の明黄褐色ブロックを約5%程度含む。しまり強い。

461号ピット

1 黒褐色土10YR3/2 炭化物を約10%程度、焼土粒を約2%程度含む。しまりやや強い。

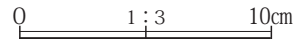
2 暗褐色土10YR3/3 黄褐色粒を約5%程度、炭化物及び焼土粒を僅かに含む。しまりやや強い。



373ピット 1



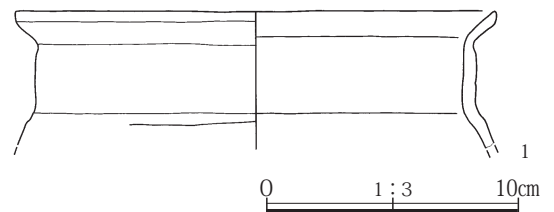
390ピット 2



第184図 D区ピット 平面図・土層断面図(7)、D区ピット出土遺物

9. 遺構外出土遺物(第185・200図)

D区の遺構外の表土から出土した遺物2点を図化・掲載した。1は土師器甕口縁部片、2は中国龍泉窯製青磁蓮弁文碗口縁片である(306頁、第200図)。



第185図 D区遺構外出土遺物

第6節 E区で検出された遺構と遺物

E区は、全調査区内で最小面積の調査区であり、B4調査区とは北東-南西方向に走行する生活道路を挟んだ北側、A区の西側に位置する。調査区自体が小規模なため、調査区内の区分は無い。

調査区の南側で東西方向の旧河道が検出された。A2調査区南寄りの位置から検出された1号河道とは位置的に近い場所であり、方向的にも近似するが、A2調査区で検出された1号河道とは規模が大きく異なっているため、その継続部分か否かは明らかではない。なお、調査区が狭小であり、調査遂行上の安全確保の観点から、この河道は位置が確認されたのみで、発掘調査は行うことが出来なかった。

検出された遺構は、土坑3基とピット5基のみである。遺構は、すべて近世以降のものである。

1. 土坑

先述したようにE区からは3基の土坑(261・264・265号)が検出された。

(1) 261号土坑(第186図)

位置：E区のほぼ中央から東寄りの位置。265号土坑の南側、478号ピットの北東側に近接する。X=48,143~48,144、Y=-69,384。

主軸方向：N-33°-E。

規模と形状：北東-南西方向に長い不整楕円形状を呈する。長径1.02m・短径0.9m・深さ0.27m。

重複：なし。

埋土：暗灰黄褐色土。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(2) 264号土坑(第187図)

位置：E区のほぼ中央、西寄りの位置。265号土坑の南側、478号ピットの南西側に近接する。X=48,142、Y=-69,386~-69,387。

主軸方向：N-63°-W。

規模と形状：東西に長い不整楕円形状を呈する。長径0.87m・短径0.55m・深さ0.54m。

重複：河道を掘り込む。

埋土：暗灰黄褐色土ベース。

遺物：なし。

時期：近世以降。

(3) 265号土坑(第187・201図、PL. 111)

位置：E区の中央よりやや東に寄った位置。北端。北壁にかかる。261号土坑・478号ピットの北側、479・482号ピットの北東側に隣接する。X=48,144~48,146、Y=-69,383~-69,386。

主軸方向：N-83°-E。

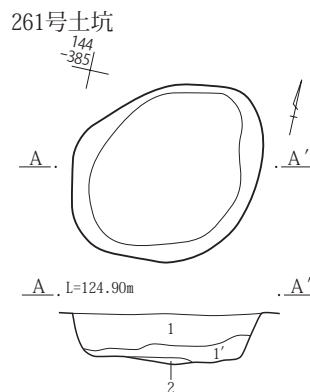
規模と形状：北辺が調査区外に出るが、東西に長い楕円形状を呈するものと思われる。長径3.1m・検出短径1.68m・深さ0.32m。

重複：なし。

埋土：暗褐色土。

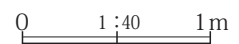
遺物：在地系土器甕片1点・同内耳鍋片1点・須恵器1点・緑色片岩板碑片1点(埋土、2・3は307頁第201図に掲載)。

時期：近世以降。

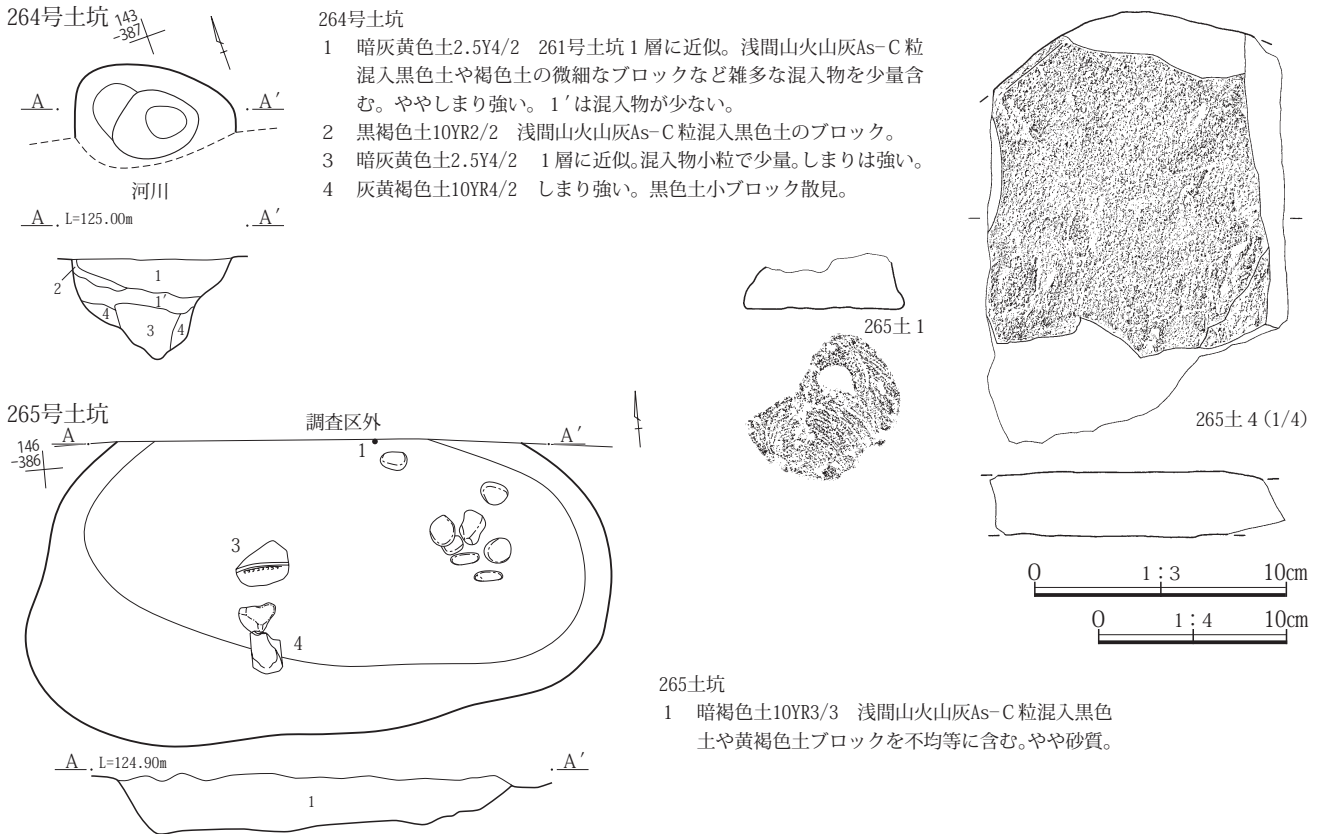


261号土坑

- 1 暗灰黄色土2.5Y4/2 微粘性の粒子細かい土でややしまり欠く。やや大粒の黄褐色土小ブロックを含み、1'で多くなる。
- 2 灰黄褐色土10YR4/2 地山と同質の粘性土。



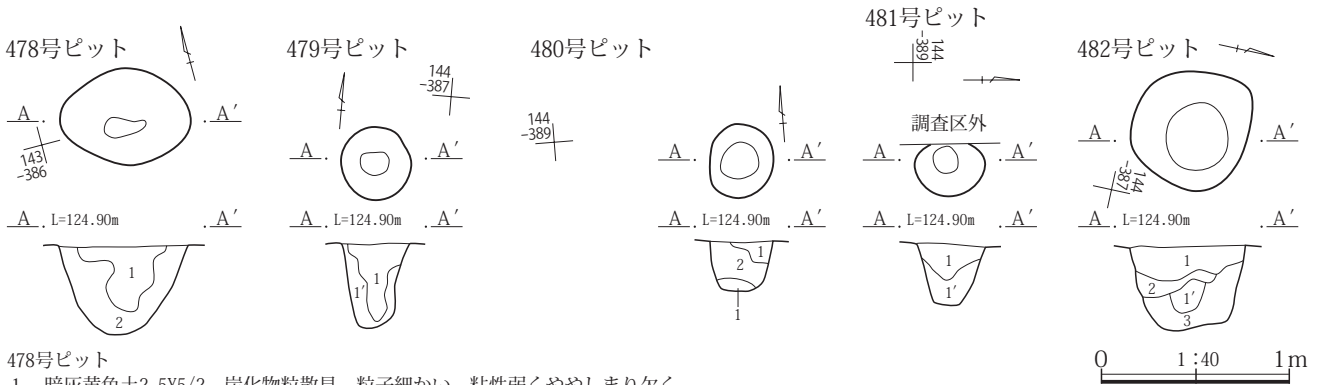
第186図 E区261号土坑 平面図・土層断面図



第187図 E区264・265号土坑 平面図・土層断面図、E区土坑出土遺物

2. ピット

E区の中央部から5基のピットが検出された。いずれも用途や年代は不明である。出土遺物はない。



- 478号ピット
- 1 暗灰黄色土2.5Y5/2 炭化物粒散見。粒子細かい。粘性弱くややしまり欠く。
 - 2 暗灰黄色土2.5Y4/2 土質は1層と同じ。黄褐色粘性土の混入が多い。
- 479号ピット
- 1 暗灰黄色土2.5Y5/2 炭化物粒少ない。粒子細かい。粘性弱くややしまり欠く。1'は黄褐色土ブロック散見。
- 480号ピット
- 1 灰黄褐色土10YR4/2 暗褐色土と灰黄褐色粘性土の混土。
 - 2 暗灰黄色土2.5Y5/2 炭化物粒散見。粒子細かい。粘性しまりとともに弱い。
- 481号ピット
- 1 暗灰黄色土2.5Y5/2 炭化物粒散見。粒子細かい。粘性弱くしまりやや欠く。1'は黄褐色土小ブロック多い。
- 482号ピット
- 1 暗灰黄色土2.5Y5/2 炭化物粒散見。粒子細かい。粘性弱くしまりやや欠く。1'はしまり欠く。
 - 2 鈍い黄褐色土10YR4/3 黄褐色粘性土主体に1層の土をブロック状に含む。
 - 3 暗灰黄色土2.5Y4/2 1層の土をベースとし黄褐色粘性土小ブロックを含む。

第188図 E区ピット 平面図・土層断面図

3. 遺構外出土遺物

E区の遺構外の表土から出土した近世磁器3点を図

化・掲載した(307頁、第201図)。1・2は瀬戸・美濃産磁器、3は肥前磁器である。

第4章 調査成果のまとめ

第1節 調査成果のまとめ

以上、見てきたように、本遺跡は、遺跡の西側を南北に流れる桃ノ木川と、東側を南北に流れ、遺跡の南側で桃ノ木川に合流する大堰川という、両利根川支流に挟まれた台地上に立地する、平安時代前～中期を中心とする集落遺跡である。

発見された遺構は古代と近世のもので、両時代の間にあたる中世の明確な遺構は、調査対象範囲内では検出されなかった。

大堰川の対岸や、桃ノ木川と大堰川とに挟まれた周辺でも平安時代の集落遺跡が発見されているので、同時代において本遺跡の周辺は集落を形成する上での好適地であったと考えられる。

1. 近世の遺構

近世の遺構は、いずれも大堰川や桃ノ木川の氾濫による洪水堆積土に厚く覆われた状態で検出された。

本遺跡で検出された近世の遺構は、土坑やピットなど小規模なものが多かったが、C区の中央部から東寄りにかけてL字型に検出された、近世の屋敷を囲む溝である14・15号溝は特筆される。

C区中央部で南北方向から東向きにL字状に直角に屈曲する外郭大溝が14号溝、C区の北東部付近で南北方向から東西方向に直角に西向きに屈曲する逆L字状の溝が15号溝で、15号溝は、14号溝で大きく区画された内側をさらに細かく区画する溝の一つであると考えられる。C区中央部で南北方向から東向きにL字状に直角に屈曲する14号溝は、C区の北東隅部でも東西方向の溝として検出されており、屋敷の北限を区画するものと考えられる。そうすると屋敷の南北幅はおよそ40m前後と考えられる。屋敷東側の区画溝は調査範囲内からは検出されていないので、東西幅は確定できないが、B区よりもさらに東側までは広がってはいないものと想定されるから、調査対象とはされなかったB1調査区西端とC4調査区東端との間を南北に走行する生活道路下に存在したもの

と考えられる。

このC区14号溝を屋敷の西及び南側の外郭溝と仮定すると、東側の外郭溝は調査範囲内からは検出されていない。

2. 古代の遺構

第3章の冒頭で述べたように、今回の調査で検出された遺構の大半は平安時代前～中期、9～10世紀のものであった。

住居 B区では、竪穴住居はB4調査区北西隅近くで1棟が検出されたに過ぎない。南北方向に走行する生活道路を挟んで西側に隣接するC区では、平安時代前～中期の竪穴住居からなる集落が検出され、B区に隣接するC区東端の一角においても数棟の竪穴住居が検出されたにも関わらず、B区で検出されたのは1棟のみに過ぎなかった。平安時代の集落の範囲は、こちら側まではほとんど及んでいなかったということになる。

集落の展開 調査区全体の西寄りの位置を北から南へと流れる幅約2～3m、深さ約1.5m程度の旧河道(3号河道)が検出されている。この川を挟んだ東西の両側でそれぞれ竪穴住居、掘立柱建物、土坑、井戸、溝、畠などの遺構が検出され、川の両側に集落が広がっていた様子がうかがえる。畠は住居と住居の間に作られていることから、畠作地帯としての耕地の広がりを示すものではなく、住居に隣接して小規模に営まれた菜園程度のものであったとみられる。

竪穴住居は、主に調査範囲の中央から西寄りを占める最大の調査区であるC区で検出された。ほとんどの住居が重複が認められ、住居の占地について、強い制約とある程度の計画性が存在していたように感じられる。これらの竪穴住居はいずれも平安時代前～中期9～10世紀のものに限定されている。関東地方においては一般的に、古墳時代後期(鬼高期)から平安時代中期まで集落が連続と営まれているケースが概して多い。集落から出土した遺物の中では東海地方で生産された灰釉陶器の出土量の多さが特筆できる。これだけの灰釉陶器をこの地に流通

させた主体としては、荘所や官衙、あるいはそれらと結びついた「富豪輩」の存在が想定できるかも知れない。

なお、検出された集落の規模に比して、墨書・刻書土器等の文字資料の出土は非常に少なく、特筆すべき内容のものも存在しない。周辺部では、特徴的な内容を有する墨書・刻書土器の出土も見られなくはないので、文字資料の極端な僅少さという点も、本遺跡において検出された古代集落の特徴の一つと言えるだろう。

施設の区画溝 最西端のD区の北端付近では、L字型に直角に屈曲する溝(6号溝)と、その南側に位置し、東西方向に一直線に伸びる溝(7号溝)が検出された。それぞれ幅約1m・深さ約1m程度の規模を呈しており、規模や形状から一連のものとして看做すのが妥当と判断され、居館や官衙・寺院など何らかの施設を区画するための二重の溝と考えられる。調査の結果、内側の溝である6号溝は日輪寺側に延びることが判明している。

溝内からは9世紀の土器が出土している。また、外郭溝(7号溝)が埋没した後に営まれた鍛冶の遺構が検出されており、この鍛冶遺構が9世紀後半のものと考えられることから、9世紀中葉以前における何らかの施設を区画した溝跡とみられる。

今回の調査範囲では、溝で区画された内側からは建物類をはじめとする遺構は全く検出されなかったため、区画された施設の構造は全く不明であるが、二重の溝によって方形に区画されている何らかの施設とは、それなりの規模や地域における重要性を有するものであったと想定出来る。本遺跡では古代の瓦の出土は皆無であるが、平安時代後期の作とはいえ古代の仏像が現存する日輪寺の前身的な寺院・仏堂や、本遺跡周辺に所在していたことが推定される。拝志荘・拝志牧に関連する施設、9世紀という時代から考えれば「富豪輩」の居宅などの可能性も想定できよう。

鍛冶遺構 D区で検出された1号鍛冶遺構では、炉の部分から炭化物や焼土が検出され、炉の周囲からは鞴の羽口片や鉄を鍛える台石、砥石、鍛造剥片、粒状滓などが出土している。今回の調査区内において検出された鍛冶遺構は1基のみであったことから、集落内における需要に対応した小鍛冶と考えられる。この地域においては、鍛冶遺構の検出が少なくないものの、本例は、工房群のようなものとは結び付くものではないとみられよう。

墓壇 1基のみであるが、C区の中央から東南寄りの位置で、集落と同時期の墓壇が検出されている(C区244号土坑)。出土した土器から平安時代中期、10世紀前半のものと考えられる。南北に長い楕円形状を呈しており、底面に川原石が敷き詰められている。主軸方位はN-15°-E、長径2.64m・短径1.24・深さ0.64mで、墓壇と考えられ、供献されたと考えられる完形ないしほぼ完形に近い灰釉陶器碗1点、同皿1点、須恵器碗2点が出土している。人骨や人体の痕跡は全く検出されなかったが、規模からみて土葬の伸展葬であったとみられる。近接する上細井町からは9世紀後半～10世紀頃のものとみられる石製骨蔵器が出土しており、当該期には当地にも火葬という葬法は間違いなく伝来していた。それにも関わらず、土葬という方法をとったことの意味を考える必要がある。また、住居の多さに比して検出された墓壇がこれ1基であること、墓壇の底面に川原石を敷き詰め、非日常的な食器と位置付けられる施釉陶器である灰釉陶器が複数点供献されているという特異な状況、重複が激しい住居群内に位置するにも拘わらず住居とは一切重複しておらず、集落が継続する間、集落内において墓として意識され続けていたと考えられること、などからも、この墓壇が、集落における特別な階層に属した人物ないしは有力な指導者の墳墓とみることが出来るかもしれない。

第2節 出土した施釉陶器について

はじめに

本遺跡で検出された平安時代の竪穴住居からは当然、施釉陶器の出土も想定できるが、その出土を概観すると発掘調査時から共伴する土師器や須恵器に比較してもその割合が比較的多いとみられていた。整理作業においても灰釉陶器48点、緑釉陶器5点について実測することができた。こうした状況から施釉陶器について図示したものの以外の未掲載の施釉陶器について観察し、周辺遺跡などとの比較検討を行うこととした。なお、数量については同一個体とみられるものでも接合しないものはそれぞれを1点として点数に数えている。

1. 出土した施釉陶器について

出土した施釉陶器は図示できなかつたものを含めて第3表に示したように575点である。内訳は灰釉陶器が568点、緑釉陶器が7点である。そのうち、図示できたものは前記のように灰釉陶器48点、緑釉陶器5点の54点である。灰釉陶器568点の器種は椀、深椀、輪花椀、稜椀、皿、段皿、輪花皿、耳皿、鉢、小瓶、長頸壺、短頸壺である。緑釉陶器7点はであるが、すべて破片である。内訳は図化したものが椀蓋1点、椀2点、稜椀1点、段皿1点である。未掲載のものは椀1点と器種不明1点である。

灰釉陶器は568点が出土しているが、その詳細は椀303点、深椀2点、輪花椀1点、稜椀7点、皿68点、段皿4点、輪花皿1点、椀または皿とみられる個体124点、鉢3点、長頸瓶28点、長頸瓶または小瓶などとみられる個体24点である。大別すると供膳具516点、貯蔵具52点で供膳具が90%を占める。

灰釉陶器の生産地は東濃窯跡群産が大部分を占めるが、32号竪穴建物から出土した5と6の椀は胎土の色調が黒色を帯び、胎土に黒斑が多くみられることから猿投窯跡群産とみられる。灰釉陶器の時期は9世紀後半から10世紀後半の窯式期に比定されるが、椀・皿の体部片などで施釉方法の判別ができないものや長頸瓶などの胴部片で時期の比定ができないものは表中では不明として取り扱い、その個体は175点である。残り393点は猿投窯跡群産の椀2点が黒笹90号窯式期に比定され、東濃窯跡群産491点は光ヶ丘1号窯式期が53点、大原2号窯式期が331点、虎溪山1号窯式期7点である。灰釉陶器全体の中で占める割合は黒笹90号窯式期0.4%、光ヶ丘1号窯式期9%、大原2号窯式期58%、虎溪山1号窯式期1%である。

緑釉陶器は7点と少なく、器種は椀・椀蓋、皿の供膳具だけである。生産地は東海産、東海産系が3点、京都産が4点である。内訳は31号竪穴住居出土の14の稜椀と34号竪穴住居出土の未掲載の椀1点が東海産と、33号竪穴住居出土の1の段皿が高台内側に段を有していることから三河二川産か近江産とみられる。残りの4点は京都産である。未掲載の椀は口唇部の小片のため詳細は不明であるが、胎土は灰色を呈する硬質で、口唇端部にやや外反がみられることから9世紀後半から10世紀前半に比

定できる。京都産は4点で、16号竪穴住居の11の椀蓋が器面を磨いているようであるが釉薬によって不鮮明である。図化した53号竪穴住居の2とC区遺構外15の椀はともに底部から体部下位片であるが、高台が削り出されており、高台内部は施釉されていないことから10世紀前半代の丹波篠産とみられる。残り1点は115号土坑から出土した微細な破片のため図化できなかったが、釉薬は剥落してわずかに残る程度であるが内外面で確認され、体部の弧も緩いことから椀の破片と想定される。この個体の色調は白色を呈し、胎土が軟質であることなどから京都産と想定され、制作年代も9世紀代のもと考えられる。また、胎土などからは緑釉単彩陶の可能性も窺える。

2. 施釉陶器を出土した遺構について

施釉陶器を出土した遺構は竪穴住居45棟、土坑37基、ピット6基、溝4条、河道である。出土点数は竪穴住居から灰釉陶器409点、緑釉陶器5点、土坑から灰釉陶器53点、緑釉陶器1点、ピットから灰釉陶器6点、溝から灰釉陶器8点、河道から灰釉陶器17点である。この他に遺構外と攪乱から灰釉陶器75点、緑釉陶器C区遺構外15の1点が出土している。以上が施釉陶器を出土した遺構であるが、施釉陶器のほとんどは竪穴住居からの出土である。こうしたことから今回は竪穴住居からの出土を中心にみていくことにする。

竪穴住居からは灰釉陶器409点、緑釉陶器5点が出土している。出土した竪穴住居のうち4号竪穴住居と22号竪穴住居は出土した土師器や須恵器から8世紀第1四半期、9世紀第1四半期に比定される。4号竪穴住居からは灰釉陶器の時期不明の椀か皿の小片が1点、22号竪穴住居からは10世紀前半代の大原2号窯式期の椀または皿の破片が出土している。これらの灰釉陶器は竪穴住居が存続した期間より後に生産されたものであることから竪穴住居が埋没していく過程で混入したものと考えられる。また、9世紀後半代の21号、27号、28号、36号、50号、51号、54号、57号などの竪穴住居には10世紀前半代の大原2号窯式期の灰釉陶器出土例もみられる。この中の50号と51号竪穴住居は9世紀後半でも前半代の第3四半期に比定されることから後の混入品とみられる。そのほかの竪穴住居は第4四半期に比定される。時期の比定は出土遺物の中でも図化したもので判断していることか

ら竪穴住居自体の存続は10世紀代まで続く可能性があり一概に混入品とは断定できない。

竪穴住居から出土した灰釉陶器の状況をみると9世紀第3四半期以前は後の混入の可能性が高いことから検討から除外すると9世紀第4四半期では10棟中6棟、10世紀前半代では24棟中21棟、後半代では5棟中5棟と9世紀第4四半期から急激に増加する傾向がみられる。竪穴住居1棟当たりの出土量も9世紀第4四半期では1棟当たり3.83点であるのに対して10世紀前半代の竪穴住居では1棟当たり12.53点、10世紀後半代では1棟当たり13点と大幅に増加している。また、9世紀第3四半期以前に比定される竪穴住居(8世紀代の4号竪穴住居を除く)は13棟が該当するが出土した施釉陶器の生産年代と竪穴住居の存続年代との間に齟齬のないものは14号、59号竪穴住居の2棟だけで、この他の竪穴住居から出土した施釉陶器は後の混入と判断される。

竪穴住居以外では土坑からの出土を多く見ることができ、土坑1基当たりの出土量は1.46点と少なく、残存状態もほとんどが破片である。そうした中では244号土坑から完形品の灰釉陶器碗と皿が各1点ずつ出土しており注目される。この土坑は底面に扁平な円礫を敷き詰めており墓坑と想定されている。また、副葬品には灰釉陶器の他に須恵器の碗が2点あり、副葬品の状況は前橋市清里長久保遺跡1号土壙墓、高崎市下佐野遺跡7区113号土坑の墓坑と類似した状態である。

3. 他の遺跡との比較検討

本遺跡は赤城山西南麓立地する遺跡で、北側に川端根岸遺跡、川端山下遺跡が存在し、西側には関根細ヶ沢遺跡、桃ノ木川の支流細ヶ沢川を挟んだ西側に関根赤城遺跡、田口下田尻・上田尻遺跡などが存在している。北側の川端根岸遺跡、川端山下遺跡は古代の竪穴住居も4棟と1棟と少なく小規模な集落遺跡であるが、西側の関根細ヶ沢遺跡や関根赤城遺跡、田口下田尻・上田尻遺跡は多くの竪穴建物や製鉄炉、鍛冶路が検出されている古代の大規模集落である。また、田口下田尻・上田尻遺跡をはじめとする西側の集落からは多量の施釉陶器が出土していることが知られている。特に田口上田尻遺跡・下田尻遺跡では113点に及ぶ緑釉陶器が出土していることが知られている。この緑釉陶器の出土量は前橋市天神遺跡、

吉岡村清里陣馬遺跡、玉村町福島曲戸遺跡、高崎市三ツ寺大下IV遺跡に次ぐ量である。このように周辺遺跡からも多くの施釉陶器が出土している。

他の遺跡と比較するにあたっては遺跡によって条件が異なるため単純に比較しても「多い・少ない」の比較に十分なため高橋照彦氏が試算した100㎡当たりの出土点数による比較を試みてみた。筆者は今までにいくつかの発掘調査された遺跡で施釉陶器の分析^{注1}を実施している。こうした遺跡と施釉陶器が多く出土している遺跡を取り上げて作成したものが表4 施釉陶器出土量比較表である。この表のように日輪寺観音前遺跡から出土した緑釉陶器の出土量は少ないが、灰釉陶器の出土量は国府周辺の一般的な集落とみられる前橋市稲荷台道東遺跡と比較してもその比率は2倍近い出土がある。竪穴住居の年代構成が同様な吉岡町十日市遺跡と比較すると大量の出土となる。近隣の田口上田尻・下田尻遺跡とは緑釉陶器の出土量では大きな差があるが、灰釉陶器の比率では近いものがあることが提示された。

まとめ

今回、本遺跡出土の施釉陶器について検討した結果、緑釉陶器の出土量は少ないものの灰釉陶器についてはこの時期の一般的な集落より多いことが示された。また、出土した灰釉陶器は10世紀前半代の大原2号窯式期のものが圧倒的に大きな比率を占めていることが示された。こうした背景としては発掘調査では区画溝の一部しか調査できなかった居宅の存在が大きいと考えられる。この居宅の区画の一部とみられる6号溝と7号溝からは施釉陶器が出土していないが、第169図に図示されている遺物が示すように9世紀後半から10世紀前半代に存続したとみられる。この居宅の存続時期と施釉陶器が多く搬入された時期が一致しており、施釉陶器の搬入にはこの居宅に居住した富豪層の存在が大きいかかわっていることは明らかである。

この地域では田口上田尻・下田尻遺跡、関根細ヶ沢遺跡の成果から、集落は9世紀後半から拡大していることがわかっている。この集落の拡大は当時の社会情勢からみると富豪層による空地開発が行われる中で形成されたと考えられ、施釉陶器は富豪層によって「非日常の供膳具」^{注2}として導入されたものが竪穴住居の庶民に再配

第4章 調査成果のまとめ

分された結果と想定される。

注

1. 高橋照彦氏は官衙における施釉陶器を検討する際に種々の差異が存在することから各遺跡の出土比較を同格にするために100㎡当たりの出土量で比較している(高橋照彦2015「都と地方の土器」『第18回古代官衙・集落研究会報告書 官衙・集落と土器1—宮都・官衙と土器—』独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所)
2. 施釉陶器が非日常のものであることは筆者らによって引用・参考文献で上げた「群馬における施釉陶器の様相について」(1)『研究紀要』9で明らかにしている。

引用・参考文献

綿貫邦男・神谷佳明・桜岡正信1992「群馬における施釉陶器の様相について(1)」『研究紀要』9 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団
古代の土器研究会1994『古代の土器研究—律令的土器様式の東・西3施釉陶器—』
東海土器研究会2015『第3回東海土器研究会 灰釉陶器生産における地方窯の成立と展開』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1981『清里陣馬遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1996『元総社寺田遺跡』Ⅲ
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1998『下東西清水上遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団1999『下芝五反田遺跡—奈良・平安時代以降編—』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『波志江中野面遺跡』(1)
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2001『波志江西屋敷遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2003『稲荷台道東遺跡』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2007『下原遺跡Ⅱ』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2008『楡木Ⅱ遺跡(1)』
前橋市教育委員会2012『山王廃寺—平成22年度調査報告—』
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2012『田口上田尻遺跡・田口下田尻遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『新屋敷遺跡・上西根遺跡・関遺跡』(1)
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2013『十日市遺跡・住遺跡・千代開南遺跡・千代開北遺跡』
(公財)群馬県埋蔵文化財調査事業団2015『関根細ヶ沢遺跡』
高崎市教育委員会2001『保渡田徳昌寺遺跡・三ツ寺大下Ⅳ遺跡』
前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団1987『天神遺跡』
前橋市教育委員会・前橋市埋蔵文化財発掘調査団1989『天神Ⅱ遺跡』
前橋市教育委員会2008『天神Ⅲ遺跡』

第3表 施釉陶器出土遺構と数量

Table with columns for Site No., Structure Type, Period, Excavation Name, and various pottery types (碗, 皿, 椀, 深椀, 輪花椀, 稜椀, 鉢, 段皿, 輪花皿, 耳皿, 手付瓶, 長頸壺, 短頸壺, 瓶類, 合計, 灰釉陶器総数, 緑釉陶器総数). Rows list specific structures like C 2 through C 55 with their respective quantities.

第4表 施釉陶器出土量比較表

遺跡名	所在地	性格	時代	調査面積	緑釉陶器		灰釉陶器	
					出土点数	100㎡あたりの出土点数	出土点数	100㎡あたりの出土点数
日輪寺観音前遺跡	前橋市日輪寺町	集落	平安時代	9,207	7	0.076	568	6.2
関根細ヶ沢遺跡	前橋市関根町	集落	平安時代	9,303	20	0.215	109	1.2
田口上田尻・下田尻遺跡	前橋市田口町	集落	古墳時代、飛鳥～平安時代	15,485	113	0.73	1,211	7.8
元総社寺田遺跡	前橋市元総社町	国府域の祭祀	古墳時代～平安時代	4,550	11	0.24	547	12.0
天神遺跡(Ⅱ・Ⅲを含む)	前橋市元総社町	国府域の祭祀集落	古墳時代～平安時代	2,722	178	6.54	1,965	72.2
稲荷塚道東遺跡	前橋市総社町	国府周縁の集落	平安時代	6,500	0	0	223	3.4
山王麿寺	前橋市総社町	寺院	飛鳥時代創建	1,431	36	2.5		
下東西・清水上遺跡	前橋市青梨子町	集落・富豪層の居宅	飛鳥～平安時代	8,225	51	0.6	1,162	14.1
清里・陣馬遺跡	吉岡町陣馬	空閑地開発の拠点集落	平安時代	4,130	168	4.1	1,234	29.9
十日市遺跡	吉岡町南下	空閑地開発の集落	平安時代	13,170	0	0	36	0.003
三ツ寺大下IV遺跡	高崎市三ツ寺	拠点集落	平安時代	3,700	116	3.1	82	2.2
下芝五反田遺跡	高崎市下芝町	空閑地開発の集落	平安時代	9,050	24	0.27	5,436	60.1
関遺跡・上西根遺跡	伊勢崎市本関町他	集落	古墳時代～平安時代	5,689	0	0	16	0.003
波志江中野面遺跡	伊勢崎市波子江末	空閑地開発の集落	平安時代	20,954	4	0.000	24	0.001
波志江西屋敷遺跡	伊勢崎市波子江末	空閑地開発の集落	平安時代	18,215	0	0	25	0.001
福島曲戸遺跡	玉村町福島	集落、富豪層の居宅	平安時代	11,399	117	1.03	2,011	17.6
下原遺跡	長野原町林	山間地開発の集落・交通路の祭祀	平安時代	15,495	0	0	144	0.9
榎木Ⅱ遺跡	長野原町林	山間地開発の集落	平安時代	13,000	0	0	183	1.4

第5表 ピット一覧表

第5表 ピット一覧表

調査区	面	番号	グリッド(下3桁のみ表記)	長径×短径×深さ(cm)	主軸方位	備考
A 1	1	2	159・-350～351	38×38×14		
A 1	1	3	159・-353	31×28×12	N-24°-E	
A 1	1	4	161・-355	30×27×13	N-41°-W	1号河道と重複
A 1	1	5	162・-357	26×25×25	N-27°-W	1号河道と重複
A 1	1	6	163・-357	23×23×28		
A 1	1	7	165・-356	28×21×24	N-77°-W	
A 1	1	8	167・-353～354	(44)×33×29	N-17°-E	2号土坑と重複
A 1	1	9	167・-353	35×35×13		
A 1	1	10	167・-351～352	33×30×40	N-10°-W	
A 1	1	11	168・-351～352	31×27×10	N-13°-E	
A 1	1	12	168～169・-350	38×32×44	N-33°-W	
A 1	1	13	168・-351	41×30×47	N-8°-E	
A 1	1	14	168・-350	32×25×19	N-40°-W	
A 1	1	15	168～169・-348～349	27×26×28	N-60°-W	2号河道と重複
A 1	1	16	165・-351	27×27×16		
A 1	1	17	168・-349	44×33×29	N-65°-W	
A 1	1	18	167・-349	30×28×51	N-7°-E	
A 1	1	19	168・-348	30×28×16	N-74°-E	
A 1	1	20	167・-349～350	39×34×43	N-15°-W	
A 1	1	21	166・-349	33×34×38	N-65°-W	
A 1	1	22	166・-348	33×31×14	N-77°-E	
A 1	1	23	166・-348	41×39×33	N-20°-E	
A 1	1	24	168・-347	46×41×36	N-64°-W	
A 1	1	25	167・-346	58×39×19	N-88°-E	
A 1	1	26	166・-345～346	49×46×38	N-31°-E	
A 1	1	27	166・-345	40×36×29	N-9°-W	
A 1	1	28	166～166・-345	45×43×14	N-41°-E	
A 1	1	29	165・-345	34×31×25	N-18°-E	
A 1	1	30	164～165・-347～348	34×32×32	N-45°-E	
A 1	1	31	163・-346	37×32×30	N-26°-E	
A 1	1	32	164～165・-349	34×29×33	N-81°-W	
A 1	1	33	164～165・-348	35×32×8	N-18°-W	
A 1	1	34	164・-348～349	30×28×10	N-8°-W	
A 1	1	35	164・-347～348	39×36×32	N-78°-E	
A 1	1	36	162～163・-346～347	54×35×39	N-48°-W	
A 1	1	38	162・-348～349	28×27×29	N-17°-W	
A 1	1	39	162・-349	28×26×22	N-7°-W	
A 1	1	40	158・-348	53×49×25	N-46°-E	
A 1	1	41	162・-343	29×29×22		
A 1	1	42	161～162・-344	41×38×9	N-8°-W	
A 1	1	43	161～162・-342～343	40×39×21	N-7°-W	
A 1	1	44	162・-342	33×33×32		
A 1	1	45	162・-341～342	41×40×54	N-20°-W	
A 1	1	46	162・-341	33×32×52	N-36°-W	
A 1	1	47	161・-342	48×46×54	N-46°-E	
A 1	1	48	161・-342	35×28×26	N-74°-W	
A 1	1	49	162・-342	28×27×17	N-66°-W	
A 1	1	50	161・-342	34×32×29	N-71°-W	
A 1	1	51	161・-342	41×40×20	N-11°-E	
A 1	1	52	161・-338	38×36×12	N-29°-W	
A 1	1	53	162～163・-350～351	37×32×22	N-60°-W	
A 1	1	54	168・-353	34×33×14	N-67°-W	
A 1	1	55	169～170・-351	27×25×16	N-16°-E	
A 1	1	56	167・-346～347	34×33×14	N-12°-E	
A 1	1	57	164・-343	34×27×51	N-6°-W	
A 1	1	58	162～163・-341～342	27×22×10	N-84°-W	
A 1	1	59	160・-337	37×29×18	N-26°-E	
A 1	1	60	160・-344	30×30×11		
A 1	1	61	160・-344	28×27×18	N-12°-W	
A 1	1	62	161・-344	28×28×16	N-3°-W	
A 1	1	63	159・-346	33×31×8	N-23°-W	
A 2	1	106	148・-366	40×27×33	N-23°-W	41号土坑と重複
A 2	1	111	156・-342	26×24×27	N-10°-E	
A 2	1	112	156・-342	42×31×22	N-2°-W	113号ピットを掘り込む
A 2	1	113	156・-342	40×(25)×14	N-14°-W	112号ピットに掘り込まれる
A 2	1	114	155～156・-342	32×27×24	N-10°-E	
A 2	1	115	154～155・-342	29×24×9	N-82°-W	116号ピットと重複
A 2	1	116	154～155・-342～343	37×35×15	N-45°-E	115号ピットと重複

第5表 ピット一覧表

調査区	面	番号	グリッド(下3桁のみ表記)	長径×短径×深さ(cm)	主軸方位	備考
A 2	1	117	154～155・-343	40×36×14	N-23°-E	
A 2	1	118	155・-343	23×22×17	N-13°-E	
A 2	1	119	156・-343	44×39×12	N-4°-E	
A 2	1	120	157・-341～342	30×26×28	N-21°-E	
A 2	1	121	156・-344	33×(16)×19	N-80°-W	122号ピット、54号土坑と重複
A 2	1	122	156～157・-344	45×43×24	N-7°-W	121号ピットと重複
A 2	1	123	157～158・-345～346	37×33×14	N-42°-W	
A 2	1	124	157・-345	28×25×31	N-43°-E	
A 2	1	125	157・-345	24×22×20	N-52°-E	
A 2	1	126	157・-345	21×21×15		
A 2	1	127	157～158・-346	45×42×35	N-29°-W	
A 2	1	128	157～158・-346	67×37×17	N-87°-E	
A 2	1	129	156・-346	40×36×11	N-61°-W	
A 2	1	130	155～156・-346～347	39×37×25	N-73°-W	
A 2	1	131	158・-347	25×23×19	N-22°-E	
A 2	1	132	158・-347	23×22×22	N-5°-E	
A 2	1	133	157・-346～347	83×51×11	N-63°-W	
A 2	1	134	156～157・-347	47×34×23	N-60°-E	
A 2	1	135	156・-347	34×31×19	N-68°-E	
A 2	1	137	156・-349～350	31×26×12	N-48°-W	
A 2	1	138	156～157・-349	32×31×11	N-25°-E	
A 2	1	139	145・-348	29×21×19	N-10°-E	
A 2	1	140	145・-348	19×17×39	N-82°-W	
A 2	1	141	145・-348	29×29×15		
A 2	1	142	145・-348～349	28×23×14	N-88°-E	
A 2	1	143	146・-349	24×23×18	N-15°-W	
A 2	1	144	145・-349	19×17×13	N-30°-E	
A 2	1	145	144～145・-349～350	25×24×10	N-76°-E	
A 2	1	146	145・-350	35×30×39	N-9°-E	
A 2	1	147	146・-350	31×31×17		
A 2	1	148	146～147・-349	23×18×12	N-41°-W	
A 2	1	149	146～147・-350	27×23×25	N-16°-E	
A 2	1	150	147・-350	24×19×17	N-4°-W	
A 2	1	151	147・-350～351	18×18×10		
A 2	1	152	147・-351	24×22×16	N-56°-W	
A 2	1	153	147・-351～352	24×20×13	N-36°-W	
A 2	1	154	147・-349	29×26×4	N-16°-E	
A 2	1	155	147・-349	31×(14)×56	N-80°-W	
A 2	1	156	147・-350	24×(19)×6	N-82°-W	
A 2	1	157	147・-350	35×(21)×35	N-79°-W	
A 2	1	158	147・-350～351	50×(31)×29	N-86°-E	
A 2	1	159	147～148・-351～352	(38)×24×24	N-8°-E	160号ピットに掘り込まれる
A 2	1	160	147～148・-352	41×41×43		159号ピットを掘り込む
A 2	1	161	147～148・-352～353	19×16×12	N-78°-E	
A 2	1	162	148・-353	(33)×(21)×8	N-59°-W	44号土坑に掘り込まれる
A 2	1	163	148・-352	34×34×44		
A 2	1	164	148・-351～352	(21)×20×10	N-12°-E	
A 2	1	165	148・-352	29×(15)×28	N-82°-W	
A 2	1	166	148・-350	49×(31)×18	N-82°-W	
A 2	1	167	148・-349～350	21×(12)×11	N-82°-W	
A 2	1	168	148・-349	29×(10)×15	N-82°-W	
A 2	1	169	148・-349～350	46×32×23	N-18°-E	
A 2	1	170	148～149・-351～352	39×32×51	N-8°-E	
A 2	1	171	149・-350～351	38×34×27	N-0°	
A 2	1	172	147～148・-346	26×24×13	N-78°-E	
A 2	1	173	148・-346	33×28×39	N-75°-E	1号河道と重複
A 2	1	174	147・-346～347	35×27×22	N-74°-W	
A 2	1	175	147・-346	26×26×10		
A 2	1	176	149・-353～354	29×24×17	N-83°-W	43号土坑と重複
A 2	1	178	150・-354	49×47×53	N-81°-E	43号土坑、255号ピットと重複
A 2	1	179	149・-354～355	40×33×23	N-9°-E	
A 2	1	180	149・150～-355	46×40×44	N-62°-W	
A 2	1	181	150・-355	29×28×7	N-68°-E	
A 2	1	182	150～151・-355	48×48×46		
A 2	1	183	147・-350	34×30×44	N-40°-E	184号ピットを掘り込む
A 2	1	184	147・-350	20×(14)×6	N-32°-E	183号ピットに掘り込まれる
A 2	1	185	147～148・-354	24×24×25		
A 2	1	186	147・-354～355	36×22×26	N-84°-E	
A 2	1	187	147・-355	32×29×22	N-13°-W	

第5表 ピット一覧表

調査区	面	番号	グリッド(下3桁のみ表記)	長径×短径×深さ(cm)	主軸方位	備考
A 2	1	188	147～148・-355	35×33×19	N-82°-E	
A 2	1	189	148・-355	31×(21)×19	N-85°-E	
A 2	1	190	148・-356	28×25×23	N-3°-E	
A 2	1	191	147・-356	32×(20)×23	N-83°-E	
A 2	1	192	149・-356～357	30×(21)×13	N-79°-W	
A 2	1	193	149・-355～356	31×(24)×18	N-82°-W	
A 2	1	194	148～149・-355	(60)×43×26	N-23°-W	
A 2	1	195	149～150・-355～356	39×36×36	N-42°-W	
A 2	1	196	150・-355～356	30×28×29	N-27°-W	
A 2	1	197	151・-355	34×29×14	N-25°-W	
A 2	1	198	155・-355	34×29×14	N-8°-W	
A 2	1	199	151・-355	28×25×11	N-56°-W	
A 2	1	200	151～152・-355～356	37×35×26	N-53°-W	
A 2	1	201	151・-352	32×26×(21)	N-84°-E	1号河道と重複
A 2	1	202	150～151・-352	38×33×17	N-48°-W	1号河道と重複
A 2	1	203	149・-356	24×24×6		
A 2	1	204	148・-357	29×28×11	N-8°-E	
A 2	1	205	148・-356	27×25×20	N-5°-E	
A 2	1	206	149～150・-358	28×26×4	N-10°-E	
A 2	1	207	147・-359	29×26×10	N-42°-W	
A 2	1	208	147・-360	34×(22)×15	N-65°-E	257号ピットと重複
A 2	1	209	147・-360	44×(38)×59	N-79°-W	210・256・257号ピットと重複
A 2	1	210	147・-360	53×49×35	N-33°-E	209・256号ピットと重複
A 2	1	211	149・-360	35×35×55		
A 2	1	212	150～151・-359	36×(25)×47	N-86°-W	
A 2	1	213	151～152・-359	30×(26)×49	N-11°-W	214号ピットと重複
A 2	1	214	151～152・-359～360	32×22×22	N-12°-W	213号ピットと重複
A 2	1	215	152～153・-359～360	61×51×39	N-24°-W	
A 2	1	216	153・-359	39×33×40	N-57°-E	
A 2	1	217	153・-360	25×24×23	N-69°-W	
A 2	1	218	153～154・-359～360	28×26×4×46	N-50°-W	
A 2	1	219	153・-360	30×29×9	N-40°-W	
A 2	1	220	151・-361	36×32×36	N-67°-E	
A 2	1	221	152・-361	45×36×34	N-10°-W	
A 2	1	222	151～152・-361	38×28×17	N-24°-E	
A 2	1	223	151～152・-361	33×27×26	N-17°-W	
A 2	1	224	150・-361	33×28×33	N-54°-W	
A 2	1	225	148・-361	41×29×38	N-17°-E	
A 2	1	226	148～149・-361	25×20×11	N-1°-W	
A 2	1	227	148～149・-361～362	40×35×19	N-6°-W	
A 2	1	218	148・-362	25×22×12	N-32°-W	
A 2	1	229	148・-361～362	(29)×22×12	N-31°-W	1号溝と重複
A 2	1	230	149～150-361～362	45×41×33	N-54°-W	
A 2	1	231	150・-362	46×40×39	N-33°-E	259号ピットと重複
A 2	1	232	147・-364	34×31×15	N-84°-E	
A 2	1	233	148・-365	27×25×37	N-5°-W	
A 2	1	234	148・-365	31×29×18	N-4°-E	
A 2	1	235	153・-364	46×33×45	N-87°-W	2号掘立柱建物と重複
A 2	1	236	153・-367	32×24×8	N-49°-E	2号掘立柱建物と重複
A 2	1	237	152・-367	34×25×17	N-61°-E	
A 2	1	238	151・-367	42×28×34	N-52°-E	2号掘立柱建物と重複
A 2	1	239	151・-367	40×28×34	N-52°-E	2号掘立柱建物と重複
A 2	1	240	151・-367	20×19×9	N-13°-E	
A 2	1	241	147～148・-367	40×34×7	N-20°-E	
A 2	1	242	147・-367	21×17×18	N-33°-W	
A 2	1	243	147・-368	34×28×7	N-59°-W	
A 2	1	244	155～156・-368	34×31×27	N-59°-E	
A 2	1	245	155・-365	59×48×23	N-9°-W	
A 2	1	246	155・-365	35×35×9		
A 2	1	247	155・-364	30×27×12	N-5°-E	
A 2	1	248	155・-364	42×34×13	N-39°-W	
A 2	1	249	155～156・-363	43×41×13	N-38°-W	
A 2	1	250	153～154・-361	52×34×35	N-42°-E	42号土坑と重複
A 2	1	251	153～154・-360～361	41×35×93	N-66°-E	
A 2	1	252	149～150・-352	59×35×30	N-24°-E	254号ピットと重複
A 2	1	253	149・-352	60×39×17	N-41°-W	
A 2	1	254	149～150・-352	84×(72)×52	N-41°-W	252号ピットと重複
A 2	1	255	150・-354	41×(36)×30	N-13°-W	43号土坑、178号ピットと重複
A 2	1	256	148・-350	(43)×(37)×31	N-62°-E	209・210・257号ピットと重複

第5表 ピット一覧表

調査区	面	番号	グリッド(下3桁のみ表記)	長径×短径×深さ(cm)	主軸方位	備考
A 2	1	257	147～148・-360	(35)×(35)×19		208・209・256号ピットと重複
A 2	1	258	155～156・-361	43×34×54	N-5°-W	37号土坑と重複
A 2	1	259	150・-361～362	31×27×55	N-35°-W	231号ピットと重複
A 2	1	264	153・-369	37×32×29	N-85°-E	
A 2	1	265	151～152・-369～370	37×33×17	N-82°-W	
A 2	1	266	149・-369～370	(44)×36×29	N-67°-E	
A 2	1	267	148・-369	38×27×37	N-83°-W	
A 2	1	268	148～149・-368	31×31×17×22		
A 2	1	269	148・-368～369	32×29×27	N-27°-E	
A 2	1	270	147～148・-369～367	(72)×57×79	N-82°-E	
A 2	1	271	146・-367～368	38×28×19	N-13°-E	
A 2	1	272	148・-368	42×39×23	N-78°-W	
B 1	1	64	096・-388	31×28×46	N-51°-E	
B 1	1	65	097～098・-388～389	21×20×17	N-23°-W	
B 1	1	66	099～100・-389	28×24×11	N-80°-E	
B 1	1	67	099～100・-388	32×28×44	N-62°-E	
B 1	1	68	100・-388	44×44×43		30号土坑と重複
B 1	1	69	100～101・-388～389	31×25×35	N-33°-E	
B 1	1	70	101・-389	42×31×31	N-75°-E	
B 1	1	71	099・-387～388	35×31×30	N-46°-W	
B 1	1	72	100・-387	34×34×42		
B 1	1	73	099・-387	29×28×30	N-55°-E	
B 1	1	74	099・-386	23×18×27	N-10°-E	
B 1	1	75	098～099・-386	25×24×35	N-6°-E	
B 1	1	76	098・-386	31×29×-	N-23°-E	
B 1	1	77	100・-386	39×37×45	N-43°-W	
B 1	1	78	100・-385～386	58×56×54	N-40°-W	
B 1	1	79	098・-385	25×22×28	N-67°-W	
B 1	1	80	098・-385	31×27×22	N-49°-W	
B 1	1	81	099・-385	29×25×40	N-4°-W	
B 1	1	82	099・-385	35×26×19	N-7°-W	
B 1	1	83	099・-384	28×27×-	N-7°-W	
B 1	1	84	099・-383～384	50×(34)×35	N-59°-E	
B 1	1	85	100・-383～384	56×47×39	N-34°-W	
B 1	1	86	99～100・-383	22×18×14	N-14°-E	
B 1	1	87	101～102・-385	35×30×24	N-64°-W	
B 1	1	88	101～102・-384	55×50×57	N-5°-W	
B 1	1	89	102～103・-382～383	59×46×36	N-55°-W	
B 1	1	90	102～103・-382	34×32×42	N-45°-E	
B 1	1	91	100～101・-382	41×33×24	N-9°-W	
B 1	1	92	101・-381～382	41×36×12	N-88°-E	
B 1	1	93	101～102・-382	32×27×30	N-7°-E	
B 1	1	94	101～102・-382	60×52×37	N-14°-E	
B 1	1	95	100・-387～388	30×25×38	N-22°-E	
B 1	1	96	100・-383	30×(24)×39	N-3°-E	32号土坑と重複
B 1	1	97	100・-387	38×24×19	N-81°-E	
B 1	1	98	100・-388	23×20×11	N-56°-E	
B 1	1	99	101・-387	24×24×40		
B 1	1	100	101・-386～387	25×23×20	N-3°-E	
B 1	2	107	103・-383～384	31×30×34	N-14°-W	
B 1	2	108	103・-385	28×27×27	N-25°-E	
B 1	2	109	104～105・-. 383～384	37×35×38	N-59°-E	
B 1	2	110	104・-383	31×28×41	N-28°-W	
B 2	1	101	120・-362～363	35×26×32	N-71°-W	33号土坑と重複
B 2	1	102	120・-361	41×26×19	N-13°-E	33号土坑と重複
B 2	1	103	120・-360	44×32×14	N-72°-W	33号土坑と重複
B 2	1	104	122・-360	34×32×12	N-20°-E	
B 2	1	105	124～125・-356	60×38×21	N-18°-E	
B 3	1	260	116・-365～360	31×27×59	N-80°-E	
B 3	1	261	117・-365	28×25×28	N-43°-W	
B 3	1	262	116～117・-363	31×29×21	N-88°-W	
B 3	1	263	114・-365	49×(30)×29	N-33°-E	
B 4	1	273	127～128・-370・371	34×33×26	N-78°-W	
B 4	1	274	128・-372～373	44×42×41	N-65°-W	
B 4	1	275	130・-372～373	37×33×45	N-8°-E	1号井戸と重複
B 4	1	276	124～125・-363	46×40×19	N-18°-E	
B 4	1	277	124・-363	33×27×48	N-41°-E	
B 4	1	278	125～126・-373～374	56×32×33	N-73°-W	
B 4	1	279	123・-376	54×34×35	N-29°-E	

第5表 ピット一覧表

調査区	面	番号	グリッド(下3桁のみ表記)	長径×短径×深さ(cm)	主軸方位	備考
B 4	1	280	123・-376～377	21×19×11	N-17°-E	
B 4	1	281	121～122・-377	31×31×18		
B 4	1	283	122・-378～379	43×42×12	N-14°-E	89号土坑と重複
B 4	1	284	191～120・-380	25×24×16	N-75°-W	
B 4	1	285	126～127・-378～379	49×41×79	N-39°-W	
B 4	1	286	126・-379	41×39×53	N-10°-W	
B 4	1	287	125～126・-379	42×33×44	N-56°-E	
B 4	1	288	119・-373～374	46×36×17	N-12°-E	
B 4	1	289	123・-381～382	22×18×35	N-35°-W	1号住居と重複
B 4	1	297	124・-382	38×36×31	N-18°-E	1号住居と重複
B 4	1	298	123～124	36×33×17	N-60°-W	1号住居と重複
B 4	1	299	123・-382	31×26×20	N-30°-E	1号住居と重複
B 4	1	302	124・-381	25×23×12	N-85°-E	1号住居と重複
B 4	1	304	124・-382	28×24×23	N-42°-E	1号住居と重複
B 4	1	305	123・-382	36×22×10	N-78°-E	1号住居と重複
C 1	1	301	048・-457～458	44×42×12	N-10°-E	6号住居と重複
C 2	1	294	061・-448	27×20×15	N-10°-W	311号ピットを掘り込む
C 2	1	295	064・-447～448	25×22×7	N-20°-W	
C 2	1	296	063・-445	26×23×10	N-36°-W	
C 2	1	306	068・-454	73×44×50	N-14°-W	
C 2	1	307	086・-450	55×51×31	N-0°	
C 2	1	308	088・-449	(33)×37×4	N-7°-E	168号土坑と重複
C 2	1	309	090～091・-450～451	77×48×53	N-8°-E	
C 2	1	310	061・-447	28×27×22	N-64°-E	
C 2	1	311	061・-447～448	25×(22)×13	N-14°-E	294号ピットに掘り込まれる
C 2	1	312	064・-451～452	44×21×20	N-13°-W	
C 2	1	313	061・-444	26×24×37	N-80°-E	313号ピットが314号ピットを掘り込む
C 2	1	314	060-061・-444	(30)×32×20	N-20°-E	313号ピットに掘り込まれる
C 2	1	315	060・-444	23×17×28	N-56°-W	
C 2	1	316	060・-444	21×18×20	N-42°-W	
C 2	1	317	059・-444～445	28×27×22	N-45°-W	
C 2	1	318	059～060・-445	20×19×20	N-5°-E	
C 2	1	319	064・-441～442	28×27×36	N-0°	
C 2	1	320	065～066・450	36×27×21	N-19°-E	
C 2	1	321	063・-450	26×26×27	N-8°-E	
C 2	1	322	063～064・-451	19×19×16	N-0°	
C 2	1	323	065～066・-452	30×26×44	N-2°-E	
C 2	1	324	062・-454～455	25×25×19		
C 2	1	421	069・-456～457	35×27×50	N-9°-E	
C 2	1	422	068～069・-456	48×43×32	N-45°-E	
C 2	1	423	067・-452～453	51×31×20	N-90°	
C 2	1	424	066～067・-452	36×33×44	N-135°-E	
C 2	1	425	067・-451	28×26×27	N-2°-W	
C 2	1	426	082・-456	30×28×31	N-27°-W	
C 2	1	427	082・-453	42×31×37	N-25°-W	
C 2	1	428	083～084・-453	30×25×45	N-0°	
C 2	1	429	086・-452	28×26×25	N-18°-W	
C 2	1	443	089～090・-464	38×40×33	N-75°-E	
C 2	1	444	092・-450	28×26×28	N-78°-E	
C 2	1	445	095・-450	53×46×24	N-10°-E	
C 2	1	446	095～096・-452	44×46×23	N-13°-E	
C 2	1	447	093・-452	42×34×28	N-83°-E	
C 2	1	448	091～092・-452～453	57×44×31	N-8°-E	
C 2	1	449	091～092・-454～455	49×41×20	N-25°-W	
C 2	1	450	093・-453	26×26×19	N-11°-W	
C 2	1	451	090・-464～465	50×40×11	N-26°-W	
C 3	1	472	076・-424	38×30×28	N-1°-W	
C 3	1	473	092・-429	110×102×23	N-7°-W	
C 3	1	474	093・-428	54×45×22	N-22°-E	
C 3	1	475	092・-428	74×46×18	N-96°-E	
C 3	1	476	085・-428～429	62×44×32	N-36°-W	
C 3	1	477	086・-428～429	42×42×34	N-74°-W	
C 3	1	483	106・-426	36×30×18	N-21°-W	
C 3	1	484	103・-428	48×45×20	N-58°-E	
C 3	1	485	103～104・-428	32×30×24	N-29°-W	
C 3	1	486	101・-408	36×34×24	N-63°-E	
C 3	1	487	099～100・-424～425	74×50×34	N-27°-W	
C 3	1	488	099～100・-428	56×30×40	N-60°-E	

第5表 ピット一覧表

調査区	面	番号	グリッド(下3桁のみ表記)	長径×短径×深さ(cm)	主軸方位	備考
C 3	1	489	101・-430	44×44×36	N-99°-E	
C 3	1	490	099・-432	36×30×24	N-74°-E	
C 3	1	491	099・-433	32×30×32	N-12°-W	
C 3	1	492	097・-433	36×34×46	N-33°-W	
C 3	1	493	101・-427	35×30×27	N-27°-W	
C 3	1	494	100・-427	34×28×34	N-35°-W	
C 3	1	495	098～099・-428	36×30×65	N-31°-W	
C 3	1	496	099・-434～435	29×28×28	N-38°-E	
C 3	1	497	099・-430	30×26×20	N-8°-E	
C 3	1	498	101・-425	34×30×16	N-15°-E	
C 3	1	499	099・-420	36×32×34	N-20°-W	
C 3	1	500	101・-425	28×26×22	N-19°-E	
C 3	1	501	096・-424	36×26×16	N-35°-W	
C 3	1	502	096・-425	44×38×16	N-26°-E	
C 3	1	503	103・-430	42×38×46	N-55°-E	
C 4	1	462	083・-417	40×39×32	N-107°-E	
C 4	1	463	086・-410	38×36×14	N-53°-W	
C 4	1	464	087・-416～417	64×64×30	N-10°-E	
C 4	1	465	089・-410	56×48×24	N-10°-W	
C 4	1	466	088・-408	26×20×22	N-23°-W	
C 4	1	467	103・-416	56×50×36	N-42°-E	469号ピットと重複
C 4	1	468	089・-398	63×36×38	N-40°-E	
C 4	1	469	103・-416	(45)×44×50	N-17°-E	467号ピットと重複
C 4	1	470	089・-400	75×52×27	N-22°-W	
C 4	1	471	95・-405	44×38×34	N-30°-E	
D	1	325	111・-509	38×30×29	N-7°-W	
D	1	326	111・-508	57×34×62	N-24°-W	
D	1	327	111・-507	33×33×40		
D	1	328	111・-513	35×33×34	N-13°-E	
D	1	329	089・-506	43×41×20	N-68°-E	
D	1	330	086・-508	30×28×34	N-73°-E	
D	1	331	085・-507	38×26×57	N-14°-E	
D	1	332	082～083・-505	27×25×24	N-22°-E	
D	1	333	087・-506～507	39×26×57	N-18°-E	
D	1	334	085～086・-503	67×46×48	N-64°-E	
D	1	335	082・-503～504	68×48×30	N-85°-E	
D	1	336	083・-502	44×37×12	N-4°-E	
D	1	337	082・-502	51×46×29	N-9°-W	
D	1	338	080～081・-503	37×29×6	N-84°-W	339号ピットを掘り込む
D	1	339	080～081・-503	(38)×36×11	N-84°-W	338号ピットに掘り込まれる
D	1	340	082・-504	37×35×66	N-27°-W	
D	1	341	082・-499～500	61×49×22	N-77°-E	
D	1	342	073～074・-478～479	49×46×12	N-33°-W	
D	1	343	071・-479	28×24×12	N-14°-E	
D	1	344	073～074・-480	38×38×8		
D	1	345	063～064・-481～482	57×54×22	N-81°-W	
D	1	346	063・-482～483	42×40×62	N-74°-W	
D	1	347	061・-483	38×36×39	N-83°-W	
D	1	348	061～062・-484～485	27×26×32	N-76°-W	
D	1	349	064・-436	36×30×43	N-72°-E	3号島と重複
D	1	350	063・-485～486	33×33×21		3号島と重複
D	1	351	060・-487	36×33×28	N-31°-E	3号島と重複
D	1	353	058・-494	47×31×57	N-14°-W	
D	1	354	061・-493	29×28×32	N-77°-E	
D	1	355	064・-494～495	30×25×26	N-67°-W	3号島と重複
D	1	357	063・-497	41×38×56	N-43°-E	358号ピットと重複
D	1	358	062～063・-497	26×(17)×26	N-55°-W	357号ピットと重複
D	1	359	051～052・-497～498	55×49×16	N-17°-E	461号ピットを掘り込む
D	1	361	069・-499	28×27×25	N-76°-W	
D	1	362	068・-496	30×28×34	N-6°-E	
D	1	364	068・-495	31×30×26	N-10°-E	
D	1	365	066～067・-498	48×36×32	N-20°-E	
D	1	366	065・-497	48×42×31	N-73°-W	3号島と重複
D	1	367	064～065・-498～499	50×43×69	N-3°-E	
D	1	369	063・-500～501	54×54×67		
D	1	371	065・-494	34×(24)×64	N-41°-W	4号掘立柱建物ピット2と重複
D	1	372	053・-491	62×54×26	N-50°-E	
D	1	373	053・-493	49×46×15	N-80°-W	
D	1	374	053～054・-496	46×42×33	N-44°-E	

第5表 ピット一覧表

調査区	面	番号	グリッド(下3桁のみ表記)	長径×短径×深さ(cm)	主軸方位	備考
D	1	375	053・-497～498	47×42×18	N-75°-W	
D	1	376	053・-499～500	60×51×36	N-7°-W	
D	1	377	063～064・-496～497	59×57×47	N-34°-W	
D	1	378	063・-499	29×26×32	N-6°-W	
D	1	379	063・-499	39×39×36		
D	1	381	059・-498	43×(32)×48	N-71°-W	15号住居と重複
D	1	382	059～060・-479	22×18×19	N-3°-W	
D	1	383	059～060・-500	34×29×25	N-8°-W	
D	1	384	059～060・-501	38×34×53	N-49°-E	
D	1	385	059・-501	37×32×39	N-76°-W	
D	1	386	059・-501	39×30×42	N-66°-W	
D	1	388	058～059・-496	55×38×39	N-9°-E	
D	1	390	063～064・-499～500	66×38×37	N-22°-E	
D	1	391	064・-501	48×40×29	N-60°-E	
D	1	392	064・-501～502	87×51×55	N-85°-W	393号ピットを掘り込む
D	1	393	064・-500～501	(92)×39×76	N-80°-W	392号ピットに掘り込まれる
D	1	394	062・-502	53×(32)×23	N-72°-W	395号ピットに掘り込まれる
D	1	395	062・-501～502	58×46×65	N-74°-W	394号ピットを掘り込む
D	1	396	063～064・-489～499	52×33×46	N-45°-E	397号ピットを掘り込む
D	1	397	064・-498	(32)×27×46	N-46°-E	396号ピットに掘り込まれ、398号ピットを掘り込む
D	1	398	064・-498	(46)×44×37	N-40°-E	397号ピットに掘り込まれる
D	1	399	063～064・-497	30×22×46	N-46°-W	
D	1	400	060・-502	34×33×29	N-31°-E	
D	1	401	063・-512～513	44×41×30	N-80°-E	10号溝と重複
D	1	402	069・-512	62×47×16	N-27°-W	10号溝と重複
D	1	403	061～062・-501～502	51×(43)×47	N-47°-E	151号土坑に掘り込まれる
D	1	405	068・-500～501	27×24×32	N-88°-W	
D	1	406	064・-503	25×24×19	M-9°-W	
D	1	407	060・-502～503	71×62×67	N-47°-E	
D	1	408	070～071・-507	54×42×54	N-68°-E	
D	1	409	069・-507	43×41×52	N-18°-E	
D	1	410	066～067・-508	29×25×16	N-90°	
D	1	411	061・-507	44×37×14	N-53°-E	
D	1	412	062～063・-509～510	(74)×66×9	N-19°-W	413号ピットに掘り込まれる
D	1	413	062・-509～510	52×31×20	N-63°-W	154号土坑、412号ピットを掘り込む
D	1	414	060・-509～510	80×31×32	N-71°-W	
D	1	415	059～060・-510	73×57×80	N-68°-W	
D	1	416	060・-510～511	44×39×56	N-63°-W	
D	1	417	059・-510～511	42×32×35	N-45°-E	
D	1	418	058～059・-511	44×39×56	N-44°-W	
D	1	420	059・-504	68×57×61	N-55°-W	
D	1	430	079・-503	39×27×31	N-57°-W	163号土坑と重複
D	1	432	064・-496～497	57×45×50	N-33°-W	
D	1	434	090・-500	32×25×31	N-41°-E	
D	1	435	086・-505	31×23×25	N-74°-E	
D	1	436	086・-504	29×27×29	N-67°-E	
D	1	437	083～084・-503	32×30×49	N-20°-W	
D	1	438	078・-503～504	52×38×25	N-65°-W	
D	1	440	056・-496～497	39×29×33	N-67°-W	
D	1	441	056・-495	47×36×49	N-78°-W	
D	1	442	055～056・-495～496	57×55×44	N-51°-E	
D	1	452	062・-498	33×27×32	N-3°-E	
D	1	453	061・-496～497	29×27×60	N-29°-W	
D	1	454	062～063・-496～497	49×44×38	N-41°-E	
D	1	455	080・-493～494	49×43×29	N-23°-E	
D	1	456	073～074・-495	38×35×23	N-70°-W	
D	1	457	073・-495	36×33×28	N-77°-W	
D	1	458	074・-505	49×35×35	N-50°-W	
D	1	459	052・-489～490	55×40×60	N-33°-W	
D	1	460	052・-497	50×39×18	N-8°-E	461号ピットを掘り込む
D	1	461	052・-497	50×(43)×50	N-71°-W	359、460号ピットに掘り込まれる
E	1	478	142～143・-385	69×52×48	N-74°-W	
E	1	479	143・-387	39×37×46	N-22°-W	
E	1	480	143・-387～388	40×34×27	N-10°-E	
E	1	481	144・-388	38×(28)×33	N-2°-W	
E	1	482	144・-387	70×64×46	N-43°-W	

第6表 掲載遺物観察表

A区1号掘立柱建物

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第189図	1	瀬戸・美濃 陶器 丸皿	P1埋土 2/3	口 底	(11.9) 7.7	器 高	2.5	浅黄	内外面に白濁した灰釉。見込みと高台内にトチン痕3点。	江戸時代前期

A区1号河道

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第189図	1	肥前磁器 染付丸碗	埋土 1/4	口 底	(9.8) 4.4	高	5.0	灰白	厚手、焼成不良。外面に雪輪梅木文染付、内面無文。	江戸時代後期
第189図	2	瀬戸・美濃 陶器 天目碗	埋土 体部1/4					淡黄	内面から外面腰まで鉄釉。	江戸時代
第189図	3	瀬戸・美濃 陶器 灰釉碗か?	埋土 下半2/3	底	7.2			浅黄	厚手で重い。外面に縦位の太線。内面から外面腰まで緑色の灰釉、貫入する。高台内に墨書あり。	江戸時代
第189図	4	円盤形加工 品	埋土 完形	長 短	5.9 5.3	厚	2.4	灰白	肥前陶器器手碗の高台部の周囲を円形状に打ち欠いたもの。	江戸時代
第189図	5	肥前磁器 染付猪口	埋土 体部下半1/4	底	(5.3)			灰白	外面に染付。内面無文。	江戸時代
第189図	6	肥前磁器 染付皿	埋土 1/5	口 底	(13.8) (9.0)	高	3.0	灰白	口縁部内面に一重圈線、見込み二重圈線と花文様。外面腰と高台内に一重圈線。	江戸時代
第189図	7	瀬戸・美濃 陶器 灰釉皿	埋土 1/3	口 底	(13.1) (6.6)	高	2.9	浅黄～灰オリーブ	内面から外面腰まで灰釉。見込に重焼痕。	江戸時代
第189図	8	在地系土器 灯明受皿	埋土 1/5	口 底	(13.0) (6.0)	高	2.3	にぶい赤褐	焼成良、硬質。薄手で大型。底部丸底状。体部外面回転斲削り。受け部に透かし穴が付くだろう。	近代
第189図	9	瀬戸・美濃 陶器 灰釉筒形香炉	埋土 体部1/5	口	(6.9)			灰白	体部下半弱く内湾。外面から口縁部内面に灰釉、貫入する。内面無釉。	江戸時代
第189図	10	瀬戸・美濃 陶器 灰釉香炉	埋土 破片	底	(9.0)			淡灰	被熱変色・劣化。腰が折れて高台がつく。外面腰まで緑色の灰釉。内面無釉で、薄く釉かかる。高台内面に赤茶色の付着あり。	江戸時代
第189図	11	瀬戸・美濃 陶器 御深井袖手 付水注	埋土 体部上半1/4	口	(10.0)			灰白	体部円筒状で蓋が付く。外面から口縁部内面に御深井釉、貫入する。外面に鉄摺絵。	江戸時代中期
第189図	12	瀬戸・美濃 陶器 半胴か?	埋土 底部片	底	(14.0)			浅黄	外面に錆釉。底部内外面に錆釉かかる。	江戸時代
第190図	13	陶器 播鉢	埋土 体部下半1/3	底	(12.5)			明赤褐	見込み空白に櫛歯条線で十字を描く。底部ナデ。	江戸時代
第190図	14	瀬戸・美濃 陶器 播鉢	埋土 体部下半1/4	底	(12.0)			浅黄	底部回転糸切り痕。内外面と底面に鉄釉。内面使用による擦れ。内外面に目痕角1箇所。	江戸時代
第190図	15	在地系土器 皿	埋土 口縁部片	口	(12.6)			橙	体部外反、口縁部内湾。薄手で焼成良。内外面丁寧な横ナデ。	江戸時代
第190図	16	在地系土器 焙烙鍋	埋土 1/4	口 底	(33.8) (17.6)	高	(13.0)	黄灰白～黒灰	焼成良、薄手で硬質。内外面燻し、黒色化。体部わずかに内湾しながら開く。口縁部内外面に幅広の凹線1条。口唇部丸頭状。内面にていねいなナデ、外面に斜行する指ナデ痕。外面下半から底部に使用による煤油多量に付着。	江戸時代
第190図	17	在地系土器 焙烙	埋土 破片					黄灰白～黒灰	体部外傾。底部平底、底板薄手。内外面燻し、黒色化。	江戸時代
第190図	18	在地系土器 焙烙	埋土 破片	口 底	(33.6) (32.4)	高	5.4	黄灰白～暗灰	体部内湾ぎみに直立。底部平底、やや厚手。焼成良、硬質。内外面燻し、黒色化。外面に使用による煤付着。	江戸時代
第190図	19	在地系土器 焙烙	埋土 1/5	口 底	(33.1) (32.2)	高	5.5	黄灰白～黒灰	器厚均質。焼成良、硬質。体部直立、底部平底。内外面燻し、黒色化。内外面横ナデ。外面に煤付着。	江戸時代
第10図 PL.99	20	石製品 砥石	埋土 2/3	長 幅	(10.7) 3.0	厚 重	3.1 140.2	砥沢石	砥面は1面認められ、正面は研ぎ減りによりやや内湾する。左右側面、裏面、上面には櫛歯タガネ痕がわずかに残る。下部欠損。	
第10図 PL.99	21	石製品 砥石	埋土 ほぼ完形	長 幅	(12.7) 3.5	厚 重	2.5 122.7	砥沢石	砥面は4面認められる。正面は研ぎ減りにより外湾する。左右側面はほぼ平坦であるが、左側面の中央付近に横方向の細かい線条痕が集中する。裏面は全体的に緩やかな凹凸面を呈する。上部及び下部欠損。	
第10図 PL.99	22	石製品 砥石	埋土 不明	長 幅	(9.8) 7.6	厚 重	7.6 460.9	粗粒輝石安山岩	左側面には直径3mm程度の棒状工具痕がわずかに残り、加工痕の可能性ある。荒砥。下部欠損。	

A区2号河道

挿図 PL.No.	No.	種類 器種	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第191図	1	在地系土器 皿	埋土 破片					にぶい橙	体部弱く内湾。内外面横ナデ。	中世
第191図	2	在地系土器 皿	埋土 1/5	口 底	(6.8) (4.3)	高	1.85	にぶい橙	小型。口唇部外削ぎ状。内外面横ナデ。底部回転糸切り痕。	中世か?
第191図	3	在地系土器 皿	埋土 1/6	口 底	(11.8) (6.0)	高	2.4	橙	被熱変色。腰弱く外反。底部回転糸切り痕、	中世

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	厚				
第191図	4	在地系土器 鉢	埋土 口縁部片				にぶい橙	内湾する口縁部の外面に羽釜様の鏝がつく。焼成良、薄手で硬質。内外面横ナデ。	中世後半	
第191図	5	在地系土器 内耳鍋	埋土 体部1/2	口	(25.0)		灰白	やや小型で、口縁部が強く開く。内耳1個残存。内外面焼し、黒色化。内外面横ナデ、体部外面に粗い研磨。	中世	
第191図	6	在地系土器 内耳鍋	埋土 体部破片	口	(33.8)		にぶい赤褐	口縁部くの字に折れて外傾。焼成良、硬質。内外面丁寧な横ナデ。外面に使用による煤付着。	中世	
第191図	7	在地系土器 内耳鍋	埋土 体部1/4	口	(29.8)		にぶい褐	口縁部くの字に折れて外傾。焼成良、硬質。内外面丁寧な横ナデ。体部外面に指頭痕跡、下半部に粗い研磨。外面に使用による煤付着。	中世	
第11図 PL.99	8	石製品 石製品	埋土 完形	長幅	12.4 14.7	厚重	7.1 1280.8	粗粒輝石安山岩	正面には漏斗状の孔が認められ、上端部径約8cm、底部径約2cm、深さ約4cmを測る。孔の内部は比較的滑らかである。外面も全体的に滑らかである。	

A区22号土坑

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	幅	厚				
第191図	1	瀬戸・美濃 陶器 胎釉碗	埋土 底部	底	4.8			浅黄	内面から外面腰まで緑褐色の胎釉、貫入入る。	江戸時代
第191図	2	瀬戸・美濃 陶器 播鉢	埋土 口縁部片					にぶい橙	口縁部受け口状。内外面に鉄釉。	江戸時代前期 1650年頃
第14図 PL.99	3	石製品 板碑片	埋土 不明	長幅	(4.3) (4.1)	厚重	(0.7) 15.7	緑色片岩	わずかな破片であり、全体形状及び部位不明。	
第14図 PL.99	4	石製品 板碑片	埋土 不明	長幅	(8.7) (7.3)	厚重	(2.0) 163.5	緑色片岩	わずかな破片であり、全体形状及び部位不明。	
第14図 PL.99	5	銅製品 銭貨	埋土 ほぼ完形	縦横	2.359 2.381	厚重	0.130 2.41		極めて平坦で外輪・文字の存在はわかるが銭種の判読困難。	銭文不明

A区18号ピット

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	厚				
第191図	1	在地系土器 内耳鍋	埋土 胴部片					灰	内外面横ナデ。外面に粗い研磨。外面に使用による煤付着。	中世

A区遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	厚				
第191図	1	肥前磁器 染付丸碗	埋土 1/4	口	(8.9)			灰白	高台欠損。外面に花文染付。口縁部内面に菱形装飾帯、見込に二重圏線。	江戸時代後期
第191図	2	肥前磁器 染付丸碗	埋土 1/4	口底	(8.5) (3.2)	高	5.3	灰白	外面に竹林図染付。口縁部内面に二重圏線、見込一重圏線。	江戸時代後期
第191図	3	肥前磁器 染付丸碗	埋土 1/3	口底	(9.5) 3.8	高	5.3	明オリーブ灰	厚手で焼成不良。外面に略した折れ松葉文、内面無文。高台内に不明文様。	江戸後期、 1850年頃
第191図	4	瀬戸・美濃 陶器 鎔茶碗	埋土 口縁部片	口	(7.6)			くすんだ灰	外面に櫛歯の刺突列。内面から外面口縁部に鉄釉。外面に薄く胎釉。	江戸時代
第24図 PL.99	5	石製品 砥石	埋土 2/3	長幅	(11.9) 3.8	厚重	3.5 167.4	砥沢石	砥面は2面認められる。正面は研ぎ減りにより外湾する。左右側面の痕跡は平タガネ痕の可能性ある。	
第24図 PL.99	6	銅製品 キセル・雁	埋土 一部欠損	長幅	6.9 1.1	厚重	1.0 7.39		キセルの雁首で火皿接合部で上下に変形し火皿を欠く。表面は錆化しメッキ・装飾等は見られない。	
第24図 PL.99	7	鉄製品 火打金	埋土 一部欠損	長幅	6.6 2.4	厚重	0.6 11.94		山形の火打金と見られる鉄製品。錆化により中央部分の穴は確認できない。両端部は丸みを持ち終わる。	

B区1号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	底	厚				
第25図	1	須恵器 杯蓋	竈 口縁部小片	口	15.3			細砂粒／還元焰／灰黄	ロクロ整形。	9世紀第3四 半期
第25図	2	土師器 甕	埋土 口縁部片	口	20.0			細砂粒／良好／明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ。	9世紀第3四 半期
第25図	3	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	18.2			細砂粒／良好／赤褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期
第26図	4	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	18.9			細砂粒／良好／赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期
第26図	5	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部中 位片	口 胴	20.0 20.0			細砂粒／良好／橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期
第26図 PL.99	6	石製品 砥石	埋土 破片	長幅	(8.5) (4.8)	厚重	(4.3) 154.3	砥沢石	砥面は3面認められる。正面はやや内湾した形態である。右側面と左側面はほぼ平坦である。正面上部から上面にかけての角に、刃傾らし傷が認められる。裏面から下部欠損。	不明
第26図 PL.99	7	石製品 砥石	埋土 破片	長幅	6.9 5.1	厚重	2.1 63.8	ニッ岳軽石	多孔質。表裏面にほぼ平坦な滑らかな面をもち、砥面と判断した。	不明

第6表 掲載遺物観察表

B区1号畠

挿図 PL.No.	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第192図	1	肥前磁器 染付丸碗	埋土 1/4	口 底	(9.7) (3.7)	高	5.0	オリーブ灰	厚手、焼成不良。外面に略した雪輪草花文、内面無文。	江戸時代後期
第192図	2	肥前磁器 染付丸碗	埋土 1/3	口 底	(8.6) 3.4	高	5.1	白	外面に笹竹雪輪内に農夫。口縁部内面に二重圏線、見込一重圏線内に略した五弁花。	江戸時代、 1770年頃
第192図	3	瀬戸・美濃 陶器 胎釉片口	埋土 体部1/4	口	(19.0)			淡黄	厚手。内面から外面腰まで胎釉。外面の一部に釉がまわっていない。焼成も不十分。	江戸時代
第27図 PL.99	4	石製品 砥石	埋土 ほぼ完形	長 幅	(15.1) 3.1	厚 重	3.3 205.4	砥沢石	砥面は2面認められる。表面は研ぎ減りにより外湾する。左側面と上面には櫛歯タガネ痕が比較的に明瞭に残る。	

B区2号井戸

挿図 PL.No.	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第28図 PL.99	1	石製品 石臼	埋土 1/4	長 幅	(34.8) (13.6)	厚 重	14.2 7150.0	粗粒輝石安山岩	外面には棒状工具による加工痕が著しい。直径約5cmの供給孔が1ヶ所認められ、孔の内面には棒状の工具痕が認められる。	

B区56号土坑

挿図 PL.No.	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第192図	1	肥前磁器 蓋もの	埋土 蓋部1/3	口	(8.0)			白	アーチ状の蓋で、上面中央に橋状の摘みがつく。表面に菊花文染付、内面無文。	江戸時代後期
第192図	2	肥前磁器 白磁稜花小碗	埋土 1/3	口 底	(8.6) 3.6	高	5.7	白	口縁部端反、稜花。内外面に淡い青灰色の釉。	江戸時代
第192図	3	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉天目碗	埋土 2/3	口 底	11.2 4.7	高	6.5	灰白	薄手でやや粗いつくり。内面から外面腰まで鉄釉。	江戸時代前期
第192図	4	瀬戸・美濃 陶器 胎釉碗	埋土 底部2/3	底	5.3			くすんだ灰	内面から外面腰まで暗緑色の胎釉。	江戸時代
第192図	5	瀬戸・美濃 陶器 志野丸皿	埋土 1/3	口 底	(11.6) (6.7)	高	2.1	淡黄白	内外面に長石釉、貫入入る。	江戸時代前期
第192図	6	瀬戸・美濃 陶器 灰釉端反皿	埋土 1/3	口 底	(13.4) (6.8)	高	2.7	にぶい黄橙	被熱変色か？。見込に稜、見込中央に円形の凹み。内面から外面腰まで白濁した灰釉。	江戸時代
第192図	7	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉播鉢	埋土 胴部片					淡黄白	内面の体部上半を削って口縁部付近を薄く仕上げる。内外面に鉄釉。	江戸時代前期
第192図	8	在地系土器 焙烙	埋土 1/6	口 底	(38.0) (34.0)	高	5.5	褐灰	焼成良、硬質。内外面燻し、黒色化。体部外面くの字状、内面に稜。口唇部に平坦面。内耳体部に1個残存。外面に煤付着。	中世末～近世初
第192図	9	在地系土器 焙烙	埋土 1/5	口 底	(32.0) (29.3)	高	5.5	灰	焼成良、硬質。内外面燻し、黒色化。口唇部角頭状。体部中位が食い違い状に屈曲。外面に使用による煤付着。	江戸時代前期
第33図 PL.99	10	石製品 砥石	埋土 2/3	長 幅	(12.4) 3.3	厚 重	4.7 233.3	砥沢石	砥面は2面認められる。正面は研ぎ減りにより外湾する。裏面はほぼ平坦である。左右側面の痕跡は平タガネ痕の可能性が高い。上部欠損。	
第33図 PL.99	11	石製品 火輪	埋土 1/3	長 幅	12.2 23.8	厚 重	14.2 4212.8	粗粒輝石安山岩	全面に研磨整形が認められる。上面に径約7cm、深さ約3cmの孔があり、孔の内面には棒状工具による加工痕が認められる。	
第33図 PL.99	12	石製品 地輪	埋土 ほぼ完形	長 幅	30.0 31.0	厚 重	22.8 21500.0	粗粒輝石安山岩	全面にわたり風化・剥落が著しい。	
第34図 PL.99	13	石製品 宝篋印塔	埋土 4/5	長 幅	(24.9) 12.5	厚 重	(12.3) 4028.2	粗粒輝石安山岩	相輪部。研磨により丁寧に整形する。上部欠損。	
第34図 PL.99	14	石製品 宝篋印塔	埋土 1/3	長 幅	17.2 16.0	厚 重	10.7 2737.2	粗粒輝石安山岩	塔身部。二面に梵字の一部が残る。上面と下面には平ノミ状の工具痕が多く認められる。	
第34図 PL.100	15	石製品 不明	埋土 完形	長 幅	16.0 19.3	厚 重	11.8 2813.7	粗粒輝石安山岩	正面には漏斗状の孔が認められ、上端部径約11cm、底部径約6cm、深さ約3cmを測る。孔の内面は細かな凹凸が認められる。裏面は平らに整形されている。上面は平坦であり平ノミ状の工具痕がわずかに認められることから、再加工の可能性が高い。	
第34図 PL.100	16	銅製品 銭貨	埋土 ほぼ完形	縦 横	2.408 2.402	厚 重	0.143 2.94		元祐通寶。表面は外輪・文字・郭とも彫深く明瞭。裏面は平坦で外輪・郭が認められる程度。	
第34図 PL.100	17	銅製品 銭貨	埋土 ほぼ完形	縦 横	2.355 2.313	厚 重	0.132 2.09		嘉定通寶。表面は外輪・文字・郭とも彫深く明瞭だが劣化により外輪の損傷が著しい。裏面はやや平坦。	

B区67号土坑

挿図 PL.No.	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第192図	18	在地系土器 焜炉?	埋土 胴部片					浅黄～黒灰	内面横ナデ。外面かるい研磨。	江戸時代後期か?

B区86号土坑

挿図 PL.No.	No.	種 器 類 種	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第193図	19	肥前磁器 染付段重	埋土 1/2	口 底	7.8 5.4	高	3.8	白	外面に染付、内面無文。口唇部と口縁部内面縁は無釉。高台に台痕のヨゴレ2箇所。	江戸時代

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第193図	20	志戸呂陶器 鎗軸灯明受皿	埋土 1/2	口底 (10.4) (5.2)	高 2.6		にぶい橙	受け部にアーチ状の透かし穴。内面に鎗軸。底部回転 鑿切り。	江戸時代後期
第24図	21	石製品 砥石	埋土 不明	長幅 (7.1) (3.0)	厚 (4.8) 162.6		砥沢石	砥面は3面認められる。正面は研ぎ減りによりやや内 湾する。左側面と裏面はほぼ平坦である。上面は外湾 し非常に滑らかであり砥面として利用された可能性が ある。右側面には櫛歯タガネ痕がわずかに残る。下部 欠損。	

B区遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第193図	1	肥前磁器 染付丸碗	埋土 2/3	口底 (6.8) 3.5	高 5.1		白	外面に手描き染付。内面無文。	江戸時代後期
第193図	2	肥前磁器 染付碗	埋土 1/3	口底 (8.7) 3.6	高 4.3		灰白	外面に矢羽根文。口縁部内面に一重圏線内に不明文様。	江戸時代後期
第193図	3	肥前磁器 染付丸碗	埋土 1/4	口底 (8.2) (3.3)	高 5.3		白	外面に染付。口縁部内面に四方襷文、見込二重圏線内 に略した五弁花。	江戸時代中期
第193図	4	肥前磁器 染付丸碗	埋土 体部下半1/3	底 3.6			灰白	厚手。外面に染付、内面無文。高台内に不明文様。	江戸時代後期
第193図	5	肥前磁器 染付丸碗	埋土 1/3	底 (4.2)			灰白	外面に染付。内面無文。	江戸時代後期
第193図	6	肥前磁器 染付筒形碗	埋土 1/3	口 (7.5)			白	外面に染付。口縁部内面に二重圏線、見込に一重圏線。	江戸時代後期
第193図	7	肥前磁器 広底碗	埋土 底部1/3	底 (6.5)			白	外面に染付。見込一重圏線内に不明文様。	江戸時代後期
第193図	8	瀬戸・美濃 磁器 碗	埋土 ほぼ完形	口底 10.8 3.5	高 4.9		白	内外面と見込に型紙刷りの文様。	近代
第193図	9	肥前陶器 端反碗	埋土 1/2	口底 (10.3) 4.0	高 5.7		黒灰～暗褐	内外面に白色釉で菊花文を描き、透明釉をかける。貫 入入る。高台内中央に円形の凹み。	江戸時代
第193図	10	肥前陶器 陶胎染付碗	埋土 1/2	口底 (10.6) 4.6	高 6.8		灰	厚手。外面に染付、内面無文。貫入入る。	江戸時代後期
第193図	11	肥前陶器 陶胎染付碗	埋土 1/2	口底 (10.7) 5.0	高 7.2		淡オリーブ灰	外面に染付、内面無文。貫入入る。	江戸時代後期
第194図	12	肥前陶器 陶胎染付碗	埋土 体部下半2/3	底 5.2			くすんだ灰	外面に染付。内面無文。内外面に貫入入る。	江戸時代後期
第194図	13	美濃陶器 鉄絵丸碗	埋土 1/2	口底 (8.7) 3.4	高 5.3		くすんだ灰	口縁部外面に鉄絵。内面から外面腰に灰釉、貫入入る。	江戸時代後期
第194図	14	瀬戸・美濃 陶器 腰鎗碗	埋土 口縁部片	口 (9.0)			灰白	灰釉に貫入入る。	江戸時代中期
第194図	15	瀬戸・美濃 陶器 灰釉腰折碗	埋土 1/6	口 (10.8)			灰	体部中位に凹線2条。内外面に灰釉、貫入入る。内面 に茶褐色の釉かかる。	江戸時代中期
第194図	16	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉碗	埋土 体部下半1/3	底 5.4			浅黄	内面から外面腰に鉄釉。高台の内外面に鉄釉刷毛塗り。	江戸時代
第194図	17	瀬戸・美濃 陶器 灰釉せんじ 碗	埋土 体部上半1/4	口 (9.8)			淡黄白	内外面に灰釉、細かな貫入入る。	江戸時代後期
第194図	18	瀬戸・美濃 陶器 灰釉せんじ 碗	埋土 1/4	口 (10.1)			淡黄白	内外面に灰釉、細かな貫入入る。	江戸時代後期
第194図	19	瀬戸・美濃 陶器 せんじ碗	埋土 1/2	口底 (10.2) 4.5	高 5.3		灰白	灰釉と鉄釉を左右掛け分け。灰釉に貫入入る。	江戸時代後期
第194図	20	京・信楽陶器 灰釉せんじ 碗	埋土 体部下半1/3	底 4.3			オリーブ灰	内面から外面腰まで灰釉、細かな貫入入る。見込にト チン痕2個。	江戸時代後期
第194図	21	信楽陶器 小杉碗	埋土 体部下半1/4	底 (3.4)			淡黄	外面に鉄絵。内外面に灰釉、貫入入る。	江戸時代中期
第194図	22	瀬戸・美濃 陶器 灰釉小盃	埋土 1/3	口 (6.5)			灰白	内外面に灰釉、細かな貫入。	江戸時代
第194図	23	肥前磁器 染付猪口	埋土 1/4	口底 (7.0) (4.0)	高 5.3		白	被熱劣化。外面に染付。内面無文。高台内に圏線。	江戸時代後期
第194図	24	肥前磁器 染付猪口	埋土 1/4	口底 (7.6) (6.0)	高 6.0		白	外面に山水図染付。内面無文。口唇部に茶色の鎗軸。	江戸時代後期
第194図	25	瀬戸・美濃 陶器 灰釉皿	埋土 1/3	口底 (11.0) 5.3	高 2.8		浅黄	内面から外面腰まで灰釉。見込に重焼痕。	江戸時代
第194図	26	瀬戸・美濃 磁器 皿	埋土 1/2	口底 15.8 9.0	高 2.6		白	内外面に銅板転写の文様。	近代

第6表 掲載遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				底	口	高			
第194図	27	瀬戸・美濃 磁器 灰釉輪禿皿	埋土 腰下1/3	底	(4.6)		灰白	内外面に青灰色の釉。見込の釉を蛇の目に掻き取る。見込に重焼痕。	近代
第194図	28	瀬戸・美濃 陶器 刷毛目反り皿	埋土 口縁部片	口	(13.8)		淡黄	腰がくの字に折れて、口縁部端反。内外面に刷毛目文、貫入入る。	江戸時代
第194図	29	信楽陶器 灰釉灯明油皿	埋土 1/3	口 底	(11.0) (3.8)	高 2.3	灰白	外面体部下半回転ヘラ削り。内面から口縁部外面に灰釉。見込みにトチン痕2個、外面に重焼痕。	江戸時代後期
第194図	30	瀬戸・美濃 陶器 錆釉灯明受皿	埋土 2/5	口 底	(8.2) (4.4)	高 1.5	黄灰白	受け部にU字形の抉り。内面から口縁部外面に錆釉。体部外面と底部の釉を拭き取る。外面に重焼痕。	江戸時代後期
第194図	31	信楽陶器 灰釉灯明受皿	埋土 1/3	口 底	(10.2) (4.0)	高 1.6	にぶい黄橙～白灰	受け部にU字形の抉り。内面に灰釉。外面に重焼痕。	江戸時代後期
第194図	32	信楽陶器 灰釉灯明受皿	埋土 1/4	口 底	(10.0) (3.6)	高 2.1	オリーブ灰	内面に灰釉。	江戸時代後期
第195図	33	志戸呂陶器 錆釉灯明受皿	埋土 1/3	口 底	(7.8) (6.0)	高 2.8	くすんだ橙	受け部にアーチ状の透かし穴1箇所。内面から口縁部外面に錆釉。底部回転篋ナデ。	江戸時代後期
第195図	34	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉ひょうそく	埋土 2/3	口 底	(6.0) 4.0	高 4.6	灰白	内面から外面腰にたつぷりの鉄釉。底面回転糸切り痕、中央に設置用の穴あり。	江戸時代後期
第195図	35	肥前磁器 青磁香炉	埋土 体部片	口	(11.0)		灰白	口唇部内面が鉤手状に突出、口唇部に平坦面。口縁部内面から外面に青磁釉。	江戸時代後期
第195図	36	肥前磁器 灰釉香炉	埋土 体部上半1/4	口	(17.0)		灰白	断面5の字状。肩部に菊花状の貼付文様。口縁部内面から外面に青灰色の灰釉。	江戸時代後期
第195図	37	瀬戸・美濃 陶器 鉛釉筒形香炉	埋土 破片				浅黄	薄手。口唇部内傾、内面に稜。口縁部内面から外面に暗緑色の鉛釉、貫入入る。	江戸時代
第195図	38	瀬戸・美濃 陶器 鉛釉筒形香炉	埋土 腰下1/3	底	(9.0)		浅黄	腰に隆帯がめぐり、底部に三脚がつく。内面から外面腰まで暗緑色の鉛釉。底部に墨書あり。	江戸時代後期
第195図	39	瀬戸・美濃 陶器 鉛釉片口	埋土 口縁部片	口	(16.6)		黄灰	口縁部外面に凹線1条、口唇部平坦。内外面に暗緑色の鉛釉。	江戸時代中期
第195図	40	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵爛徳利	埋土 口縁部～肩部	口	4.2		灰白	図の左手片側に注ぎ口尖る。体部片面に鉄絵。口縁部内面から外面に灰釉、貫入入る。	江戸時代後期
第195図	41	瀬戸・美濃 陶器 鉛釉瓶か？	埋土 腰下	底	6.3		淡灰～黄白	小型で厚手。外面に濃緑色の鉛釉、内面無釉。	江戸時代
第195図	42	肥前陶器 三島手大鉢	埋土 口縁部片				にぶい赤褐	口縁部折縁。内面に型押し文。内面から口縁部外面に錆釉、内面に白色釉。外面下半に薄く錆釉刷毛塗り。	江戸時代中期
第195図	43	瀬戸・美濃 陶器 練鉢	埋土 口縁部片	口	(18.0)		黄白	口縁部外折れ、口唇部に広く平坦面。内面から外面体部中位まで透明な緑色の灰釉、貫入入る。	江戸時代後期
第195図	44	瀬戸・美濃 陶器 捏鉢	埋土 口縁部片	口	(25.7)		浅黄	内外面に灰釉、細かな貫入。一部に緑色の釉かかる。	江戸時代後期
第195図	45	瀬戸・美濃 陶器 搦鉢	埋土 口縁部片	口	(33.0)		浅黄	口縁部外面肥厚、内面に稜。内外面に錆釉。外面の釉にムラあり。	江戸時代後期
第196図	46	瀬戸・美濃 陶器 搦鉢	埋土 底部1/4	底	(14.0)		にぶい黄橙	厚手。底部回転糸切り痕。内外面に鉄釉。見込上に2箇所、外面底部端に1個の大きなトチン痕。	江戸時代中期
第196図	47	瀬戸・美濃 陶器 搦鉢	埋土 腰下1/4	底	(15.0)		褐灰	器形やや歪み。内外面に錆釉。内外面に目痕各1箇所。	江戸時代後期
第196図	48	常滑陶器 甕	埋土 口縁部片				にぶい灰	口縁部強く外反。口唇部外削ぎ状。内外面横ナデ。釉なし。	平安末～中世初頭
第196図	49	常滑陶器 甕	埋土 肩部片				褐灰	外面に強い横ナデ。内面に斜めの篋ナデと黄位ナデ。外面に薄く自然釉かかる。	中世
第196図	50	瀬戸・美濃 陶器 御深井釉手付水注	埋土 胴部片				淡灰	体部円筒形。内面に轆轤目の凹凸を残す。外面に鉄絵。外面腰まで施釉、内面に一部かかる。外面貫入入る。	江戸時代、17世紀後半
第196図	51	円盤状加工品	埋土 完形	長短	5.6 5.2	厚 1.7		瀬戸・美濃陶器鉛釉碗の高台部の周囲を円形状に打ち欠いたもの。	江戸時代
第196図	52	泥人形 恵比寿像	埋土 一部欠損	高幅	2.7 1.9	厚 0.8	にぶい橙	裏面無文。座像で右懷に鯛を抱え、右膝を折る。裏面右下方に小さな盲穴。	江戸時代後期
第196図	53	在地系土器 皿	埋土 底部片				にぶい橙	体部内湾。底部回転糸切り痕、内面指ナデ。	江戸時代
第196図	54	在地系土器 皿	埋土 底部1/2	底	(7.0)		橙	厚手で大型。底部回転糸切り痕、内面指ナデ。	中世

第6表 掲載遺物観察表

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口底	高	厚			
第196図	55	在地系土器 皿	埋土 破片	口底 (11.0) (7.8)	高 2.3		にぶい橙	焼成良、硬質。体部わずかに外反。口縁部外面に段差。底部回転糸切り痕。	中世末、16世紀か？
第196図	56	在地系土器 皿	埋土 1/2	口底 (8.9) 6.6	高 1.9		にぶい橙	体部が直線的に開く。底部回転糸切り痕。底部内面指ナデ。	江戸時代
第196図	57	在地系土器 皿	埋土 体部3/4欠損	口底 (9.0) 5.9	高 2.4		にぶい橙	体部が直線的に開く。底部に回転糸切り痕、内面波紋様。口唇部全体に煤油付着。	江戸時代
第196図	58	在地系土器 不明	埋土 破片	口 (12.0)			にぶい橙	焼成良、硬質。口縁部が二段になって開く。内外面横ナデ。外面に淡い褐色の皮膜。塗彩か。	江戸時代
第196図	59	在地系土器 鉢	埋土 口縁部片	口 (35.2)			淡褐～灰	焼成良、硬質。内外面燻し、黒色化。口縁部肥厚、口唇部に平坦面。内外面入念横ナデ、口唇部と外面に軽い研磨。植木鉢か？	近世
第196図	60	在地系土器 内耳鍋	埋土 口縁部片				にぶい灰褐	口縁部外傾、口唇部に平坦面。内外面横ナデ。体部外面に粗い研磨。外面黒色化、煤付着。	中世後半
第197図	61	在地系土器 内耳鍋	埋土 口縁部片				にぶい赤褐色	口縁部外傾、口唇部に平坦面。内外面横ナデ。体部外面に粗い研磨。外面黒色化、煤付着。	中世後半
第197図	62	在地系土器 内耳鍋	埋土 胴部片				灰	口縁部くの字に外折。内外面横ナデ。外面下半に粗い研磨。	中世
第197図	63	在地系土器 焙烙鍋	埋土 口縁部片				くすんだ灰	薄手、硬質で軽質。体部が直線的に開く。口縁部が短く外折し、平坦面を形成。内外面燻し、黒色化。外面に煤付着。	江戸時代
第197図	64	在地系土器 焙烙鍋	埋土 体部破片	口底 (34.4) (15.7)	高 (12.8)		浅黄～黒灰	薄手、硬質。体部が直線的に開く。口縁部が短く外折し、平坦面を形成。体部外面に輪積み痕と斜めの指ナデ痕を残す。内面入念横ナデ。底部外面突出、内面に段。内外面燻し、黒色化。外面に使用による煤付着。	江戸時代
第197図	65	在地系土器 焙烙	埋土 破片	口底 (35.5) (31.5)	高 5.5		灰白～黒灰	焼成良、硬質。体部外傾、底部平底、底板厚手。内外面横ナデ。外面黒色。	江戸時代
第197図	66	在地系土器 焙烙	埋土 破片	口底 (38.6) (35.8)	高 5.2		淡黄	焼成良、硬質体部やや外傾、底部平底、底板厚手。内外面燻し、黒色化。内外面横ナデ後、粗い研磨、光沢。外面に使用による煤付着。	中世末～近世初
第197図	67	在地系土器 焙烙	埋土 1/4	口底 (39.0) (34.2)	高 5.6		灰白～黒灰	体部が内湾しながら開く。口唇部に平坦面。内耳は体部につく。胎土サンドイッチ状。内外面燻し、黒色化。外面に煤付着。	中世末～江戸時代前期
第197図	68	在地系土器 養蚕火鉢	埋土 底板破片	口底 (29.4) (28.0)	高 2.2		黄橙～黒灰	器面燻し、黒色化。裏面剥落。	近代
第197図	69	在地系土器 火鉢か？	埋土 胴部片				淡黄褐～灰	焼成良、硬質。内面ていねい横ナデ。外面かるい研磨。欠損部断面1箇所が研磨平滑。刃ならしか？	中世末～近世初
第197図	70	在地系土器 火鉢か？	埋土 脚台部片	底 (28.6)			にぶい黄橙～灰	有段の脚台部に円孔がつく。焼成良、硬質。内外面及び底部内面ていねい横ナデ後、かるい研磨。	江戸時代
第198図	71	在地系土器 火鉢	埋土 1/4	幅 28.4	高 9.1		にぶい黄橙～黒灰	平面形は長方形で、各角に円形の低い脚がつく。各角外面に面取り。内外面燻し、黒色化。外面丁寧ナデ、内面と底部に粗いナデ。口唇部平坦面研磨・光沢。口唇部内外面全面に敲打による潰れ。	江戸時代
第198図	72	在地系土器 焜炉	埋土 胴部片				灰～黒灰	焼成良、硬質。内外面燻し、黒色化。内面に轆轤目。外面入念ナデ。	江戸時代後期
第198図	73	在地系土器 焜炉の部材	埋土 1/3	縦横 5.2 (3.3)	厚 (1.7)		にぶい橙	焜炉の空気調節用の引き戸。いたって軽質、珪藻土使用か。横断面かまぼこ状で、表面端に指掛け用の凹みがつく。裏面高温の被熱で劣化。	江戸時代後期か？
第198図	74	在地系土器 目皿	埋土 破片		厚 2.2		橙	格子状で厚手。表面が口縁で変色・劣化。	江戸時代後期か？
第38図	75	石製品 石鉢	埋土 不明	長幅 (17.3) (21.1)	厚重 (9.7) 3101.9		粗粒輝石安山岩	口唇部は比較的滑らかである。内面には棒状工具と想定される加工痕が濃密に認められる。	
第38図	76	石製品 石鉢	埋土 2/3	口高 14.8 8.4	厚重 941.3		粗粒輝石安山岩	内面の底部は全体的に滑らかであるが、内面の側面は細かな凹凸面で構成されている。外面は全体的に比較的滑らかである。脚は2個認められるが本来は3個であったと考えられる。	
第38図	77	剥片石器 打製石斧	埋土 ほぼ完形	長幅 15.0 8.7	厚重 2.5 410.5		黒色頁岩	表面と裏面の中央付近に摩滅が認められ装着痕の可能性はある。上端部及び下端部のつぶれが著しく使用痕の可能性はある。	分銅型

C区2号住居

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				底台	高	厚			
第39図	1	須恵器 椀	床直 底部	底台 5.2 4.9			細砂粒／酸化焰／ 燻／黒褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	9世紀前半
第39図	2	須恵器 椀	床直 底部～体部下位	底 6.6			細砂粒／還元焰／ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀前半
第39図	3	須恵器 椀	埋土 底部～体部下位	底 7.3			細砂粒／還元焰／ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀前半
第39図 PL.100	4	石製品 砥石	不明	長幅 (5.1) (3.8)	厚重 (2.3) 47.1		溶結凝灰岩	石質は硬質であるが、ほぼ平坦な滑面が認められることから砥石と判断した。	

C区3号住居

挿 図 PL.No.	No.	種 類 器 種	出土位置 残 存 率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備 考
				口 鑿	高	厚			
第40図	1	須恵器 羽釜	床直 口縁部～胴部上 位片	口 鑿 22.4 26.0			細砂粒・粗砂粒／ 酸化焰／にぶい褐	ロクロ整形。鑿は貼付、胴部はへら削り。内面はへらナデ。	10世紀後半

第6表 掲載遺物観察表

C区4号住居

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第41図 PL.100	1	土師器 杯	竈掘方 1/2	口 縁	18.3 16.5	高	4.4	細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部(稜下)から底部は手持ちヘラ削り。	8世紀第1四 半期
第41図 PL.100	2	土師器 盤	竈掘方 3/4	口 高	22.0 4.8			細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。	8世紀第1四 半期
第43図 PL.100	3	土師器 小型甕	竈掘方 口縁部一部欠損	口 底	16.3 6.8	高 胴	19.1 18.0	細砂粒/良好/ に ぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	8世紀第1四 半期
第43図 PL.100	4	鉄製品 鎌	埋土 ほぼ完形	長 幅	16.9 12.8	厚 重	0.9 93.28		幅広く刃部が大きく曲がる鉄鎌。柄装着部は深く折り曲げる。柄装着部から刃基部の表裏に一部植物痕が付着する。	

C区5号住居

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第46図 PL.100	1	須恵器 椀	埋土 1/3	口 底	14.4 7.0	台 高	6.4 5.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/浅黄	ロクロ整形、回転右回り。高台は貼付。	9世紀第4四 半期

C区8号住居

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第46図 PL.100	1	須恵器 杯	床直 3/4	口 底	13.9 7.2	高	3.9	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀第4四 半期
第46図	2	土師器 甕	床直 口縁部~胴部上 位片	口	18.7			細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第4四 半期
第46図	3	土師器 甕	竈掘方 胴部片	胴	22.0			細砂粒/良好/ に ぶい褐	内面に輪積痕が残る。外面上半は横位、下半は縦位のヘラ削り。内面はヘラナデ。	9世紀第4四 半期

C区9号住居

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第48図	1	須恵器 椀	床直 1/3	口 底	13.2 7.0	台 高	6.4 4.8	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	外面口縁部に 墨書。「本」 9世紀第4四 半期
第48図	2	須恵器 椀	床直 1/3	口 底	13.0 7.0	台 高	6.4 5.1	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第4四 半期
第48図	3	土師器 甕	竈 口縁部片	口	21.7			細砂粒/良好/ に ぶい褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ。	9世紀第4四 半期
第48図	4	鉄製品 刀子	床直 ほぼ完形	長 幅	13.8 1.8	厚 重	0.7 17.84		棟・刃側ともに明瞭な関を持つ刀子。茎は長く一部に広葉樹散孔材の木質が錆化残存するが木取りは不明。	

C区11号住居

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第50図 PL.100	1	須恵器 椀	竈掘方 1/3	口 底	13.4 7.6	台 高	7.2 5.4	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀第1四 半期

C区19号住居

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第53図	1	須恵器 杯	掘方 1/3	口 底	11.8 6.0	高	4.0	細砂粒/還元焰/ 浅黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	10世紀第1四 半期
第53図	2	土師器 甕	床直 底部~胴部下 位片	底	7.3			細砂粒/良好/ に ぶい黄橙	底部は砂底か、周縁部はナデ、胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	10世紀第1四 半期
第53図	3	須恵器 羽釜	埋土 口縁部~胴部上 位片	口 鏝	20.0 24.6			細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第53図	4	須恵器 羽釜	埋土 口縁部片	口 鏝	20.0 23.0			細砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形。鏝は貼付、内面胴部はヘラナデ。	10世紀第1四 半期
第53図	5	須恵器 羽釜	床直 口縁部~胴部上 位片	口 鏝	20.5 22.8			細砂粒/酸化焰/ 灰黄褐	ロクロ整形。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	10世紀第1四 半期
第53図	6	須恵器 羽釜	床直 口縁部~胴部上 半片	口 鏝	27.8 29.7			細砂粒/酸化焰/ 灰白・赤褐	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第53図	7	礫石器 敲石	埋土 完形	長 幅	12.3 4.0	厚 重	3.5 300.5	変質安山岩	小形棒状の垂円礫を利用する。下端部と左側面の下方に敲打痕が集中する。	

C区20号住居

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第55図	1	土師器 杯	掘方 口縁部片	口	12.8			細砂粒/良好/ に ぶい赤褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面の体部から口縁部に放射状暗文。	9世紀第2四 半期
第55図 PL.101	2	須恵器 杯蓋	床直 3/4	口 摘	14.2 4.9	高	4.7	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部は中程まで回転ヘラ削り。	9世紀第2四 半期

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第55図	3	須恵器 杯	埋土 口縁部片	口底 12.6 7.5	高 3.1		細砂粒/酸化焰・ 外燻/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部位切り離し技法不明。	9世紀第2四 半期
第55図 PL.101	4	土師器 小型甕	床直 口縁部~胴部下 位1/3	口 13.8 15.8			細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第2四 半期
第55図	5	土師器 甕	竈 口縁部~胴部上 位片	口 14.0			細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第2四 半期
第55図	6	土師器 甕	竈 口縁部片	口 20.8			細砂粒/良好/赤 褐	口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第2四 半期
第55図	7	土師器 甕	埋土 口縁部~胴部上 位片	口 20.4			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第2四 半期
第55図 PL.101	8	土師器 甕	竈 口縁部~胴部上 位片	口 23.4			細砂粒/良好/に ぶい褐	内面頸部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はへら削り。内面はへらナデ。	9世紀第2四 半期
第56図 PL.101	9	土師器 甕	床直 口縁部~胴部中 位1/3	口 21.8 24.0			細砂粒/良好/に ぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第2四 半期
第56図 PL.101	10	土師器 甕	竈 口縁部~胴部下 位1/4	口 19.9 23.0			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第2四 半期
第56図	11	須恵器 甕	竈 口縁部片	口 43.9			細砂粒・粗砂粒・ 長石/還元焰/灰	ロクロ整形。	9世紀第2四 半期
第56図 PL.101	12	鉄製品 刀子	埋土 一部欠損	長 幅 12.9 1.5	厚 重 0.8 11.47			棟・刃側ともに明瞭な間を持つ刀子。茎は細くわずかに反りを持つ、木質等の痕跡は見られない。	

C区21号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第57図	1	土師器 杯	竈 1/3	口底 10.8 5.1	高 3.6		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	9世紀第4四 半期
第57図	2	土師器 杯	埋土 破片	口底 12.8 9.0	高 2.9		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	9世紀第4四 半期
第57図	3	土師器 杯	埋土 1/3	口底 11.8 7.4			細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部は上~中位がナデ、下位がへら削り、底部は手持ちへら削り。	9世紀第4四 半期
第57図 PL.101	4	土師器 杯	床直 3/4	口底 12.0 8.2	高 3.1		細砂粒/良好/橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	9世紀第4四 半期
第57図	5	須恵器 椀	埋土 口縁部~体部片	口 14.7			細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。	9世紀第4四 半期
第57図	6	須恵器 椀	掘方 口縁部~体部片	口 12.6			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。	9世紀第4四 半期
第57図 PL.101	7	須恵器 椀	掘方 1/3	口底 13.2 6.4	高 4.1		細砂粒・粗砂粒・ 片岩/酸化焰・燻 /暗灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀第4四 半期
第57図 PL.101	8	須恵器 椀	埋土 1/3	口底 13.8 6.4	台 高 5.4 5.2		細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第4四 半期
第57図 PL.101	9	須恵器 椀	埋土 1/3	口底 14.6 7.4	台 高 7.0 5.2		細砂粒/酸化焰/ にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第4四 半期
第58図 PL.101	10	須恵器 椀	竈 袖 底部~体部下 半片	底 台 7.8 7.7			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第4四 半期
第58図 PL.101	11	土師器 甕	埋土 口縁部片	口 20.0			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第4四 半期
第58図 PL.101	12	石製品 砥石	埋土 2/3	長 幅 (9.2) 3.1	厚 重 3.2 103.4		砥沢石	砥面は正面だけであり、研ぎ減りにより外湾する。左右側面と裏面には櫛歯タガネ痕が明瞭に残る。上部及び下部欠損。	
第58図 PL.101	13	鉄製品 釘	掘方 ほぼ完形	長 幅 6.5 0.9	厚 重 0.6 4.13			断面長方形の角釘。頭は撥状に広げるが折り返しは見られない。先端に向かい細くなる。木質等は見られない。	

C区22号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第59図	1	土師器 杯	埋土 口縁部~底部片	口底 12.8 9.1			細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	9世紀第1四 半期
第59図 PL.101	2	土師器 杯	埋土 3/4	口底 12.1 8.6	高 3.3		細砂粒/良好/に ぶい黄褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	9世紀第1四 半期
第59図	3	須恵器 杯	埋土 1/3	口底 13.8 9.0	高 3.5		細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀第1四 半期
第59図 PL.101	4	須恵器 杯	貯蔵穴 1/2	口底 12.2 6.8	高 3.9		細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀第1四 半期
第59図	5	須恵器 杯	埋土 底部3/4	底 7.0			細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀第1四 半期
第60図 PL.101	6	須恵器 脚付盤	埋土 3/4	口底 20.4 11.0	脚 高 13.0 7.0		細砂粒/還元焰/ 灰	盤身部はロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切りか。脚部はロクロ整形により成形後身部に貼付。	9世紀第1四 半期
第60図	7	土師器 甕	掘方 口縁部~胴部上 位片	口 19.6			細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第1四 半期

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第60図 PL.101	8	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口	19.2			細砂粒/良好/ にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第1四 半期
第60図	9	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	20.7			細砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第1四 半期
第60図 PL.101	10	土師器 甕	竈 口縁部～胴部上 位1/3	口	19.0			細砂粒/良好/ 明褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第1四 半期
第61図 PL.101	11	土師器 甕	竈 口縁部～胴部上 位1/2	口	20.2			細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第1四 半期
第61図 PL.102	12	土師器 甕	掘方 口縁部～胴部上 位	口	19.4			細砂粒/良好/ にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第1四 半期
第61図 PL.102	13	鉄製品 不詳	埋土 完形	長幅	3.7 2.7	厚重	0.7 7.34		半円形の鉄製品で両端部は耳状に作り折り返す。木質・有機物等の痕跡は見られない。	

C区23号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第62図 PL.102	1	灰釉陶器 椀	埋土 3/4	口底	16.0 8.0	台高	7.6 4.8	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀第2四 半期
第62図	2	灰釉陶器 椀	床直 底部～体部下位	底台	8.0 7.6			微砂粒/還元焰/ 淡黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、体部下位に回転ヘラ削り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀第2四 半期
第62図 PL.102	3	土師器 甕	埋土 口縁部片	口	20.4			細砂粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀第2四 半期
第62図 PL.102	4	土師器 甕	掘方 口縁部～底部 1/3	口底	16.6 5.0	高胴	24.6 20.4	細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	10世紀第2四 半期

C区24号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第64図	1	須恵器 皿	竈 口縁部片	口	12.2			細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。	9世紀後半
第64図	2	土師器 甕	埋土 底部～胴部下位 片	底	4.0			細砂粒/良好/ にぶい褐	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	9世紀後半

C区25号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第66図 PL.102	1	黒色土器 椀	床直 3/4	口底	13.0 7.2	台高	6.8 5.3	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回り。内面黒色処理。底部回転糸切り後高台を貼付。内面は放射状ヘラ磨き。	10世紀第2四 半期
第66図 PL.102	2	須恵器 椀	床直 3/4	口底	15.6 9.0	台高	8.6 6.3	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	10世紀第2四 半期
第66図 PL.102	3	須恵器 椀	竈 3/4	底台	7.0 8.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀第2四 半期
第66図	4	灰釉陶器 椀	埋土 底部～体部下位 片	底台	7.5 7.8			微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原2号窯式 期 10世紀第2四 半期
第66図	5	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位片	口鏝	23.8 27.8			細砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形。外面胴部に輪積痕が残る。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	10世紀第2四 半期
第66図	6	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～鏝片	口鏝	23.8 27.3			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第2四 半期
第66図	7	須恵器 羽釜	竈 口縁部片	口鏝	21.8 26.0			細砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形。外面胴部に輪積痕が残る。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	10世紀第2四 半期
第66図 PL.102	8	須恵器 羽釜	床直 口縁部～胴部上 位片	口鏝	23.7 29.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	10世紀第2四 半期
第66図 PL.102	9	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位1/4	口鏝	22.4 26.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい褐	ロクロ整形。胴部外面に輪積痕が残る。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	10世紀第2四 半期
第66図 PL.102	10	須恵器 羽釜	竈 口縁部～胴部中 位1/4	口鏝	23.8 26.0			細砂粒・粗砂粒・ 褐色粒/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形。外面胴部に輪積痕が残る。鏝は貼付、胴部は縦方向のヘラ削り、器面磨滅のため単位不明。内面胴部はヘラナデ。	10世紀第2四 半期
第67図 PL.102	11	須恵器 羽釜	床直 口縁部～胴部中 位1/4	口鏝	20.2 26.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形。胴部外面に輪積痕が残る。鏝は貼付、胴部はヘラナデ、単位不鮮明。内面胴部はヘラナデ。	10世紀第2四 半期
第67図 PL.102	12	須恵器 羽釜	床直 口縁部～胴部下 位1/2	口鏝	19.8 25.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形。外面胴部に輪積痕が残る。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	10世紀第2四 半期

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第67図 PL.103	13	須恵器 羽釜	埋土 口縁部~胴部下 位1/4	口 鏝	23.8 29.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明赤褐	ロクロ整形。鏝は貼付、胴部は縦位のへら削り。内面 胴部はへらナデか、器面磨滅のため単位不明。	10世紀第2四 半期
第67図 PL.103	14	須恵器 羽釜	竈 口縁部~胴部中 位1/2	口 鏝	23.6 27.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形。外面胴部に輪積痕が残る。鏝は貼付、胴 部はへら削り。内面胴部はへらナデ。	10世紀第2四 半期

C区26号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第69図	1	黒色土器 椀	床直・竈袖上 底部片	底 台	8.0 8.2		細砂粒/酸化焰/ にぶい赤褐	内外面を黒色処理か、二次焼成で吸炭欠落。底部は回 転ナデ、高台は貼付、体部は内外面ともへら磨き。	10世紀第1四 半期
第69図	2	灰釉陶器 皿	埋土 底部~体部下位 片	底 台	7.0 6.4		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台 は貼付。施釉方法は不明。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀第1四 半期
第69図	3	灰釉陶器 椀	埋土 底部~体部下位 片	底 台	7.0 6.6		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台 は貼付。施釉方法は不明。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀第1四 半期
第69図	4	土師器 甕	埋土 口縁部~胴部上 位小片	口	18.0		細砂粒/良好/明 褐	口縁部は横ナデ、頸部はナデ、胴部はへら削り。内面 胴部はへらナデ。	10世紀第1四 半期

C区27号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第70図 PL.103	1	須恵器 羽釜	壁際 口縁部~胴部上 位片	口 鏝	23.6 26.4		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転方向不明。鏝は貼付、胴部はへら削り。	9世紀第4四 半期

C区28号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第71図	1	須恵器 椀	床直 口縁部片	口	12.5		細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。	9世紀第4四 半期
第71図	2	土師器 甕	床直 口縁部~胴部上 位片	口	17.0		細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴 部がへらナデ。	9世紀第4四 半期

C区29号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第73図 PL.103	1	灰釉陶器 皿	床直 1/5	口 底	13.8 7.6	台 高 7.0 3.1	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台 は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀第1四 半期
第73図 PL.103	2	灰釉陶器 皿	床直 3/4	口 底	14.0 6.8	台 高 6.2 2.9	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台 は貼付、体部下位は回転へら削り。施釉方法は刷毛塗 り。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀第1四 半期
第73図 PL.103	3	灰釉陶器 椀	竈・床直 1/2	口 底	13.2 7.0	台 高 6.4 3.2	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台 は貼付、体部下位は回転へら削り。施釉方法は漬け掛 けか。	大原2号窯式 期 10世紀第1四 半期
第73図 PL.103	4	須恵器 羽釜	竈 口縁部~鏝片	口 鏝	19.4 23.0		細砂粒/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第73図 PL.103	5	鉄製品 かこ	埋土	長 幅	4.7 4.4	厚 重 1.0 24.23		T形の刺金を持つかこで、輪金は隅丸の正方形で閉じ る。帯等の痕跡は見られない。	

C区31号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第76図 PL.103	1	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	12.8 6.0	高 3.8	細砂粒/酸化焰・ 燻/褐灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	10世紀第1四 半期
第76図 PL.103	2	黒色土器 椀	床下土坑 1/3	口 底	14.8 6.6	台 高 6.5 5.6	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回り。内面黒色処理。底部回転糸 切り後高台を貼付。内面は放射状へら磨き。	10世紀第1四 半期
第77図	3	須恵器 椀	掘方 口縁部片	口	13.6		細砂粒/酸化焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。	10世紀第1四 半期
第77図	4	須恵器 椀	竈B 口縁部片	口	12.6		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回りか。	10世紀第1四 半期
第77図	5	須恵器 椀	竈B掘方 口縁部片	口 底	12.8 7.0	台 高 6.0 4.2	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部切り離し技法不明、高 台は貼付。	10世紀第1四 半期
第77図 PL.103	6	須恵器 椀	床直 1/3	口 底	13.2 7.0	台 高 6.2 4.3	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼 付。	10世紀第1四 半期
第77図 PL.103	7	須恵器 椀	掘方 1/4	口 底	13.4 7.9	台 高 7.2 4.3	細砂粒・褐粒/酸 化焰/浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切後高台を貼 付。	10世紀第1四 半期
第77図 PL.103	8	須恵器 椀	床直 1/3	口 底	13.1 7.2	台 高 6.0 5.7	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼 付。	10世紀第1四 半期

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	台高	胎土/焼成/色調 石材・素材等			
第77図 PL.103	9	須恵器 椀	埋土 1/3	口底 7.0	台高 6.0 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀第1四半期	
第77図 PL.103	10	須恵器 椀	竈A 3/4	口底 6.7	台高 6.0 5.9	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀第1四半期	
第77図	11	灰釉陶器 皿	床直 底部～体部下位 片	底台 6.4 5.8		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は刷毛塗か。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀第1四半期	
第77図	12	灰釉陶器 椀	掘方 口縁部片	口 14.8		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。口縁部下位に回転ヘラ削り。施釉方法は刷毛塗りか、外面の施釉状態不鮮明。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀第1四半期	
第77図	13	灰釉陶器 椀	床直 口縁部片	口 15.9		微砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期 10世紀第1四半期	
第77図	14	緑釉陶器 椀	掘方 口縁部片	口 15.8		微砂粒/還元焰/ 黄灰	ロクロ整形、回転右回り。内外面とも施釉。	東海産。 10世紀第1四半期	
第77図 PL.103	15	灰釉陶器 椀	掘方 1/3	口底 17.0 8.4	台高 8.4 5.8	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、体部下位に回転ヘラ削り。施釉方法は漬け掛けか。	大原2号窯 式期 10世紀第1四半期	
第77図	16	灰釉陶器 椀	埋土 底部～体部下位 片	底台 8.2 8.0		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀第1四半期	
第77図	17	須恵器 短頸壺	掘方 口縁部片	口 13.2		細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形。内面胴部ヘラナデ。	10世紀第1四半期	
第77図	18	土師器 甕	埋土 口縁部片	口 18.8		細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀第1四半期	
第77図	19	土師器 甕	竈B 口縁部～胴部上 位片	口 23.6		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀第1四半期	
第77図	20	土師器 甕	掘方 口縁部～胴部上 位片	口 23.9		細砂粒・粗砂粒/ 良好/褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀第1四半期	
第78図	21	須恵器 羽釜	掘方 口縁部～鏝片	口鏝 18.8 23.0		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四半期	
第78図	22	須恵器 羽釜	床直 口縁部～胴部上 位片	口鏝 18.9 22.0		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四半期	
第78図	23	須恵器 羽釜	埋土 口縁部片	口鏝 19.0 23.2		細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。鏝は貼付。内面胴部下半はヘラナデ。	10世紀第1四半期	
第78図	24	須恵器 羽釜	床直 口縁部～胴部上 位片	口鏝 23.0 28.0		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付。内面胴部はヘラナデ。	10世紀第1四半期	
第78図 PL.103	25	須恵器 甕	掘方 底部～胴部下位 片	底 12.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。底部には木葉痕が残る、胴部は回転ヘラ削り。	10世紀第1四半期	
第78図 PL.103	26	石製品 砥石	埋土 1/2	長幅 (7.3) 3.4	厚重 3.6 94.0	砥沢石//	砥面は4面認められる。上方に径約4mmの孔が認められ、孔の中央付近がやや狭くなっていることから両側穿孔と考えられる。下部欠損。		

C区32号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	台高	胎土/焼成/色調 石材・素材等			
第80図 PL.104	1	須恵器 椀	埋土 1/4	口底 13.8 7.0	台高 5.9 5.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀第1四半期	
第80図 PL.104	2	須恵器 椀	床直 3/4	口底 13.8 7.5	台高 6.3 4.8	細砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀第1四半期	
第80図 PL.104	3	須恵器 椀	床直 1/3	口底 14.0 6.2	台高 5.6 5.8	細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀第1四半期	
第80図 PL.104	4	灰釉陶器 椀	壁際 床直 1/3	口底 14.1 7.2	台高 7.0 5.0	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、体部下半は回転ヘラ削り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯 式期 10世紀第1四半期	
第80図	5	灰釉陶器 椀	埋土 底部～体部下 半片	底台 7.2 7.0		微砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	猿投古窯跡群 産か。 10世紀第1四半期	
第80図	6	灰釉陶器 椀	掘方 底部～体部下位 片	底台 6.4 6.1		微砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、体部下位は回転ヘラ削りか。施釉方法不明。	猿投古窯跡群 産か。 10世紀第1四半期	
第80図	7	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位片	口鏝 17.9 20.8		細砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四半期	

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	長	厚			
第80図	8	須恵器 羽釜	竈 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	21.7 24.8		細砂粒/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第80図 PL.104	9	鉄製品 鈎輪	床直 ほぼ完形	長 幅	6.5 6.3	厚 重	0.9 46.64	ほぼ円形の紡錘車の紡輪で中央の穴は錆化した土砂で閉塞されている。	
第80図 PL.104	10	鉄製品 鈎輪	床直 ほぼ完形	長 幅	5.6 5.6	厚 重	0.5 24.24	ほぼ円形の紡錘車の紡輪で、破損のためか一部凹み錆で覆われる。中央の穴は錆化した土砂で閉塞されている。	
第80図 PL.104	11	鉄製品 鏃	埋土 ほぼ完形	長 幅	11.1 1.5	厚 重	1.4 17.67	先端部分断面狭菱形で茎との境に向かい徐々に広がり境を一周する形で段を持つ。茎先端は劣化破損し木質等の痕跡は見られない。	

C区33号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				底	高	厚				
第82図 PL.104	1	緑釉陶器 段皿	埋土 底部1/4	底 台	7.0 7.0		微砂粒/還元焰/ 灰オリーブ	ロクロ整形。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。内外面とも施釉。	近江または二 川産。 10世紀第1～ 2四半期	
第82図 PL.104	2	土師器 片口鉢	床直 口縁部～底部 1/4	口 底	22.8 13.0	高 最	13.0 24.0	細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部と底部はヘラ削り。内面はヘラナデか。	10世紀第1～ 2四半期
第82図 PL.104	3	鉄製品 鏃	床直 一部欠損	長 幅	12.7 1.7	厚 重	0.9 10.04		先端部分断面狭菱形で先端は破損後錆化する。茎との境に向かい徐々に広がり境を一周する形で段を持つ。茎先端は細く尖り木質等の痕跡は見られない。	
第80図 PL.104	4	鉄製品 釘	埋土 ほぼ完形	長 幅	7.0 1.3	厚 重	1.3 13.35		断面ほぼ正方形の角釘。頭部分は四角く広げ深く折り曲げる。先端に向かい徐々に細くなるが斜め角形で終わり尖らない。木質等の痕跡は見られない。	

C区34号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	高	厚			
第83図 PL.104	1	緑釉陶器 椀	埋土 体部破片				微砂粒/還元焰/ オリーブ灰	ロクロ整形。	10世紀後半
第84図	2	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口	21.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はナデ。内面胴部はヘラナデ。	10世紀後半
第83図	3	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位片	口	26.4		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はナデ。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀後半
第84図	4	土師器 甕	床下土坑 口縁部～胴部上 位片	口	23.4		細砂粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部は横ナデ、胴部はナデ。内面胴部はヘラナデ。	10世紀後半
第84図	5	土師器 甕	床直 口縁部～胴部中 位片	口	25.8		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい黄橙	内面胴部に輪積痕が残る。口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り後ナデ。内面はヘラナデ。	10世紀後半
第84図	6	須恵器 羽釜	床直 口縁部～鏝片	口 鏝	17.8 21.6		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀後半
第84図	7	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～鏝片	口 鏝	21.2 27.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/明赤褐	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀後半
第84図 PL.104	8	鉄製品 不詳	床直 ほぼ完形	長 幅	6.6 6.1	厚 重	1.0 19.48	断面狭三角形から長方形の板状でし字状に折れ曲がる。延ばすと全長12cm程で刀子の曲がったものとも考えられるが、錆化が進み泥+錆に厚く覆われ詳細は不明。	

C区35号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第85図	1	須恵器 杯	埋土 口縁部片	口 底	12.7 8.2	高	4.1	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	10世紀第1四 半期
第85図 PL.104	2	須恵器 椀	床直 完形	口 底	11.6 6.4	台 高	6.8 5.1	細砂粒/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀第1四 半期

C区36号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第86図	1	須恵器 杯	埋土 1/4	口 底	12.6 6.4	高	3.7	細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラ削りか。	9世紀第4四 半期
第86図	2	土師器 甕	埋土 口縁部片	口	19.0			細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部から頸部は横ナデ。	9世紀第4四 半期

C区37号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第87図	1	須恵器 杯	埋土 口縁部1/3	口	14.4			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。	10世紀第1四 半期
第87図 PL.104	2	灰釉陶器 皿	埋土 1/3	口 底	12.8 5.8	台 高	6.0 2.7	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀第1四 半期

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	台高	高			
第87図	3	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口底	13.8		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀第1四 半期
第87図 PL.104	4	灰釉陶器 椀	床直 1/2	口底	13.6 6.6	台高 6.6 4.6	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、体部下半は回転ヘラ削り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀第1四 半期
第87図 PL.104	5	土師器 甕	床直 口縁部片	口胴	20.8 20.6		細砂粒/良好/明 赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀第1四 半期
第87図	6	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～鏝片	口鏝	21.6 25.6		細砂粒/還元焰/ にぶい黄	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第87図	7	須恵器 羽釜	床直 口縁部～胴部上 位片	口鏝	20.0 24.1		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第88図 PL.104	8	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部中 位片	口鏝	20.8 24.0		細砂粒/酸化焰/ 淡黄	ロクロ整形、鏝は貼付、胴部の一部にヘラナデ。	10世紀第1四 半期
第88図 PL.104	9	須恵器 羽釜	竈 口縁部～胴部中 位1/4	口鏝	19.0 23.8		細砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形。鏝は貼付、胴部下位にヘラ削り。	10世紀第1四 半期

C区38号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	台高	高			
第90図	1	須恵器 杯	埋土 1/3	口底	11.7 6.6	高 3.0	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。底部糸切痕の径は5.2cm。	10世紀第1四 半期
第90図	2	須恵器 高台付杯	埋土 1/3	口底	13.2 7.0		細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、高台は剥落。	10世紀第1四 半期
第90図	3	須恵器 椀	竈 口縁部片	口底	13.2		細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。	10世紀第1四 半期
第90図 PL.104	4	灰釉陶器 椀	床直 1/3	口底	15.0 7.0	台高 6.8 5.0	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、胴部下位は回転ヘラ削り。施釉方法は漬け掛け。	10世紀第1四 半期
第90図	5	土師器 甕	埋土 口縁部片	口底	11.6		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀第1四 半期
第90図	6	土師器 甕	竈掘方 胴部中位～底部 1/4	底	3.0		細砂粒/良好/赤 褐	底部と胴部はヘラ削り。内面はヘラナデ。	10世紀第1四 半期

C区39号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	台高	高			
第91図 PL.104	1	須恵器 皿	竈掘方 一部欠	口底	13.5 6.3	台高 6.4 3.1	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀第1四 半期
第91図 PL.104	2	須恵器 椀	床直 1/2	口底	14.6 6.4	台高 7.2 5.2	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀第1四 半期
第91図	3	灰釉陶器 皿	床直 1/4	口底	14.8 7.6	台高 7.0 3.2	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀第1四 半期
第92図	4	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口底	17.0		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀第1四 半期
第92図 PL.104	5	土師器 甕	竈 口縁部～胴部上 位片	口底	18.3		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀第1四 半期

C区40号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	台高	高			
第94図 PL.105	1	須恵器 椀	床直 3/4	口底	14.6 8.0	台高 8.6 6.4	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	10世紀第1四 半期
第94図	2	灰釉陶器 椀	床直 底部～体部下位 片	底台	6.6 6.0		微砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀第1四 半期
第94図 PL.105	3	土師器 小型甕 (ロクロ甕)	竈掘方 口縁部～胴部下 位1/4	口胴	13.0 13.3		細砂粒/良好/灰 黄	ロクロ整形。胴部下半に手持ちヘラ削り。内面は胴部下半に縦位のヘラナデ。	10世紀第1四 半期
第94図	4	須恵器 羽釜	竈 口縁部～胴部上 位片	口鏝	18.6 21.8		細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第94図	5	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～鏝片	口鏝	21.6 25.6		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第94図	6	須恵器 羽釜	竈掘方 口縁部～胴部上 位片	口鏝	21.8 24.6		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄褐	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第94図	7	須恵器 羽釜	竈 口縁部~胴部上 位片	口 鏝	20.8 24.0		細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第94図 PL.105	8	須恵器 羽釜	竈・床直 口縁部~胴部中 位1/4	口 鏝	21.2 24.5		細砂粒/酸化焰/ 浅黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付、胴部下半にヘラナデ。	10世紀第1四 半期
第94図 PL.105	9	須恵器 羽釜	竈・床直 口縁部~底部 1/4	口 鏝	20.0 23.5	底高 4.0 26.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形。外面の鏝下に輪積痕が残る。鏝は貼付、 胴部はヘラ削り。内面は胴部下位にヘラナデ。	10世紀第1四 半期
第94図 PL.105	10	須恵器 羽釜	竈・床直 口縁部~底部 1/4	口 鏝	23.0 26.0	底高 5.8 23.6	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付、胴部下半と底部 はヘラ削り。	10世紀第1四 半期

C区41号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第95図	1	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	13.2		細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。	10世紀第1四 半期
第95図 PL.105	2	須恵器 椀	床直 1/3	口 底	11.8 4.6	高 3.8	細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面口縁部に 墨書。 10世紀第1四 半期
第95図	3	灰釉陶器 段皿	埋土 口縁部片	口 底	12.6 6.4	台高 6.0 2.2	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀第1四 半期
第95図 PL.105	4	灰釉陶器 長頸壺	床直 口縁部~頸部	口	8.6		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法不明。	10世紀第1四 半期

C区42号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第96図 PL.105	1	黒色土器 椀	床直 1/4	口 底	10.6 6.0	台高 6.2 4.4	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。内面黒色処理。底部回転糸 切り後高台を貼付、体部下半は回転ヘラ削り。内面は ヘラ磨き。	10世紀第3四 半期

C区43号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第97図 PL.105	1	須恵器 椀	床直 3/4	口 底	11.1 5.0	高 3.8	細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	10世紀第1四 半期
第97図 PL.105	2	須恵器 椀	床直 口縁部一部欠	口 底	12.6 6.2	台高 5.7 5.2	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	外面口縁部に 墨書。 10世紀第1四 半期
第97図	3	須恵器 椀	掘方 底部片	底 台	7.4 9.3		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転左回り。底部は回転ナデ、高台は貼付。	底部外面に墨 書「日」(則天 文字)。 10世紀第3四 半期

C区44号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第98図 PL.106	1	須恵器 皿	床直 ほぼ完形	口 底	10.8 5.0	台高 6.0 3.4	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切りか、高台を 貼付。	10世紀第3四 半期
第98図 PL.106	2	須恵器 杯	床直 3/4	口 底	10.9 5.0	高 3.7	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。 底部は疑似高台状を呈す。	10世紀第3四 半期
第98図 PL.106	3	須恵器 椀	埋土 1/3	口 底	10.8 5.4	台高 5.7 4.2	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼 付。	10世紀第3四 半期
第99図 PL.106	4	須恵器 椀	壁際 3/4	口 底	15.3 6.5	台高 7.1 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/燻/にぶ い黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼 付。	10世紀第3四 半期
第99図	5	灰釉陶器 椀	床直 3/4	口 底	16.4 9.2	台高 8.7 8.8	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ。施釉 方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀第3四 半期
第99図	6	土師器 甗	床直 口縁部~胴部上 位片	口	22.5		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部がヘラナデ。	10世紀第3四 半期
第99図	7	土師器 甗	埋土 頸部~胴部上位 片				細砂粒・粗砂粒/ 良好/橙	口縁部は横ナデ、胴部はヘラナデ。内面胴部もヘラナ デ。	10世紀第3四 半期
第99図	8	須恵器 羽釜	竈 口縁部~胴部上 位片	口 鏝	21.0 23.3		細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形。鏝は貼付、内面胴部はヘラナデ。	10世紀第3四 半期
第99図	9	須恵器 羽釜	竈 口縁部~胴部上 位片	口	19.8		細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/明 黄褐	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第3四 半期

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第99図	10	須恵器 羽釜	埋土 口縁部～胴部上 位1/2	口 鏝	20.0 24.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。	10世紀第3四 半期
第99図 PL.106	11	須恵器 羽釜	埋土・竈 口縁部～胴部上 位片	口 鏝	20.0 24.4		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい褐	ロクロ整形。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	10世紀第3四 半期
第99図 PL.106	12	須恵器 羽釜	竈 口縁部～胴部上 半片	口 鏝	22.2 25.6		細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回りか。鏝は貼付、胴部はヘラ削り。内面胴部はヘラナデ。	10世紀第3四 半期
第99図 PL.106	13	須恵器 羽釜	竈 口縁部～底部 1/4	口 鏝	22.4 23.5	底 高 9.0 27.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄 橙	ロクロ整形、回転右回り。鏝は貼付、胴部と底部はヘラ削り。内面は底部から胴部がヘラナデ。	胴部最大径 24.8cm 10世紀第3四 半期

C区46号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第101図 PL.106	1	須恵器 椀	床直 口縁部一部欠	口 底	12.3 6.0	台 高 5.8 4.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀第2四 半期
第101図 PL.106	2	灰釉陶器 段皿	床直 1/4	口 底	12.7 6.0	台 高 6.0 2.0	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、施釉方法は漬け掛け。内面底部に輪積痕が残る。	大原2号窯式 期 10世紀第2四 半期
第101図 PL.000	3	灰釉陶器 皿	床直 1/2	口 底	12.6 7.0	台 高 6.6 2.6	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、施釉方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀第2四 半期
第101図 PL.000	4	土師器 甕	床直 口縁部～胴部上 位1/2	口	18.6		細砂粒/良好/赤 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀第2四 半期

C区47号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第102図	1	土師器 甕	埋土 底部～胴部下 位片	底	14.0		細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	底部は砂底か。胴部はヘラ削り。内面は底部がナデ、胴部はヘラナデ。	10世紀後半

C区49号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第104図 PL.106	1	須恵器 椀	埋土 1/2	口 底	11.1 5.2	台 高 5.8 4.5	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	10世紀第1四 半期
第104図	2	須恵器 羽釜	床直 口縁部～鏝片	口 鏝	19.0 21.6		細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第104図	3	須恵器 羽釜	床直 口縁部片	口 鏝	21.0 24.3		細砂粒/還元焰/ 褐灰	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第104図 PL.106	4	石製品 石製品	床直 完形	長 幅	2.0 1.9	厚 重 1.6 8.3	流紋岩	研磨により極円形に整形されていると考えられる。	10世紀第1四 半期
第104図 PL.106	5	鉄製品 刀装具	床直 ほぼ完形	長 幅	3.6 1.9	厚 重 1.0 6.86		断面狭長方形の帯状の鉄板を狭卵型に丸めた鉄製品。刀等刃物の装具とも見られるが錆化が著しく詳細は不明。	
第104図 PL.106	6	鉄製品 刀子	埋土 ほぼ完形	長 幅	22.9 5.4	厚 重 0.7 111.93		薄い柳葉形の鉄製品で一端には茎状の突起を持つ。一見利器とも見られるが薄い板状で刃部は形成されていない。未製品とも考えられるが詳細は不明。	

C区50号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第105図 PL.106	1	須恵器 椀	埋土 3/4	口 底	15.3 7.6	台 高 7.2 5.3	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	10世紀第1四 半期
第106図	2	須恵器 皿	埋土 口縁部～底部片	口 底	14.4 7.2	台 高 7.0 3.2	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部整形は不明、高台は貼付。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期か。 10世紀第1四 半期
第106図	3	灰釉陶器 壺	埋土 胴部中位～底部 1/2	底 台	10.0 10.2		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、胴部下位に回転ヘラ削り。施釉方法は刷毛塗りか。	長頸壺か。高 台に焼台が付 着。 10世紀第1四 半期
第106図	4	土師器 小型甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	14.7		細砂粒/良好/に ぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀第1四 半期
第106図	5	土師器 甕	竈 口縁部～胴部下 位1/3	口 胴	19.6 21.0		細砂粒/良好/に ぶい橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀第1四 半期
第106図	6	鉄製品 紡錘車 (紡輪)	掘方 ほぼ完形	長 幅	6.0 5.7	厚 重 0.6 24.48		ほぼ円形の紡錘車の紡輪。中央の孔は円形で錆化した土砂により閉塞されている。	

第6表 掲載遺物観察表

C区51号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第108図 PL.107	1	土師器 杯	埋土 3/4	口底	11.7 9.2	高	3.5	細砂粒/良好/明 褐	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	10世紀第3四 半期
第108図 PL.107	2	土師器 杯	竈 3/4	口底	12.0 9.0	高	3.4	細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	外面底部に墨 書「大」。 10世紀第3四 半期
第108図	3	須恵器 杯	床直 口縁部~底部片	口底	12.4 6.0	高	3.5	細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	10世紀第3四 半期
第108図 PL.107	4	須恵器 杯	埋土 1/4	口底	13.4 6.6	高	3.5	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	10世紀第3四 半期
第108図	5	須恵器 椀	埋土 1/4	口底	14.2 7.2	高	5.2	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。底部切り離し具法不明。	10世紀第3四 半期
第108図 PL.107	6	須恵器 小型短頸壺	埋土 口縁部~胴部片	口 胴	6.0 10.4			細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	10世紀第3四 半期
第108図 PL.107	7	土師器 甕	埋土 口縁部~胴部下 位1/3	口 胴	19.6 21.6			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部がヘラナデ。	10世紀第3四 半期

C区52号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第110図	1	土師器 甕	竈 口縁部~胴部上 半小片	口	19.6			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラ ナデ。	10世紀第1四 半期
第110図	2	土師器 甕	竈 口縁部~胴部上 位小片	口	22.4			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	口縁部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラ ナデ。	10世紀第1四 半期
第110図	3	土師器 甕	竈 底部~胴部下位 片	底	15.2			細砂粒・粗砂粒/ 良好/にぶい赤褐	底部は砂底か。胴部はヘラ削り。内面は底部がナデ、 胴部はヘラナデ。	10世紀第1四 半期

C区53号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第111図	1	須恵器 杯蓋	埋土 天井部・摘み	摘	2.6			細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。摘みは貼付、天井部中ほど は回転ヘラ削り。	10世紀第1四 半期
第111図	2	緑釉陶器 椀	埋土 底部~体部下位 片	底 台	5.2 5.0			微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部はヘラナデ、高台は削 り出し。高台の内側を除き施釉。	京都産 10世紀第1四 半期
第111図	3	灰釉陶器 椀	床直 底部~体部下半 片	底 台	8.0 7.6			微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台 は貼付、体部下位は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	東濃産 10世紀第1四 半期
第111図	4	須恵器 羽釜	竈 口縁部~鏝片	口 鏝	20.4 25.0			細砂粒/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第111図	5	須恵器 羽釜	床直 口縁部~鏝片	口 鏝	22.0 25.4			細砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第111図 PL.107	6	須恵器 羽釜	床直 口縁部~胴部上 位片	口 鏝	21.8 25.3			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期

C区55号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第113図 PL.107	1	須恵器 杯	埋土 1/3	口 底	13.5 7.0	高	3.7	細砂粒/還元焰/ 黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。 底部は疑似高台状を呈す。	9世紀第2四 半期

C区56号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第114図	1	土師器 小型甕	埋土 口縁部~胴部上 位片	口	13.2			細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴 部がヘラナデ。	10世紀前半
第114図	2	土師器 甕 (ロクロ甕)	竈 口縁部~胴部上 位片	口	16.0			細砂粒/良好/に ぶい橙	ロクロ整形。	10世紀前半
第114図	3	須恵器 羽釜	竈・埋土 口縁部~鏝片	口 鏝	15.6 20.0			細砂粒/酸化焰/ 浅黄	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀前半

C区58号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
第116図	1	須恵器 壺	埋土 底部片	底 台	16.0 16.0			細砂粒/還元焰/灰 白	ロクロ整形。胴部は底部に粘土紐巻き上げて成形、高 台は貼付。底部は外面が回転ヘラナデ、内面はナデ。	10世紀第1四 半期
第116図	2	須恵器 羽釜	埋土 口縁部~鏝片	口 鏝	20.0 23.6			細砂粒/酸化焰/ 橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀第1四 半期
第116図 PL.107	3	鉄製品 釘	埋土 一部欠損	長 幅	5.7 1.7	厚 重	1.4 15.10		断面長方形の角釘。頭は薄く広げて斜めに折り曲げる。 先端は斜めに切断されたような形状で端部も錆に覆わ れている。	

第6表 掲載遺物観察表

C区59号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第117図	1	土師器 甕	竈 口縁部～胴部上 位片	口	20.8			細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第2四半期

C区13・15号溝

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第118図 PL.107	13 溝 1	須恵器 椀	13号溝埋土 口縁部1/4欠損	口	13.2 5.4	高	5.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	10世紀前半
第118図 PL.107	15 溝 1	灰釉陶器 椀	15号溝埋土 1/4	口	15.4 7.4	台 高	7.3 5.1	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。体部は回転へら削り。	10世紀前半

C区14号溝

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第119図	1	須恵器 皿	埋土 完形	口	8.6 6.3	高	2.6	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	内面全体と外面口縁部に煤が付着。 10世紀前半
第119図	2	灰釉陶器 椀	埋土 3/4	口	13.9 7.1	台 高	6.6 4.4	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯 時期 10世紀前半
第119図	3	石製品 砥石	埋土 ほぼ完形	長 幅	(13.3) 3.1	厚 重	2.8 114.6	砥沢石	砥面は1面認められ、正面は研ぎ減りにより外湾する。右側面の痕跡は平タガネ痕の可能性ある。上部及び下部欠損。	
第119図	4	石製品 石臼	埋土 1/2	径 高	(36.0) (14.0)	厚 重	棒軸径 (3.5) 9900.0	粗粒輝石安山岩	上面中央に直径約35mmの軸受孔が認められる。上面(挽面)は比較的滑らかである。外面と底面には棒状工具痕が認められる。	

C区3・4号河道

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				口	高	厚				
第121図 PL.107	1	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	14.0			細砂粒・粗砂粒・ 褐粒/酸化焰/浅 黄橙	ロクロ整形。	10世紀第3四半期
第121図 PL.107	2	須恵器 椀	埋土 完形	口	13.4 7.0	台 高	8.6 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切りか、高台を貼付。	10世紀第3四半期
第121図 PL.107	3	須恵器 椀	埋土 1/3	口	14.4 7.4	台 高	8.2 6.1	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。	10世紀第3四半期
第121図	4	灰釉陶器 椀	埋土 口縁部片	口	18.0			微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回りか。体部下位は回転へら削り。内面口唇部に凹線が1条巡る。施釉方法は漬け掛け。	虎溪山1号窯 時期 10世紀第3四半期
第121図	5	灰釉陶器 椀	埋土 底部～体部下位 片	底 台	7.0 7.2			微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原2号窯 時期 10世紀第3四半期
第121図 PL.107	6	須恵器 羽釜	埋土 1/3	口 鏝	19.5 24.0	底 高	8.0 25.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形。鏝は貼付、胴部と底部はへら削り。内面は底部から胴部がへらナデ。	胴部最大径 23.4cm 10世紀第3四半期

C区土坑

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考	
				長 幅	高	厚				
第137図 PL.107	1	鉄製品 釘	102号土坑埋土 破片	長 幅	4.9 0.9	厚	0.7 3.36		断面ほぼ正方形の角釘と見られる鉄製品破片。端部に向かい細くなる。頭側は劣化破損する。木質等の痕跡は見られない。	
第137図	2	灰釉陶器 椀	171号土坑埋土 底部～体部下位 片	底 台	8.0 7.5			微砂粒・長石粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原2号窯 時期 10世紀第1四半期
第137図	3	灰釉陶器 椀	172号土坑埋土 底部～体部下 半片	底 台	7.4 7.0			微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へらナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	内面を転用碗 として使用 か。 10世紀第1四半期
第198図	4	瀬戸・美濃 陶器 火鉢	218号土坑埋土 肩部片					浅黄	外面に浮彫様の型作り文様を貼付け、緑色釉を掛ける。釉に貫入する。内面無釉。	江戸時代後期 か?
第198図	5	在地系土器 鉢か?	218号土坑埋土 底部片	底	(13.9)			淡褐灰	焼成良、硬質。内面横ナデ。外面かるい研磨。底部焙烙様、かるい研磨。	江戸時代か?
第137図 PL.107	6	須恵器 椀	230号土坑埋土 3/4	口 底	13.6 7.0			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	10世紀前半
第137図	7	須恵器 羽釜	235号土坑埋土 口縁部～鏝片	口 鏝	19.9 23.8			細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形。鏝は貼付。	10世紀前半

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	台高	厚重			
第137図 PL.107	8	灰釉陶器 皿	243号土坑埋土 口縁部片	口底	14.0		微砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀前半
第137図 PL.107	9	須恵器 椀	244号土坑底部 口縁一部欠	口底	13.3 7.1	台高 6.5 5.0	細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	口縁部の一部 に煤が付着。 10世紀前半
第137図 PL.107	10	須恵器 椀	244号土坑底部 完形	口底	14.5 6.3	台高 5.4 5.6	細砂粒・粗砂粒・ 長石/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀前半
第137図 PL.107	11	灰釉陶器 皿	244号土坑底部 完形	口底	13.9 7.2	台高 6.6 3.0	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付、体部下半は回転ヘラ削り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀前半
第138図 PL.107	12	灰釉陶器 椀	244号土坑底部 完形	口底	10.8 5.4	台高 5.4 3.7	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。内面底部に重ね焼き痕が残る。	大原2号窯式 期 10世紀前半
第138図 PL.108	13	鉄製品 釘	244号土坑埋土 破片	長幅	2.9 3.4	厚重 1.7 6.30		断面長方形の角釘先端付近の破片。先端部分は曲がり全体に針葉樹板目材の木質に覆われている。	
第138図 PL.108	14	鉄製品 釘	244号土坑底部 先端欠	長幅	6.1 1.8	厚重 1.6 15.51		断面ほぼ正方形の角釘。頭は薄く広げ折り曲げる。頭から約2.5cmは針葉樹板目材そこから先端までは針葉樹木口材の木質に覆われる。	
第138図 PL.108	15	鉄製品 釘	244号土坑埋土 ほぼ完形	長幅	8.1 2.1	厚重 1.2 15.51		断面ほぼ正方形の角釘。頭は薄く広げ折り曲げるが厚く木質に覆われているため詳細は不明。頭から約4cmは針葉樹板目材そこから先端までは針葉樹木口材の木質に覆われる。	
第138図 PL.108	16	鉄製品 釘	244号土坑底部 ほぼ完形	長幅	8.3 2.7	厚重 2.2 7.84		断面長方形の角釘。頭は薄く広げ緩やかに曲がり、先端はやや丸みを持つ。頭側約3cmは針葉樹の板目材、その先は針葉樹木口材の木質に覆われる。	
第138図 PL.108	17	須恵器 椀	260号土坑埋土 1/3	口底	14.6 6.8	台高 6.4 5.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀前半
第138図 PL.108	18	鉄製品 鈴	262号土坑埋土 ほぼ完形	長幅	3.8 3.8	厚重 2.8 14.90		厚さ1mmほどの薄い金属製板で作られた鈴。下側はつぶれ変形している。全体に鉄さびに覆われるが一部に緑青が見られる。	
第138図 PL.108	19	鉄製品 鈴	262号土坑埋土 一部欠損	長幅	3.7 3.6	厚重 2.9 15.52		厚さ1mmほどの薄い金属製板で作られた鈴。中央に重ね部分が有り上下を別々に作り合わせたものと考えられる。全体に鉄さびに覆われるが一部に銅錆も見られる。	
第138図 PL.108	20	鉄製品 不詳	262号土坑埋土 ほぼ完形	長幅	5.7 2.7	厚重 1.4 12.34		断面ほぼ正方形でJの字状に曲がる鉄製品。錆化著しく泥錆に厚く覆われ本体は脆弱なため詳細は不明。	
第138図 PL.108	21	鉄製品 不詳	262号土坑埋土 ほぼ完形	長幅	9.6 2.8	厚重 1.2 49.70		薄い短冊状の鉄板で一端部は丸く舌状。反対側の端部は不定形でねじ曲がり破損後錆化の可能性もある。木質等の痕跡は見られない。	
第198図	22	在地系土器 焙烙	263号土坑埋土 体部破片				灰黄白～黒灰	体部外傾。底部平底。内外面燻し、黒色化。内外面横ナデ。外面に使用による煤付着。	江戸時代
第138図 PL.108	23	石製品 板碑片	263号土坑埋土 不明	長幅	(15.9) (10.5)	厚重 (3.5) 924.8	緑色片岩	破片であり全体形状及び部位は不明。	
第138図 PL.108	24	石製品 砥石	266号土坑埋土 ほぼ完形	長幅	(15.0) 2.7	厚重 2.2 122.3	砥沢石	砥面は正面だけであり、研ぎ減りにより外湾する。左右側面と裏面には櫛歯タガネ痕が明瞭に残る。上部欠損。	
第138図	25	須恵器 椀	322号土坑埋土 1/3	口底	15.8 6.6		細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付が剥落。	10世紀前半

C区ピット

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	台高	厚重			
第144図 PL.108	1	須恵器 椀	464号ピット 埋土 完形	口底	13.0 6.4	台高 5.2 5.6	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀前半
第144図 PL.108	2	石製品 砥石	487号ピット 埋土 完形	長幅	12.3 2.9	厚重 2.3 111.9	砥沢石	正面は研ぎ減りによりやや外湾する。上面は山形を呈し斜め方向の細かい線条痕が集中する。左右側面と裏面には櫛歯タガネ痕が明瞭に残る。右側面の下方には横方向の線条痕が多数認められ、一部砥面として利用された可能性がある。	

C区遺構外

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	台高	厚重			
第145図 PL.108	1	須恵器 皿	表土 1/4	口底	9.2 5.0	高 1.9	細砂粒/酸化焰/ 浅黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	口唇部の一部 に煤が付着。 10世紀後半
第145図 PL.108	2	須恵器 皿	トレンチ 1/3	口底	11.4 6.7	台高 6.6 3.0	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀後半
第145図	3	須恵器 杯	表土 口縁部片	口底	15.0		細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回りか。	10世紀後半
第145図 PL.108	4	須恵器 杯	表土 1/3	口底	9.6 5.0	高 2.8	細砂粒/酸化焰/ にぶい橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	10世紀後半
第145図 PL.108	5	須恵器 杯	表土 1/4	口底	12.4 6.0	高 3.5	細砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀後半
第145図	6	須恵器 椀	表土 口縁部片	口底	14.8		細砂粒/還元焰/ 黄灰	ロクロ整形、回転右回りか。	10世紀後半

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第145図 PL.108	7	須恵器 椀	表土 口縁部片	口	12.6		細砂粒/酸化焰/ 浅黄	ロクロ整形、回転右回り。	10世紀後半
第145図 PL.108	8	須恵器 椀	表土 1/2	口 底	12.0 6.8	台 高 6.4 4.8	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/淡黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀後半
第145図	9	須恵器 椀	表土 1/4	底 台	7.0 6.0		細砂粒/還元焰・ 燻/暗灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	10世紀後半
第145図	10	灰釉陶器 段皿	表土 口縁部片	口	12.5		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。口唇部に輪花が施されている。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀後半
第145図	11	灰釉陶器 段皿	表土 口縁部片	口	16.0		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。口唇部に輪花が施されている。施釉方法は刷毛塗り。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀後半
第146図	12	灰釉陶器 皿	表土 1/4	口 底	13.6 7.4	台 高 7.0 2.7	微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀後半
第146図	13	灰釉陶器 椀	表土 口縁部片	口	15.2		微砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は漬け掛け。	大原2号窯式 期 10世紀後半
第146図	14	灰釉陶器 椀	表土 体部片				微砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形。施釉方法は刷毛塗りか。体部に陰刻花文が施文。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀後半
第146図	15	緑釉陶器 椀	表土 底部~体部下位 片	底 台	6.0 5.8		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形。高台は削り出し。施釉は高台内側を除いた範囲。	丹波篠産か。 9世紀中半
第146図	16	灰釉陶器 椀	表土 底部~体部下位 片	底 台	6.5 6.0		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。施釉方法は不明。	大原2号窯式 期 10世紀後半
第146図	17	灰釉陶器 鉢	表土 口縁部片	口	15.7		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。施釉方法は刷毛塗りか。	光ヶ丘1号窯 式期 10世紀後半
第146図 PL.108	18	須恵器 長頸壺	表土 口縁部~胴部上 位	口 胴	5.8 8.8		細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。頸部にて口縁部と胴部を接合。	平城宮分類壺 G 8世紀後半
第146図 PL.108	19	土師器 小型甕	表土 口縁部~胴部上 位1/3	口	12.4		細砂粒/良好/褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀後半
第146図	20	土師器 甕	表土 口縁部片	口	19.0		細砂粒/良好/に ぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ。	10世紀後半
第146図	21	土師器 甕	表土 口縁部~胴部上 位片	口	20.0		細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀後半
第146図	22	土師器 甕	表土 口縁部~胴部上 位片	口	19.7		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	10世紀後半
第146図	23	須恵器 羽釜	表土 口縁部~鏝片	口 鏝	20.0 23.0		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄褐	ロクロ整形。鏝は貼付。内面胴部に指ナデが残る。	10世紀後半
第146図 PL.108	24	須恵器 不明	表土 一部欠損	縦 横	8.8 11.1	厚 1.0	細砂粒/還元焰/ 灰黄	内外面ともヘラナデ、側面はヘラによる面取り。	10世紀後半
第198図	25	瀬戸・美濃 磁器 染付蓋	表土 1/4	口 底	1.1 (5.0)	高 1.7	白	宝珠型の摘みがつく。表面に手描きの染付。裏面無釉。裏面に重焼痕。	近代
第198図	26	瀬戸・美濃 磁器 染付端反小 碗	表土 1/2	口 底	(7.0) 3.0	高 4.4	白	外面に筏流し図染付。内面無文。	近代
第198図	27	中国龍泉窯 青磁 蓮弁文碗	表土 底部1/3	底	(5.0)		暗灰	厚手。内外面に緑灰色の青磁釉。畳付と高台内は無釉。底部内面と畳付がスレ。	中世
第198図	28	肥前磁器 染付碗	表土 体部片	口 底	(7.1) (3.5)	高 5.8	灰白	外面に染付、内面無文。左手割れ口に焼継ぎ痕。	江戸時代後期
第198図	29	瀬戸・美濃 磁器 碗	表土 1/2	口 底	(11.5) (3.6)	高 4.6	白	内外面に型紙摺の文様。	近代
第198図	30	瀬戸・美濃 磁器 碗	表土 1/4	口 底	(12.1) (4.3)	高 5.1	白	内外面に型紙摺の文様。	近代
第198図	31	肥前陶器 呉器手碗	表土 体部下半1/3	底	4.4		浅黄	内外面に灰釉、貫入入る。	江戸時代
第199図	32	瀬戸・美濃 陶器 錆釉碗	表土 体部1/6	口	(11.7)		浅黄	内外面に泡立つような錆釉。	江戸時代
第199図	33	瀬戸・美濃 陶器 緑釉端反碗	表土 1/4	口 底	(11.0) (3.9)	高 6.7	浅黄	内面から外面腰上まで緑色の釉、細かな貫入入る。釉は一部乳青色。	江戸時代
第199図	34	瀬戸・美濃 陶器 腰錆碗	表土 底部1/3	底	(4.0)		淡黄	内面に灰釉、貫入入る。外面に錆釉。	江戸時代後期
第199図	35	信楽系陶器 灰釉碗	表土 1/4	口 底	(9.5) (5.6)	高 6.0	淡黄	内面から外面腰まで透明な灰釉、貫入入る。	江戸時代後期

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				底	口	高			
第199図	36	肥前磁器 染付皿	表土 底部片	底	(7.8)		灰白	外面と見込に染付。高台内に一重圏線。	江戸時代
第199図	37	瀬戸・美濃 磁器 皿	表土 1/3	口 底	(14.6) (8.0)	高 2.7	白	内面に銅板転写の文様。口唇部に錆釉。外面無文。	近代
第199図	38	肥前陶器 刷毛目皿	表土 腰下2/3	底	6.0		浅黄	内外面に刷毛目。	江戸時代
第199図	39	瀬戸・美濃 陶器 灰釉輪弁皿	表土 1/5	口 底	(11.7) (7.0)	高 2.5	灰白	厚手。見込に段差。体部内外面と見込に白濁した灰釉。大窯内弁皿か？	江戸時代
第199図	40	瀬戸・美濃 陶器 鉄絵皿	表土 1/3	口 底	(11.0) (6.8)	高 2.7	灰白	内面に鉄絵、内外面に灰釉。底部内外面に目痕各1箇所。	江戸時代
第199図	41	瀬戸・美濃 陶器 鉄釉ひょうそく	表土 口縁部片	口	(5.0)		灰褐	薄手で小型。内外面に鉄釉。	江戸時代
第199図	42	瀬戸・美濃 陶器 染付徳利	表土 完形	口 底	2.9 7.0	高 22.5	不明	体部に手描き染付。口縁部内面から外面、及び高台内まで乳灰色の灰釉。	近代
第199図	43	瀬戸・美濃 陶器 灰釉甕	表土 底部1/3	底	(9.2)		灰	薄手。外面に灰釉、貫入入る。外面無釉、灰釉薄くかかる。	近代か
第200図	44	常滑陶器 甕	表土 胴部片				暗灰オリーブ～赤灰	外面平滑、錆釉薄塗り。内面に接合痕と指痕。内面茶色に変色。	中世
第200図	45	瀬戸・美濃 陶器 灰釉灰落と し	表土 体部下半1/2	底	6.3		灰	筒形で外面腰まで灰釉、一部に鉄釉かける。貫入入る。内面無釉。	江戸時代
第200図	46	瀬戸・美濃 陶器 戸車	表土 完形	長 幅	4.5 4.5	厚 1.1	灰白	内周と外周の平坦面に灰釉。内周のスレほとんど無し。片面のよこれは墨書か？	江戸時代後期
第200図	47	在地系土器 皿	表土 底部3/4	底	5.4		明橙	体部が内湾しながら開く。底部回転糸切り痕。内面指ナデ痕。	中世後半
第200図	48	在地系土器 焙烙	表土 口縁部片				黄褐～黒灰	厚手、硬質。口縁部直立、底部平坦。腰下を丸く削り取る。内外面焼し、黒色化。内外面横ナデ。	江戸時代
第200図	49	在地系土器 焙烙	表土 口縁部片				淡黄灰	焼成良、硬質。内外面焼し、黒色化。内外面横ナデ。	江戸時代
第147図 PL.108	50	石製品 砥石	表土 2/3	長 幅	(11.3) 3.3	厚重 3.4 168.1	砥沢石	砥面は2面認められる。正面は研ぎ減りにより外湾する。裏面には縦方向の細かい線条痕が集中する。右側面の痕跡は平タガネ痕の可能性ある。	
第146図 PL.108	51	石製品 板碑片	表土 不明	長 幅	(12.8) (11.2)	厚重 (2.0) 455.8	緑色片岩	破片であり全体形状及び部位は不明。	
第147図 PL.108	52	石製品 板碑片	表土 不明	長 幅	(13.0) (10.6)	厚重 3.2 747.5	緑色片岩	破片であり全体形状及び部位は不明。	
第147図 PL.108	53	石製品 石製品	表土 ほぼ完形	長 幅	23.8 24.6	厚重 12.8 7000.0	粗粒輝石安山岩	外面にはわずかに平ノミ状の工具痕が残る。中央付近に上端径約14cm、底部径約6cm、深さ約9cmの漏斗状の孔があり、底面側からの穿孔によりつながる。	
第147図 PL.108	54	鉄製品 火打金	表土 ほぼ完形	長 幅	6.1 2.5	厚重 0.7 12.52		山形の火打金で中央部に2.5mmほどの円孔を有する。両端丸味を持つがやや形状は異なる。	
第147図 PL.108	55	鉄製品 不詳	表土 両端欠	長 幅	13.5 1.6	厚重 0.8 20.66		断面台形から長方形の細い板状の鉄製品。両端とも不定形で破損後の錆化と考えられる。木質等の付着は見られない。	

D区13号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	高			
第148図 PL.109	1	須恵器 杯	埋土 1/2	口 底	11.8 6.0	高 3.5	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀第3四 半期
第148図	2	須恵器 椀	埋土 底部片	底 台	8.4 9.0		細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り後ナデ、高台は貼付。内面は器面剥離か、剥離した面にも回転糸切り痕が残る。	底部円柱つくり。 9世紀第3四 半期

D区14号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口 底	高	高			
第149図 PL.109	1	土師器 杯	壁際 完形	口 底	11.5 7.5	高 3.6	細砂粒/良好/に ぶい黄橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	9世紀第3四 半期
第149図 PL.109	2	土師器 杯	壁際 ほぼ完形	口 底	12.1 8.2	高 3.8	細砂粒/良好/黄 褐	口縁部は横ナデ、体部は上半がナデ、下半がヘラ削り、底部は手持ちヘラ削り。	内面の体部から 体部にスミ が付着。 9世紀第3四 半期
第149図 PL.109	3	須恵器 皿	竈 1/2	口 底	16.7 6.6	高 3.3	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/還元焰・燻 /黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀第3四 半期
第150図 PL.109	4	須恵器 皿	床直・貯蔵穴 完形	口 底	17.3 6.8	高 3.3	細砂粒・粗砂粒・ 片岩/還元焰/黄 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。一部二次被熱を受けている。	9世紀第3四 半期

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第150図 PL.109	5	須恵器 杯	壁際 完形	口底 12.5 6.3	高 3.8		細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀第3四 半期
第150図 PL.109	6	須恵器 杯	床直 ほぼ完形	口底 12.2 5.8	高 4.3		細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀第3四 半期
第150図 PL.109	7	須恵器 高台付杯	床直・貯蔵穴 1/3	口底 15.0 9.4	台高 9.8 5.4		細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	内外面とも全 体的に煤付 着。 9世紀第3四 半期
第150図	8	須恵器 椀	埋土 1/4	口底 15.7 8.3	台高 8.0 6.3		細砂粒/酸化焰/ にぶい褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第3四 半期
第151図 PL.109	9	灰釉陶器 椀	床直 1/2	口底 16.9 8.0	台高 7.4 5.3		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。体部下位は回転ヘラ削り。施釉方法不明。	光ヶ丘1号窯 式期 9世紀第3四 半期
第151図 PL.109	10	土師器 甕	床直 口縁部~胴部上 位	口 19.0			細砂粒/良好/ にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期
第151図 PL.109	11	土師器 甕	竈 口縁部~胴部上 位1/3	口 22.0			細砂粒/良好/ 橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期
第151図 PL.109	12	土師器 甕	竈 口縁部~胴部下 位3/4	口 19.2 21.6	胴 厚		細砂粒/良好/ にぶい黄橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期
第151図 PL.109	13	石製品 砥石	埋土 不明	長 幅 (5.7) (5.1)	厚 重 (2.8) 75.2		砥沢石	底面は3面認められる。正面はやや内湾した形態である。右側面はやや外湾し、左側面はほぼ平坦である。裏面から下部欠損。	
第151図 PL.109	14	鉄製品 不詳	埋土 破片	長 幅 9.2 2.3	厚 重 0.7 7.47			幅5mm厚さ1mmほどの長い鉄板を吊り金具状に曲げる。木質・有機物等の痕跡は見られない。	
第151図 PL.109	15	鉄製品 不詳	埋土 完形	長 幅 19.4 1.1	厚 重 0.8 11.41			断面ほぼ正方形の角棒状で、両端に向かい細くなり断面も円形となる。端部は捻じれるように細くなり尖る。	
第151図 PL.109	16	鉄製品 不詳	床直 ほぼ完形	長 幅 10.7 1.3	厚 重 1.0 23.53			断面長方形から正方形の細い板状の鉄製品。一方端部は不定形で破損後の錆化とも考えられる。たの端部に向かい細くなるが端部はやや曲がり尖らない。木質等の付着は見られない。	
第151図	17	鉄製品 刀子	床直 破片	長 幅 14.7 1.6	厚 重 0.8 18.28			棟・刃側ともになだらかな間を持つ刀子。先端および茎の端部は劣化破損する。茎に木質等の痕跡は見られない。	

D区15号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第153図	1	土師器 杯	埋土 口縁部片	口底 12.0 8.3			細砂粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	内面口縁部に 煤が付着。 9世紀第4四 半期
第153図	2	土師器 杯	埋土 口縁部片	口底 10.8 7.3			細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	9世紀第4四 半期
第153図	3	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口 14.7			細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。	9世紀第4四 半期
第153図 PL.109	4	須恵器 椀	埋土 口縁部~底部片	口底 12.8 7.6	台高 6.2 5.5		細砂粒/酸化焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第4四 半期
第153図 PL.109	5	須恵器 椀	床直 3/4	口底 14.6 7.0	台高 7.5 6.6		細砂粒/酸化焰/ 黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第4四 半期
第153図 PL.109	6	須恵器 椀	埋土 底部~体部片	底台 7.5 7.2			細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第4四 半期
第153図	7	灰釉陶器 椀	埋土 1/3	口底 13.6 6.4	台高 6.0 4.6		微砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。体部下位は回転ヘラ削り。施釉方法は刷毛塗りが。	9世紀第4四 半期
第153図	8	土師器 甕	埋土 口縁部~胴部上 位片	口 11.8			細砂粒/良好/ 橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第4四 半期
第153図	9	土師器 甕	埋土 口縁部~胴部上 位片	口 23.8			細砂粒/良好/ にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第4四 半期
第153図 PL.109	10	土師器 甕	竈 口縁部~胴部上 位3/4	口 18.2			細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第4四 半期
第153図 PL.109	11	土師器 甕	竈 口縁部~胴部中 位1/2	口 18.6 22.0	胴 厚		細砂粒/良好/ にぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第4四 半期

D区16号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口底	高	厚			
第154図 PL.110	1	土師器 杯	床直 3/4	口底 11.6 7.5	高 3.3		細砂粒/良好/ 橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。	9世紀第4四 半期
第154図 PL.110	2	須恵器 皿	埋土 1/4	口底 12.6 6.0	台高 5.8 2.4		細砂粒/酸化焰/ 黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転ヘラナデ、高台は貼付。	9世紀第4四 半期

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口径	台高	高さ			
第154図 PL.110	3	須恵器 皿	床直 3/4	口径 6.8	台高 6.3	高さ 2.9	細砂粒・粗砂粒・ 長石/酸化焰/橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第4四半期
第154図 PL.110	4	須恵器 杯	床直 1/2	口径 11.4	台高 5.2	高さ 3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀第4四半期
第154図	5	須恵器 杯	壁際 口縁部～底部片	口径 12.2	台高 5.9	高さ 3.6	細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回りか。底部は回転糸切り無調整、器面磨滅のため不鮮明。	9世紀第4四半期
第155図	6	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口径 15.6			細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。	9世紀第4四半期
第155図 PL.110	7	須恵器 椀	床直 1/2	口径 14.8	台高 7.2	高さ 7.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第4四半期
第155図 PL.110	8	須恵器 椀	壁際 3/4	口径 13.1	台高 6.8	高さ 6.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第4四半期
第155図 PL.110	9	須恵器 椀	床直 1/3	口径 12.8	台高 7.2	高さ 7.0	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付、周縁部は回転ナデ。	9世紀第4四半期
第155図 PL.110	10	須恵器 椀	壁際 口縁部一部欠	口径 14.4	台高 7.4	高さ 7.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第4四半期
第155図 PL.110	11	緑釉陶器 椀蓋	壁際 口縁部片				微砂粒/還元焰・ 軟質/灰白	ロクロ整形。内外面とも施釉。	京都産か。 9世紀第4四半期
第156図	12	土師器 甕	壁際 口縁部～胴部上 位片	口径 19.8			細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第4四半期
第156図	13	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口径 24.2			細砂粒/良好/ にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第4四半期
第156図 PL.110	14	土師器 甕	壁際 口縁部～胴部中 位1/2	口径 23.0	胴 28.0		細砂粒/良好/橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第4四半期
第156図	15	土師器 甕	埋土 胴部片	胴 20.8			細砂粒/良好/ 明赤褐	外面は上半が横位、下半は斜めのへら削り。内面はへらナデ。	9世紀第4四半期
第156図 PL.110	16	石製品 砥石	床直 完形	長幅 9.4	厚重 2.9	3.3 89.6	砥沢石	砥面は2面認められる。正面は研ぎ減りによりやや内湾する。右側面はほぼ平坦である。	

D区17号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口径	台高	高さ			
第157図 PL.110	1	須恵器 杯	床直 1/3	口径 13.2	台高 5.8	高さ 3.7	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	9世紀第3四半期
第157図	2	須恵器 杯	埋土 底部	底 5.5			細砂粒/酸化焰/ 燻/にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。内面の体部接合部下にも回転糸切り痕が残る。	底部円柱づくり。 9世紀第3四半期
第157図 PL.110	3	須恵器 椀	掘方 1/2	口径 14.8	台高 8.0		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付が剥落。	9世紀第3四半期
第158図 PL.110	4	須恵器 椀	掘方 3/4	口径 14.6	台高 7.3	高さ 6.5	細砂粒・粗砂粒・ 長石/還元焰/に ぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第3四半期
第158図 PL.110	5	須恵器 椀	竈 3/4	口径 14.3	台高 7.2	高さ 6.9	細砂粒・粗砂粒・ 長石/還元焰/灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第3四半期
第158図 PL.110	6	須恵器 椀	掘方 底部片	底台 7.8	7.9		細砂粒・粗砂粒/ 還元焰/灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第3四半期
第158図 PL.110	7	土師器 小型甕	竈 口縁部～胴部下 位1/2	口径 12.7	胴 14.0		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第3四半期
第158図	8	鉄製品 不詳	埋土 破片	長幅 9.1	厚重 4.0	0.7 32.74		断面は狭三角形で鎌等の破片と見られるが、一方の端部は丸く他の端部は劣化破損し全体形状は不明。木質等の痕跡も見られない。	

D区18号住居

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口径	台高	高さ			
第160図 PL.110	1	須恵器 杯	埋土 1/3	口径 13.0	台高 6.0	高さ 3.6	細砂粒/酸化焰/ にぶい黄橙	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整、体部下半に手持ちへら削り。	9世紀第3四半期
第160図 PL.110	2	須恵器 杯	埋土 3/4	口径 13.5	台高 7.6	高さ 3.9	細砂粒/還元焰/ 浅黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	焼成時の歪み大。 9世紀第3四半期
第160図 PL.110	3	須恵器 椀	貯蔵穴 3/4	口径 14.0	台高 6.4	高さ 6.2	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第3四半期
第160図 PL.110	4	須恵器 椀	貯蔵穴 3/4	口径 14.1	台高 7.2	高さ 6.7	細砂粒/還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀第3四半期
第160図 PL.110	5	須恵器 瓶	壁際 底部～胴部中位	底台 6.6	5.0		細砂粒・黒色粒/ 還元焰/黄灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転へら削り、高台は貼付。	9世紀第3四半期
第160図	6	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口径 11.0			細砂粒/良好/ 明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第3四半期

第6表 掲載遺物観察表

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第160図	7	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	13.0		細砂粒／良好／ ぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期
第160図	8	土師器 甕	埋土 口縁部片	口	19.8		細砂粒／良好／ ぶい褐	外面口縁部に輪積痕が残る。口縁部と頸部は横ナデ。	9世紀第3四 半期
第160図	9	土師器 甕	埋土 口縁部片	口	20.8		細砂粒／良好／ ぶい橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部が横ナデ。	9世紀第3四 半期
第161図	10	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	18.0		細砂粒／良好／ ぶい赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期
第161図	11	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	20.7		細砂粒／良好／ 褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期
第161図	12	土師器 甕	埋土 口縁部～胴部上 位片	口	18.8		細砂粒／良好／ 明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期
第161図	13	土師器 甕	竈 口縁部～胴部上 位1/2	口	19.8		細砂粒／良好／ ぶい橙	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期
第161図 PL.111	14	土師器 甕	竈 口縁部～胴部中 位1/3	口 胴	20.0 21.0		細砂粒／良好／ 明赤褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。	9世紀第3四 半期

D区4号掘立柱建物

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第163図 PL.111	1	土師器 杯	P 2埋土 完形	口	11.8 7.2	高	3.3	細砂粒／良好／ ぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちヘラ削り。内面口縁部に煤が付着。9世紀後半
第163図	2	土師器 甕	P 2埋土 口縁部～胴部上 位片	口	16.7			細砂粒／良好／ ぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はヘラ削り。内面は胴部がヘラナデ。

D区1号鍛冶遺構

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第166図 PL.111	1	須恵器 椀	床直 口縁部一部欠	口	14.2 7.0	台	6.8 5.9	細砂粒・粗砂粒/ 酸化焰／灰黄褐	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。10世紀前半
第166図 PL.111	2	石製品 金床石	炉 1/3	長	幅 (21.0) (26.6)	厚	重 13.4 10300.0	細粒輝石安山岩	円礫を利用する。正面及び裏面にわずかに鉄製品を鍛造する際に付着したと想定される滓が認められる。正面の中央付近と左側面には非常に滑らかな面が認められ砥面と想定される。
第166図 PL.111	3	石製品 金床石	床直 完形	長	幅 32.4 24.4	厚	重 12.6 8950.0	粗粒輝石安山岩	正面、右側面、裏面に鉄製品を鍛造する際に付着したと想定される滓が認められる。正面、右側面、裏面には滑らかな部分が認められ砥面と想定される。正面には断面V字形の線条痕がわずかに認められる。上方の側面部は鍛造時の衝撃で剥落したと考えられる部位であるが、鉄製品を鍛造する際に付着したと想定される滓が認められる。
第166図 PL.111	4	土製品 羽口	炉 破片	長	短 5.8 6.2	厚	重 3.8 74.35		羽口先端部分の破片。先端は熱によりガラス化し鮮紅色の微細な付着物が見られる。
第166図 PL.111	5	鉄製品 刀子	炉 破片	長	幅 5.7 1.3	厚	重 0.8 6.48		棟・刃側ともになだらかな関を持つ刀子。錆化が著しく全体に厚く泥錆に覆われるため詳細は不明。

D区1号窪地

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第168図 PL.111	1	須恵器 皿	埋土 1/4	口	12.8 8.0	台	8.4 3.3	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰／灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。9世紀後半
第168図	2	須恵器 杯	埋土 破片	口	14.6			細砂粒／還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。9世紀後半
第168図 PL.111	3	須恵器 杯	埋土 3/4	口	12.6 6.4	高	3.4	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰／灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。9世紀後半
第168図 PL.111	4	須恵器 椀	埋土 3/4	口	15.0 8.4	台	8.8 7.0	細砂粒・粗砂粒/ 還元焰／灰	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。9世紀後半

D区6号溝

挿図 PL.No.	No.	種類	出土位置 残存率	計測値			胎土／焼成／色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
				口	底	高			
第169図 PL.111	1	須恵器 皿	埋土 3/4	口	13.0 7.2	台	6.8 2.5	細砂粒／還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。9世紀第4四 半期
第169図 PL.111	2	須恵器 皿	埋土 3/4	口	13.8 8.1	台	7.8 2.8	細砂粒／還元焰/ 灰白	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。9世紀後半
第169図 PL.111	3	須恵器 杯	埋土 1/2	口	13.2 7.0	高	3.7	細砂粒／還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。9世紀第4四 半期
第170図 PL.111	4	石製品 砥石	埋土 不明	長	幅 (13.8) (10.9)	厚	重 8.0 1201.4	粗粒輝石安山岩	表裏面に滑らかな平坦面が認められることから砥石と判断した。荒砥。

第6表 掲載遺物観察表

D区8号溝

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第171図	1	須恵器 椀	埋土 口縁部片	口	15.7		細砂粒/還元焰/ 灰	ロクロ整形、回転右回り。	
第200図	2	常滑陶器 甕	埋土 口縁部片				褐灰	口縁部大きく外反、口唇部外削ぎ状。口唇部内面に凹線。内外面に自然釉かかる。	古代末~中世初、1180年頃か

D区土坑

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第177図	1	須恵器 杯	143号土坑埋土 底部~体部下 半片	底	6.7		細砂粒/還元焰/ 灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部は回転糸切り無調整。	10世紀第2四半期
第177図 PL.111	2	土師器 杯	156号土坑埋土 1/3	口底	11.8 8.0		細砂粒/良好/ にぶい橙	口縁部は横ナデ、体部はナデ、底部は手持ちへら削り。	9世紀後半
第177図 PL.111	3	須恵器 椀	184号土坑埋土 3/4	口底	14.9 7.2	台高 7.0 6.4	細砂粒/粗砂粒/ 還元焰/灰黄	ロクロ整形、回転右回り。底部回転糸切り後高台を貼付。	9世紀後半
第177図 PL.111	4	土師器 小型甕	184号土坑埋土 口縁部片	口	12.7		細砂粒/良好/ にぶい褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第4四半期
第177図	5	土師器 甕	187号土坑埋土 口縁部~胴部上 位片	口	19.0		細砂粒/良好/橙	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	内外面の口縁部一部に煤が付着。9世紀第3四半期

D区ピット

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第154図	1	土師器 甕	373号ピット埋土 口縁部~胴部上 位片	口	19.7		細砂粒/良好/ 明赤褐	外面頸部に輪積痕が残る。口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第3四半期
第154図 PL.111	2	須恵器 皿	390号ピット埋土 口縁部片	口	14.4		細砂粒/酸化焰/ 燻/灰	ロクロ整形。	10世紀

D区遺構外

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第185図	1	土師器 甕	表土 口縁部~胴部上 位片	口	19.0		細砂粒/良好/ 明褐	口縁部から頸部は横ナデ、胴部はへら削り。内面は胴部がへらナデ。	9世紀第2四半期
第200図	2	中国龍泉窯 青磁蓮弁文碗	表土 口縁部片				灰	薄手で、釉は厚い。外面に蓮弁文を印刻。内外面に暗灰緑色の青磁釉。	中世

E区265号土坑

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第187図	1	須恵器 不明	埋土 台部	台	6.1		細砂粒/酸化焰/ 橙	台部底面は回転糸切り、回転方向は右回り。	不明
第201図	2	在地系土器 内耳鍋	埋土 口縁部片				にぶい橙~灰褐	胎土に片岩を含む。内外面燻し、黒色化。口縁部外傾、内面に段差。内外面横ナデ。外面に煤付着。	中世
第201図	3	在地系土器 甕か?	埋土 胴部1/4				灰	胎土に片岩粒・長石を含む。体部下半が丸くすぼみ、上半はやや開く。焼成良、硬質。内外面燻し、黒色化。体部外面の上半と下半に断面かまぼこ状の大小3条の隆帯がめぐる。下半部隆帯下に型押しした雷文を帯状に施文。内面入念横ナデ。外面を研磨し、全面に白色の砥の粉様の下地を塗り、その上に黒色の塗彩を施す。塗彩は大半が剥落しているが、赤漆だった可能性もあり。	中世
第187図 PL.111	4	石製品 板碑片	埋土 不明	長幅	(22.8) (15.9)	厚重 3.4 2269.8	緑色片岩	破片であり全体形状及び部位は不明。	中世

E区遺構外

挿図 PL.No.	No.	種器 種類	出土位置 残存率	計測値			胎土/焼成/色調 石材・素材等	成形・整形の特徴	備考
第201図	1	瀬戸・美濃 磁器 染付端反碗	表土 1/3	口底	(11.0) 3.8	高 5.5	白	外面に手描き染付。口縁部内面に装飾帯、見込一重圏線内に不明文様。	幕末~明治初期
第201図	2	瀬戸・美濃 磁器 筒形湯呑み	表土 1/3	口底	(5.3) (3.6)	高 6.4	白	外面に銅版転写の文様。内面無文。	近代
第201図	3	肥前磁器 白磁鉢	表土 1/3	口底	(10.0) 5.8	高 4.8	白	内外面に透明釉、口唇部と口縁部内面無釉。段重か?	江戸時代か?

第7表 非掲載土器一覧表

区	遺構NO.	遺構種	土師器			須恵器			黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・ 碗類	甕	不明	杯・ 碗	長頸 壺他	甕	羽釜 ・ 甌	不明	杯・ 碗類	壺	碗・ 皿	瓶類	不明	碗・ 皿				
A	1	掘立柱建物 ビット1	点数		1													1		
			重量		4													4		
A	4	土坑	点数					1										1		
			重量					13										13		
A	41	土坑	点数						1									1		
			重量						1									1		
A	43	土坑	点数	1			1	1										3		
			重量	39			3	19										61		
A	52	土坑	点数		4				7									11		
			重量		37				151									188		
A	128	ビット	点数	1														1		
			重量	2														2		
A	135	ビット	点数		1													1		
			重量		17													17		
A	149	ビット	点数				1											1		
			重量				6											6		
A	171	ビット	点数				1											1		
			重量				5											5		
A	180	ビット	点数		1													1		
			重量		5													5		
A		遺構外	点数		1	1												2		
			重量		4	3												7		
B	1	住居	点数	4	136		4	1		1			2					148		
			重量	13	883		19	19		43			7					984		
B	73	土坑	点数		5		5			1								11		
			重量		19		198			28								245		
B	86	土坑	点数				1											1		
			重量				1											1		
B	87	土坑	点数		2		4					2						8		
			重量		11		32					36						79		
B	67	ビット	点数			1												1		
			重量			1												1		
B	88	ビット	点数					1										1		
			重量					7										7		
B	94	ビット	点数			1												1		
			重量			1												1		
B	260	ビット	点数									1						1		
			重量									7						7		
B	263	ビット	点数	1														1		
			重量	2														2		
B	280	ビット	点数		1													1		
			重量		4													4		
B	281	ビット	点数		1													1		
			重量		4													4		
B	297	ビット	点数	1			1											2		
			重量	1			3											4		
B		遺構外	点数		27		7			4		2					1	41		
			重量		73		103			149		32					4	361		
C	2	住居	点数	9	27		25	4	7			8						83		
			重量	18	299		93	94	121			31						664		
C	3	住居	点数		64		40	9	19			4						136		
			重量		235		165	605	339			7						1351		
C	4	住居	点数		9							1						10		
			重量		40							1						41		
C	5	住居	点数		18		1											19		
			重量		209		2											211		
C	8	住居	点数	7	23				1									1		
			重量	34	168				12									1		
C	9	住居	点数		21		7											28		
			重量		219		219											438		
C	10	住居	点数			1	2											3		
			重量			3	6											9		
C	11	住居	点数		105		35	8	4			12						2		
			重量		720		194	219	368			75						16		
C	12	住居	点数		4													4		
			重量		23													23		
C	19	住居	点数	3	144		52	7	22			11						1		
			重量	7	480		312	160	732			105						2		
C	20	住居	点数	5	181		10	2										2		
			重量	32	986		77	271										22		
																		1388		

第7表 非掲載土器一覧表

区	遺構NO.	遺構種	土師器			須恵器					黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
			杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甗	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類	不明				
C	21	住居	点数	26	109		34		7	2			6	1							185	
			重量	39	725		303		164	36				23	2							1292
C	22	住居	点数		182		28	1	2			2									2	217
			重量		889		331	2	30				2									104
C	23	住居	点数	110	162	11	44	1	9	3			3	1							1	345
			重量	236	1008	9	386	7	151	117			29	4								4
C	24	住居	点数	4	16		4		4													28
			重量	7	86		12		142													
C	25	住居	点数	7	91		71		4	19		4		26	3						3	228
			重量	19	615		609		94	628		13		143	30							15
C	26	住居	点数	21	62		47		9	3			21	1								164
			重量	60	472		360		222	111			138	12								
C	27	住居	点数	6	25	1	18		3	7		1	4	1								66
			重量	23	164	12	99		58	167		5	9	6								
C	28	住居	点数		32		12		2			4										50
			重量		175		69		10				72									
C	29	住居	点数	29	153		92		44	8			28	1								355
			重量	124	1085		815		3153	175			88	7								
C	30	住居	点数		2		7															9
			重量		88		34															
C	31	住居	点数	10	211	1	144	3	19	13		4		48	3							456
			重量	42	1275	48	996	69	643	435		11		257	9							
C	32	住居	点数	21	61		48	2	13	16			8	2								171
			重量	99	373		395	45	450	294			33	25								
C	33	住居	点数	7	34		18		8	2			9									78
			重量	11	371		106		150	153			29									
C	34	住居	点数	24	31		34		2	59		3	25	1							2	181
			重量	61	173		168		44	1285		23	114	13								7
C	35	住居	点数	9	43		13	2	7	8			9									91
			重量	22	456		87	18	105	184			37									
C	36	住居	点数	7	59		1	12	2	3			3	1								88
			重量	20	333		2	205	65	36			14	4								
C	37	住居	点数	33			33		7	8			10	1								92
			重量	407			385		323	175			84	6								
C	38	住居	点数		43	3	43	3	1	1			6								2	102
			重量		504	3	484	86	49	9			15									5
C	39	住居	点数	3	13		3	1														20
			重量	15	106		27	7														
C	40	住居	点数	8	20		29	1	10	13		2	7								4	94
			重量	20	103		232	25	226	545		12	24									10
C	41	住居	点数	12	6		12			1			1									32
			重量	29	58		114			46			1									
C	42	住居	点数	8	3		8		3	14		4	3								1	44
			重量	21	52		71		167	348		142	19									6
C	43	住居	点数	2	5		37			2			7	1							2	56
			重量	3	54		423			104			24	19								6
C	44	住居	点数	8	40		44			42			7	2								143
			重量	30	368		239			1120			25	16								
C	45	住居	点数		2		3		1	2			2									10
			重量		22		8		42	104			22									
C	46	住居	点数	4	27		20			2			9	1								63
			重量	8	355		149			80			73	5								
C	47	住居	点数	15	9		6		1	7			10	2							1	51
			重量	42	72		43		12	245			44	12								1
C	48	住居	点数	7	2		7	1		5			8	2								32
			重量	14	10		74	4		51			23	14								
C	49	住居	点数	2	4		7		2					1								16
			重量	4	34		81		291					1								
C	43・49	住居	点数	4	3		9		2				6									24
			重量	12	22		59		38				24									
C	50	住居	点数	13	142		76		18	34			10	2							3	298
			重量	95	982		681		1310	803			34	35								8
C	51	住居	点数	5	55		24						1									85
			重量	22	416		304						5									
C	52	住居	点数		15		3						1								1	20
			重量		239		8						4									6
C	53	住居	点数	5	26		13	1	4	10		1	3								1	64
			重量	13	171		118	64	99	401		5	9									4
C	54	住居	点数	1			5						1									7
			重量	7			26						15									

第7表 非掲載土器一覧表

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計	
				杯・ 碗類	甃	不明	杯・ 碗	長頸 壺他	甃	羽釜 ・甗	不明	杯・ 碗類	壺	碗・ 皿	瓶類	不明	碗・ 皿	瓶類					不明
C	55	住居	点数	1	6		4	1													12		
			重量	11	457		37	6															511
C	56	住居	点数		34	3	18		7	5			8	1							1	77	
			重量		228	5	154		185	108			19	4								8	711
C	57	住居	点数	23	71		25		1	3			1	1								125	
			重量	40	368		141		28	103			11	23									714
C	58	住居	点数										6	1								7	
			重量									56	5										61
C	59	住居	点数	7	45	5	2															59	
			重量	18	292	9	15																334
C	13	溝	点数	4	2		1		1													8	
			重量	7	6		5		8														26
C	14	溝	点数	11	28		26		6	7			2	2								2	84
			重量	38	288		372		286	169			18	37									4
C	15	溝	点数		2		1																3
			重量		23		17																
C	3	河道	点数	15	28		30	1	55	13			17	4						1			164
			重量	47	199		733	47	2730	658			232	63							24		
C	95	土坑	点数		2		1		1				1										5
			重量		36		9		31				9										
C	98	土坑	点数			1	1																2
			重量			1	4																
C	99	土坑	点数		1																		1
			重量		3																		
C	100	土坑	点数		1		2		1														4
			重量		8		15		14														
C	101	土坑	点数		2		1																3
			重量		9		2																
C	102	土坑	点数						2														2
			重量						33														
C	105	土坑	点数		2				1														3
			重量		3				15														
C	111	土坑	点数									1											1
			重量										2										
C	112	土坑	点数		1								1										2
			重量		7								3										
C	115	土坑	点数				1								1								2
			重量				2									1							
C	116	土坑	点数		3																		3
			重量		14																		
C	118	土坑	点数		2		1						1										4
			重量		6		2						3										
C	120	土坑	点数				1		2														3
			重量				3		26														
C	129	土坑	点数		3						1												4
			重量		6						8												
C	130	土坑	点数		2		3																5
			重量		7		8																
C	132	土坑	点数						1														1
			重量						49														
C	158	土坑	点数		1																		1
			重量		3																		
C	162	土坑	点数		3		2		1														6
			重量		19		39		15														
C	164	土坑	点数		7		2		1														10
			重量		35		12		22														
C	165	土坑	点数				1																1
			重量				3																
C	166	土坑	点数	6	27		12						2							1	3	3	54
			重量	22	96		254							5							31	39	32
C	168	土坑	点数		1																		1
			重量		6																		
C	171	土坑	点数		6		9		10					2									27
			重量		57		202		372						26								
C	172	土坑	点数		1		4																5
			重量		59		85																
C	174	土坑	点数		3																		3
			重量		13																		
C	175	土坑	点数		1		2																3
			重量		2		3																

第7表 非掲載土器一覧表

区	遺構NO.	遺構種	土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計	
			杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甗	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類					不明
C	194	土坑	点数	7		2														9		
			重量	21		13														34		
C	206	土坑	点数	4		2					1									11		
			重量	5		18					7									43		
C	218	土坑	点数	1																3		
			重量	5																9		
C	222	土坑	点数						1											1		
			重量						66											66		
C	229	土坑	点数	1		2				1			1							5		
			重量	1		12				18			11							42		
C	230	土坑	点数			13			1	1			6						1	28		
			重量			55			17	36			39						7	259		
C	238	土坑	点数	3		17			6											1	27	
			重量	11		100			16											21	148	
C	243	土坑	点数	2																	2	
			重量	8																	8	
C	244	土坑	点数	7			1			3										1	12	
			重量	30			1			242										3	276	
C	245	土坑	点数		2																2	
			重量		9																9	
C	246	土坑	点数		1																1	
			重量		5																5	
C	247	土坑	点数	3		4			7				1								15	
			重量	14		11			26				1								52	
C	251	土坑	点数			3			5												8	
			重量			25			90												115	
C	252	土坑	点数	5		2			4		1										12	
			重量	10		8			19		85										122	
C	253	土坑	点数							3				1							4	
			重量							19				7							26	
C	255	土坑	点数											1							1	
			重量											6							6	
C	256	土坑	点数		2																2	
			重量		24																24	
C	257	土坑	点数		3								1								4	
			重量		32								5								37	
C	258	土坑	点数	5			4			3			1								13	
			重量	24			28			374			1								427	
C	259	土坑	点数	6			3			2											11	
			重量	26			22			75											123	
C	260	土坑	点数	12			3						1								16	
			重量	55			22						10								87	
C	262	土坑	点数	3			1								1					2	7	
			重量	10			1								14					25	50	
C	263	土坑	点数			1									1						2	
			重量			2									5						7	
C	273	土坑	点数		2																2	
			重量		11																11	
C	274	土坑	点数				1			1											2	
			重量				3			4											7	
C	277	土坑	点数				1			7			1	1							10	
			重量				10			346			4	24							384	
C	279	土坑	点数							2			1								3	
			重量							80			13								93	
C	283	土坑	点数		4																4	
			重量		14																14	
C	295	土坑	点数		1		1														2	
			重量		15		5														20	
C	297	土坑	点数				4						1								5	
			重量				34						1								35	
C	298	土坑	点数		2		2						1								5	
			重量		6		23						3								32	
C	299	土坑	点数		1																1	
			重量		6																6	
C	301	土坑	点数	1	2																1	4
			重量	6	14																1	21
C	302	土坑	点数		6		1															7
			重量		13		1															14
C	304	土坑	点数				2															2
			重量				23															23

第7表 非掲載土器一覧表

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・ 椀類	甗	不明	杯・ 椀	長頸 壺他	甗	羽釜 ・ 甗	不明	杯・ 椀類	壺	椀・ 皿	瓶類	不明	椀・ 皿	瓶類				
C	305	土坑	点数				2															2
			重量				5															5
C	306	土坑	点数		4																	4
			重量		17																	17
C	312	土坑	点数		1		2															3
			重量		35		20															55
C	313	土坑	点数							1												1
			重量							10												10
C	314	土坑	点数		1																	1
			重量		9																	9
C	316	土坑	点数				2															2
			重量				35															35
C	317	土坑	点数						1				2									3
			重量						21			7										28
C	318	土坑	点数		1		1															2
			重量		33		2															35
C	319	土坑	点数	1			4															5
			重量	3			46															49
C	320	土坑	点数		5		7						1									13
			重量		16		27						5									48
C	321	土坑	点数						1	2												3
			重量						21	41												62
C	301	ピット	点数				7															7
			重量				5															5
C	307	ピット	点数	1																		1
			重量	1																		1
C	308	ピット	点数						1													1
			重量						16													16
C	423	ピット	点数						1													1
			重量						105													105
C	424	ピット	点数		1		1															2
			重量		5		4															9
C	444	ピット	点数				3															3
			重量				13															13
C	451	ピット	点数		2																	2
			重量		8																	8
C	467	ピット	点数				1															1
			重量				4															4
C	468	ピット	点数				1															1
			重量				4															4
C	469	ピット	点数		1		1						1									3
			重量		3		3						1									7
C	473	ピット	点数				2															2
			重量				10															10
C	474	ピット	点数	2	1		3															6
			重量	11	4		100															115
C	475	ピット	点数				1						1									2
			重量				3						4									7
C	477	ピット	点数				1															1
			重量				7															7
C	487	ピット	点数		1		2		1						1							5
			重量		6		16		43						7							72
C	491	ピット	点数																			0
			重量																			0
C	494	ピット	点数										1	1								2
			重量										12	24								36
C	503	ピット	点数				1		1													2
			重量				2		63													65
C		遺構外	点数	58	471	8	292	1	95	29	1	4		72	9					2	10	1052
			重量	196	2491	9	2602	39	3213	608	5	14		439	81					67	69	9833
D	13	住居	点数		31		1		3													35
			重量		174		14		49													237
D	14	住居	点数	5	159		24		10			1										199
			重量	18	765		340		1945			4										3072
D	15	住居	点数	3	166		48		1				1									219
			重量	33	893		410		175				11									1522
D	16	住居	点数	31	410		79		4												3	527
			重量	148	1998		542		228												8	2924
D	17	住居	点数	15	88		19														1	123
			重量	69	503		155															728

第7表 非掲載土器一覧表

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甗	不明	杯・碗類	壺	杯・皿	瓶類	不明	杯・皿	瓶類				
D	18	住居	点数	2	159		21	1	3											1	187	
			重量	17	1850		195	10	75												7	2154
D	3	掘立柱建物	点数	1																	1	
			重量	9																		9
D	4	掘立柱建物 ピット2	点数	2	34																36	
			重量	20	145																	165
D	4	掘立柱建物 ピット3	点数	7																	7	
			重量	26																		26
D	4	掘立柱建物 ピット4	点数	1																	1	
			重量	10																		10
D	4	掘立柱建物 ピット6	点数	2																	2	
			重量	8																		8
D	4	掘立柱建物 ピット9	点数	16																	16	
			重量	79																		79
D	1	鍛冶遺構	点数	2	1		2														5	
			重量	3	7		4															14
D	3	畠	点数	5	9		1														15	
			重量	21	22		2															45
D	1	窪地	点数	1			3		2										1	7		
			重量	2			124		131											24	281	
D	137	土坑	点数	1	2		1														4	
			重量	5	7		7															19
D	141	土坑	点数		2																2	
			重量		9																	9
D	142	土坑	点数	1																	1	
			重量	7																		7
D	143	土坑	点数		22		1														23	
			重量		83		3															86
D	144	土坑	点数		10																10	
			重量		55																	55
D	145	土坑	点数		6			3													9	
			重量		19			11														30
D	148	土坑	点数	1																	1	
			重量	4																		4
D	154	土坑	点数		1																1	
			重量		4																	4
D	155	土坑	点数	1																	1	
			重量	1																		1
D	156	土坑	点数		23																2	
			重量		91																	4
D	180	土坑	点数		1				1												2	
			重量		6				13													19
D	185	土坑	点数		1																1	
			重量		2																	2
D	186	土坑	点数		1																1	
			重量		43																	43
D	187	土坑	点数	1	65		4		1												71	
			重量	7	271		17		108													403
D	6	溝	点数	34	12		18		6												70	
			重量	105	46		139		262													552
D	7	溝	点数	2	7		5														14	
			重量	14	22		62															98
D	8	溝	点数		92		17	1	1											1	112	
			重量		328		90	15	3											11	447	
D	9	溝	点数		21		3														24	
			重量		90		11															101
D	355	ピット	点数	1																	1	
			重量	3																		3
D	362	ピット	点数			1	2														3	
			重量			1	13															14
D	371	ピット	点数		3																3	
			重量		36																	36
D	372	ピット	点数		1																1	
			重量		4																	4
D	374	ピット	点数		4																4	
			重量		52																	52
D	376	ピット	点数		1																1	
			重量		5																	5
D	378	ピット	点数		1		1														2	
			重量		14		22															36

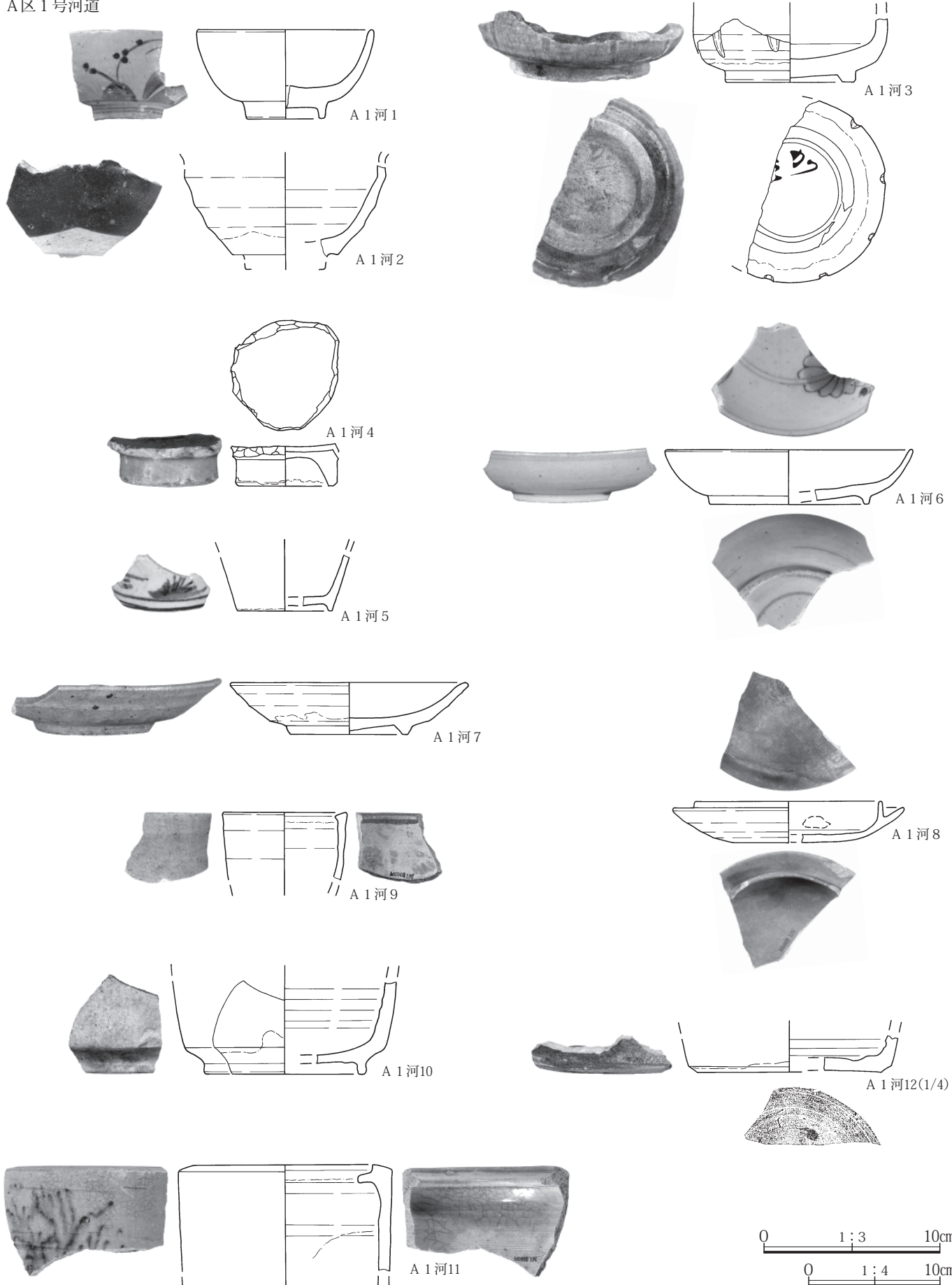
第7表 非掲載土器一覧表

区	遺構NO.	遺構種		土師器			須恵器				黒色土器		灰釉陶器			緑釉陶器			瓦	不明	その他	合計
				杯・碗類	甗	不明	杯・碗	長頸壺他	甗	羽釜・甑	不明	杯・碗類	壺	碗・皿	瓶類	不明	碗・皿	瓶類				
D	392	ピット	点数	1																	1	
			重量	5																		5
D	398	ピット	点数	3																	3	
			重量	15																		15
D	400	ピット	点数	1		1															2	
			重量	5		4																9
D	407	ピット	点数	1		2															2	
			重量	3		4																31
D	408	ピット	点数	1																	1	
			重量	2																		2
D	409	ピット	点数	1																	1	
			重量	13																		13
D	415	ピット	点数	1																	1	
			重量	3																		3
D	432	ピット	点数	5																	5	
			重量	21																		21
D	442	ピット	点数	1				1													2	
			重量	11				17														28
D	452	ピット	点数	1																	1	
			重量	4																		4
D	460	ピット	点数			1															1	
			重量			2																2
D	遺構外	点数	8	131		27		15	2				1								184	
		重量	26	676		157		239	38				6									1142
E	264	土坑	点数	1		2															3	
			重量	4		18																22
E	265	土坑	点数	7		5		4				1									17	
			重量	21		28		35				4										88
E	遺構外	点数	2	5		4		1				1									13	
		重量	5	42		15		56				35									153	

A区1号掘立

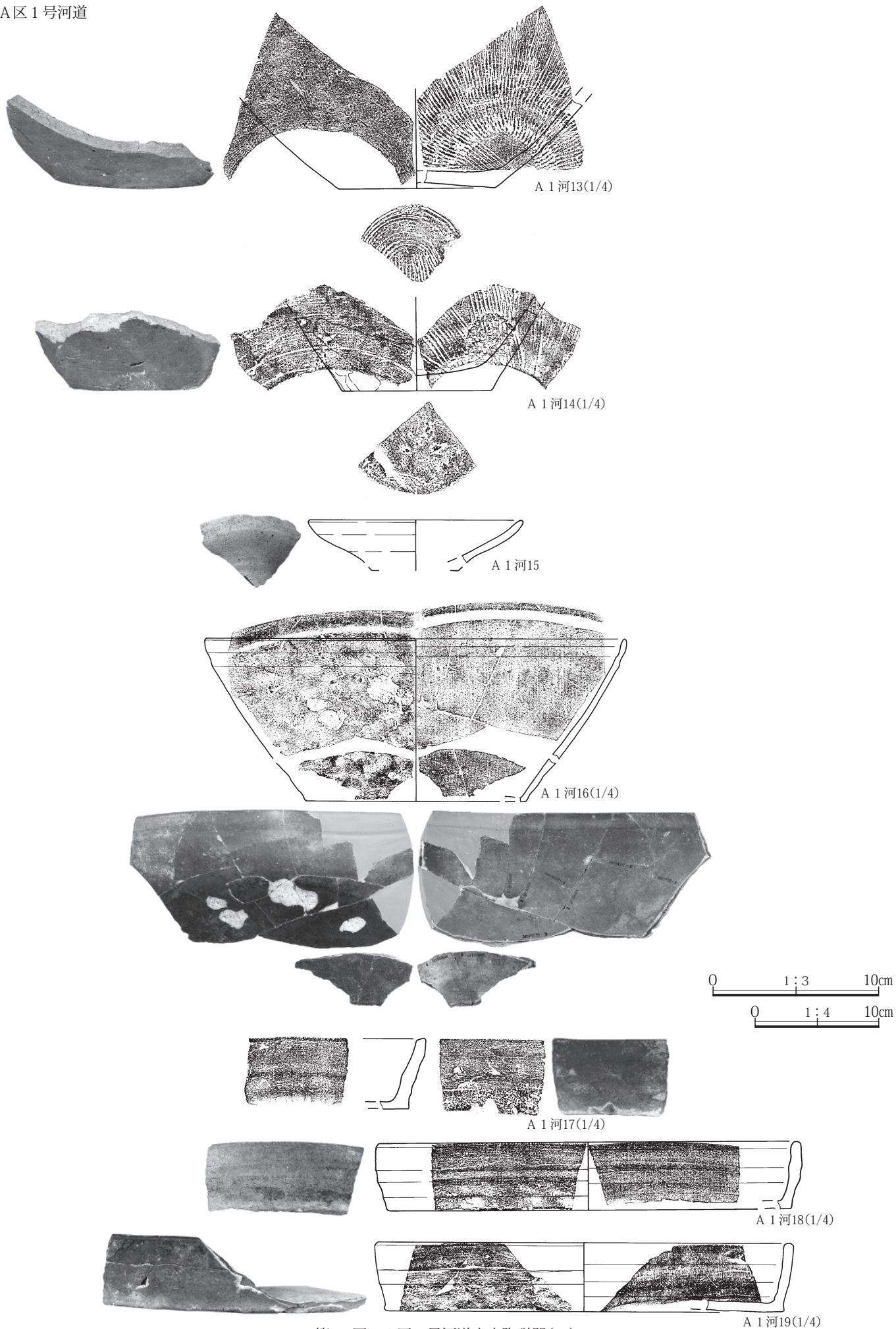


A区1号河道



第189图 A区1号掘立柱建物・1号河道出土陶磁器(1)

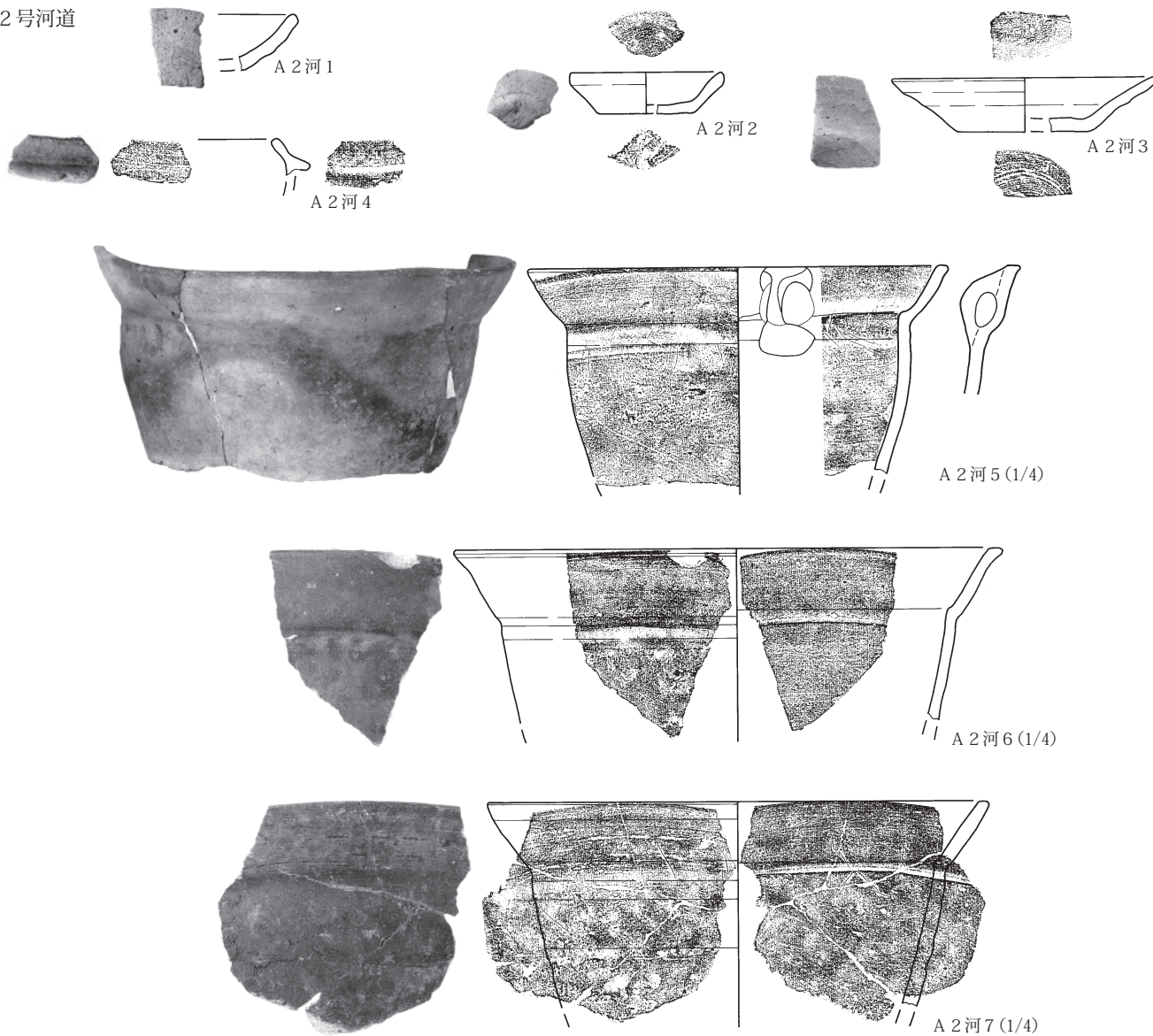
A区1号河道



第190图 A区1号河道出土陶磁器(2)

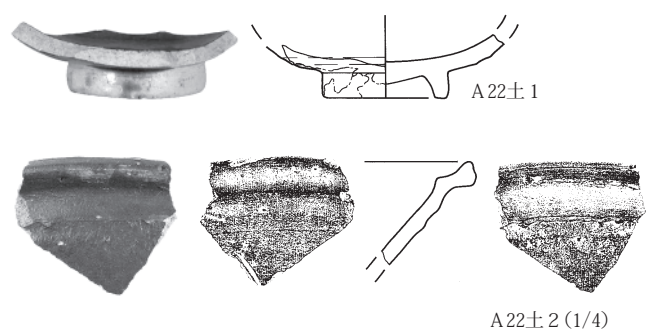
A 1河19(1/4)

A区2号河道

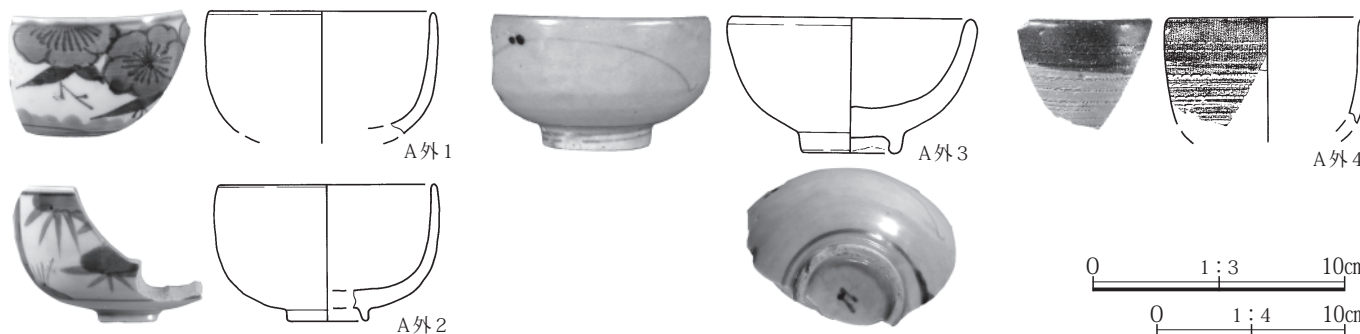


A区土坑

A区ピット

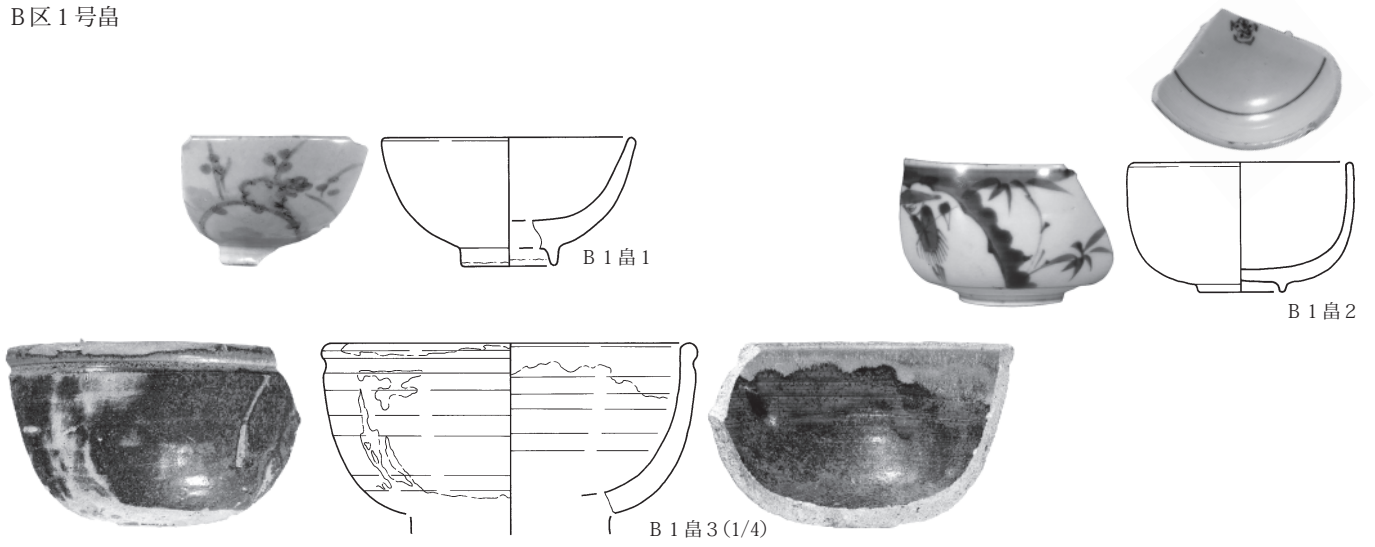


A区遺構外出土

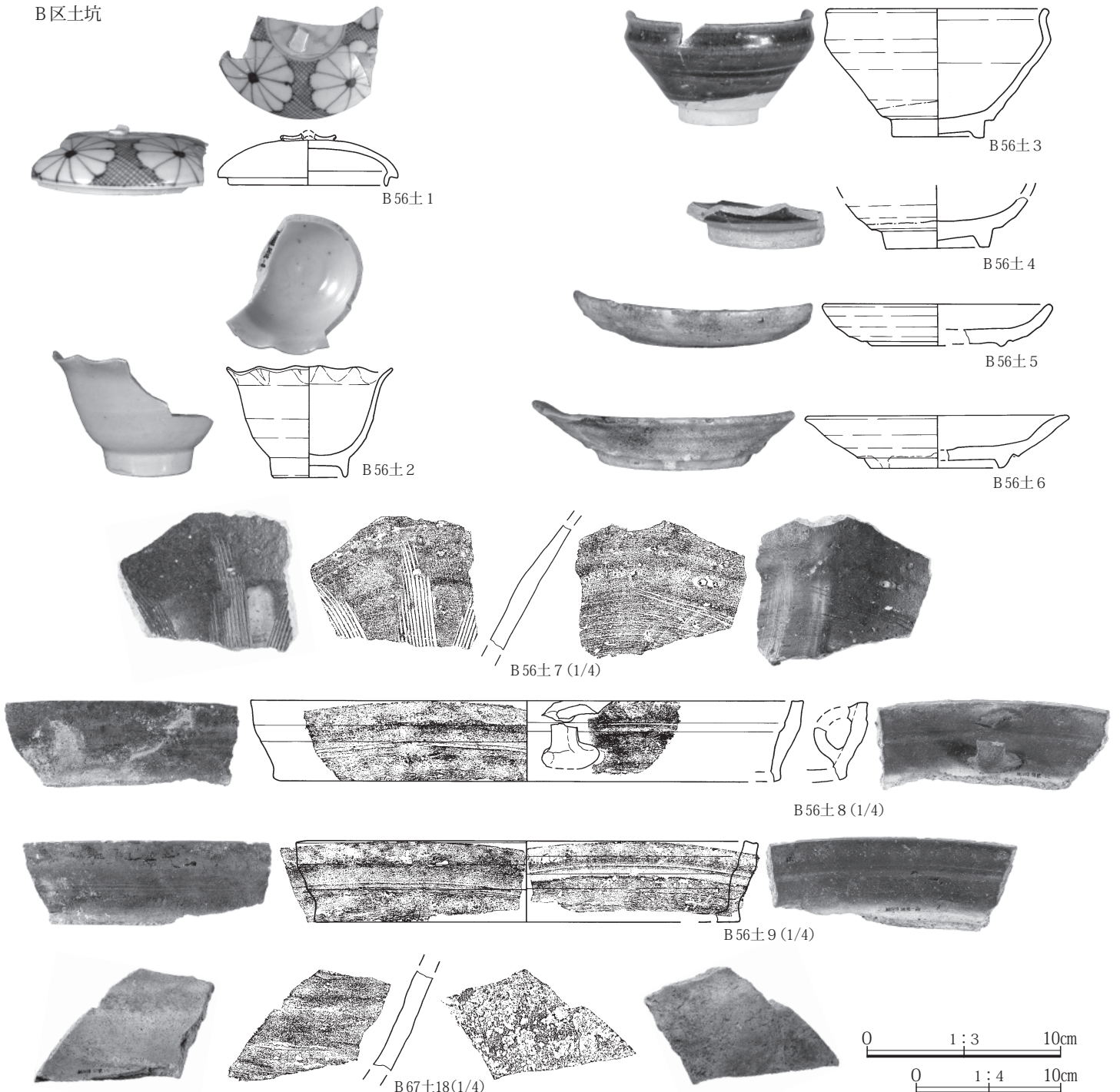


第191図 A区2号河道・土坑・ピット・遺構外出土陶磁器

B区1号畠

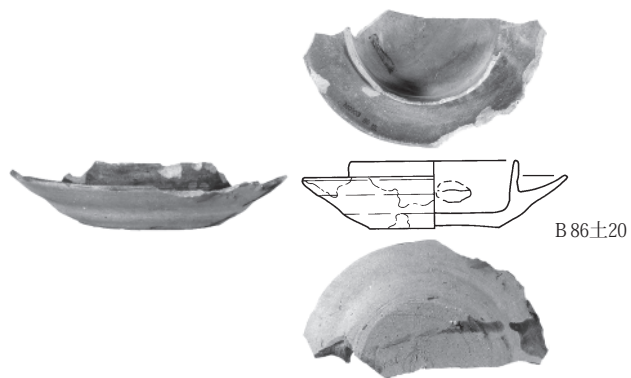


B区土坑

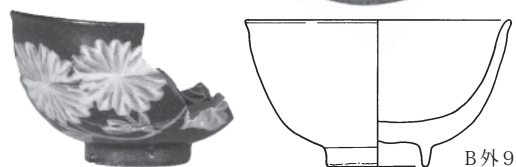
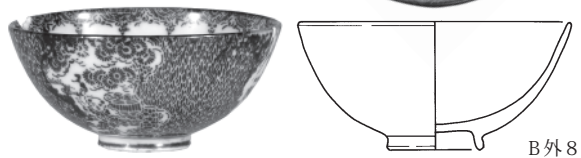
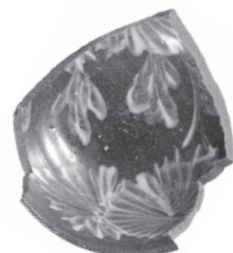
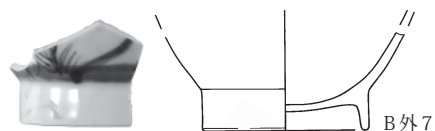
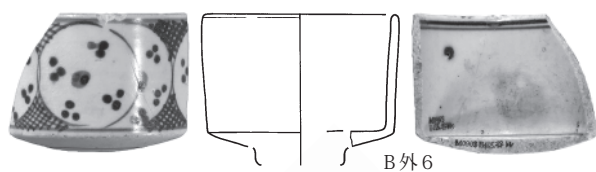
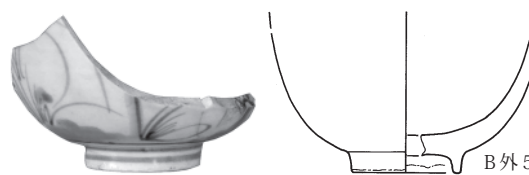
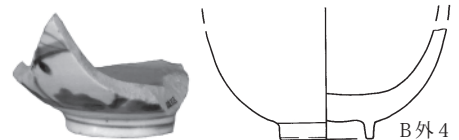
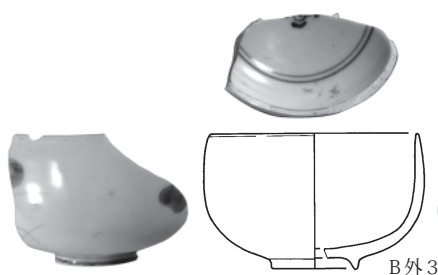
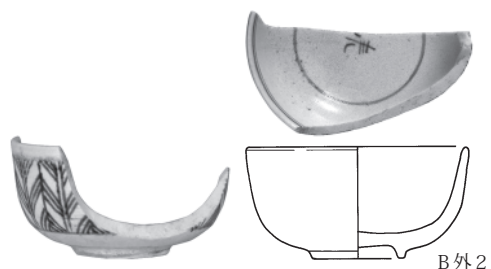


第192图 B区1号畠・土坑出土陶磁器(1)

B区土坑



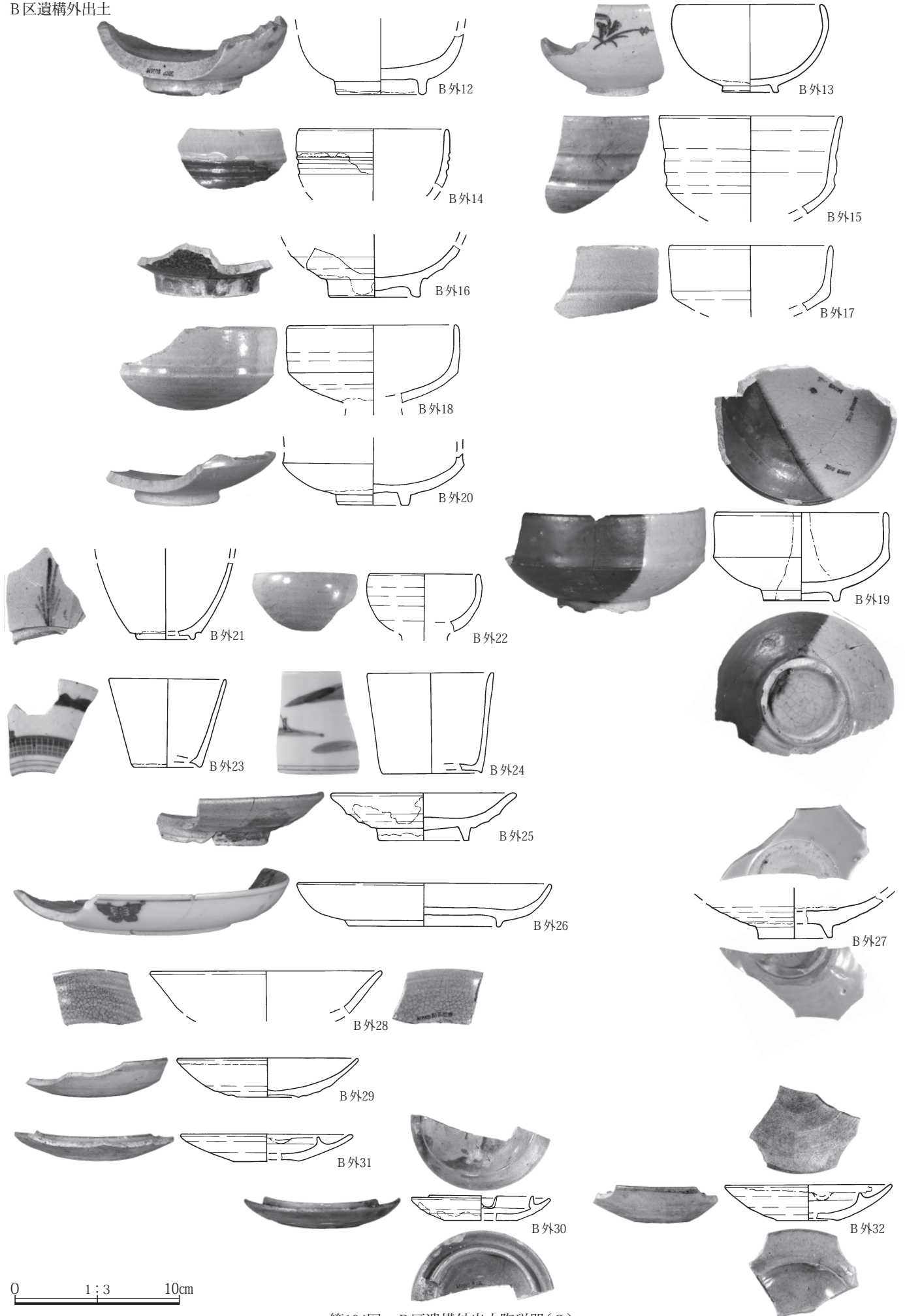
B区遺構外出土



0 1:3 10cm

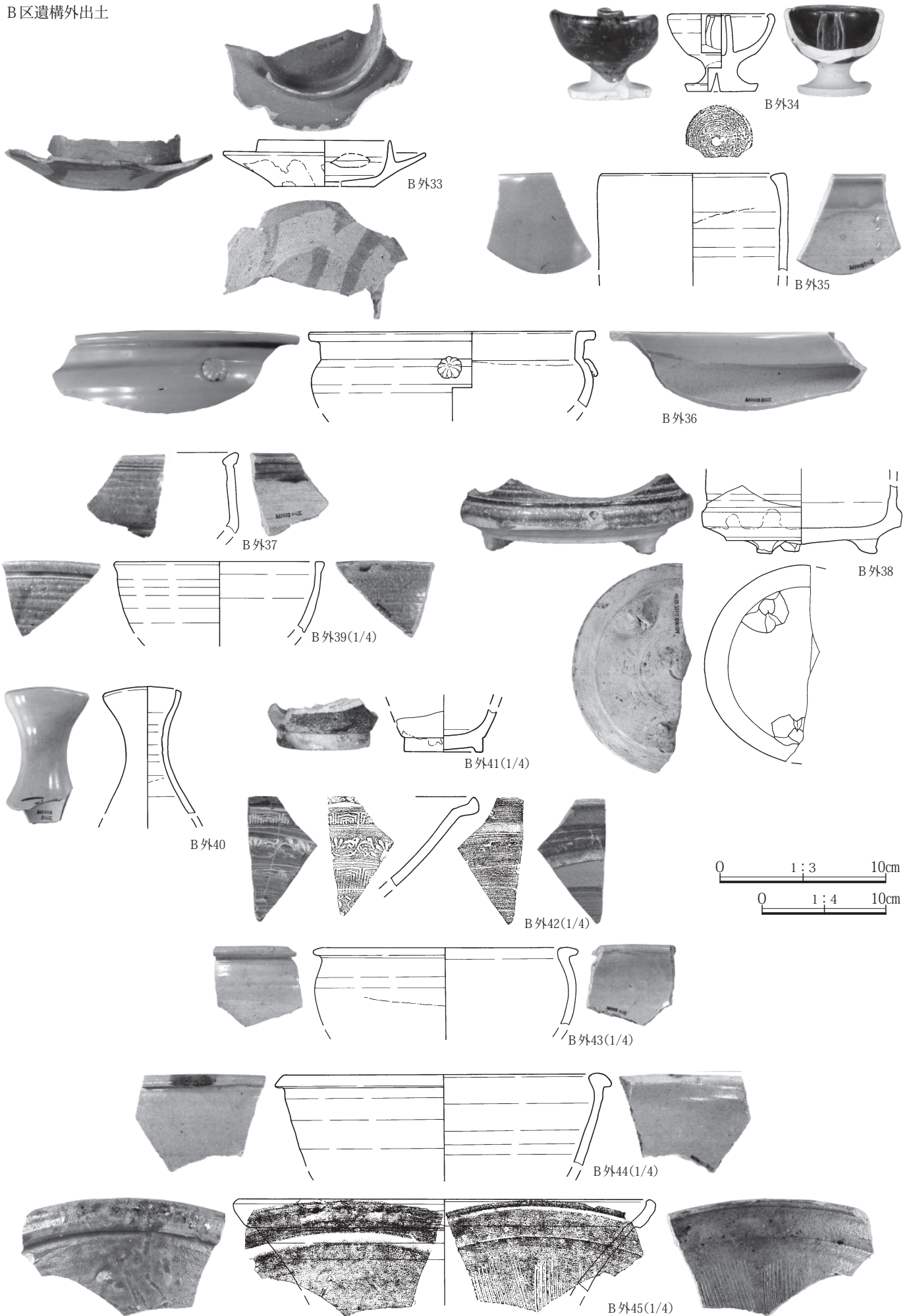
第193图 B区土坑出土陶磁器(2)、B区遺構外出土陶磁器(1)

B区遺構外出土



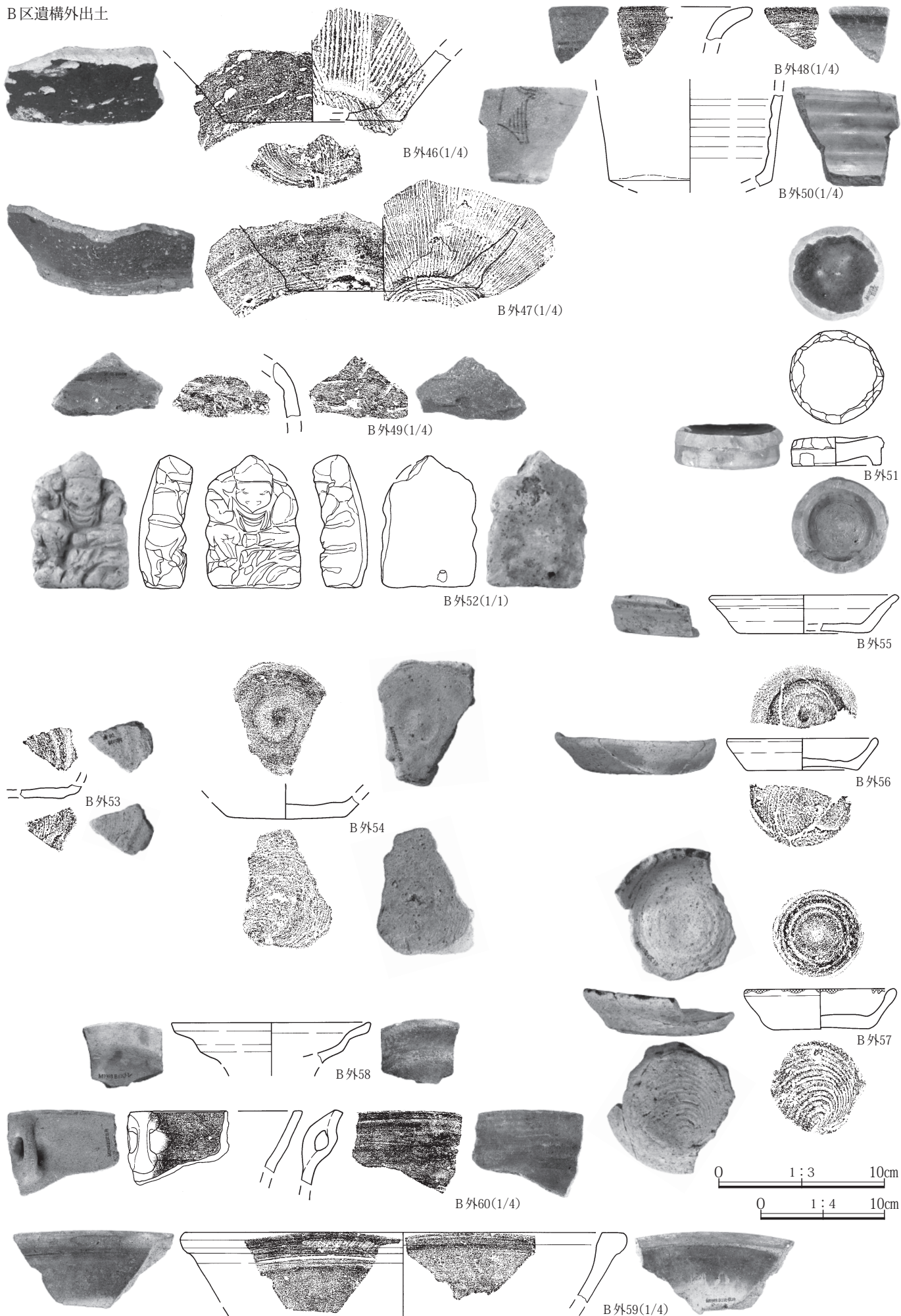
第194图 B区遺構外出土陶磁器(2)

B区遺構外出土



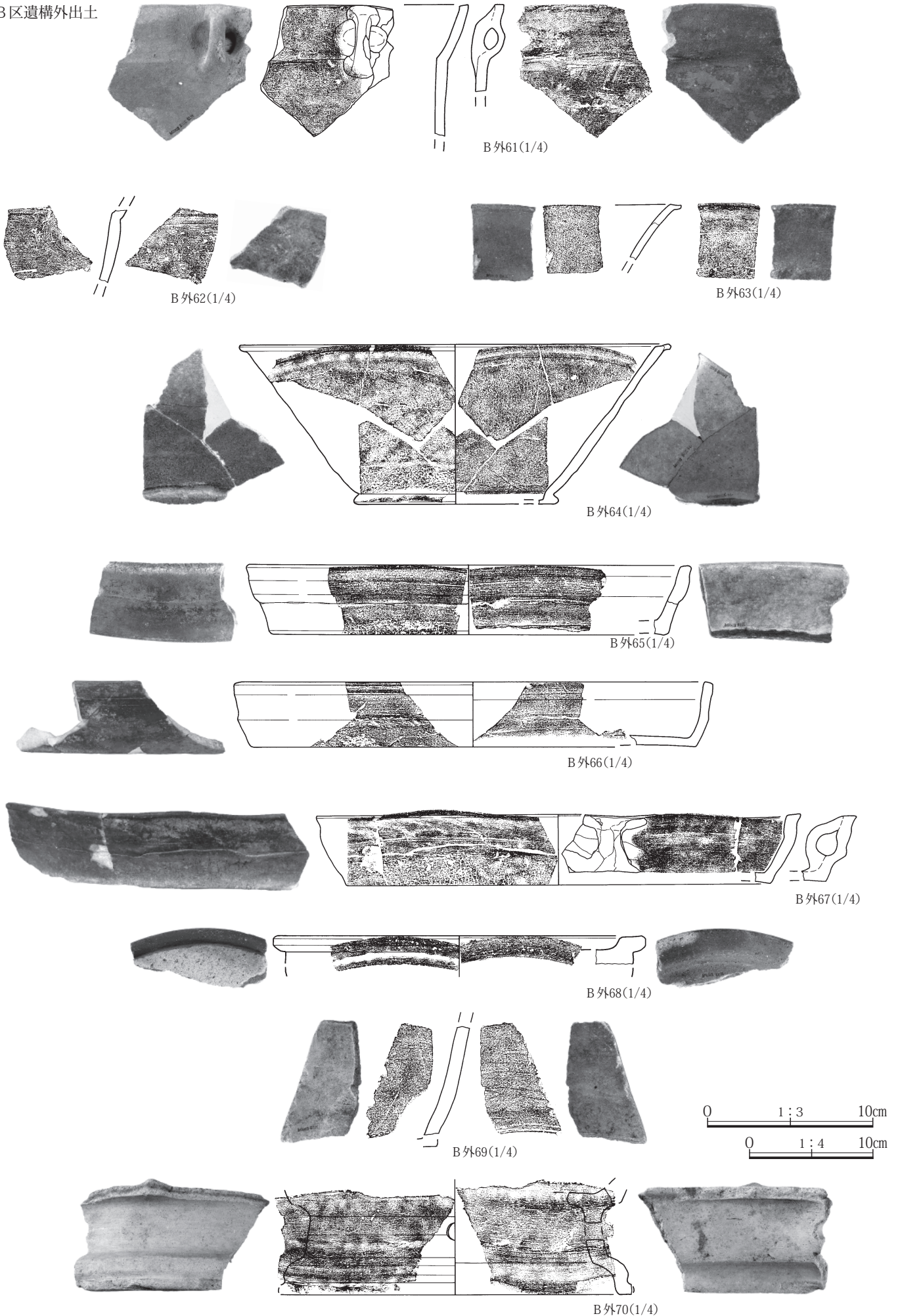
第195图 B区遺構外出土陶磁器(3)

B区遺構外出土



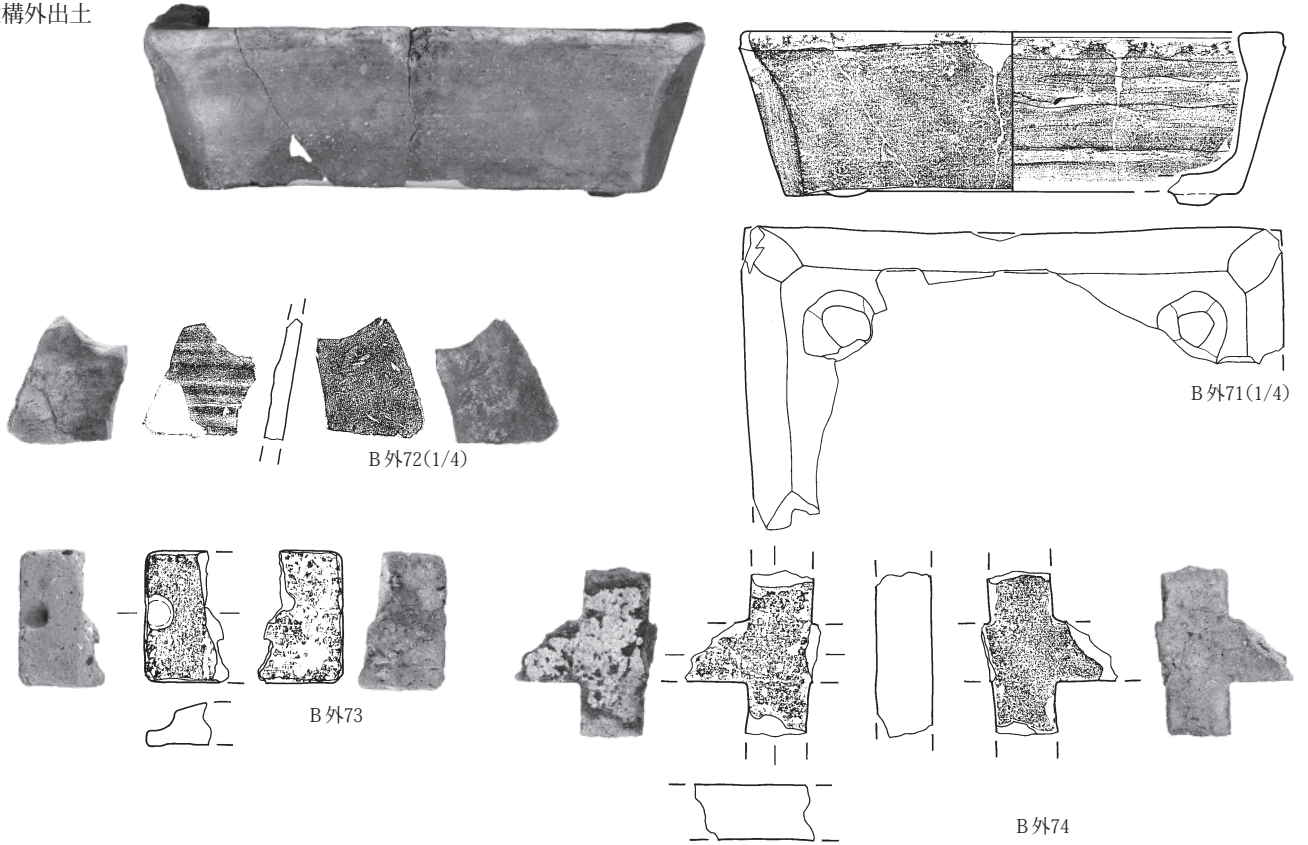
第196图 B区遺構外出土陶磁器(4)

B区遺構外出土

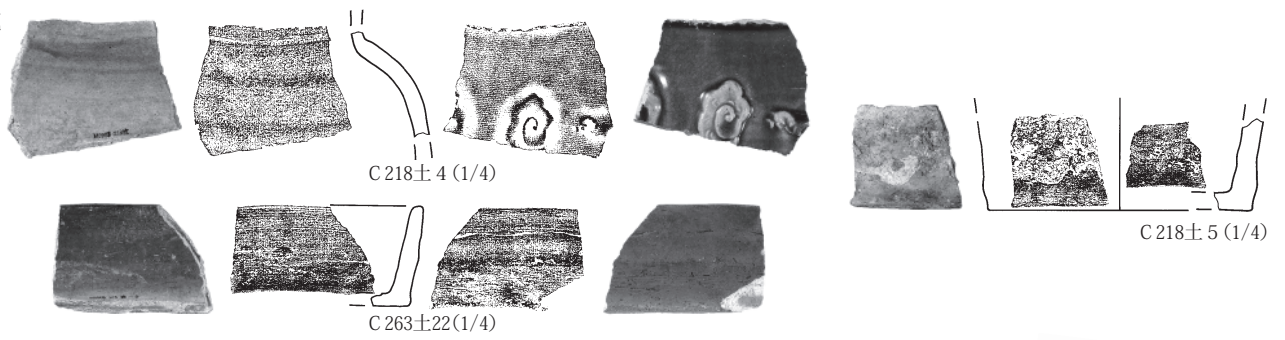


第197图 B区遺構外出土陶磁器(5)

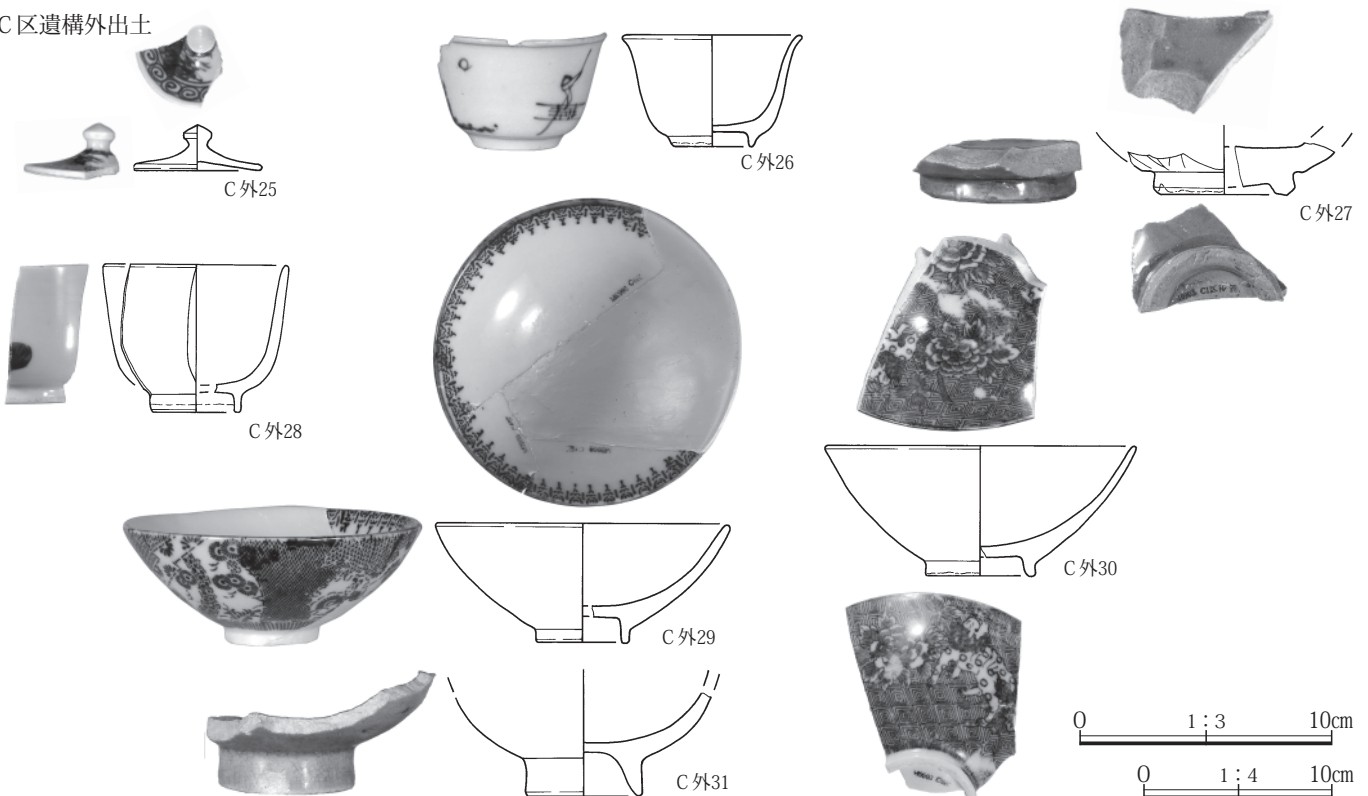
B区遺構外出土



C区土坑

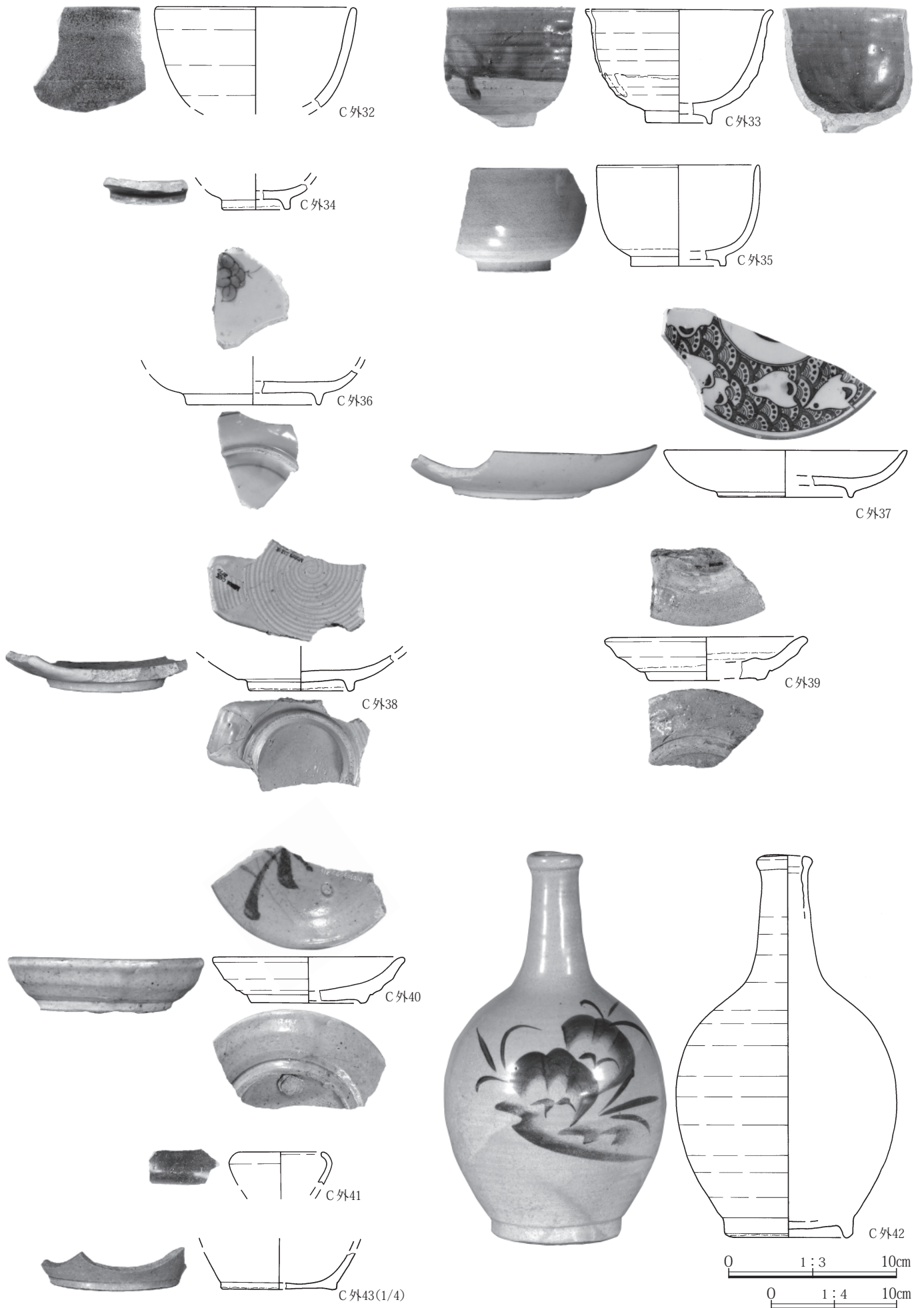


C区遺構外出土



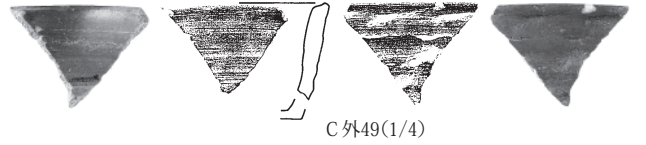
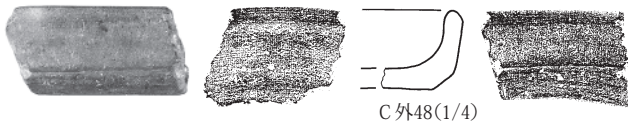
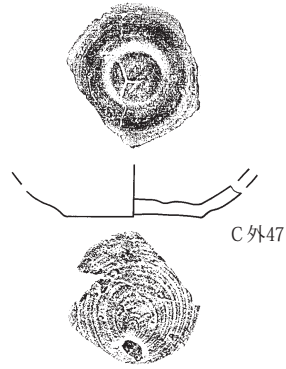
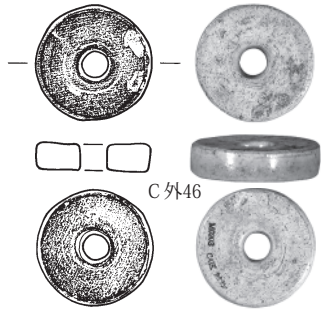
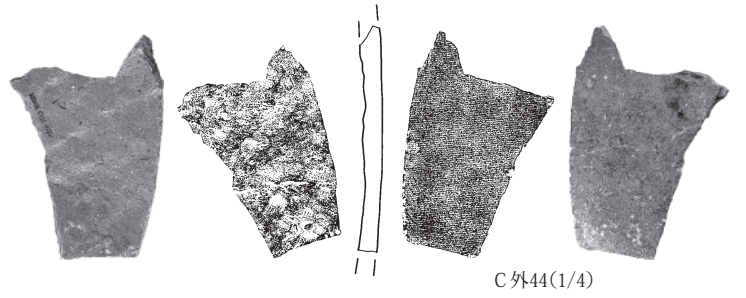
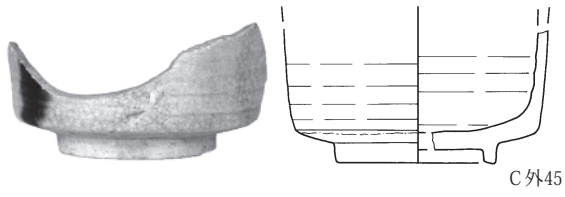
第198図 B区遺構外出土陶磁器(6)、C区土坑・遺構外出土陶磁器(1)

C区遺構外出土



第199图 C区遺構外出土陶磁器(2)

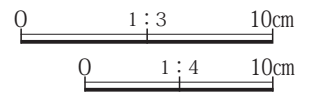
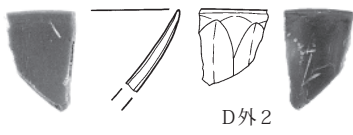
C区遺構外出土



D区8号溝

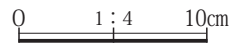
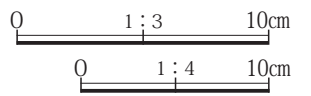
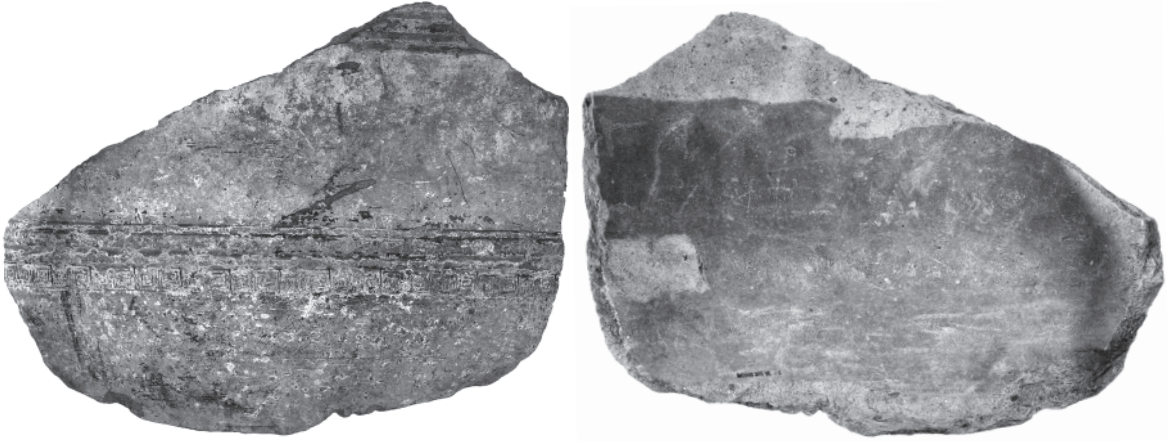
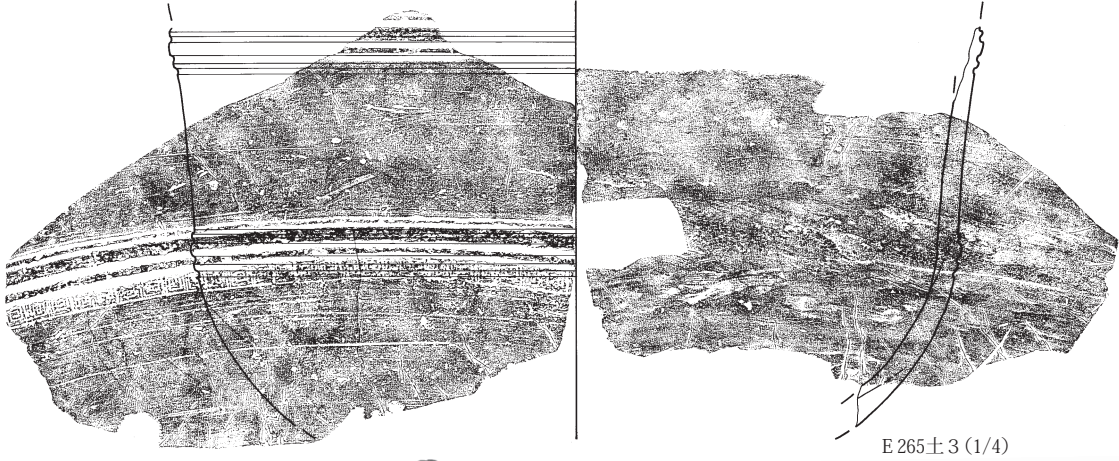
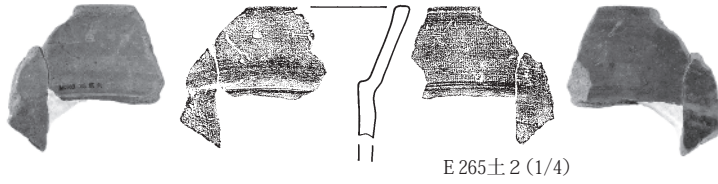


D区遺構外出土



第200図 C区遺構外出土陶磁器(3)、D区出土陶磁器

E区土坑



E区遺構外出土



第201图 E区出土陶磁器